

第5 地域での子育て環境に関する調査（保護者調査）

調査結果詳細

【目次】

第5 地域での子育て環境に関する調査（保護者調査）	調査結果詳細.....	第5— 1
1 あなた自身について（属性）		第5— 1
問3 子どもの数		第5— 3
問5 職業		第5— 6
問6 パートナー（配偶者）の職業		第5— 6
問7 世帯年収		第5— 8
2 子育てについて		第5— 11
問8 子どもが3歳になるまでの間に利用した制度・施設		第5— 11
問9 育児休業の取得期間		第5— 22
問10 子どもを産み育てやすい環境と感じているか		第5— 24
問11 子育てに関して不安感や負担感を感じる事		第5— 28
問12 子育てをする上で負担に感じる事や悩んでいる事		第5— 32
問13 祖父母等からの手助けの程度		第5— 40
問14 出産や子育て環境整備のために力を入れる必要があるもの		第5— 45
問15 ぐんま女性の健康・妊娠SOS相談センターの認知度		第5— 50
問16 ぐんま女性の健康・妊娠SOS相談センターの認知手段		第5— 53
問17 充実させてほしい子育て支援		第5— 54
問18 児童虐待への考え		第5— 60
問19 児童虐待発見時の相談機関		第5— 67
問20 行政の子育て支援サービスなどの情報入手源		第5— 70
3 地域とのかかわりについて		第5— 76
問21 子育てにおける地域とのかかわりの程度		第5— 76
問22 近所や地域の人に期待すること		第5— 82
問23 近所の公園への不満		第5— 90
4 子どもについて		第5— 94
問24 理想の子どもの数		第5— 94
問25 予定の子どもの数		第5— 98
問26 「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由		第5—106
5 子育てと仕事について		第5—114
問27 自分自身の仕事と子育てについての考え		第5—114
問28 パートナー（夫や妻など）の仕事と子育てについての希望		第5—114
問29 仕事と子育ての両立に関して必要な支援		第5—128
問30 家庭内での家事、育児、看護、介護の分担の理想と現実		第5—136
問31 「共育て」を促進するために必要だと思うこと		第5—168
6 少子化対策について		第5—176
問32 少子化対策としての重要度		第5—176
問33 少子化対策の各施策の取組状況		第5—177
問34 少子化対策関連の制度や事業の認知度		第5—181

問 35-1	ぐーちょきパスポート・コンパスの所持	第 5-187
問 35-2	ぐーちょきパスポート・コンパスの利用頻度.....	第 5-193
問 35-3	ぐーちょきパスポート・コンパスを利用したことがない理由.....	第 5-199
問 36	少子化対策として必要な経済的支援	第 5-200
問 37	行政施策に意見が反映されている実感	第 5-209
問 38	子育て支援や少子化対策への日頃の考えや行政に対する要望等.....	第 5-213
7	子どもの未来について.....	第 5-218
問 39	子どもたちの 10 年後、20 年後の未来.....	第 5-218
問 40	子どもたちの 10 年後、20 年後の不安.....	第 5-223

第5 地域での子育て環境に関する調査（保護者調査） 調査結果詳細

1 あなた自身について（属性）

問1 あなたの性別をお答えください。

問2 あなたの年齢をお答えください。

問4 あなたがお住まいの市町村をお答えください。

問5 あなたの職業をお答えください。

問6 パートナー（配偶者）の職業をお答えください。

問7 あなたとパートナー（配偶者）の収入を合わせた、2022年における世帯の年間収入を教えてください。

【性別】

	総数	男性	女性	その他
全 体	949 (100.0%)	77 (8.1%)	871 (91.8%)	1 (0.1%)

【就園・未就園】

	総数	男性	女性	その他
全 体	949 (100.0%)	77 (100.0%)	871 (100.0%)	1 (100.0%)
就園	714 (75.2)	64 (83.1)	650 (74.6)	0 (-)
未就園	235 (24.8)	13 (16.9)	221 (25.4)	1 (100.0)

【年齢】

	総数	男性	女性	その他
全 体	949 (100.0%)	77 (100.0%)	871 (100.0%)	1 (100.0%)
20歳未満	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
20～24歳	2 (0.2)	1 (1.3)	1 (0.1)	0 (-)
25～29歳	84 (8.9)	2 (2.6)	82 (9.4)	0 (-)
30～34歳	261 (27.5)	13 (16.9)	247 (28.4)	1 (100.0)
35～39歳	346 (36.5)	27 (35.1)	319 (36.6)	0 (-)
40～44歳	195 (20.5)	21 (27.3)	174 (20.0)	0 (-)
45～49歳	52 (5.5)	7 (9.1)	45 (5.2)	0 (-)
50歳以上	9 (0.9)	6 (7.8)	3 (0.3)	0 (-)

【居住地域】

	総数	男性	女性	その他
全 体	949 (100.0%)	77 (100.0%)	871 (100.0%)	1 (100.0%)
中部地域	317 (33.4)	30 (39.0)	287 (33.0)	0 (-)
西部地域	281 (29.6)	22 (28.6)	258 (29.6)	1 (100.0)
吾妻地域	33 (3.5)	4 (5.2)	29 (3.3)	0 (-)
利根沼田地域	49 (5.2)	8 (10.4)	41 (4.7)	0 (-)
東部地域	263 (27.7)	13 (16.9)	250 (28.7)	0 (-)
その他	6 (0.6)	0 (-)	6 (0.7)	0 (-)

【職業】

	総数	男性	女性	その他
全 体	949 (100.0%)	77 (100.0%)	871 (100.0%)	1 (100.0%)
正規雇用者 (正規)	418 (44.0)	60 (77.9)	358 (41.1)	0 (-)
非正規雇用者 (パート・アルバイト・派遣等)	263 (27.7)	0 (-)	262 (30.1)	1 (100.0)
自営業 (家族従業者含む)	79 (8.3)	16 (20.8)	63 (7.2)	0 (-)
学生	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
無職・家事	182 (19.2)	0 (-)	182 (20.9)	0 (-)
その他	7 (0.7)	1 (1.3)	6 (0.7)	0 (-)

【パートナー (配偶者) の職業】

	総数	男性	女性	その他
全 体	949 (100.0%)	77 (100.0%)	871 (100.0%)	1 (100.0%)
正規雇用者 (正規)	777 (81.9)	40 (51.9)	736 (84.5)	1 (100.0)
非正規雇用者 (パート・アルバイト・派遣等)	31 (3.3)	18 (23.4)	13 (1.5)	0 (-)
自営業 (家族従業者含む)	96 (10.1)	9 (11.7)	87 (10.0)	0 (-)
学生	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
無職・家事	13 (1.4)	9 (11.7)	4 (0.5)	0 (-)
その他	2 (0.2)	0 (-)	2 (0.2)	0 (-)
パートナー (配偶者) は いない	30 (3.2)	1 (1.3)	29 (3.3)	0 (-)

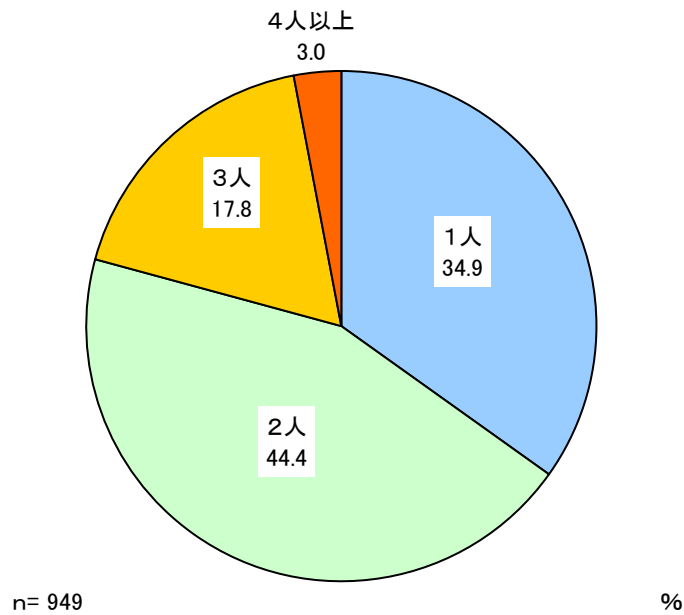
【世帯年収】

	総数
全 体	949 (100.0%)
50万円未満	4 (0.4)
50万円～100万円未満	4 (0.4)
100万円～150万円未満	7 (0.7)
150万円～200万円未満	9 (0.9)
200万円～250万円未満	17 (1.8)
250万円～300万円未満	29 (3.1)
300万円～400万円未満	104 (11.0)
400万円～500万円未満	155 (16.3)
500万円～600万円未満	176 (18.5)
600万円～700万円未満	138 (14.5)
700万円～800万円未満	117 (12.3)
800万円～900万円未満	68 (7.2)
900万円～1000万円未満	47 (5.0)
1000万円以上	74 (7.8)

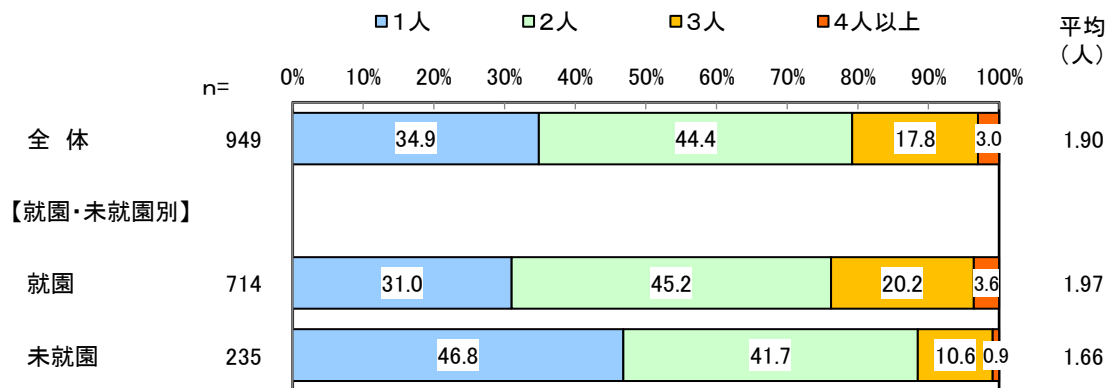
※本調査ではパートナーの性別は聞いていないが、男性回答者のパートナーを女性、女性回答者のパートナーを男性とみなして分析している。

問3 あなたはお子さんを何人お持ちですか。

子どもの人数は、「2人」が44.4%で最も高く、次いで「1人」が34.9%、「3人」が17.8%となっている。平均は1.90人となっている。



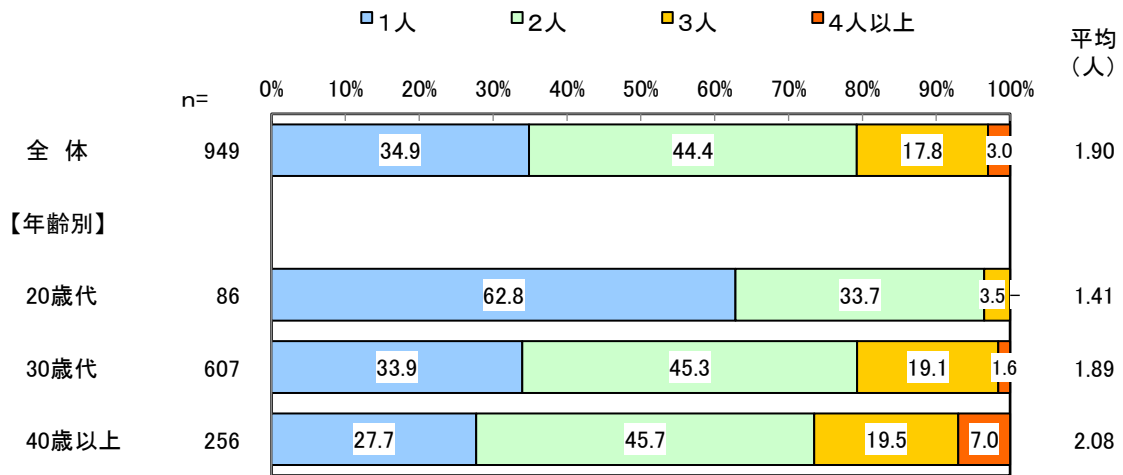
子どもの数 (就園・未就園別)



【就園・未就園別】

就園・未就園別で見ると、未就園は就園よりも「1人」が16.8ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「3人」が9.6ポイント高くなっている。平均は就園が未就園よりも0.31人多くなっている。

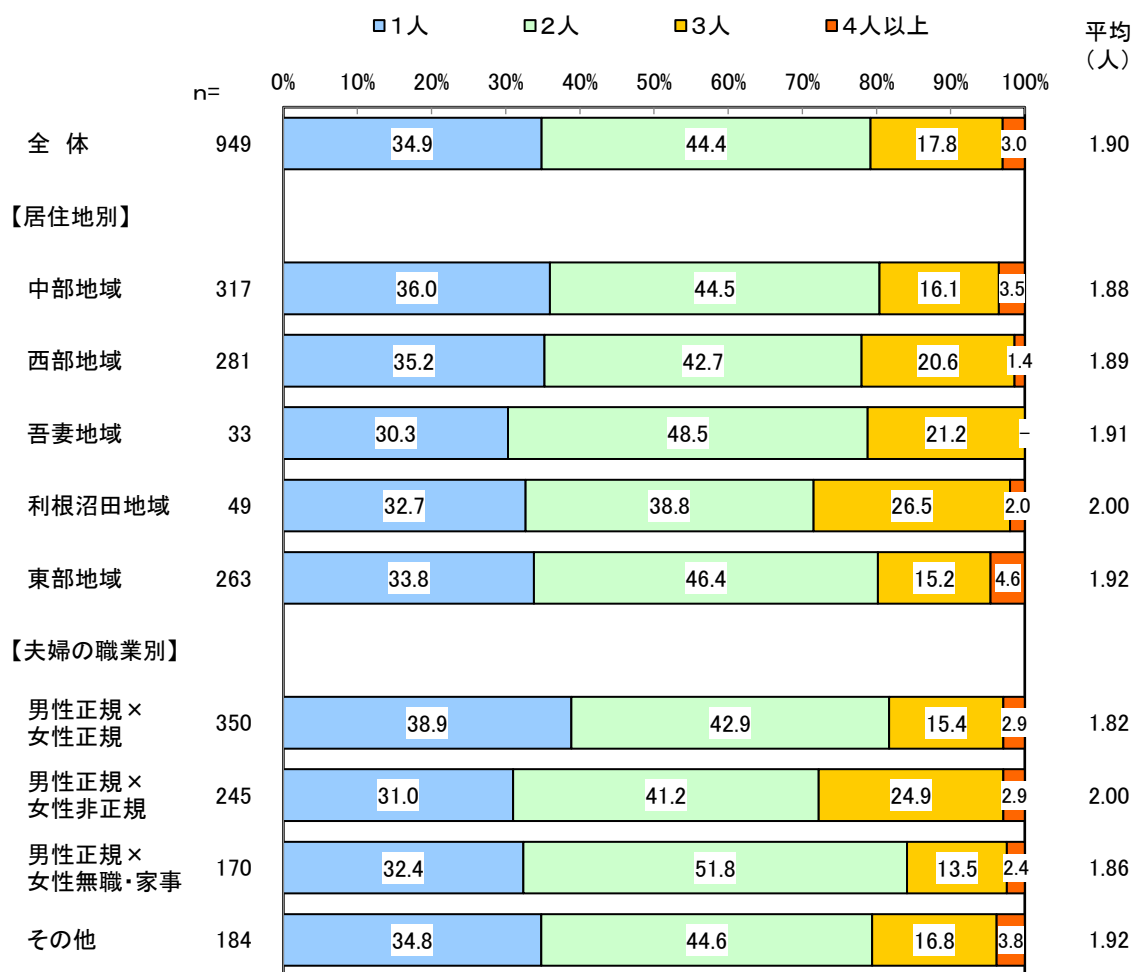
子どもの数（年齢別）



【年齢別】

年齢別で見ると、「1人」は20歳代で62.8%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。一方、「4人以上」は40歳以上で7.0%と高くなっている。

子どもの数（居住地別、夫婦の職業別）



【居住地別】

居住地別でみると、地域による大きな差はみられない。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「2人」は男性正規×女性無職・家事で51.8%、「3人」は男性正規×女性非正規で24.9%と高くなっている。

問5 あなたの職業をお答えください。

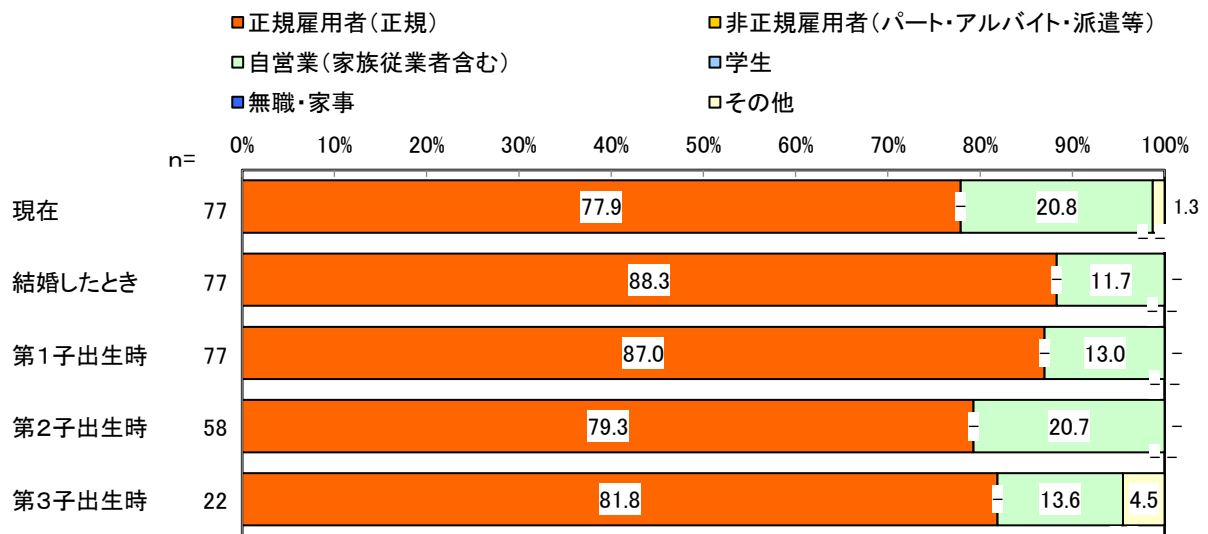
問6 パートナー（配偶者）の職業をお答えください。

【男性回答者】

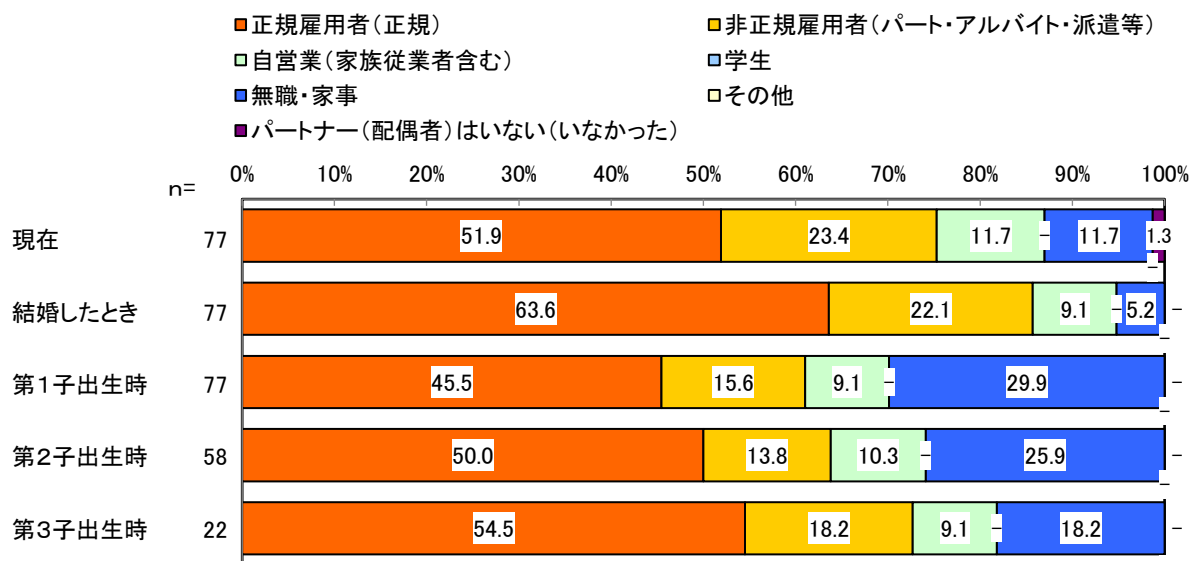
回答者が男性の場合、自分自身の職業は、いずれの時点でも「正規雇用者（正規）」が7～8割台となっている。

パートナーの職業は“結婚したとき”は「正規雇用者（正規）」が63.6%で最も高くなっているが、“第1子出生時”以降は4～5割台となり、“第1子出生時”から“第2子出生時”は「無職・家事」が29.9%、25.9%となり、“現在”は「非正規雇用者（パート・アルバイト・派遣等）」が23.4%となっている。

〈自分自身〉



〈パートナー〉

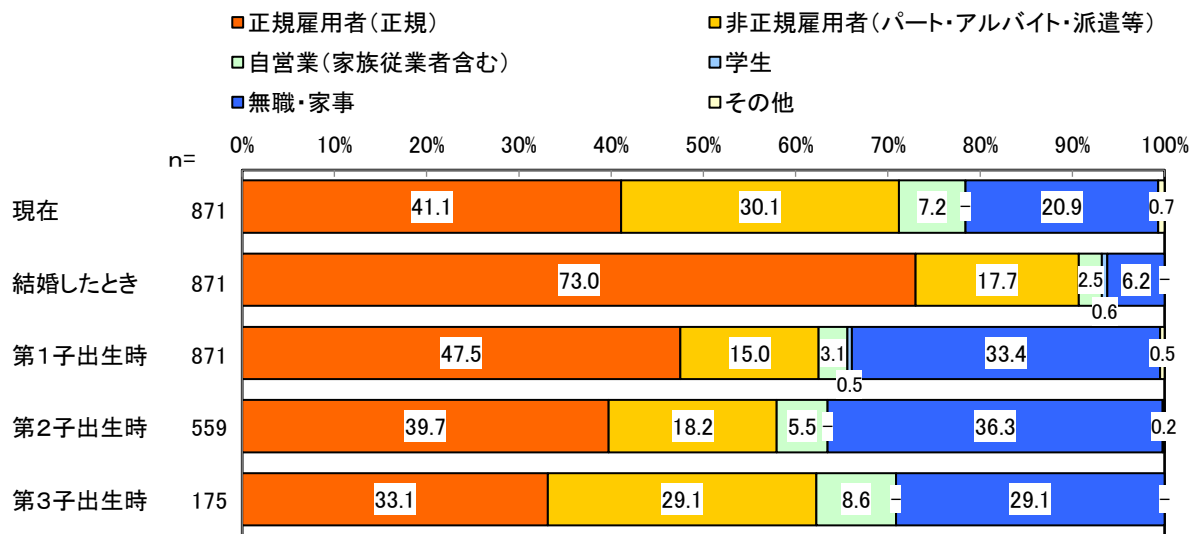


【女性回答者】

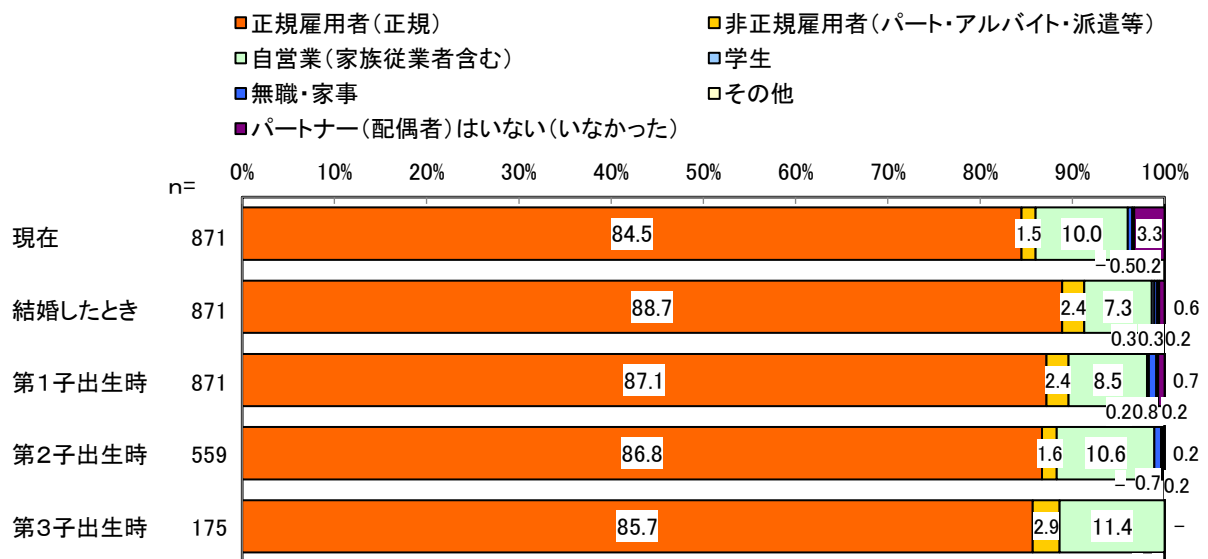
回答者が女性の場合、自分自身の職業は、「正規雇用者（正規）」が“結婚したとき”に73.0%と最も高くなっているが、“第1子出生時”から“第3子出生時”にかけて低くなっており、“現在”は41.1%となっている。「非正規雇用者（パート・アルバイト・派遣等）」は“現在”は30.1%となっているが、“第1子出生時”は15.0%となっている。「無職・家事」は“結婚したとき”は6.2%と低くなっているが、“第1子出生時”から“第3子出生時”は3割前後となっており、“現在”は20.9%となっている。

パートナーの職業は「正規雇用者（正規）」がいずれの段階でも8割台となっている。

〈自分自身〉

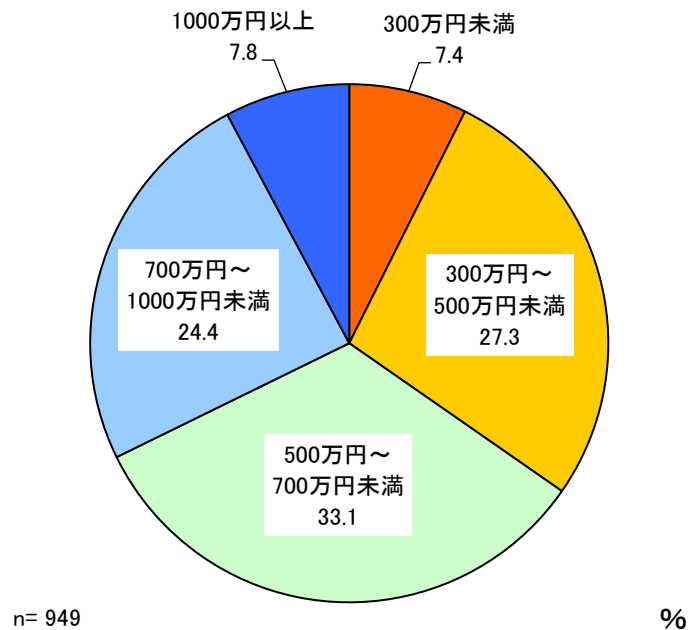


〈パートナー〉

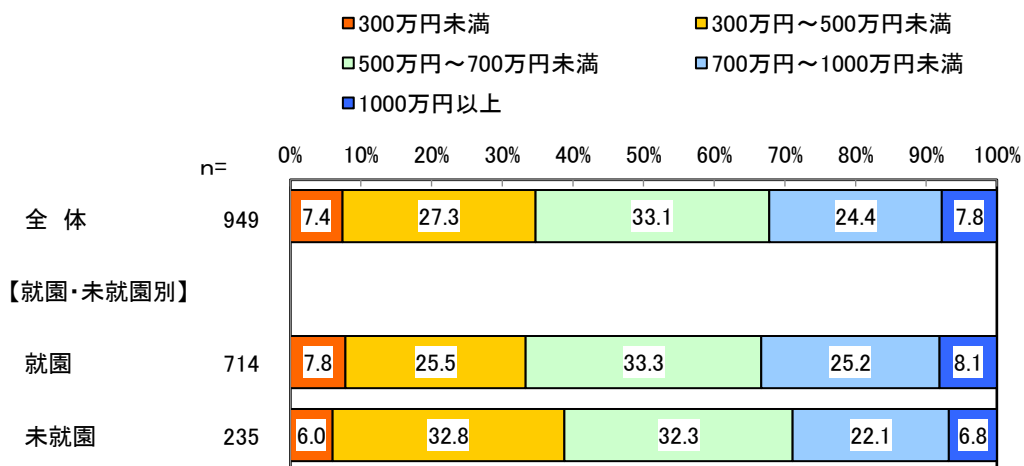


問7 あなたとパートナー（配偶者）の収入を合わせた、2022年における世帯の年間収入を教えてください。

年間収入は、「500万円～700万円未満」が33.1%で最も高く、次いで「300万円～500万円未満」が27.3%、「700万円～1000万円未満」が24.4%となっている。



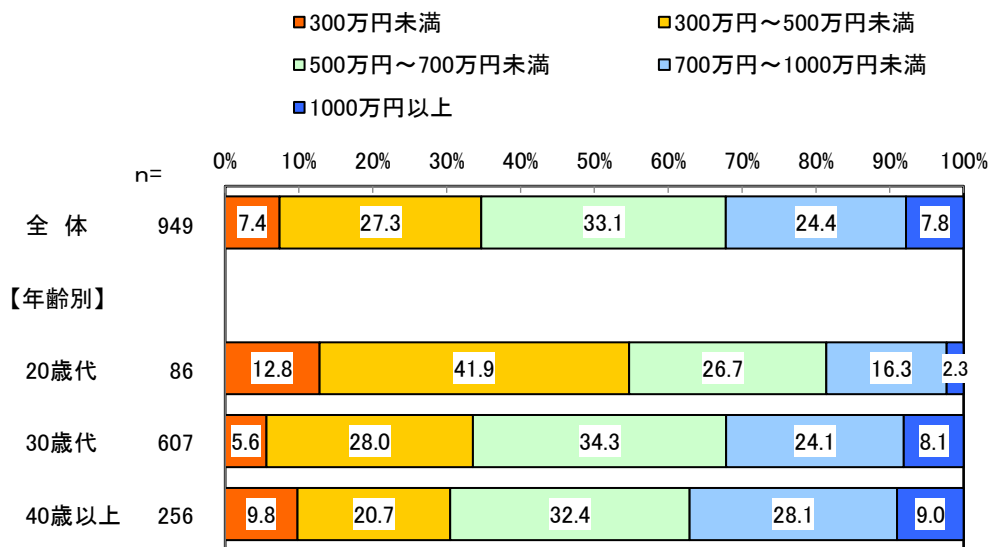
世帯年収（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「300万円～500万円未満」が7.3ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「700万円～1000万円未満」が3.1ポイント高くなっている。

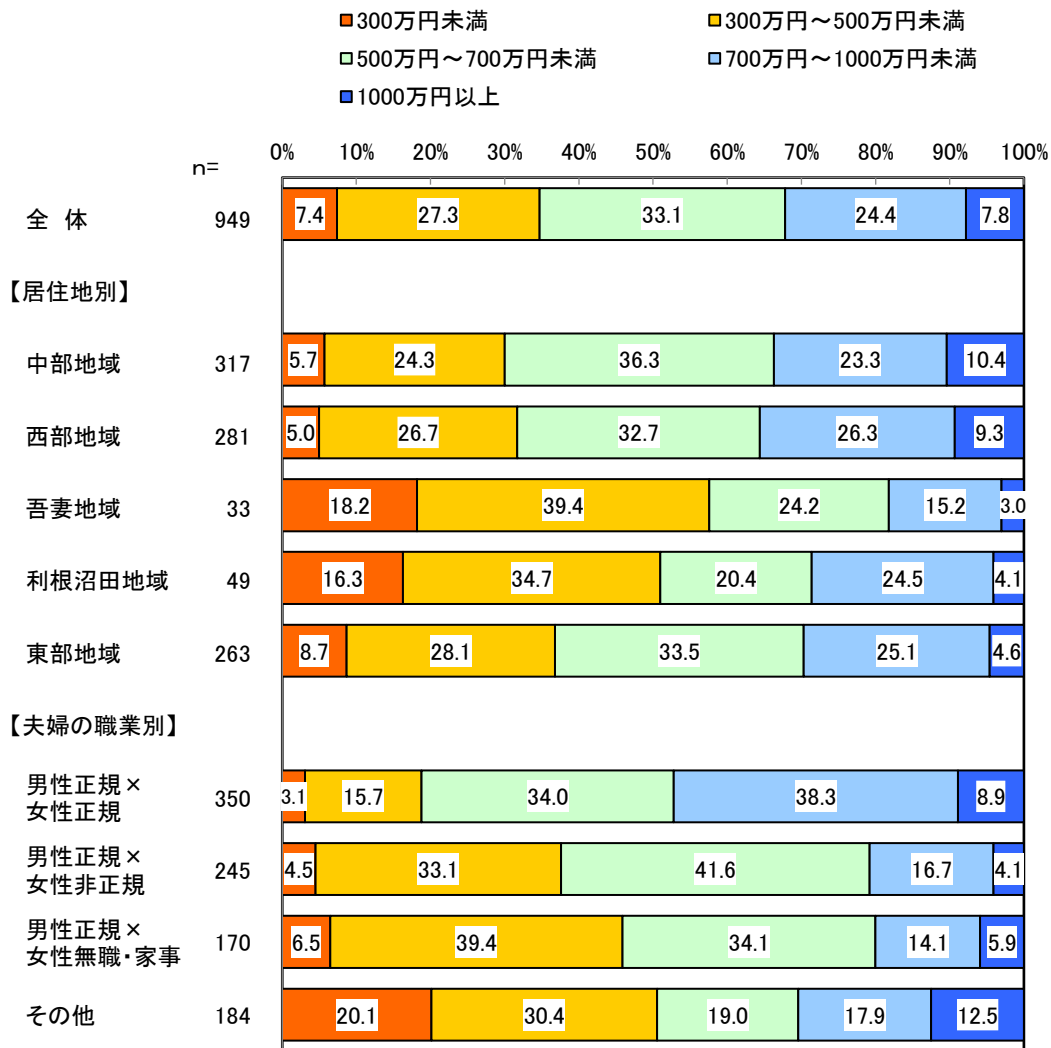
世帯年収（年齢別）



【年齢別】

年齢別でみると、「300万円～500万円未満」は20歳代で41.9%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。一方、「700万円～1000万円未満」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で28.1%となっている。

世帯年収（居住地別、夫婦の職業別）



【居住地別】

居住地別でみると、「300万円未満」は吾妻地域で18.2%、利根沼田地域で16.3%と高くなっている。「300万円～500万円未満」も吾妻地域で39.4%、利根沼田地域で34.7%と高くなっている。一方、「1000万円以上」は中部地域で10.4%とやや高くなっている。

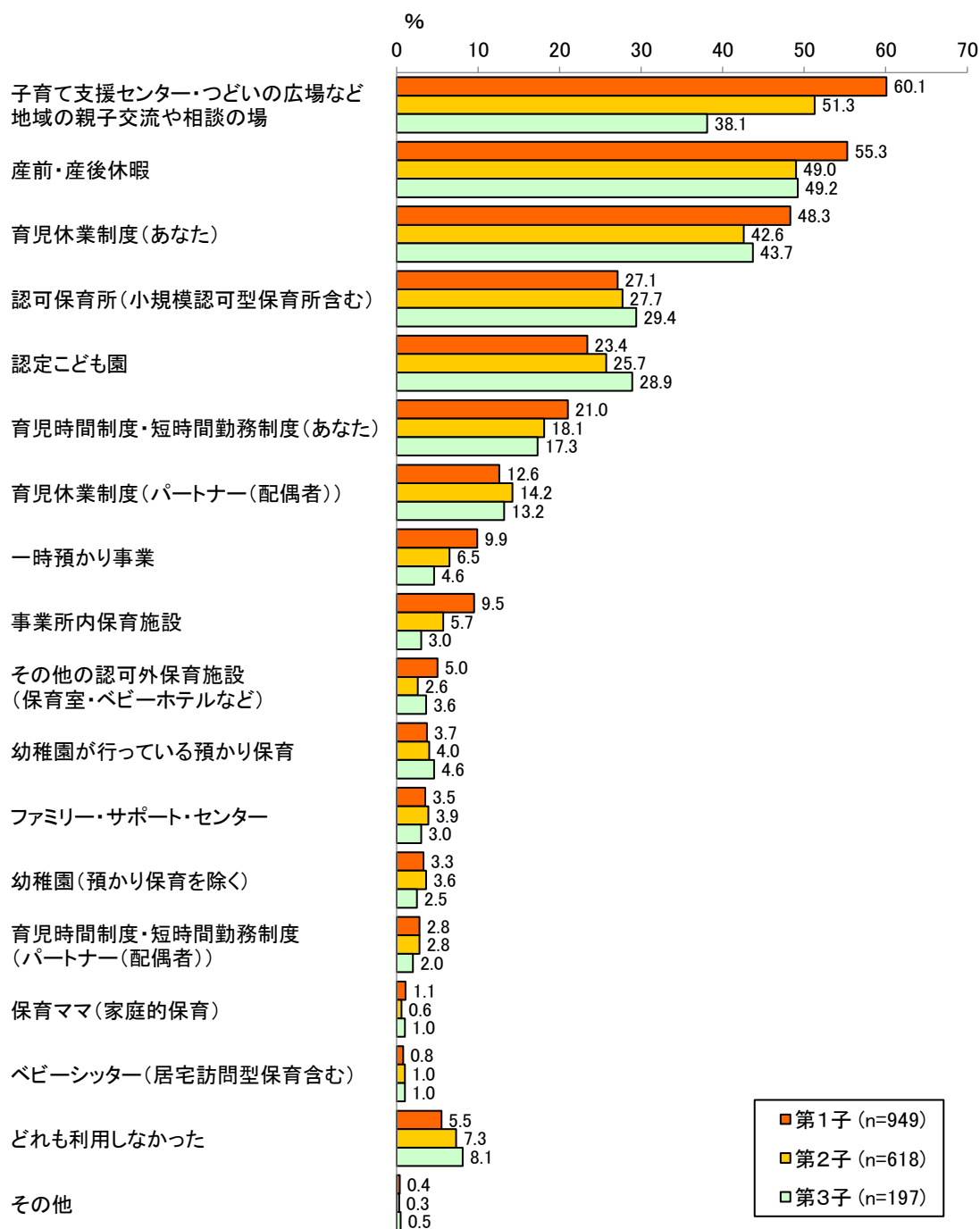
【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「300万円～500万円未満」は男性正規×女性無職・家事で39.4%と高くなっている。「500万円～700万円未満」は男性正規×女性非正規で41.6%と高くなっている。「700万円～1000万円未満」は男性正規×女性正規で38.3%と高くなっている。

2 子育てについて

問8 あなたのお子さんが3歳になるまでの間に利用した制度・施設について教えてください。
(回答はいくつでも)

お子さんが3歳になるまでの間に利用した制度・施設は、第1子、第2子では「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」が60.1%、51.3%と最も高く、次いで「産前・産後休暇」、「育児休業制度（あなた）」となっている。第3子では「産前・産後休暇」が49.2%で最も高く、次いで「育児休業制度（あなた）」が43.7%、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」が38.1%となっている。



「第1子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（就園・未就園別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パートナー(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	949	60.1	55.3	48.3	27.1	23.4	21.0	12.6	9.9	9.5
【就園・未就園別】										
就園	714	51.4	53.9	46.2	31.1	25.6	24.2	9.8	8.8	12.5
未就園	235	86.4	59.6	54.5	14.9	16.6	11.1	21.3	13.2	0.4

(%)

	n	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリー・サポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))	保育ママ(家庭的保育)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	どれも利用しなかった	その他
全体	949	5.0	3.7	3.5	3.3	2.8	1.1	0.8	5.5	0.4
【就園・未就園別】										
就園	714	5.5	3.6	2.7	3.6	3.2	0.8	0.8	6.9	0.3
未就園	235	3.4	3.8	6.0	2.1	1.7	1.7	0.9	1.3	0.9

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」が35.0ポイント、「育児休業制度(パートナー(配偶者))」が11.5ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「認可保育所(小規模認可型保育所含む)」が16.2ポイント、「育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)」が13.1ポイント、「事業所内保育施設」が12.1ポイント高くなっている。

「第1子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（性別、年齢別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パートナー(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	949	60.1	55.3	48.3	27.1	23.4	21.0	12.6	9.9	9.5
【性別】										
男性	77	40.3	45.5	11.7	36.4	22.1	1.3	49.4	6.5	11.7
女性	871	61.8	56.1	51.4	26.2	23.5	22.6	9.4	10.2	9.3
【年齢別】										
20歳代	86	51.2	69.8	64.0	17.4	18.6	22.1	23.3	9.3	17.4
30歳代	607	61.3	56.3	49.3	29.2	25.5	22.2	12.4	9.4	9.6
40歳以上	256	60.2	48.0	40.6	25.4	19.9	17.6	9.8	11.3	6.6

(%)

	n	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリーサポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))	保育ママ(家庭的保育)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	どれも利用しなかった	その他
全体	949	5.0	3.7	3.5	3.3	2.8	1.1	0.8	5.5	0.4
【性別】										
男性	77	2.6	3.9	9.1	2.6	19.5	-	1.3	11.7	-
女性	871	5.2	3.7	3.0	3.3	1.4	1.1	0.8	4.9	0.5
【年齢別】										
20歳代	86	10.5	1.2	1.2	1.2	3.5	2.3	-	-	-
30歳代	607	4.6	4.0	3.6	3.5	2.8	1.0	1.2	4.4	0.5
40歳以上	256	3.9	3.9	3.9	3.5	2.7	0.8	0.4	9.8	0.4

【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「育児休業制度(あなた)」が39.7ポイント、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」が21.5ポイント、「育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)」が21.3ポイント、「産前・産後休暇」が10.6ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「育児休業制度(パートナー(配偶者))」が40.0ポイント、「育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))」が18.1ポイント、「認可保育所(小規模認可型保育所含む)」が10.2ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「産前・産後休暇」と「育児休業制度(あなた)」は20歳代で6割台と高く、年齢が上がるほど低くなっている。

「第1子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（子どもの数別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パートナ(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	949	60.1	55.3	48.3	27.1	23.4	21.0	12.6	9.9	9.5
【子どもの数別】										
1人	331	64.7	62.5	57.7	19.6	17.5	24.2	18.4	9.4	14.8
2人	421	61.8	51.1	45.1	29.5	27.3	19.2	10.0	10.7	7.8
3人	169	53.3	52.7	40.8	34.3	27.2	19.5	10.1	8.3	2.4
4人以上	28	21.4	50.0	28.6	35.7	10.7	17.9	-	14.3	14.3

(%)

	n	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリー・サポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パートナ(配偶者))	保育ママ(家庭的保育)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	どれも利用しなかった	その他
全体	949	5.0	3.7	3.5	3.3	2.8	1.1	0.8	5.5	0.4
【子どもの数別】										
1人	331	5.4	2.4	2.1	1.8	3.3	0.9	0.3	2.4	0.6
2人	421	5.0	4.5	3.6	3.6	2.1	1.4	1.2	5.5	0.2
3人	169	4.7	4.7	6.5	5.9	4.1	0.6	1.2	8.3	0.6
4人以上	28	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」は1人で64.7%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。「育児休業制度(あなた)」も1人で57.7%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。一方、「認可保育所(小規模認可型保育所含む)」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人以上で35.7%となっている。

「第1子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（居住地別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パートナー(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	949	60.1	55.3	48.3	27.1	23.4	21.0	12.6	9.9	9.5
【居住地別】										
中部地域	317	56.5	55.5	50.2	28.4	24.3	23.7	14.2	8.8	11.0
西部地域	281	59.8	59.4	50.5	29.2	25.3	22.1	13.9	14.6	6.4
吾妻地域	33	54.5	54.5	51.5	33.3	30.3	24.2	9.1	6.1	12.1
利根沼田地域	49	73.5	46.9	46.9	30.6	18.4	14.3	16.3	8.2	8.2
東部地域	263	62.7	52.1	43.0	21.7	20.2	17.1	9.5	7.2	10.3

(%)

	n	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリー・サポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))	保育ママ(家庭的保育)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	どれも利用しなかった	その他
全体	949	5.0	3.7	3.5	3.3	2.8	1.1	0.8	5.5	0.4
【居住地別】										
中部地域	317	4.1	4.7	3.2	3.2	3.5	0.6	0.9	6.3	0.3
西部地域	281	6.4	5.7	3.6	3.9	2.1	1.1	1.1	5.0	-
吾妻地域	33	-	-	-	-	3.0	-	-	-	3.0
利根沼田地域	49	2.0	-	6.1	4.1	6.1	-	2.0	6.1	2.0
東部地域	263	4.9	1.5	3.8	2.7	2.3	1.9	0.4	5.7	0.4

【居住地別】

居住地別でみると、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」は利根沼田地域で73.5%と高くなっている。

「第1子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（夫婦の職業別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パートナー(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	949	60.1	55.3	48.3	27.1	23.4	21.0	12.6	9.9	9.5
【夫婦の職業別】										
男性正規×女性正規	350	59.1	92.0	83.7	32.0	28.0	38.6	20.6	5.7	15.4
男性正規×女性非正規	245	54.3	40.8	31.4	32.7	23.3	13.9	9.4	10.6	7.3
男性正規×女性無職・家事	170	74.7	17.1	14.1	7.6	12.4	5.3	12.4	15.3	1.2
その他	184	56.0	40.2	34.8	28.3	25.0	11.4	2.2	12.0	8.7

(%)

	n	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリー・サポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))	保育ママ(家庭的保育)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	どれも利用しなかった	その他
全体	949	5.0	3.7	3.5	3.3	2.8	1.1	0.8	5.5	0.4
【夫婦の職業別】										
男性正規×女性正規	350	5.4	2.9	4.0	1.7	5.1	0.9	0.6	0.9	0.6
男性正規×女性非正規	245	4.9	2.9	2.4	2.9	2.0	1.6	-	4.5	-
男性正規×女性無職・家事	170	2.9	6.5	5.3	7.6	1.2	0.6	1.2	11.2	-
その他	184	6.0	3.8	2.2	2.7	1.1	1.1	2.2	10.3	1.1

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」は男性正規×女性無職・家事で74.7%と高くなっている。また、男性正規×女性正規で「産前・産後休暇」が92.0%、「育児休業制度(あなた)」が83.7%、「育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)」が38.6%と高くなっている。

「第2子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（就園・未就園別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パートナー(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	618	51.3	49.0	42.6	27.7	25.7	18.1	14.2	6.5	5.7
【就園・未就園別】										
就園	493	43.8	50.3	43.4	30.6	29.0	20.7	12.0	5.5	7.1
未就園	125	80.8	44.0	39.2	16.0	12.8	8.0	23.2	10.4	-

(%)

	n	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリー・サポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	保育ママ(家庭的保育)	どれも利用しなかった	その他
全体	618	4.0	3.9	3.6	2.8	2.6	1.0	0.6	7.3	0.3
【就園・未就園別】										
就園	493	4.7	2.6	3.4	2.6	3.0	1.2	0.6	7.9	0.2
未就園	125	1.6	8.8	4.0	3.2	0.8	-	0.8	4.8	0.8

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」が37.0ポイント、「育児休業制度(パートナー(配偶者))」が11.2ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「認定こども園」が16.2ポイント、「認可保育所(小規模認可型保育所含む)」が14.6ポイント、「育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)」が12.7ポイント高くなっている。

「第2子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（性別、年齢別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パートナー(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	618	51.3	49.0	42.6	27.7	25.7	18.1	14.2	6.5	5.7
【性別】										
男性	58	39.7	39.7	6.9	34.5	31.0	3.4	53.4	3.4	5.2
女性	559	52.4	49.9	46.2	27.0	25.2	19.7	10.2	6.8	5.7
【年齢別】										
20歳代	32	46.9	59.4	53.1	15.6	34.4	28.1	12.5	-	6.3
30歳代	401	53.1	51.1	44.6	28.7	24.7	18.2	16.5	6.5	5.7
40歳以上	185	48.1	42.7	36.2	27.6	26.5	16.2	9.7	7.6	5.4

(%)

	n	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリーサポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	保育ママ(家庭的保育)	どれも利用しなかった	その他
全体	618	4.0	3.9	3.6	2.8	2.6	1.0	0.6	7.3	0.3
【性別】										
男性	58	6.9	6.9	1.7	20.7	3.4	-	-	13.8	-
女性	559	3.8	3.6	3.8	0.9	2.5	1.1	0.7	6.6	0.4
【年齢別】										
20歳代	32	-	-	3.1	-	9.4	-	3.1	3.1	-
30歳代	401	4.0	4.0	3.5	3.2	2.2	0.7	0.5	6.5	0.5
40歳以上	185	4.9	4.3	3.8	2.2	2.2	1.6	0.5	9.7	-

【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「育児休業制度(あなた)」が39.3ポイント、「育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)」が16.3ポイント、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」が12.7ポイント、「産前・産後休暇」が10.2ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「育児休業制度(パートナー(配偶者))」が43.2ポイント、「育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))」が19.8ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「産前・産後休暇」と「育児休業制度(あなた)」は20歳代で5割台と高く、年齢が上がるほど低くなっている。

「第2子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（子どもの数別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パートナー(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	618	51.3	49.0	42.6	27.7	25.7	18.1	14.2	6.5	5.7
【子どもの数別】										
2人	421	53.9	49.2	44.2	24.0	24.0	18.1	16.4	6.7	6.9
3人	169	49.7	49.1	39.1	34.9	31.4	19.5	11.2	5.9	1.8
4人以上	28	21.4	46.4	39.3	39.3	17.9	10.7	-	7.1	10.7

(%)

	n	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリーサポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	保育ママ(家庭的保育)	どれも利用しなかった	その他
全体	618	4.0	3.9	3.6	2.8	2.6	1.0	0.6	7.3	0.3
【子どもの数別】										
2人	421	3.6	3.8	2.4	2.6	3.1	1.0	0.5	7.1	0.5
3人	169	5.9	4.7	7.1	3.6	1.8	1.2	1.2	5.9	-
4人以上	28	-	-	-	-	-	-	-	17.9	-

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」は2人で53.9%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。一方、「認可保育所(小規模認可型保育所含む)」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人以上で39.3%となっている。

「第2子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（居住地別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パート・ナナー(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	618	51.3	49.0	42.6	27.7	25.7	18.1	14.2	6.5	5.7
【居住地別】										
中部地域	203	50.2	51.7	46.3	31.0	26.1	20.2	19.7	6.4	6.9
西部地域	182	49.5	48.9	39.0	31.3	24.7	20.3	15.4	8.8	3.3
吾妻地域	23	60.9	56.5	56.5	26.1	43.5	30.4	4.3	8.7	8.7
利根沼田地域	33	69.7	36.4	39.4	21.2	30.3	15.2	6.1	3.0	9.1
東部地域	174	49.4	47.1	40.2	21.3	23.0	12.1	9.2	4.6	5.7

(%)

	n	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリー・サポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パート・ナナー(配偶者))	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	保育ママ(家庭的保育)	どれも利用しなかった	その他
全体	618	4.0	3.9	3.6	2.8	2.6	1.0	0.6	7.3	0.3
【居住地別】										
中部地域	203	6.4	3.9	4.4	4.9	2.5	1.5	-	5.4	0.5
西部地域	182	3.8	2.2	2.7	2.7	3.8	1.1	-	7.1	-
吾妻地域	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-
利根沼田地域	33	3.0	12.1	6.1	3.0	-	3.0	-	6.1	-
東部地域	174	2.3	4.6	2.9	0.6	1.7	-	2.3	10.9	0.6

【居住地別】

居住地別でみると、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」は利根沼田地域で69.7%と高くなっている。

「第2子」が3歳になるまでの間に利用した制度・施設（夫婦の職業別）

(%)

	n	子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	産前・産後休暇	育児休業制度(あなた)	認可保育所(小規模認可型保育所含む)	認定こども園	育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)	育児休業制度(パートナー(配偶者))	一時預かり事業	事業所内保育施設
全体	618	51.3	49.0	42.6	27.7	25.7	18.1	14.2	6.5	5.7
【夫婦の職業別】										
男性正規×女性正規	214	50.5	89.7	79.4	36.0	29.9	35.5	25.2	3.7	8.9
男性正規×女性非正規	169	47.9	36.7	28.4	36.1	29.0	11.8	7.1	7.7	4.1
男性正規×女性無職・家事	115	66.1	7.8	6.1	4.3	7.8	0.9	15.7	11.3	1.7
その他	120	43.3	33.3	31.7	23.3	30.8	12.5	3.3	5.0	5.8

(%)

	n	幼稚園が行っている預かり保育	ファミリーサポート・センター	幼稚園(預かり保育を除く)	育児時間制度・短時間勤務制度(パートナー(配偶者))	その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)	ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	保育ママ(家庭的保育)	どれも利用しなかった	その他
全体	618	4.0	3.9	3.6	2.8	2.6	1.0	0.6	7.3	0.3
【夫婦の職業別】										
男性正規×女性正規	214	1.9	3.7	1.4	6.1	2.3	0.9	0.5	-	0.5
男性正規×女性非正規	169	3.0	3.0	3.0	1.2	1.8	-	1.2	6.5	-
男性正規×女性無職・家事	115	7.8	6.1	8.7	0.9	1.7	0.9	0.9	17.4	-
その他	120	5.8	3.3	3.3	0.8	5.0	2.5	-	11.7	0.8

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」は男性正規×女性無職・家事で66.1%と高くなっている。また、男性正規×女性正規で「産前・産後休暇」が89.7%、「育児休業制度(あなた)」が79.4%、「育児時間制度・短時間勤務制度(あなた)」が35.5%と高くなっている。

※「第3子」のクロス集計については母数が少ないため省略する。

【問8で、育児休業制度（あなた）・育児休業制度（パートナー（配偶者））を「利用した」と回答した方の方に伺います。】

問9 育児休業の取得期間について教えてください。

【男性回答者】

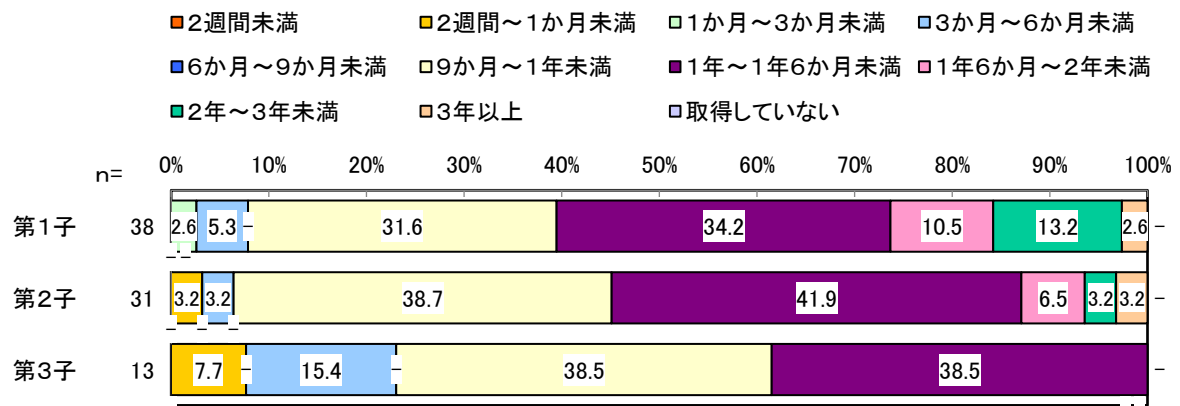
回答者が男性の場合、自分自身の育児休業の取得期間は、回答者が少ないため参考とする。

パートナー（配偶者）は、第1子、第2子いずれも「1年～1年6か月未満」と「9か月～1年未満」が3～4割台で高くなっている。

〈自分自身〉

	n	2週間未満	2週間～1か月未満	1か月～3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～9か月未満	9か月～1年未満	1年～1年6か月未満	1年6か月～2年未満	2年～3年未満	3年以上	取得していない
第1子	9	4	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-
第2子	4	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
第3子	6	2	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-

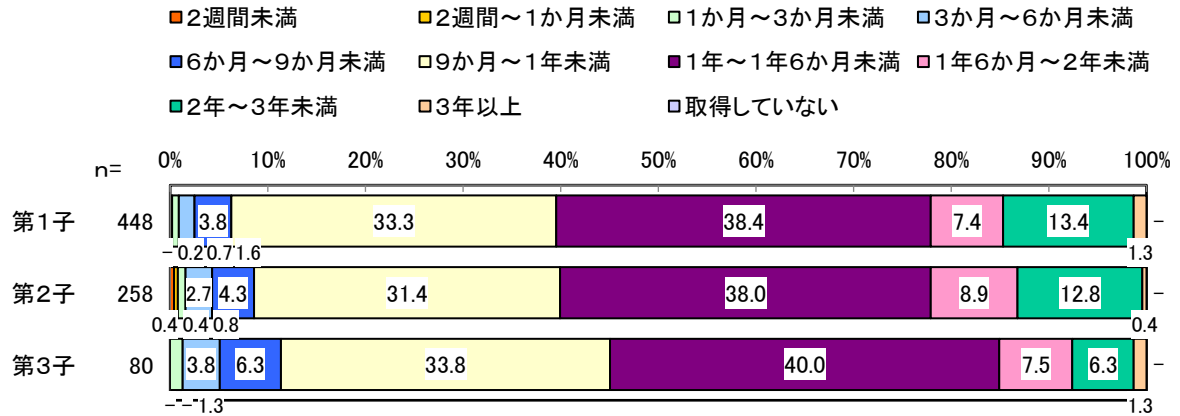
〈パートナー〉



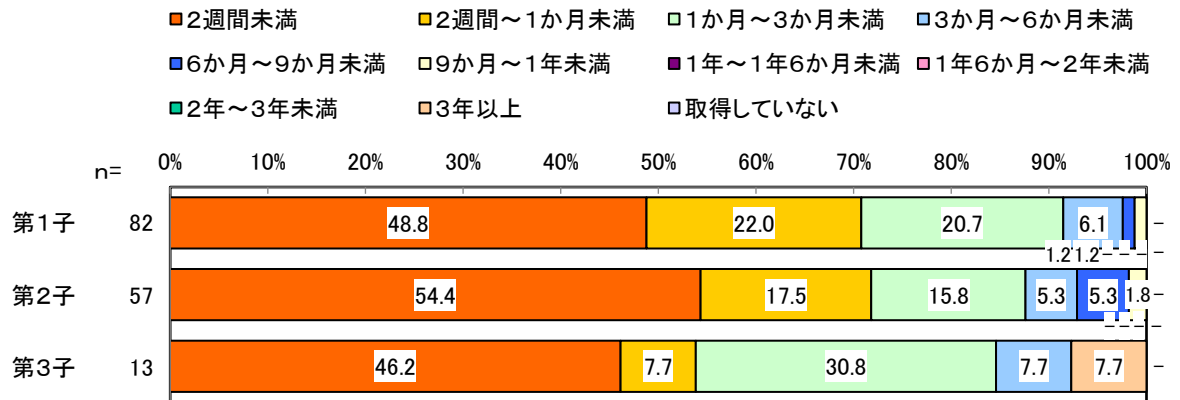
【女性回答者】

回答者が女性の場合、自分自身の育児休業の取得期間は、第1子、第2子、第3子いずれも「1年～1年6か月未満」が約4割で最も高く、次いで「9か月～1年未満」が3割強となっている。
 パートナー（配偶者）は、第1子、第2子いずれも「2週間未満」が5割前後で最も高く、次いで「2週間～1か月未満」と「1か月～3か月未満」が高くなっている。

〈自分自身〉

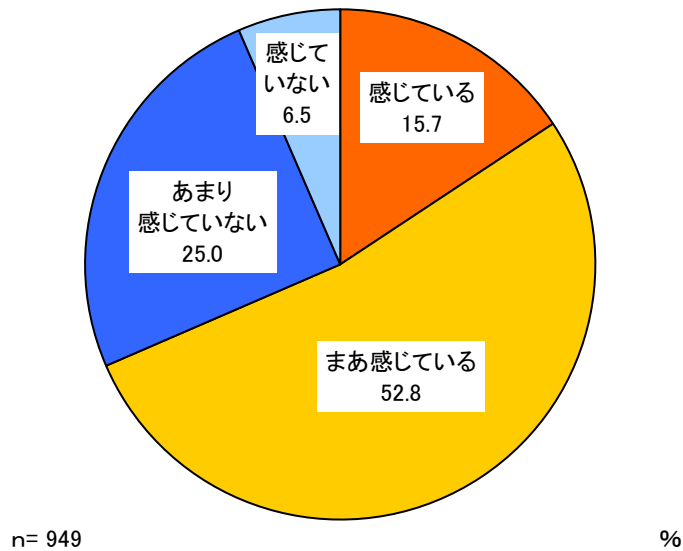


〈パートナー〉

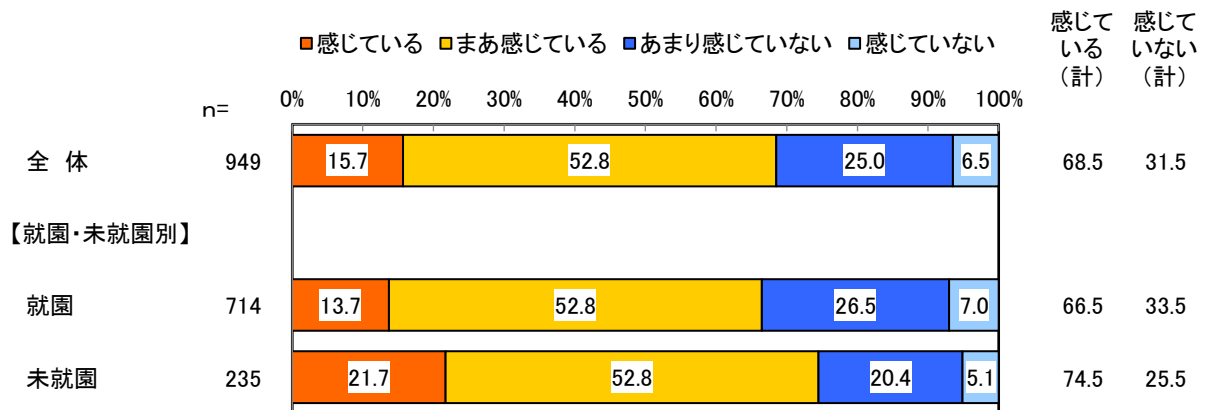


問10 現在、あなたがお子さんを育てている環境について、子どもを産み育てやすいと感じていますか。

現在、あなたがお子さんを育てている環境が子どもを産み育てやすいと感じているかは、「まあ感じている」が52.8%で最も高く、次いで「あまり感じていない」が25.0%、「感じている」が15.7%となっている。「感じている(計)」(「感じている」と「まあ感じている」の合計)は68.5%、「感じていない(計)」(「あまり感じていない」と「感じていない」の合計)は31.5%となっている。



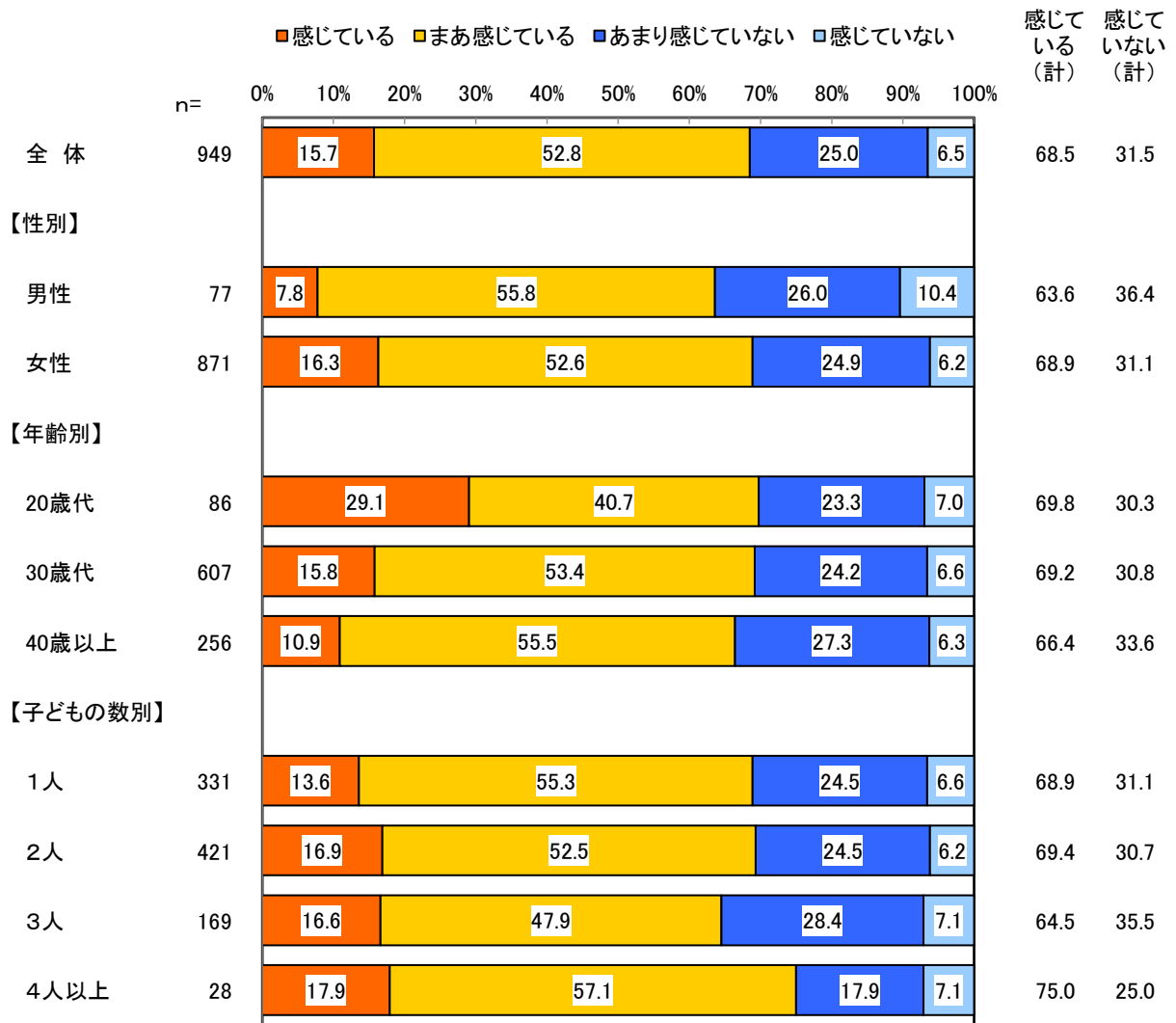
子どもを産み育てやすい環境と感じているか (就園・未就園別)



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「感じている(計)」が8.0ポイント高くなっている。

子どもを産み育てやすい環境と感じているか（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「感じている（計）」が5.3ポイント高くなっている。

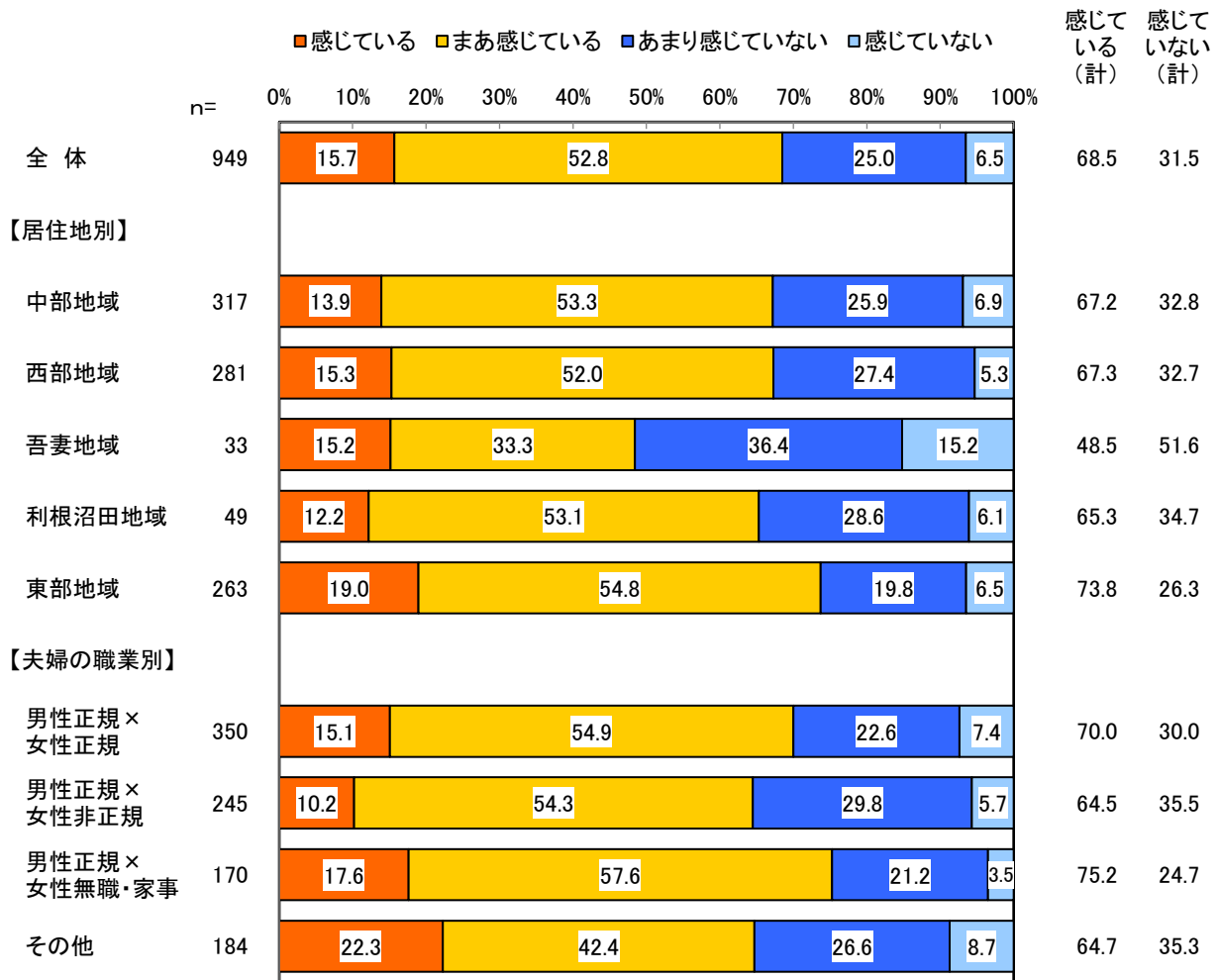
【年齢別】

年齢別でみると、「感じている（計）」に大きな差はみられないが、「感じている」は年齢が低いほど高い傾向がみられ、20歳代で29.1%となっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「感じている（計）」は4人以上で75.0%と高くなっている。一方、3人では64.5%と低くなっている。

子どもを産み育てやすい環境と感じているか（居住地別、夫婦の職業別）



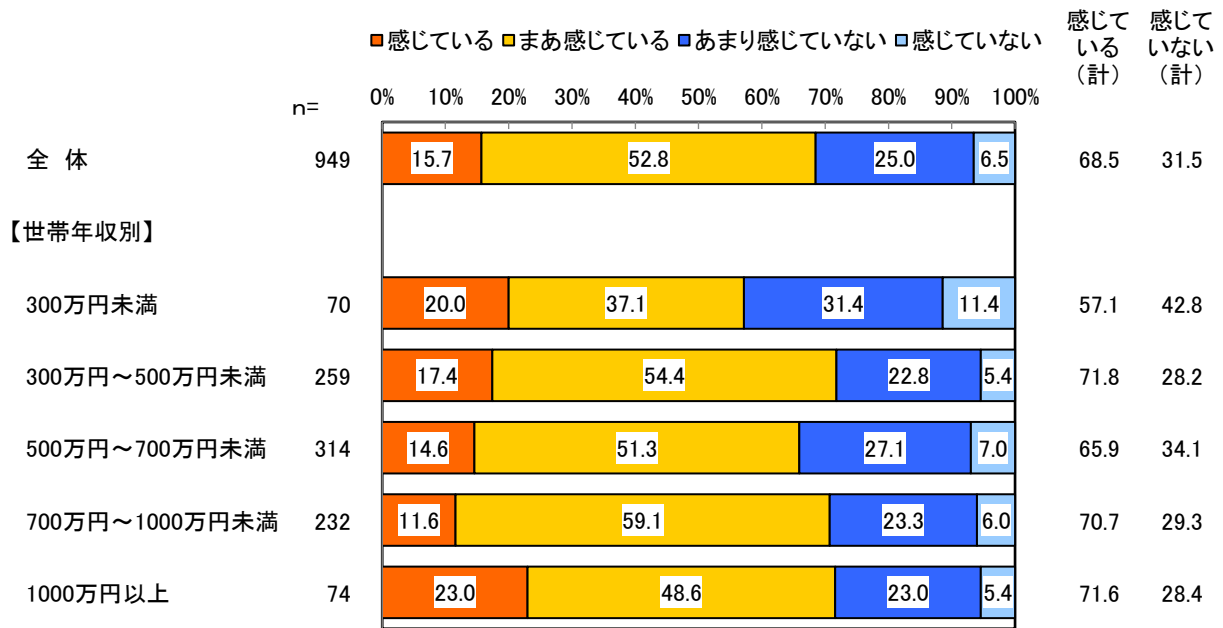
【居住地別】

居住地別でみると、「感じている（計）」は東部地域で73.8%と高くなっている。一方、吾妻地域では48.5%と低くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「感じている（計）」は男性正規×女性無職・家事で75.2%と高くなっている。一方、男性正規×女性非正規では64.5%と低くなっている。

子どもを産み育てやすい環境と感じているか（世帯年収別）

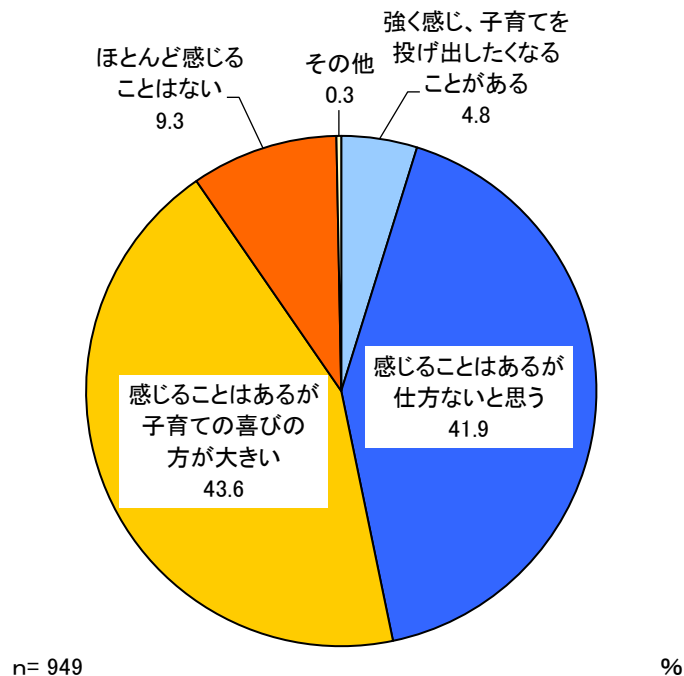


【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「感じている（計）」は 300 万円～500 万円未満で 71.8%、1000 万円以上で 71.6%、700 万円～1000 万円未満で 70.7%と高くなっている。一方、300 万円未満では 57.1%と低くなっている。

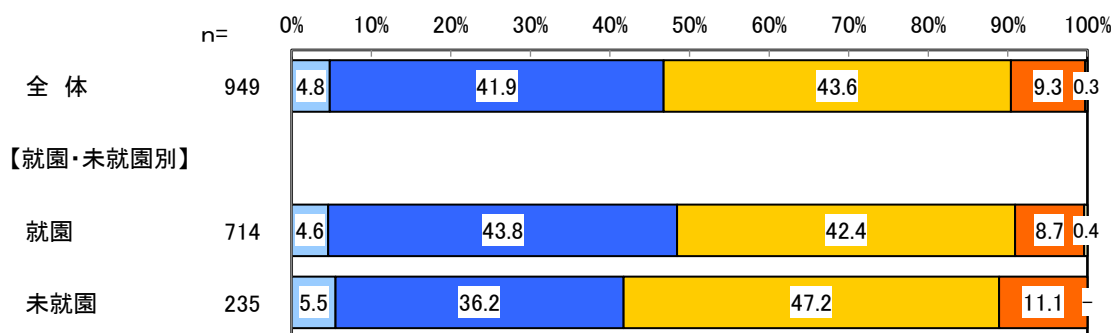
問 11 あなたは子育てに関して不安感や負担感を感じることはありますか。

子育てに関して不安感や負担感を感じることは、「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」が43.6%で最も高く、次いで「感じることはあるが仕方ないと思う」が41.9%、「ほとんど感じることはない」が9.3%となっている。



子育てに関して不安感や負担感を感じること（就園・未就園別）

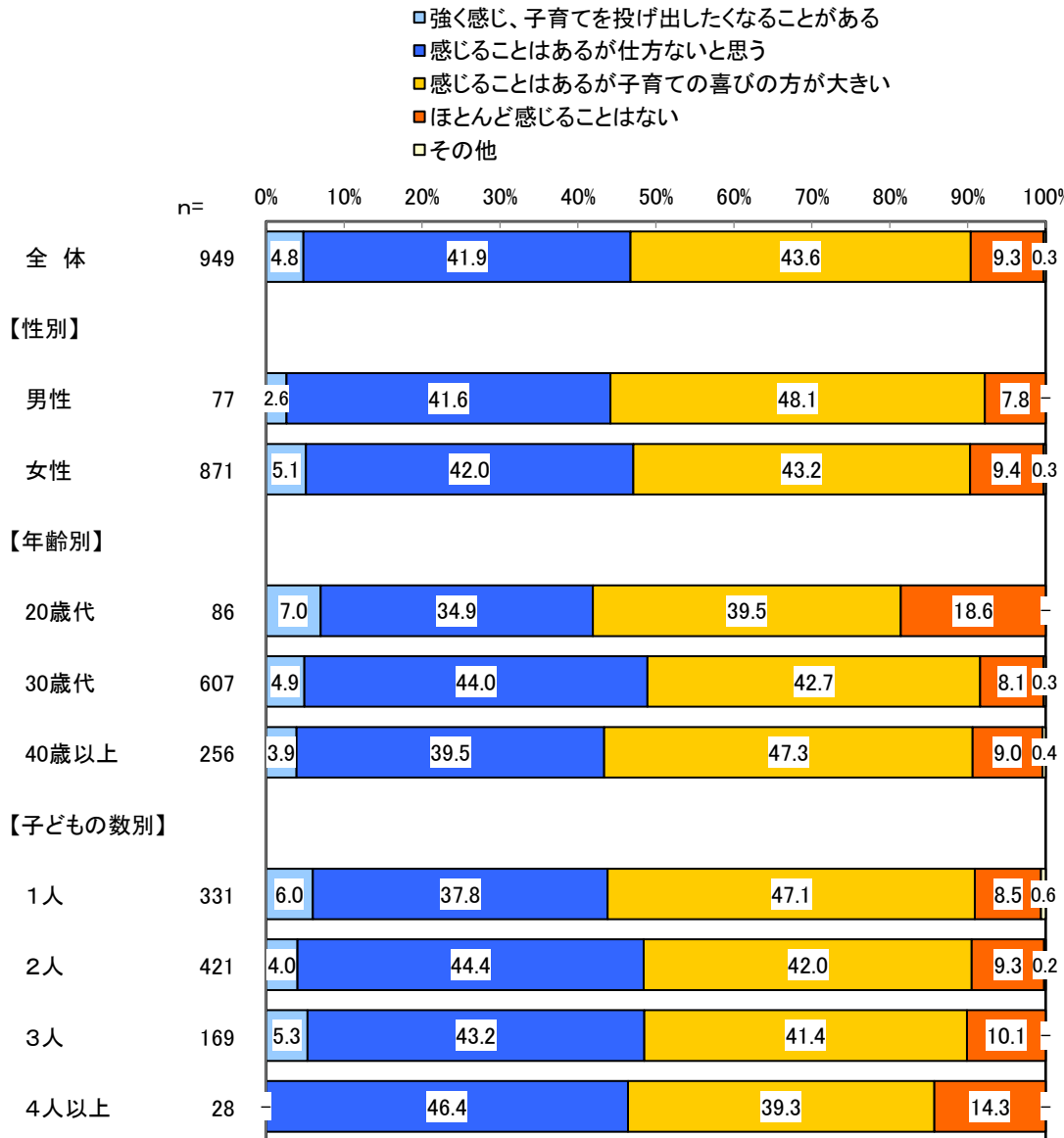
- 強く感じ、子育てを投げ出したくなることもある
- 感じることはあるが仕方ないと思う
- 感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい
- ほとんど感じることはない
- その他



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園は未就園よりも「感じることはあるが仕方ないと思う」が7.6ポイント高くなっている。一方、未就園は就園よりも「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」が4.8ポイント高くなっている。

子育てに関して不安感や負担感を感じる事（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男性は女性よりも「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」が4.9ポイント高くなっている。

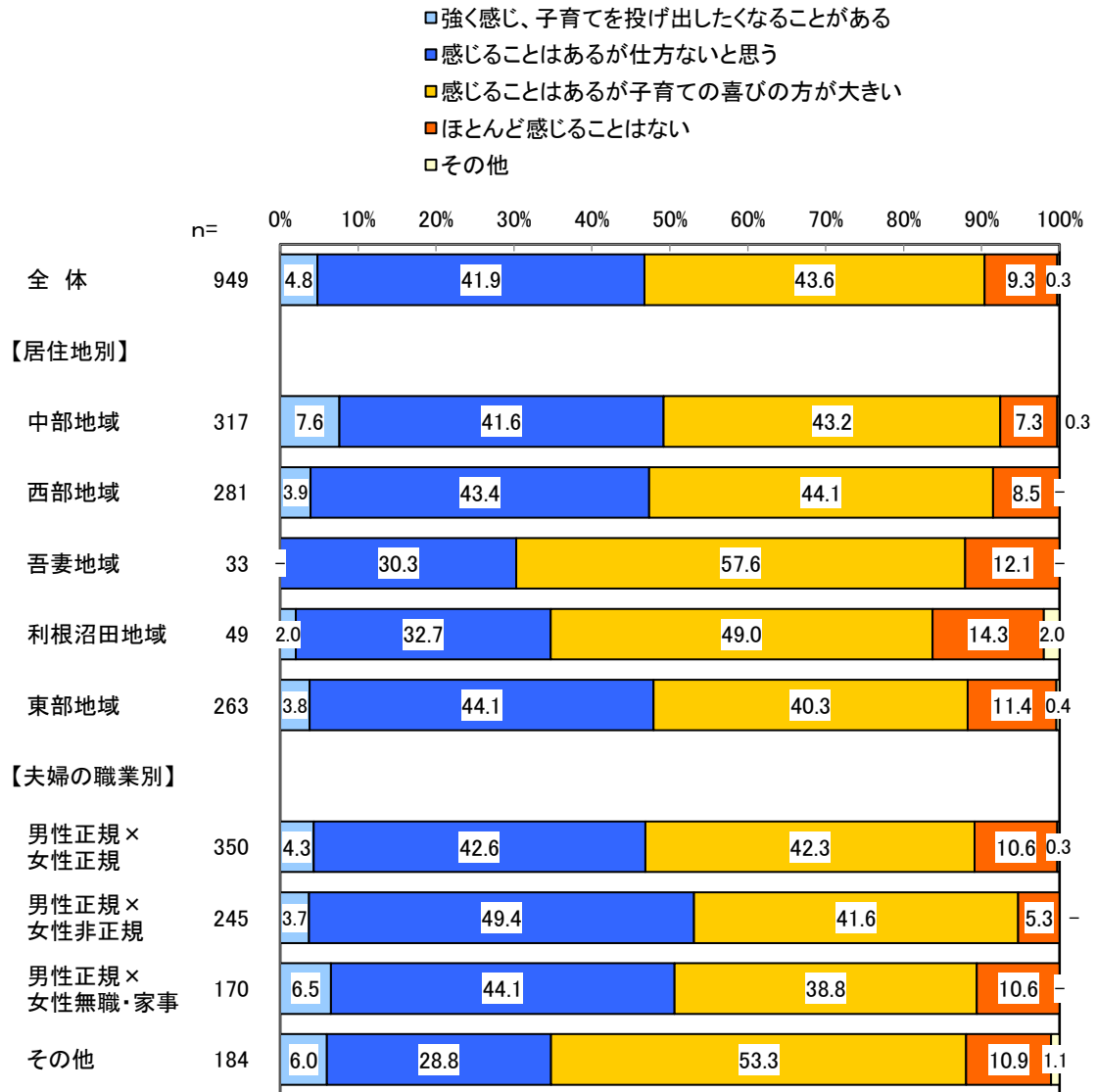
【年齢別】

年齢別でみると、「感じることはあるが仕方ないと思う」は30歳代で44.0%と高くなっている。「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で47.3%となっている。「ほとんど感じることはない」は20歳代で18.6%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」は1人で47.1%と高くなっている。「ほとんど感じることはない」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人で14.3%となっている。

子育てに関して不安感や負担感を感じる事（居住地別、夫婦の職業別）



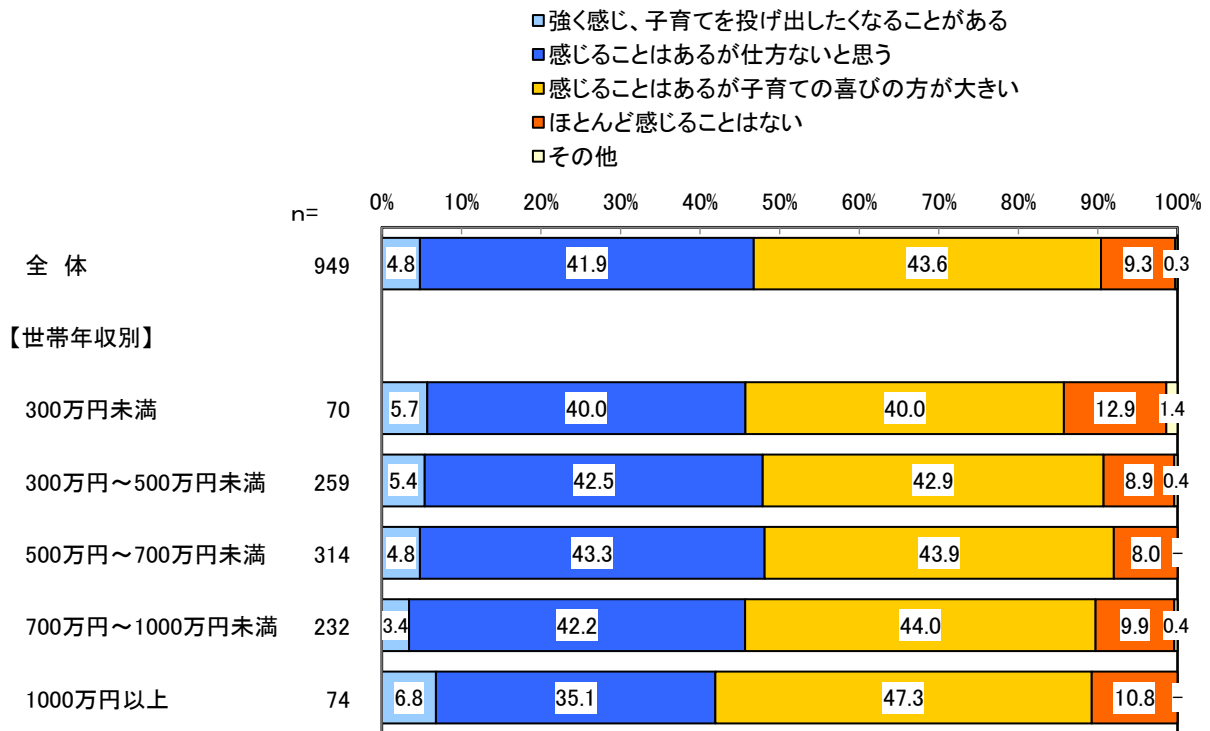
【居住地別】

居住地別でみると、「感じることはあるが仕方ないと思う」は東部地域で44.1%、西部地域で43.4%と高くなっている。「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」は吾妻地域で57.6%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「感じることはあるが仕方ないと思う」は男性正規×女性非正規で49.4%と高くなっている。

子育てに関して不安感や負担感を感じること（世帯年収別）



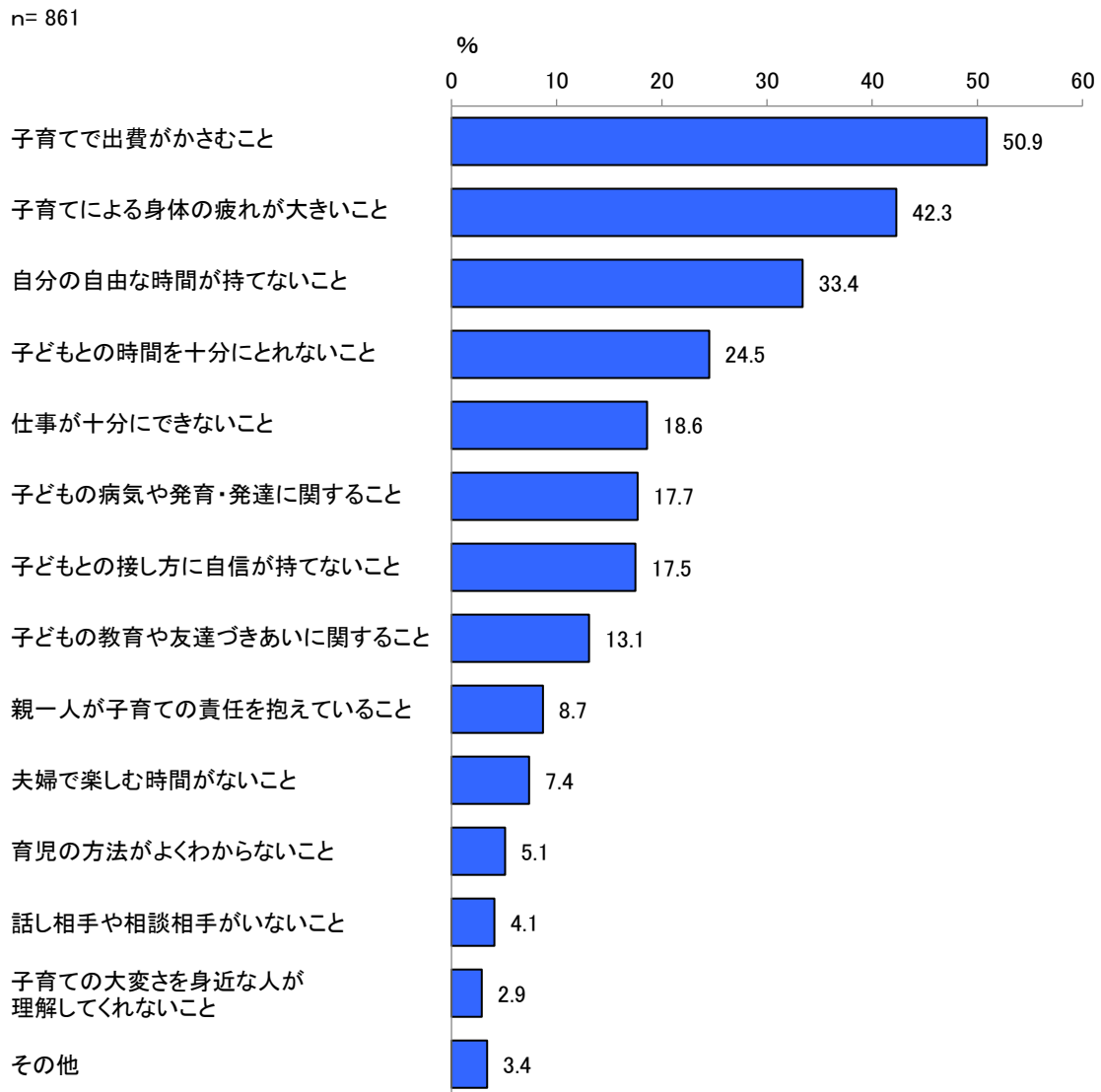
【世帯年収別】

世帯年収別で見ると、「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」は1000万円以上で47.3%と高くなっている。

【問 11 で「強く感じ、子育てを投げ出したくなることがある」、「感じることはあるが仕方ないと思う」、「感じることはあるが子育ての喜びの方が大きい」、「その他」を選択した方のみにお聞きします。】

問 12 あなたが子育てをする上で、負担に感じることや悩んでいることはどのようなことですか。
(回答は3つまで)

子育てをする上で、負担に感じることや悩んでいることは、「子育てで出費がかさむこと」が50.9%で最も高く、次いで「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が42.3%、「自分の自由な時間が持てないこと」が33.4%となっている。



子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること（就園・未就園別）

(%)

	n	子育てで出費がかさむこと	子育てによる身体の疲れが大きいこと	自分の自由な時間が持てないこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	仕事が十分にできないこと	子どもの病気や発育・発達に関すること	子どもとの接し方に自信が持てないこと
全体	861	50.9	42.3	33.4	24.5	18.6	17.7	17.5
【就園・未就園別】								
就園	652	50.3	39.6	30.4	29.6	20.7	18.9	17.0
未就園	209	52.6	50.7	43.1	8.6	12.0	13.9	19.1

(%)

	n	子どもの教育や友達づきあいにすること	親一人が子育ての責任を抱えていること	夫婦で楽しむ時間がないこと	育児の方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がないこと	子育ての大変さを身近な人が理解してくれないこと	その他
全体	861	13.1	8.7	7.4	5.1	4.1	2.9	3.4
【就園・未就園別】								
就園	652	12.9	8.9	6.6	4.1	3.2	2.6	3.7
未就園	209	13.9	8.1	10.0	8.1	6.7	3.8	2.4

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「自分の自由な時間が持てないこと」が12.7ポイント、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が11.1ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「子どもとの時間を十分にとれないこと」が21.0ポイント、「仕事が十分にできないこと」が8.7ポイント、「子どもの病気や発育・発達に関すること」が5.0ポイント高くなっている。

子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること（性別、年齢別）

(%)

	n	子育てで出費がかさむこと	子育てによる身体の疲れが大きいこと	自分の自由な時間が持てないこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	仕事が十分にできないこと	子どもの病気や発育・発達に関すること	子どもとの接し方に自信が持てないこと
全体	861	50.9	42.3	33.4	24.5	18.6	17.7	17.5
【性別】								
男性	71	59.2	28.2	29.6	39.4	14.1	15.5	12.7
女性	789	50.1	43.5	33.8	23.2	19.0	17.9	18.0
【年齢別】								
20歳代	70	65.7	40.0	30.0	20.0	12.9	10.0	24.3
30歳代	558	53.8	42.1	35.3	23.3	19.2	16.7	15.9
40歳以上	233	39.5	43.3	30.0	28.8	18.9	22.3	19.3

(%)

	n	子どもの教育や友達づきあいに関すること	親一人が子育ての責任を抱えていること	夫婦で楽しむ時間がないこと	育児の方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がいないこと	子育ての大変さを身近な人が理解してくれないこと	その他
全体	861	13.1	8.7	7.4	5.1	4.1	2.9	3.4
【性別】								
男性	71	14.1	5.6	15.5	9.9	5.6	1.4	2.8
女性	789	13.1	9.0	6.7	4.7	3.9	3.0	3.4
【年齢別】								
20歳代	70	12.9	7.1	12.9	4.3	8.6	1.4	2.9
30歳代	558	12.7	8.1	7.0	5.2	3.6	3.0	3.4
40歳以上	233	14.2	10.7	6.9	5.2	3.9	3.0	3.4

【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が15.3ポイント、「子どもとの接し方に自信が持てないこと」が5.3ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「子どもとの時間を十分にとれないこと」が16.2ポイント、「子育てで出費がかさむこと」が9.1ポイント、「夫婦で楽しむ時間がないこと」が8.8ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「子育てで出費がかさむこと」は20歳代で65.7%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。一方、「子どもとの時間を十分にとれないこと」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で28.8%となっている。

子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること（子どもの数別）

(%)

	n	子育てで出費がかさむこと	子育てによる身体の疲れが大きいこと	自分の自由な時間が持てないこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	仕事に十分できないこと	子どもの病気や発育・発達に関すること	子どもとの接し方に自信が持てないこと
全体	861	50.9	42.3	33.4	24.5	18.6	17.7	17.5
【子どもの数別】								
1人	303	44.2	48.2	36.3	22.1	15.8	14.9	17.5
2人	382	51.6	40.3	33.5	24.3	18.8	19.9	18.6
3人	152	57.9	37.5	26.3	25.7	22.4	17.1	17.8
4人以上	24	79.2	29.2	41.7	50.0	25.0	20.8	-

(%)

	n	子どもの教育や友達づきあいに関すること	親一人が子育ての責任を抱えていること	夫婦で楽しむ時間が少ないこと	育児の方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がないこと	子育ての大変さを身近な人が理解してくれないこと	その他
全体	861	13.1	8.7	7.4	5.1	4.1	2.9	3.4
【子どもの数別】								
1人	303	13.2	9.6	5.9	8.6	6.3	1.7	3.0
2人	382	12.8	7.1	8.9	3.1	2.9	3.9	2.9
3人	152	13.8	11.8	7.9	3.9	2.6	2.6	4.6
4人以上	24	12.5	4.2	-	-	4.2	4.2	8.3

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「子育てで出費がかさむこと」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人以上で79.2%となっている。「子どもとの時間を十分にとれないこと」も同様の傾向がみられ、4人以上で50.0%となっている。一方、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」は1人で48.2%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。

子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること（居住地別）

(%)

	n	子育てで出費がかさむこと	子育てによる身体の疲れが大きいこと	自分の自由な時間が持てないこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	仕事が多忙にできないこと	子どもの病気や発育・発達に関すること	子どもとの接し方に自信が持てないこと
全体	861	50.9	42.3	33.4	24.5	18.6	17.7	17.5
【居住地別】								
中部地域	294	51.4	43.2	33.7	27.9	20.1	18.0	14.3
西部地域	257	48.6	40.9	35.0	20.6	21.8	15.6	19.1
吾妻地域	29	48.3	20.7	13.8	37.9	10.3	17.2	17.2
利根沼田地域	42	54.8	45.2	33.3	19.0	11.9	14.3	23.8
東部地域	233	51.9	44.6	33.5	24.0	15.5	20.2	18.5

(%)

	n	子どもの教育や友達づきあいに関すること	親一人が子育ての責任を抱えていること	夫婦で楽しむ時間がないこと	育児の方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がないこと	子育ての大変さを身近な人が理解してくれないこと	その他
全体	861	13.1	8.7	7.4	5.1	4.1	2.9	3.4
【居住地別】								
中部地域	294	13.9	9.9	8.8	5.1	2.7	2.7	2.7
西部地域	257	14.0	10.1	5.8	4.3	4.7	3.9	4.3
吾妻地域	29	13.8	3.4	10.3	3.4	3.4	-	-
利根沼田地域	42	16.7	11.9	2.4	2.4	4.8	-	4.8
東部地域	233	10.7	5.6	8.2	6.9	5.2	3.0	3.4

【居住地別】

居住地別でみると、「子どもとの時間を十分にとれないこと」は吾妻地域で 37.9%と高くなっている。

子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること（夫婦の職業別）

(%)

	n	子育てで出費がかさむこと	子育てによる身体の疲れが大きいこと	自分の自由な時間が持てないこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	仕事が十分にできないこと	子どもの病気や発育・発達に関すること	子どもとの接し方に自信が持てないこと
全体	861	50.9	42.3	33.4	24.5	18.6	17.7	17.5
【夫婦の職業別】								
男性正規×女性正規	313	47.3	43.1	40.9	35.1	15.3	20.1	14.7
男性正規×女性非正規	232	58.6	36.2	24.6	21.1	23.7	14.2	17.2
男性正規×女性無職・家事	152	50.0	48.7	39.5	5.9	14.5	17.8	23.0
その他	164	47.6	43.3	26.2	26.2	21.3	17.7	18.3

(%)

	n	子どもの教育や友達づきあいに関すること	親一人が子育ての責任を抱えていること	夫婦で楽しむ時間が少ないこと	育児の方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がないこと	子育ての大変さを身近な人が理解してくれないこと	その他
全体	861	13.1	8.7	7.4	5.1	4.1	2.9	3.4
【夫婦の職業別】								
男性正規×女性正規	313	11.2	4.8	8.9	5.1	5.1	1.0	4.2
男性正規×女性非正規	232	14.7	9.5	6.0	4.3	3.0	2.6	1.7
男性正規×女性無職・家事	152	15.8	7.9	9.2	6.6	3.9	6.6	3.9
その他	164	12.2	15.9	4.9	4.9	3.7	3.7	3.7

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「子育てで出費がかさむこと」は男性正規×女性非正規で 58.6%と高くなっている。「子育てによる身体の疲れが大きいこと」は男性正規×女性無職・家事で 48.7%と高くなっている。「自分の自由な時間が持てないこと」は男性正規×女性正規で 40.9%、男性正規×女性無職・家事で 39.5%と高くなっている。「子どもとの時間を十分にとれないこと」は男性正規×女性正規で 35.1%と高くなっている。

子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること（世帯年収別）

(%)

	n	子育てで出費がかさむこと	子育てによる身体の疲れが大きいこと	自分の自由な時間が持てないこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	仕事が多忙で十分にできないこと	子どもの病気や発育・発達に関すること	子どもとの接し方に自信が持てないこと
全体	861	50.9	42.3	33.4	24.5	18.6	17.7	17.5
【世帯年収別】								
300万円未満	61	73.8	41.0	19.7	19.7	24.6	16.4	19.7
300万円～500万円未満	236	62.7	37.7	27.5	23.3	14.8	15.3	18.2
500万円～700万円未満	289	51.2	42.9	31.5	23.9	19.0	21.8	18.0
700万円～1000万円未満	209	38.8	44.0	41.1	29.7	19.1	15.8	17.7
1000万円以上	66	24.2	51.5	51.5	19.7	22.7	15.2	10.6

(%)

	n	子どもの教育や友達づきあいに関すること	親一人が子育ての責任を抱えていること	夫婦で楽しむ時間がないこと	育児の方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がいらないこと	子育ての大変さを身近な人が理解してくれないこと	その他
全体	861	13.1	8.7	7.4	5.1	4.1	2.9	3.4
【世帯年収別】								
300万円未満	61	11.5	6.6	4.9	4.9	3.3	-	-
300万円～500万円未満	236	14.0	9.3	6.8	5.9	3.4	3.0	3.4
500万円～700万円未満	289	13.5	10.0	5.5	3.8	3.8	3.1	4.8
700万円～1000万円未満	209	12.0	6.2	9.6	7.2	4.3	2.4	2.9
1000万円以上	66	13.6	10.6	13.6	1.5	7.6	6.1	1.5

【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「子育てで出費がかさむこと」は300万円未満で73.8%と高く、年収が上がるほど低くなっている。一方、「自分の自由な時間が持てないこと」は年収が上がるほど高くなり、1000万円以上で51.5%となっている。

子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること（子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

	n	子育てで出費がかさむこと	子育てによる身体の疲れが大きいこと	自分の自由な時間が持てないこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	仕事で十分にできないこと	子どもの病気や発育・発達に関すること	子どもとの接し方に自信が持てないこと
全体	861	50.9	42.3	33.4	24.5	18.6	17.7	17.5
【子どもを産み育てやすい環境か別】								
感じている	108	40.7	50.9	34.3	9.3	10.2	16.7	16.7
まあ感じている	463	47.9	40.4	35.0	24.8	16.4	18.6	21.2
あまり感じていない	228	58.3	43.4	30.7	26.3	27.6	16.7	13.2
感じていない	62	62.9	37.1	30.6	41.9	16.1	16.1	8.1

(%)

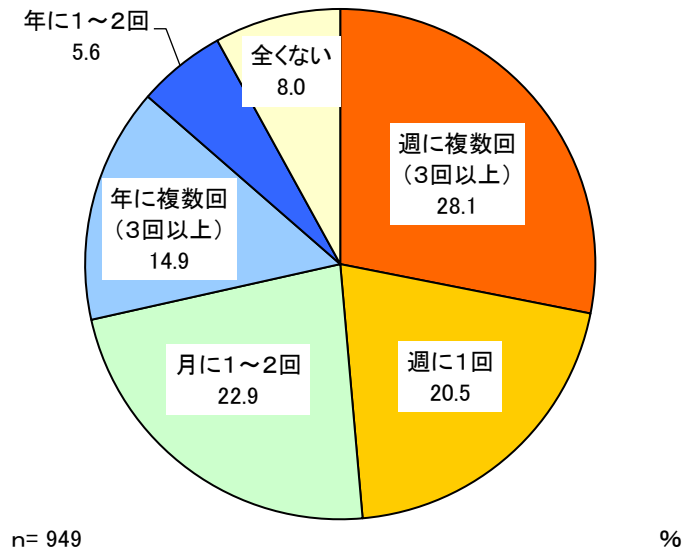
	n	子どもの教育や友達づきあいに関すること	親一人が子育ての責任を抱えていること	夫婦で楽しむ時間が少ないこと	育児の方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がないこと	子育ての大変さを身近な人が理解してくれないこと	その他
全体	861	13.1	8.7	7.4	5.1	4.1	2.9	3.4
【子どもを産み育てやすい環境か別】								
感じている	108	13.9	10.2	7.4	5.6	1.9	3.7	3.7
まあ感じている	463	14.9	5.0	7.1	6.0	3.7	1.3	3.5
あまり感じていない	228	9.6	14.0	7.9	4.4	6.6	5.3	3.5
感じていない	62	11.3	14.5	8.1	-	1.6	4.8	1.6

【子どもを産み育てやすい環境か別】

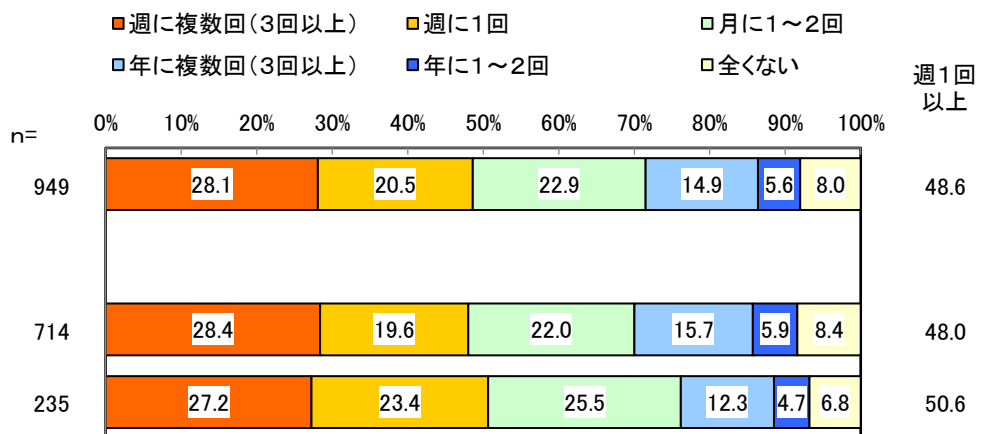
子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「子育てで出費がかさむこと」は産み育てやすいと感じていないほど高く、「感じていない」で62.9%となっている。「子どもとの時間を十分にとれないこと」も同様の傾向がみられる。一方、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」は「感じている」で50.9%と高くなっている。

問 13 子の祖父母等からの子育ての手助けはどの程度ありますか。

子の祖父母等からの子育ての手助けの程度は、「週に複数回（3回以上）」が28.1%で最も高く、次いで「月に1～2回」が22.9%、「週に1回」が20.5%となっている。「週1回以上」（「週に複数回（3回以上）」と「週に1回」の合計）は48.6%となっている。



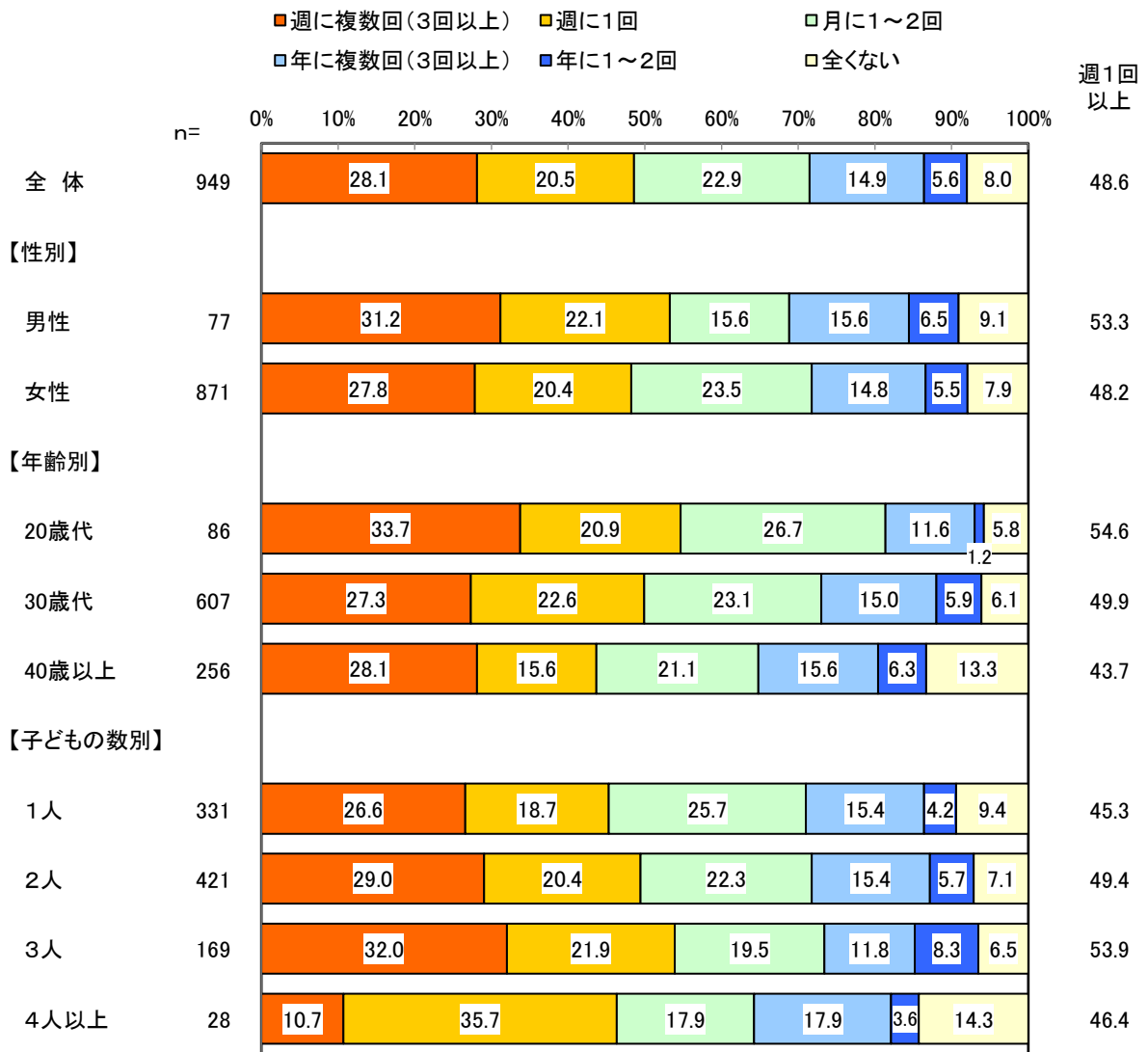
祖父母等からの手助けの程度 (就園・未就園別)



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

祖父母等からの手助けの程度（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男性は女性よりも「週1回以上」が5.1ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「月に1~2回」が7.9ポイント高くなっている。

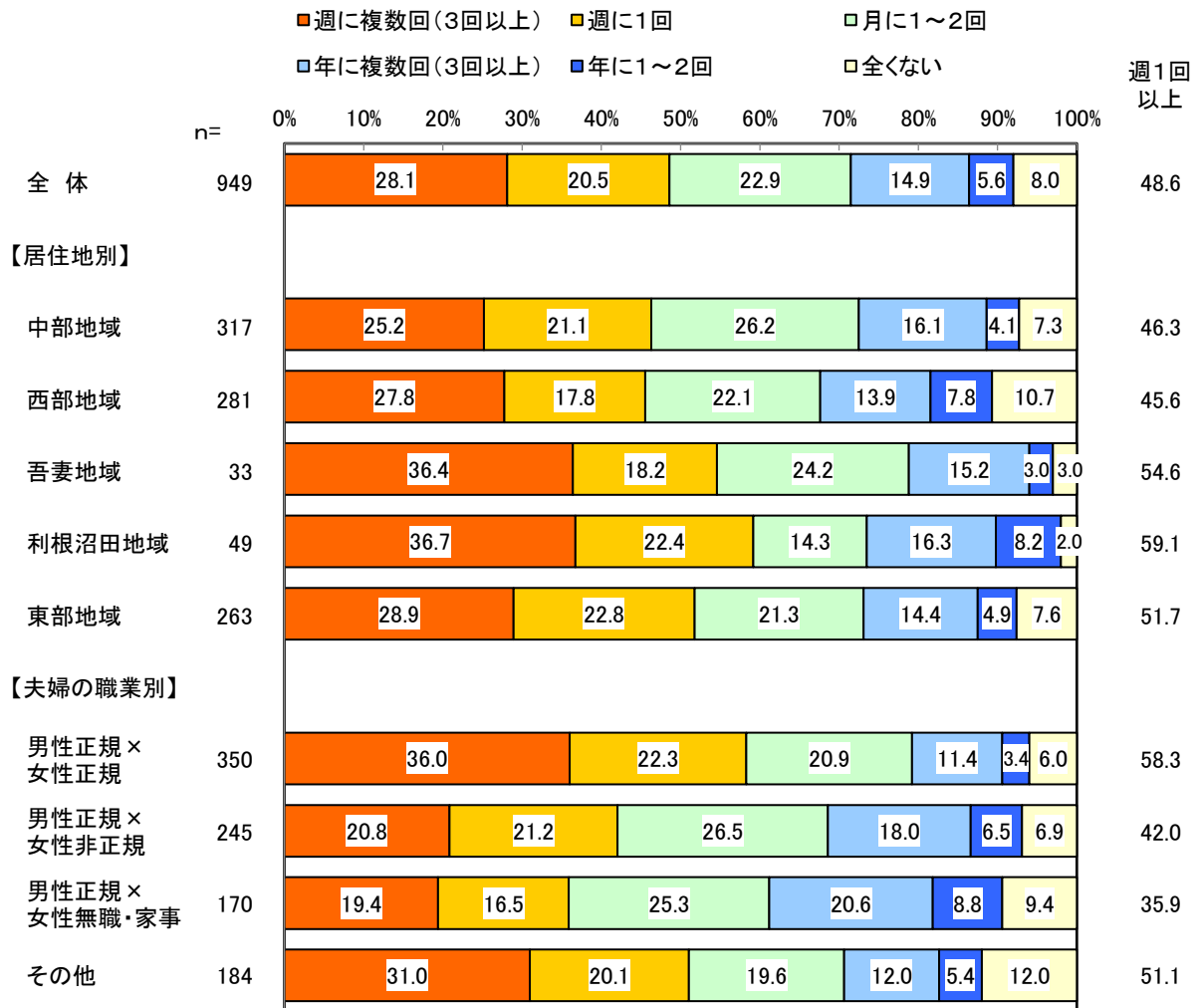
【年齢別】

年齢別でみると、「週1回以上」は20歳代で54.6%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「週1回以上」は子ども3人までは子どもの数が増えるほど高くなり、3人で53.9%となっている。

祖父母等からの手助けの程度（居住地別、夫婦の職業別）



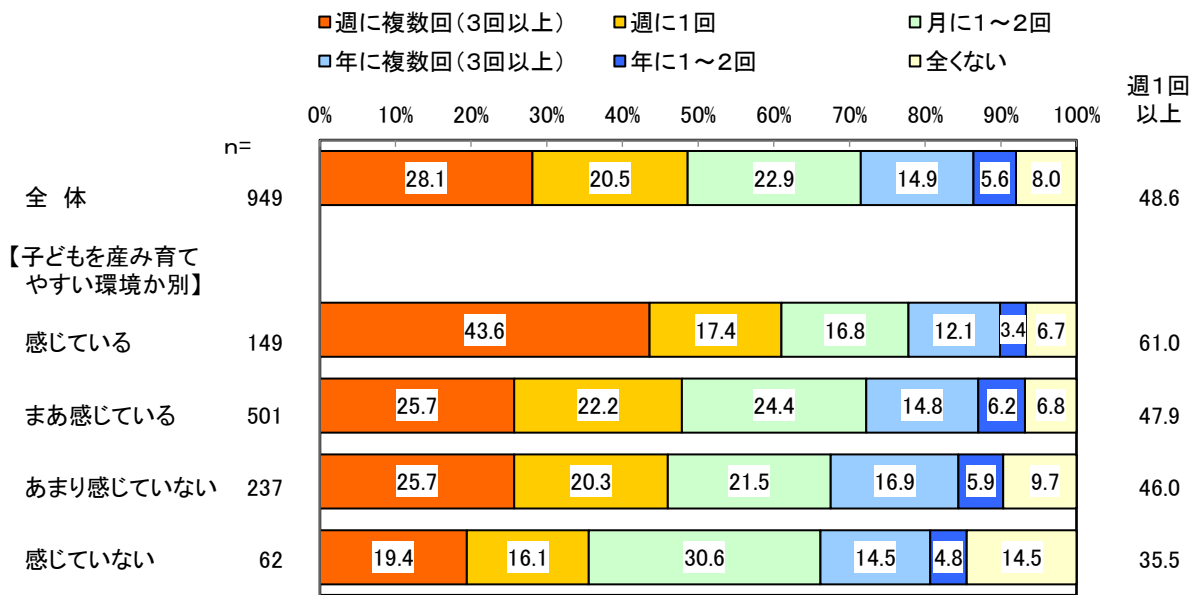
【居住地別】

居住地別でみると、「週1回以上」は利根沼田地域で59.1%、吾妻地域で54.6%と高くなっている。「月に1~2回」は中部地域で26.2%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「週1回以上」は男性正規×女性正規で58.3%と高くなっている。一方、男性正規×女性無職・家事では35.9%と低くなっている。

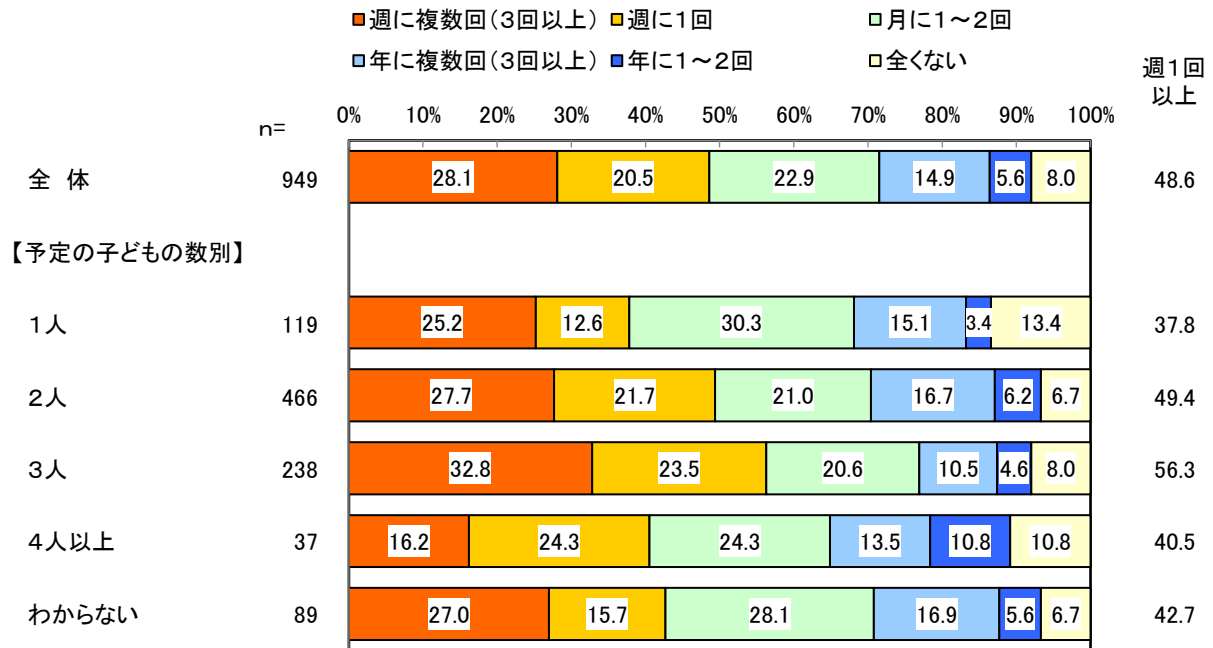
祖父母等からの手助けの程度（子どもを産み育てやすい環境か別）



【子どもを産み育てやすい環境か別】

子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「週1回以上」は産み育てやすいと感じているほど高く、「感じている」で61.0%となっている。一方、「感じていない」では35.5%と低くなっている。

祖父母等からの手助けの程度（予定の子どもの数別）

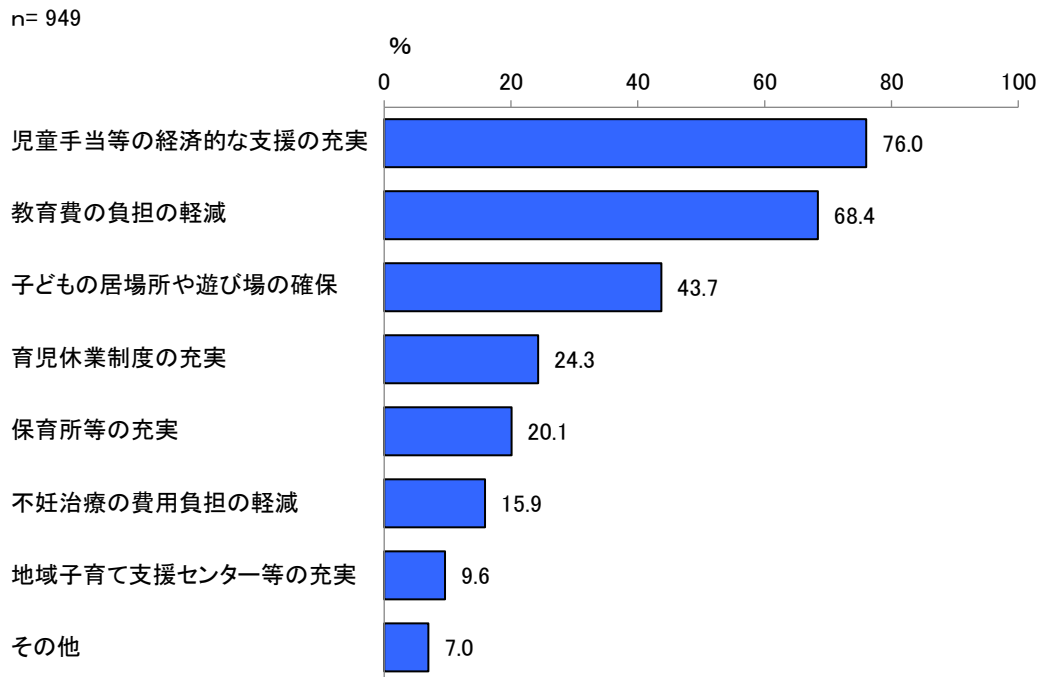


【予定の子どもの数別】

問 25 の予定の子どもの数別でみると、「週 1 回以上」は子ども 3 人までは子どもの数が増えるほど高くなり、3 人で 56.3%となっている。

問 14 出産や子育て環境の整備を推進するために、県がもっと力を入れる必要があると思うものは
どれですか。(回答は3つまで)

出産や子育て環境の整備を推進するために力を入れる必要があると思うものは、「児童手当等の経済的な支援の充実」が76.0%で最も高く、次いで「教育費の負担の軽減」が68.4%、「子どもの居場所や遊び場の確保」が43.7%となっている。



出産や子育て環境整備のために力を入れる必要があるもの (就園・未就園別)

	n	児童手当等の経済的な支援の充実	教育費の負担の軽減	子どもの居場所や遊び場の確保	育児休業制度の充実	保育所等の充実	不妊治療の費用負担の軽減	地域子育て支援センター等の充実	その他
全体	949	76.0	68.4	43.7	24.3	20.1	15.9	9.6	7.0
【就園・未就園別】									
就園	714	75.1	69.2	46.1	21.8	17.8	15.4	7.8	8.1
未就園	235	78.7	66.0	36.6	31.9	27.2	17.4	14.9	3.4

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園は未就園よりも「子どもの居場所や遊び場の確保」が9.5ポイント高くなっている。一方、未就園は就園よりも「育児休業制度の充実」が10.1ポイント、「保育所等の充実」が9.4ポイント、「地域子育て支援センター等の充実」が7.1ポイント高くなっている。

出産や子育て環境整備のために力を入れる必要があるもの（性別、年齢別、子どもの数別）

(%)

	n	児童手当等の経済的な支援の充実	教育費の負担の軽減	子どもの居場所や遊び場の確保	育児休業制度の充実	保育所等の充実	不妊治療の費用負担の軽減	地域子育て支援センター等の充実	その他
全体	949	76.0	68.4	43.7	24.3	20.1	15.9	9.6	7.0
【性別】									
男性	77	76.6	63.6	50.6	22.1	19.5	19.5	10.4	5.2
女性	871	75.9	68.9	43.2	24.5	20.1	15.6	9.5	7.1
【年齢別】									
20歳代	86	82.6	66.3	30.2	31.4	18.6	10.5	8.1	4.7
30歳代	607	78.1	70.0	42.2	26.9	20.8	15.5	9.6	6.6
40歳以上	256	68.8	65.2	52.0	16.0	19.1	18.8	10.2	8.6
【子どもの数別】									
1人	331	73.1	61.9	39.3	33.2	24.5	19.6	10.9	5.7
2人	421	74.6	72.4	45.8	22.1	18.5	13.5	11.4	7.1
3人	169	82.2	67.5	45.0	15.4	16.0	15.4	4.1	8.3
4人以上	28	92.9	89.3	57.1	7.1	17.9	10.7	-	10.7

【性別】

性別でみると、男性は女性よりも「子どもの居場所や遊び場の確保」が7.4ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「教育費の負担の軽減」が5.3ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「児童手当等の経済的な支援の充実」は20歳代で82.6%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。一方、「子どもの居場所や遊び場の確保」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で52.0%となっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「児童手当等の経済的な支援の充実」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人以上で92.9%となっている。一方、「育児休業制度の充実」は1人で33.2%と高く、子どもの数が少ないほど低くなっている。

出産や子育て環境整備のために力を入れる必要があるもの（居住地別、夫婦の職業別）

(%)

	n	児童手当等の経済的な支援の充実	教育費の負担の軽減	子どもの居場所や遊び場の確保	育児休業制度の充実	保育所等の充実	不妊治療の費用負担の軽減	地域子育て支援センター等の充実	その他
全体	949	76.0	68.4	43.7	24.3	20.1	15.9	9.6	7.0
【居住地別】									
中部地域	317	76.7	67.2	38.8	24.0	22.4	14.5	7.6	9.8
西部地域	281	76.5	70.5	45.6	23.5	20.6	17.1	9.3	4.6
吾妻地域	33	60.6	48.5	66.7	18.2	36.4	6.1	21.2	9.1
利根沼田地域	49	83.7	63.3	49.0	16.3	10.2	22.4	10.2	14.3
東部地域	263	74.5	71.5	44.5	27.8	17.1	16.3	11.0	4.6
【夫婦の職業別】									
男性正規×女性正規	350	71.7	64.0	39.1	35.7	26.0	15.4	6.0	9.1
男性正規×女性非正規	245	81.6	78.8	40.0	22.4	15.1	13.5	5.7	6.1
男性正規×女性無職・家事	170	79.4	67.6	50.6	15.3	18.8	17.1	17.6	1.8
その他	184	73.4	63.6	51.1	13.6	16.8	19.0	14.1	8.7

【居住地別】

居住地別でみると、「児童手当等の経済的な支援の充実」は利根沼田地域で 83.7%と高くなっている。「子どもの居場所や遊び場の確保」は吾妻地域で 66.7%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「児童手当等の経済的な支援の充実」は男性正規×女性非正規で 81.6%と高く、「教育費の負担の軽減」も男性正規×女性非正規で 78.8%と高くなっている。「子どもの遊び場の確保」はその他で 51.1%、男性正規×女性無職・家事で 50.6%と高くなっている。「育児休業制度の充実」は男性正規×女性正規で 35.7%と高くなっている。

出産や子育て環境整備のために力を入れる必要があるもの（世帯年収別）

(%)

	n	児童手当等の経済的な支援の充実	教育費の負担の軽減	子どもの居場所や遊び場の確保	育児休業制度の充実	保育所等の充実	不妊治療の費用負担の軽減	地域子育て支援センター等の充実	その他
全体	949	76.0	68.4	43.7	24.3	20.1	15.9	9.6	7.0
【世帯年収別】									
300万円未満	70	85.7	77.1	48.6	14.3	14.3	14.3	10.0	4.3
300万円～500万円未満	259	82.6	68.0	37.8	22.8	19.7	17.8	7.7	4.6
500万円～700万円未満	314	79.3	71.7	45.9	26.1	18.8	15.9	8.6	7.0
700万円～1000万円未満	232	69.0	67.2	44.0	28.9	24.6	13.4	12.9	9.1
1000万円以上	74	51.4	51.4	50.0	17.6	18.9	18.9	9.5	10.8

【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「児童手当等の経済的な支援の充実」は300万円未満で85.7%と高く、年収が上がるほど低くなっている。「教育費の負担の軽減」も300万円未満で77.1%と高くなっている。

出産や子育て環境整備のために力を入れる必要があるもの（子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

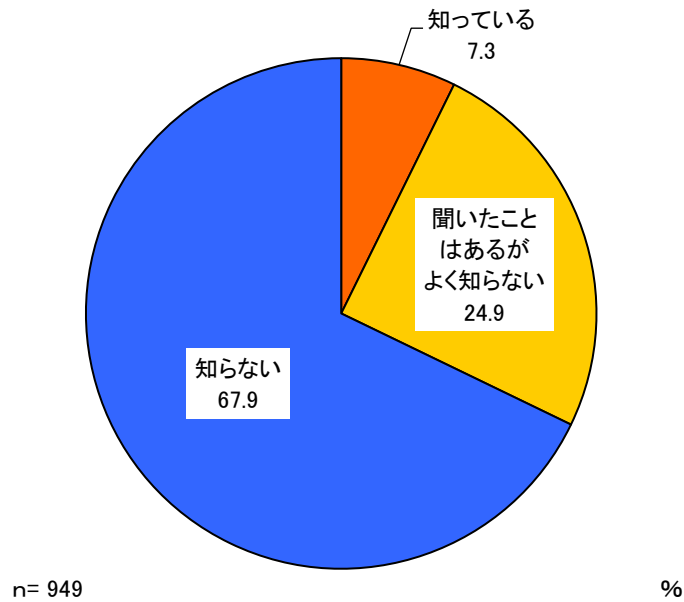
	n	児童手当等の経済的な支援の充実	教育費の負担の軽減	子どもの居場所や遊び場の確保	育児休業制度の充実	保育所等の充実	不妊治療の費用負担の軽減	地域子育て支援センター等の充実	その他
全体	949	76.0	68.4	43.7	24.3	20.1	15.9	9.6	7.0
【子どもを産み育てやすい環境か別】									
感じている	149	76.5	63.1	39.6	24.2	20.8	14.8	6.7	6.0
まあ感じている	501	75.8	68.3	45.7	24.6	19.6	18.6	9.0	4.2
あまり感じていない	237	74.3	70.5	46.4	21.9	18.6	12.2	11.4	13.1
感じていない	62	82.3	74.2	27.4	32.3	29.0	11.3	14.5	8.1

【子どもを産み育てやすい環境か別】

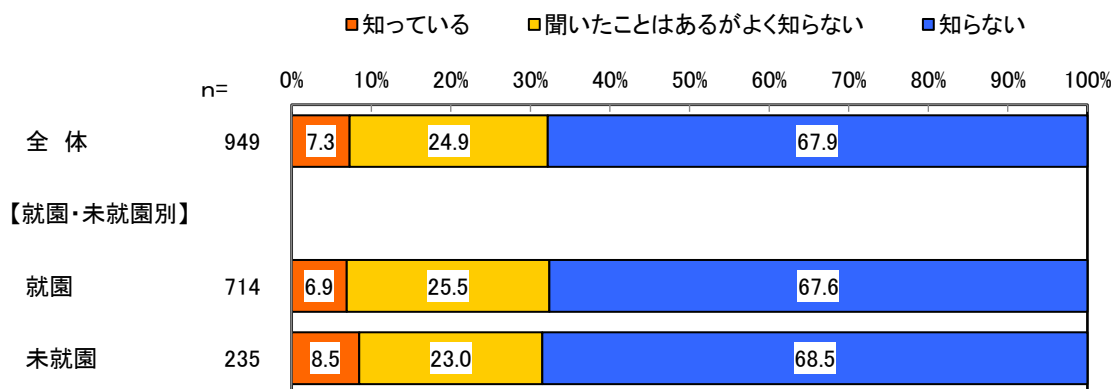
子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「児童手当等の経済的な支援の充実」は“感じていない”で82.3%と高くなっている。「教育費の負担の軽減」は産み育てやすいと感じていないほど高く、“感じていない”で74.2%となっている。

問 15 あなたは、「ぐんま女性の健康・妊娠 SOS 相談センター」を知っていますか。

「ぐんま女性の健康・妊娠 SOS 相談センター」の認知度は、「知っている」が 7.3%、「聞いたことはあるがよく知らない」が 24.9%、「知らない」が 67.9%となっている。



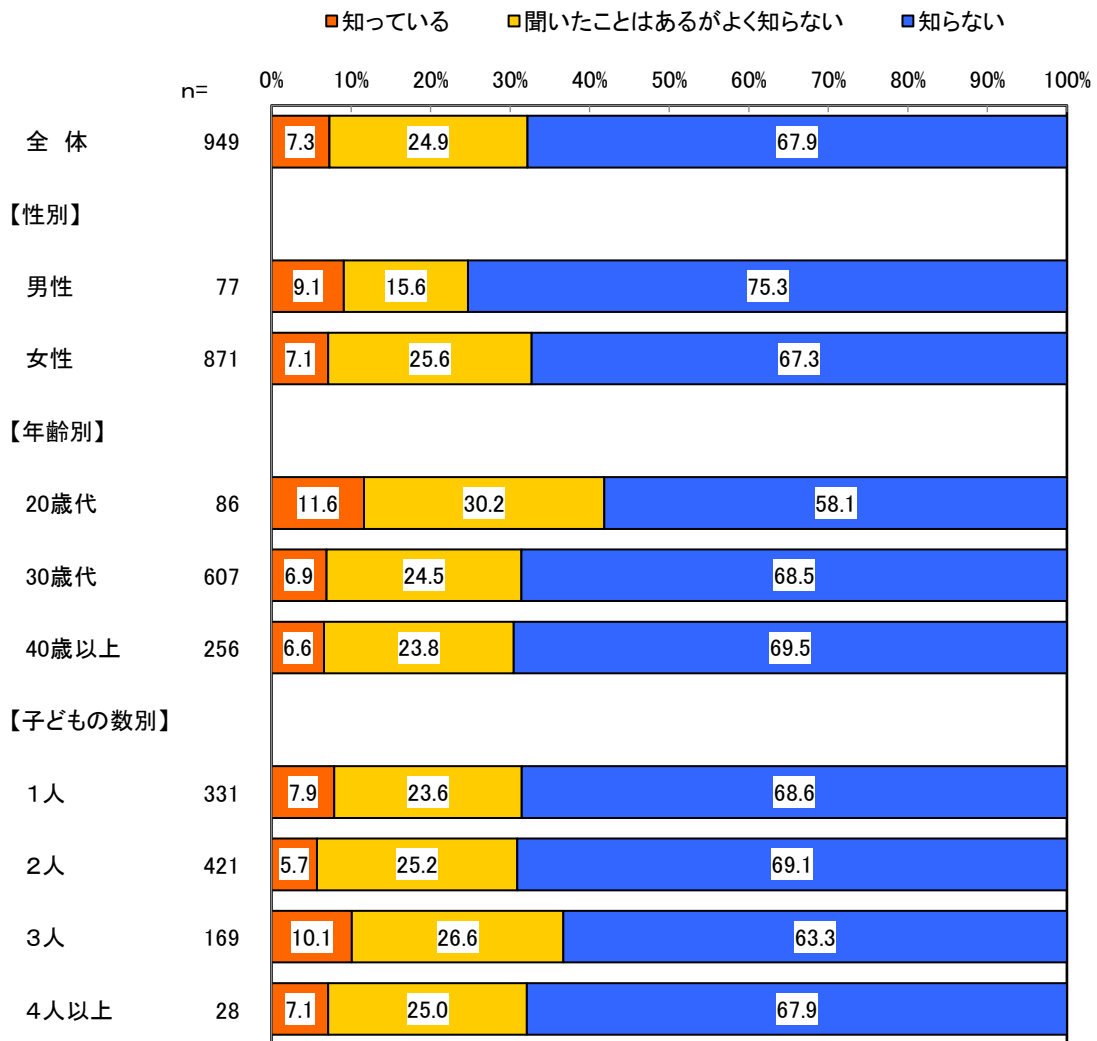
ぐんま女性の健康・妊娠 SOS 相談センターの認知度（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

ぐんま女性の健康・妊娠 SOS 相談センターの認知度（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別で見ると、女性は男性よりも「聞いたことはあるがよく知らない」が10.0ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「知らない」が8.0ポイント高くなっている。

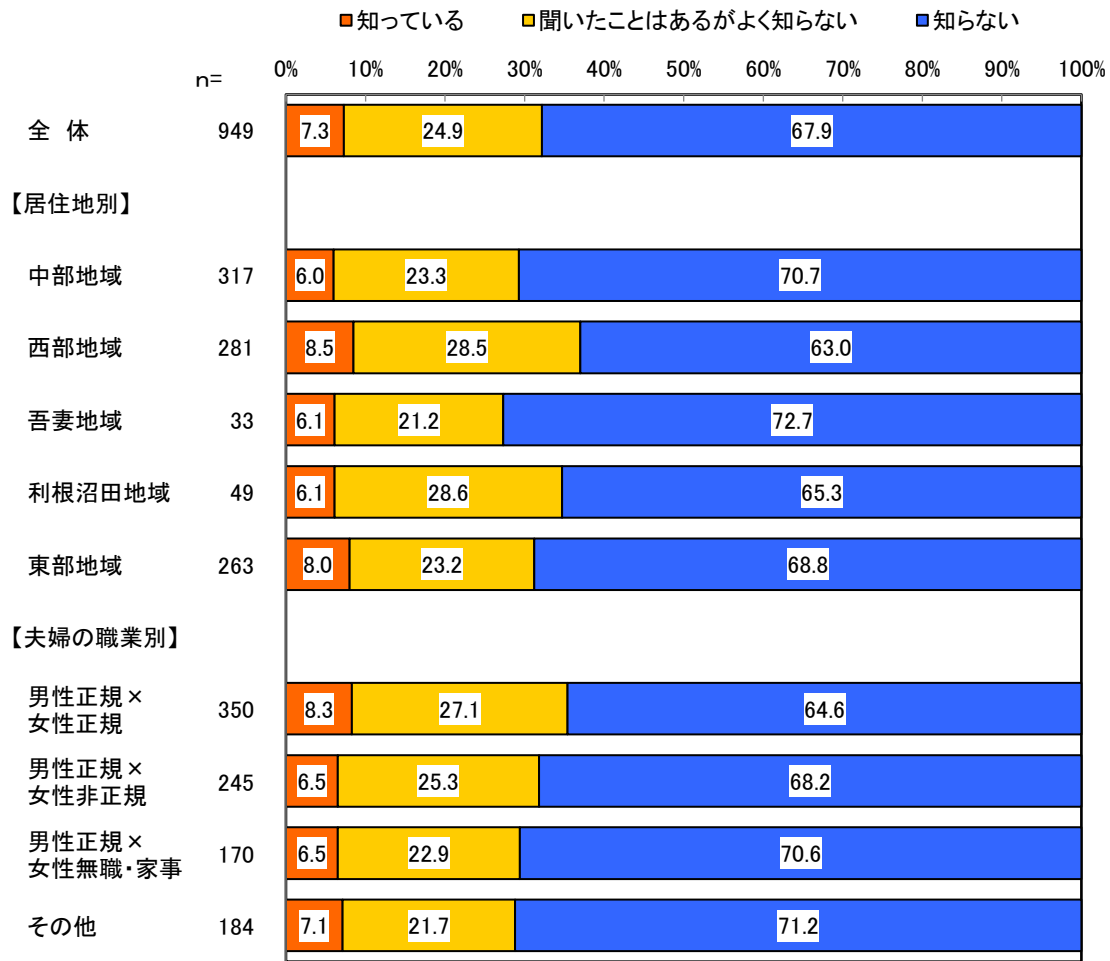
【年齢別】

年齢別で見ると、「知っている」及び「聞いたことはあるがよく知らない」は若年層ほど高く、「知っている」は20歳代で11.6%となっている。一方、「知らない」は40歳代で69.5%、30歳代で68.5%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別で見ると、3人は「知っている」が10.1%、「聞いたことはあるがよく知らない」が26.6%と、他の層に比べて高くなっている。

ぐんま女性の健康・妊娠 SOS 相談センターの認知度（居住地別、夫婦の職業別）



【居住地別】

居住地別でみると、「聞いたことはあるがよく知らない」は利根沼田地域で 28.6%、西部地域で 28.5%と高くなっている。一方、「知らない」は吾妻地域で 72.7%、中部地域で 70.7%と高くなっている。

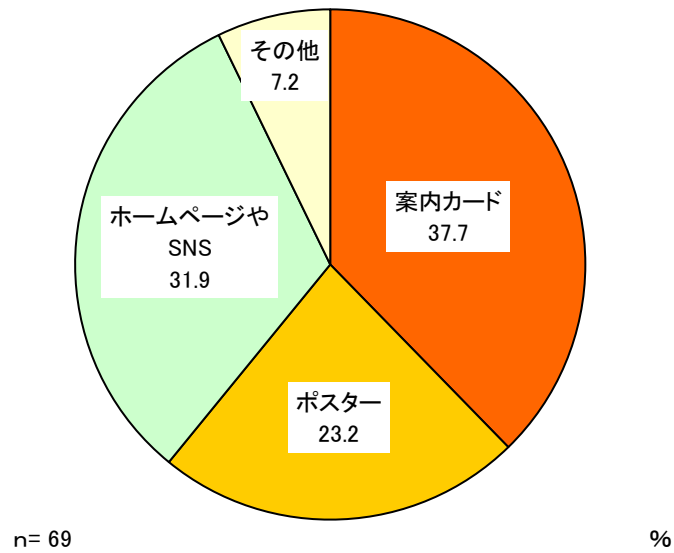
【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「聞いたことはあるがよく知らない」は男性正規×女性正規で 27.1%と高くなっている。

【問 15 で「知っている」と回答した方に伺います。】

問 16 どのようにして知りましたか。

「群馬県女性健康支援センター」の認知したものは、「案内カード」が 37.7%で最も高く、「ホームページや SNS」が 31.9%、「ポスター」が 23.2%となっている。



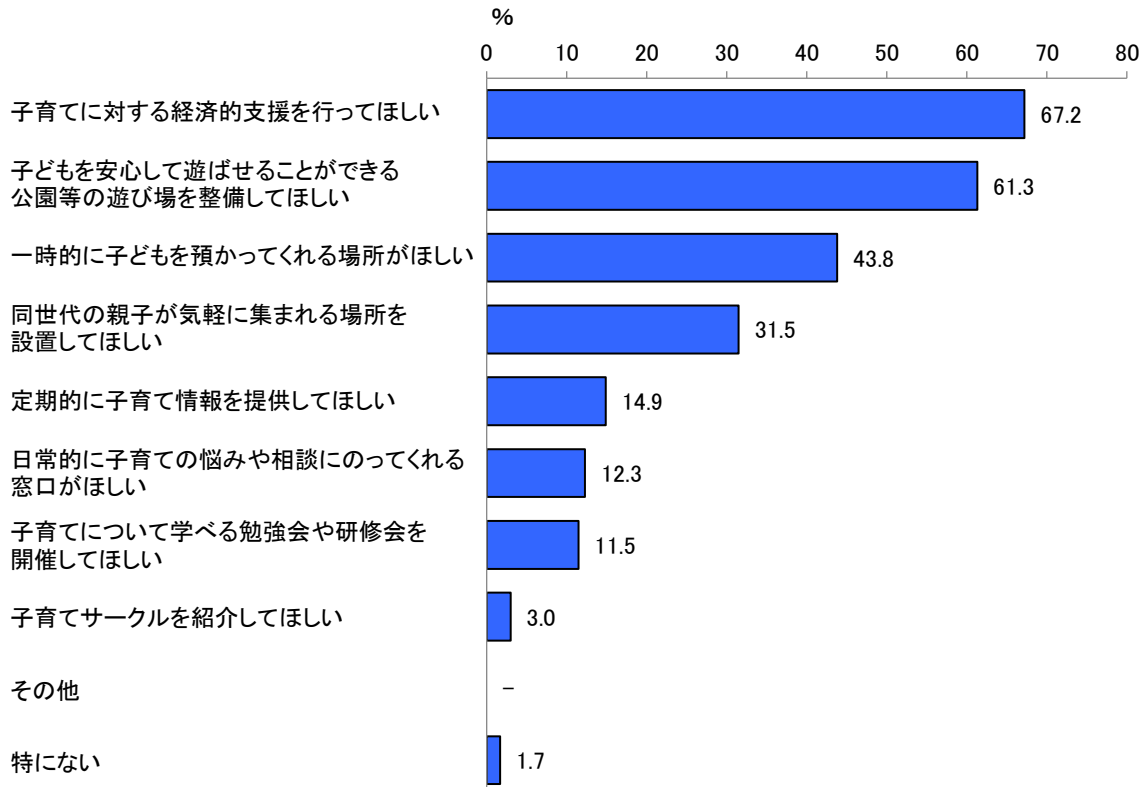
※クロス集計については母数が少ないため省略する。

【未就園児の保護者の方のみにかがいます】

問 17 家庭で子育てをする上で、どのような子育て支援を充実させてほしいですか。
(回答は3つまで)

未就園児の保護者を対象とした、家庭で子育てをする上で、子育て支援を充実させてほしいことは、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」が67.2%で最も高く、次いで「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい」が61.3%、「一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい」が43.8%となっている。

n= 235



充実させてほしい子育て支援（性別、年齢別）

(%)

	n	子育てに対する経済的支援を行ってほしい	子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい	一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい	同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい	定期的に子育て情報を提供してほしい
全体	235	67.2	61.3	43.8	31.5	14.9
【性別】						
男性	13	76.9	69.2	30.8	30.8	15.4
女性	221	66.5	60.6	44.8	31.7	14.5
【年齢別】						
20歳代	30	83.3	63.3	26.7	26.7	10.0
30歳代	167	68.3	61.1	47.9	32.9	15.0
40歳以上	38	50.0	60.5	39.5	28.9	18.4

(%)

	n	日常的に子育ての悩みや相談にのってくれる窓口がほしい	子育てについて学べる勉強会や研修会を開催してほしい	子育てサークルを紹介してほしい	その他	特にない
全体	235	12.3	11.5	3.0	-	1.7
【性別】						
男性	13	23.1	7.7	-	-	-
女性	221	11.8	11.8	3.2	-	1.8
【年齢別】						
20歳代	30	13.3	13.3	-	-	3.3
30歳代	167	13.2	10.8	2.4	-	0.6
40歳以上	38	7.9	13.2	7.9	-	5.3

※母数が20未満の項目は参考値とする。

【年齢別】

年齢別でみると、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」は20歳代で83.3%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。「一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい」は30歳代で47.9%と高くなっている。

充実させてほしい子育て支援（子どもの数別）

(%)

	n	子育てに対する経済的支援を行ってほしい	子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい	一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい	同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい	定期的に子育て情報を提供してほしい
全体	235	67.2	61.3	43.8	31.5	14.9
【子どもの数別】						
1人	110	62.7	64.5	37.3	31.8	16.4
2人	98	74.5	59.2	43.9	32.7	12.2
3人	25	56.0	56.0	72.0	24.0	20.0
4人以上	2	100.0	50.0	50.0	50.0	-

(%)

	n	日常的に子育ての悩みや相談にのってくれる窓口がほしい	子育てについて学べる勉強会や研修会を開催してほしい	子育てサークルを紹介してほしい	その他	特にない
全体	235	12.3	11.5	3.0	-	1.7
【子どもの数別】						
1人	110	16.4	13.6	3.6	-	1.8
2人	98	10.2	11.2	3.1	-	1.0
3人	25	4.0	4.0	-	-	4.0
4人以上	2	-	-	-	-	-

※母数が20未満の項目は参考値とする。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい」は1人で64.5%と高く、子どもの数が増えるほどに低くなっている。一方、「一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい」は3人で72.0%と高くなっている。

充実させてほしい子育て支援（居住地別）

(%)

	n	子育てに対する経済的支援を行ってほしい	子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい	一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい	同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい	定期的に子育て情報を提供してほしい
全体	235	67.2	61.3	43.8	31.5	14.9
【居住地別】						
中部地域	76	73.7	60.5	44.7	26.3	13.2
西部地域	72	63.9	68.1	40.3	41.7	15.3
吾妻地域	6	50.0	50.0	33.3	33.3	16.7
利根沼田地域	15	66.7	80.0	46.7	26.7	20.0
東部地域	65	64.6	52.3	46.2	27.7	15.4

(%)

	n	日常的に子育ての悩みや相談にのってくれる窓口がほしい	子育てについて学べる勉強会や研修会を開催してほしい	子育てサークルを紹介してほしい	その他	特にない
全体	235	12.3	11.5	3.0	-	1.7
【居住地別】						
中部地域	76	6.6	11.8	1.3	-	1.3
西部地域	72	16.7	11.1	2.8	-	2.8
吾妻地域	6	-	16.7	-	-	-
利根沼田地域	15	20.0	6.7	-	-	-
東部地域	65	13.8	12.3	6.2	-	1.5

※母数が20未満の項目は参考値とする。

【居住地別】

居住地別でみると、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」は中部地域で73.7%と高く、「同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい」は西部地域で41.7%と高くなっている。

充実させてほしい子育て支援（夫婦の職業別）

(%)

	n	子育てに対する 経済的支援を 行ってほしい	子どもを安心して 遊ばせることが できる公園等の遊 び場を整備してほ しい	一時的に子どもを 預かってくれる場 所がほしい	同世代の親子が 気軽に集まれる 場所を設置してほ しい	定期的な子育て 情報を提供してほ しい
全体	235	67.2	61.3	43.8	31.5	14.9
【夫婦の職業別】						
男性正規× 女性正規	96	68.8	63.5	42.7	38.5	10.4
男性正規× 女性非正規	18	77.8	44.4	38.9	11.1	11.1
男性正規× 女性無職・家事	84	69.0	59.5	45.2	28.6	13.1
その他	37	54.1	67.6	45.9	29.7	32.4

(%)

	n	日常的に子育て の悩みや相談に のってくれる窓口 がほしい	子育てについて 学べる勉強会や 研修会を開催して ほしい	子育てサークルを 紹介してほしい	その他	特になし
全体	235	12.3	11.5	3.0	-	1.7
【夫婦の職業別】						
男性正規× 女性正規	96	12.5	11.5	2.1	-	1.0
男性正規× 女性非正規	18	16.7	11.1	-	-	-
男性正規× 女性無職・家事	84	13.1	10.7	6.0	-	2.4
その他	37	8.1	13.5	-	-	2.7

※母数が20未満の項目は参考値とする。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい」は男性正規×女性正規で38.5%と高くなっている。

充実させてほしい子育て支援（世帯年収別）

(%)

	n	子育てに対する経済的支援を行ってほしい	子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい	一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい	同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい	定期的に子育て情報を提供してほしい
全体	235	67.2	61.3	43.8	31.5	14.9
【世帯年収別】						
300万円未満	14	78.6	71.4	42.9	35.7	21.4
300万円～500万円未満	77	76.6	58.4	37.7	20.8	9.1
500万円～700万円未満	76	69.7	65.8	40.8	32.9	19.7
700万円～1000万円未満	52	53.8	59.6	53.8	38.5	11.5
1000万円以上	16	43.8	50.0	56.3	50.0	25.0

(%)

	n	日常的に子育ての悩みや相談にのってくれる窓口がほしい	子育てについて学べる勉強会や研修会を開催してほしい	子育てサークルを紹介してほしい	その他	特になし
全体	235	12.3	11.5	3.0	-	1.7
【世帯年収別】						
300万円未満	14	-	14.3	-	-	-
300万円～500万円未満	77	13.0	9.1	1.3	-	2.6
500万円～700万円未満	76	9.2	14.5	3.9	-	1.3
700万円～1000万円未満	52	17.3	9.6	5.8	-	1.9
1000万円以上	16	18.8	12.5	-	-	-

※母数が20未満の項目は参考値とする。

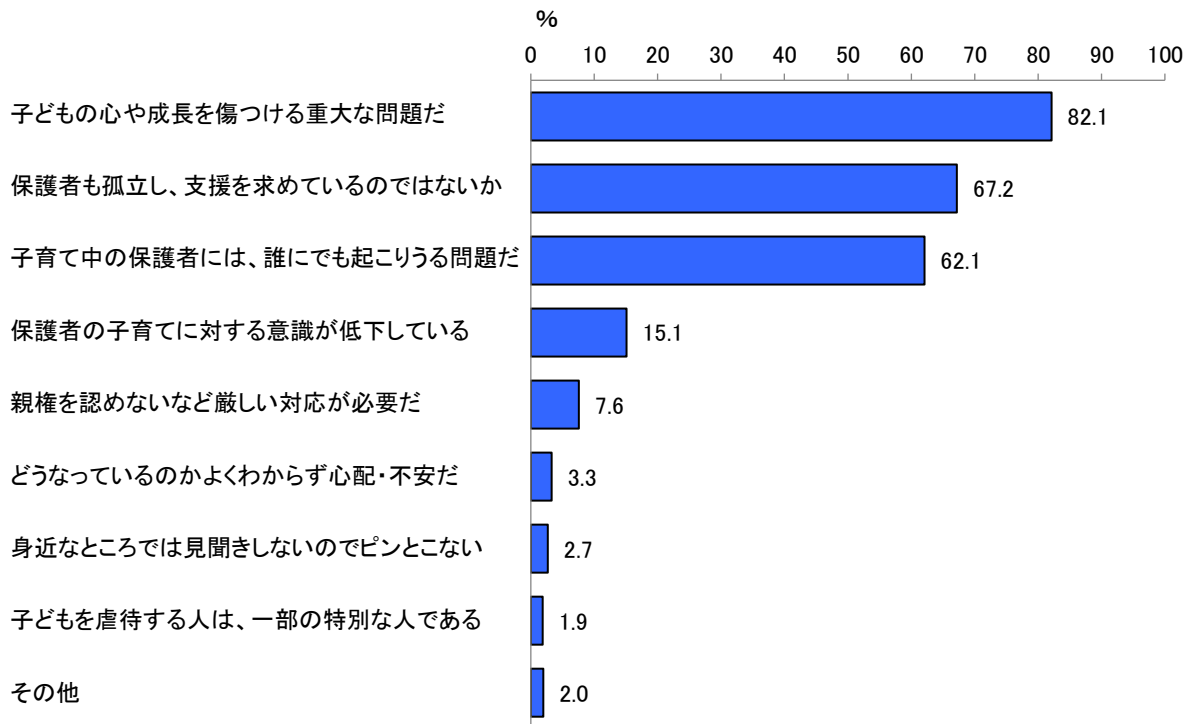
【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」は300万円～500万円未満で76.6%と高く、年収が上がるほど低くなっている。一方、「一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい」は700万円～1000万円未満で53.8%と高くなっている。

問 18 近年、問題になっている保護者による児童虐待について、あなたはどのように思いますか。
(回答は3つまで)

保護者による児童虐待は、「子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ」が 82.1%で最も高く、次いで「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が 67.2%、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」が 62.1%となっている。

n= 949



児童虐待への考え（就園・未就園別）

(%)

	n	子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ	保護者も孤立し、支援を求めているのではないか	子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ	保護者の子育てに対する意識が低下している	親権を認めないなど厳しい対応が必要だ
全体	949	82.1	67.2	62.1	15.1	7.6
【就園・未就園別】						
就園	714	82.2	65.1	62.5	14.1	7.3
未就園	235	81.7	73.6	60.9	17.9	8.5

(%)

	n	どうなっているのかよくわからず心配・不安だ	身近なところでは見聞きしないのでピンとこない	子どもを虐待する人は、一部の特別な人である	その他
全体	949	3.3	2.7	1.9	2.0
【就園・未就園別】					
就園	714	3.4	2.9	2.1	2.2
未就園	235	3.0	2.1	1.3	1.3

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が8.5ポイント高くなっている。

児童虐待への考え（性別、年齢別）

(%)

	n	子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ	保護者も孤立し、支援を求めているのではないか	子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ	保護者の子育てに対する意識が低下している	親権を認めないなど厳しい対応が必要だ
全体	949	82.1	67.2	62.1	15.1	7.6
【性別】						
男性	77	85.7	51.9	50.6	32.5	5.2
女性	871	81.9	68.5	63.1	13.5	7.8
【年齢別】						
20歳代	86	86.0	73.3	53.5	8.1	9.3
30歳代	607	80.7	67.7	62.3	15.7	7.2
40歳以上	256	84.0	64.1	64.5	16.0	7.8

(%)

	n	どうなっているのかよくわからず心配・不安だ	身近なところでは見聞きしないのでピンとこない	子どもを虐待する人は、一部の特別な人である	その他
全体	949	3.3	2.7	1.9	2.0
【性別】					
男性	77	5.2	3.9	3.9	1.3
女性	871	3.1	2.6	1.7	2.1
【年齢別】					
20歳代	86	2.3	3.5	1.2	1.2
30歳代	607	3.3	3.1	1.6	2.0
40歳以上	256	3.5	1.6	2.7	2.3

【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が16.6ポイント、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」が12.5ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「保護者の子育てに対する意識が低下している」が19.0ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」は20歳代で73.3%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。一方、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で64.5%となっている。

児童虐待への考え（子どもの数別）

(%)

	n	子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ	保護者も孤立し、支援を求めているのではないか	子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ	保護者の子育てに対する意識が低下している	親権を認めないなど厳しい対応が必要だ
全体	949	82.1	67.2	62.1	15.1	7.6
【子どもの数別】						
1人	331	82.2	68.0	57.1	19.0	8.8
2人	421	83.1	68.4	63.4	11.6	6.7
3人	169	79.3	62.7	68.6	16.6	8.3
4人以上	28	82.1	67.9	60.7	10.7	3.6

(%)

	n	どうなっているのかよくわからず心配・不安だ	身近なところでは見聞きしないのでピンとこない	子どもを虐待する人は、一部の特別な人である	その他
全体	949	3.3	2.7	1.9	2.0
【子どもの数別】					
1人	331	3.0	1.5	1.2	2.1
2人	421	3.3	4.8	1.7	1.7
3人	169	3.0	0.6	3.0	2.4
4人以上	28	7.1	-	7.1	3.6

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」は3人までは子どもが増えるほど高くなり、3人で68.6%となっている。

児童虐待への考え（居住地別）

(%)

	n	子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ	保護者も孤立し、支援を求めているのではないか	子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ	保護者の子育てに対する意識が低下している	親権を認めないなど厳しい対応が必要だ
全体	949	82.1	67.2	62.1	15.1	7.6
【居住地別】						
中部地域	317	82.0	66.9	64.4	14.8	7.3
西部地域	281	82.9	68.0	60.1	14.2	8.9
吾妻地域	33	66.7	57.6	57.6	15.2	6.1
利根沼田地域	49	79.6	69.4	61.2	18.4	4.1
東部地域	263	83.7	68.4	62.0	16.0	7.6

(%)

	n	どうなっているのかよくわからず心配・不安だ	身近なところでは見聞きしないのでピンとこない	子どもを虐待する人は、一部の特別な人である	その他
全体	949	3.3	2.7	1.9	2.0
【居住地別】					
中部地域	317	3.2	1.9	2.8	3.2
西部地域	281	3.6	2.1	1.8	2.5
吾妻地域	33	3.0	3.0	-	-
利根沼田地域	49	6.1	6.1	2.0	4.1
東部地域	263	2.7	3.8	1.1	-

【居住地別】

居住地別でみると、地域による大きな差はみられない。

児童虐待への考え（夫婦の職業別）

(%)

	n	子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ	保護者も孤立し、支援を求めているのではないか	子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ	保護者の子育てに対する意識が低下している	親権を認めないなど厳しい対応が必要だ
全体	949	82.1	67.2	62.1	15.1	7.6
【夫婦の職業別】						
男性正規×女性正規	350	83.7	66.0	60.9	16.0	7.4
男性正規×女性非正規	245	79.2	66.9	63.7	15.5	6.9
男性正規×女性無職・家事	170	83.5	70.0	63.5	13.5	7.6
その他	184	81.5	67.4	60.9	14.1	8.7

(%)

	n	どうなっているのかよくわからず心配・不安だ	身近なところでは見聞きしないのでピンとこない	子どもを虐待する人は、一部の特別な人である	その他
全体	949	3.3	2.7	1.9	2.0
【夫婦の職業別】					
男性正規×女性正規	350	4.0	2.6	1.7	2.6
男性正規×女性非正規	245	1.2	2.9	2.0	0.8
男性正規×女性無職・家事	170	4.7	1.8	1.8	1.2
その他	184	3.3	3.8	2.2	3.3

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、職業による大きな差はみられない。

児童虐待への考え（子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

	n	子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ	保護者も孤立し、支援を求めているのではないか	子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ	保護者の子育てに対する意識が低下している	親権を認めないなど厳しい対応が必要だ
全体	949	82.1	67.2	62.1	15.1	7.6
【子どもを産み育てやすい環境か別】						
感じている	149	87.9	61.1	51.0	20.8	9.4
まあ感じている	501	83.6	68.3	62.5	13.6	6.6
あまり感じていない	237	78.9	67.1	66.2	14.3	8.9
感じていない	62	67.7	74.2	69.4	16.1	6.5

(%)

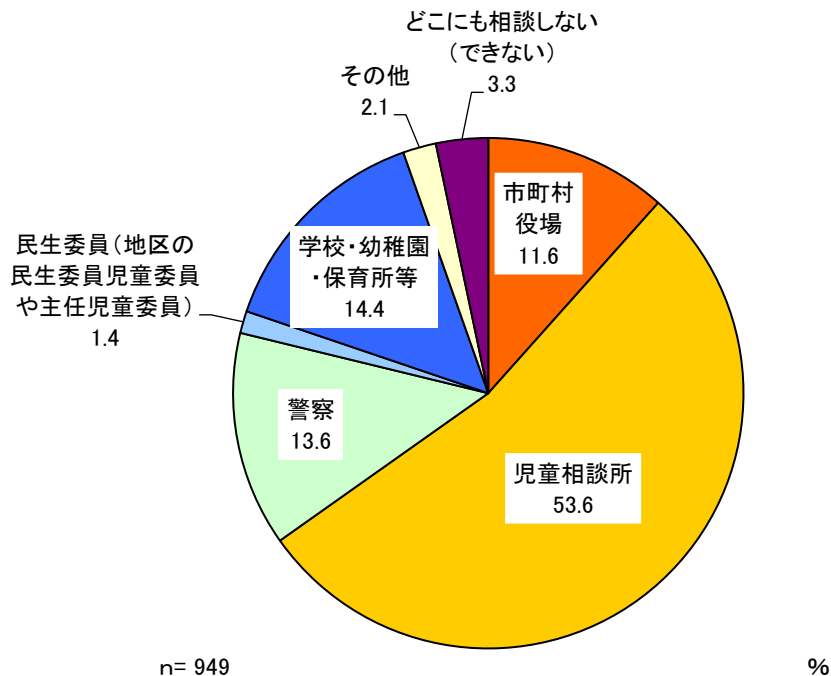
	n	どうなっているのかよくわからず心配・不安だ	身近なところでは見聞きしないのでピンとこない	子どもを虐待する人は、一部の特別な人である	その他
全体	949	3.3	2.7	1.9	2.0
【子どもを産み育てやすい環境か別】					
感じている	149	4.0	3.4	3.4	2.7
まあ感じている	501	3.6	2.2	1.4	1.6
あまり感じていない	237	2.1	3.4	1.3	2.5
感じていない	62	3.2	3.2	4.8	1.6

【子どもを産み育てやすい環境か別】

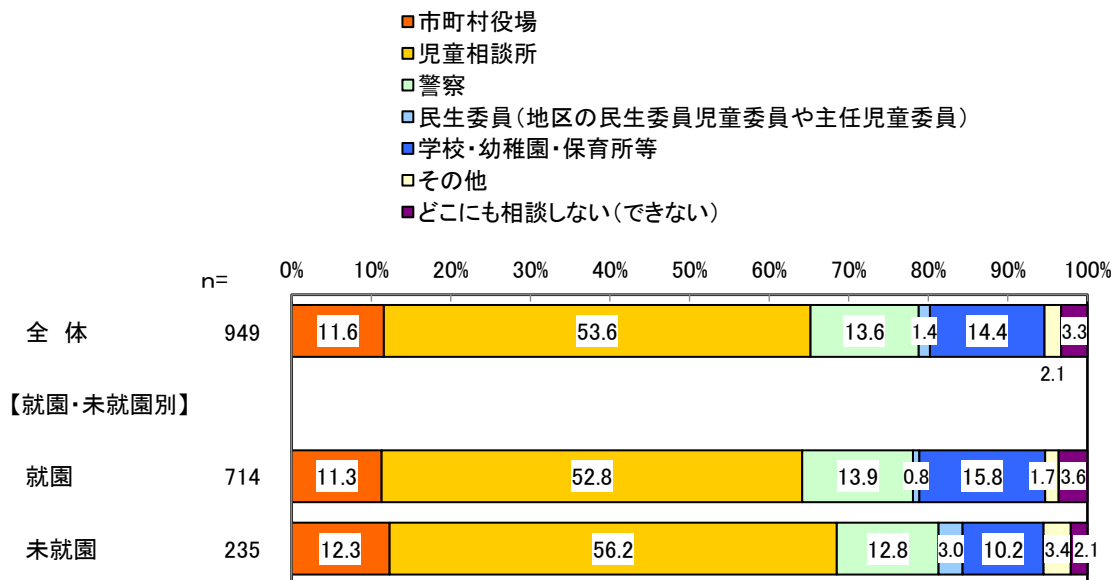
子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ」は産み育てやすいと感じているほど高く、「感じている」で87.9%となっている。一方、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」は産み育てやすいと感じていないほど高く、「感じていない」で69.4%となっている。

問 19 児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合、どの機関に相談しますか。

児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合の相談機関は、「児童相談所」が 53.6%で最も高く、次いで「学校・幼稚園・保育所等」が 14.4%、「警察」が 13.6%となっている。



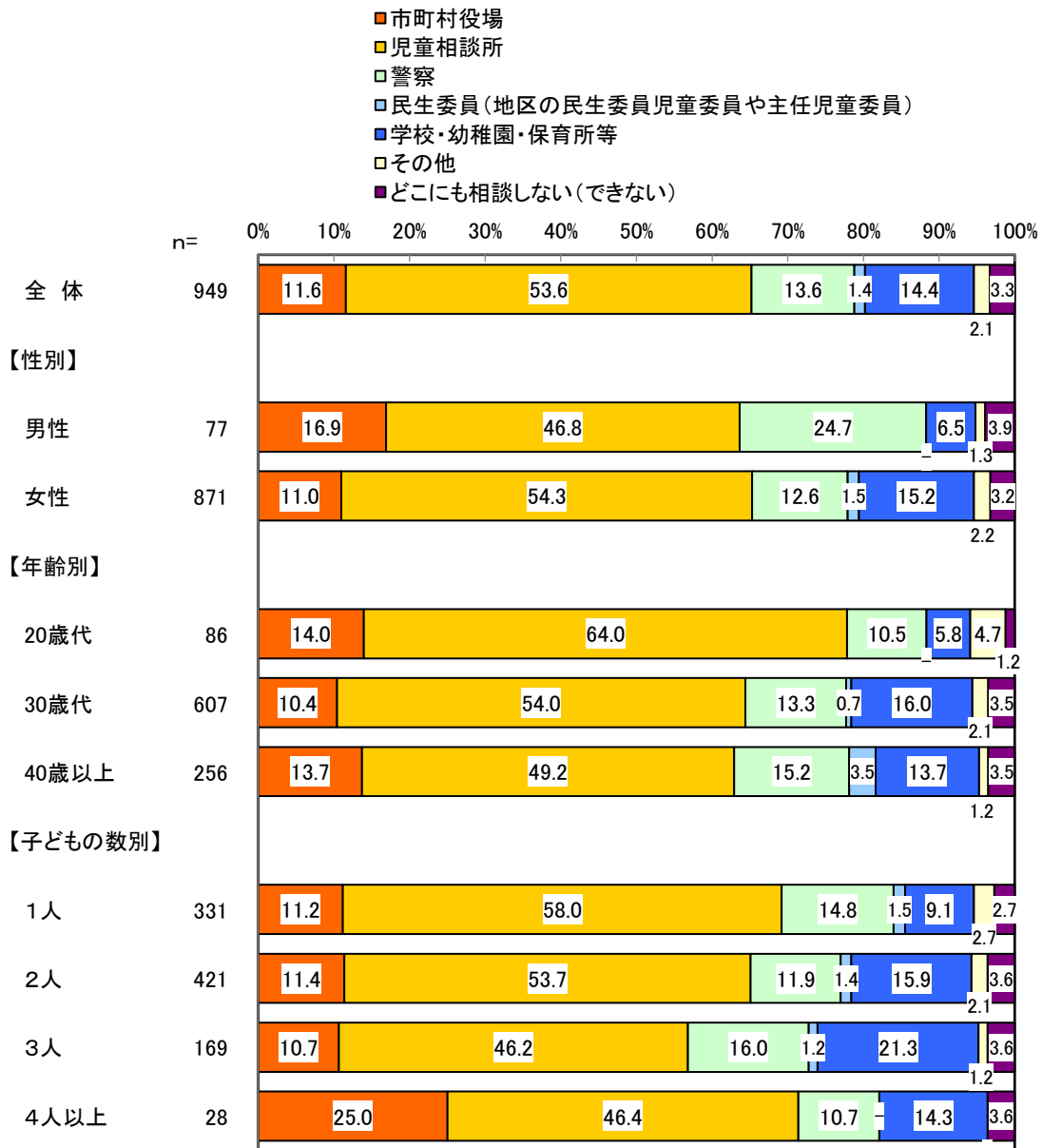
児童虐待発見時の相談機関（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園は未就園よりも「学校・幼稚園・保育所等」が 5.6 ポイント高くなっている。

児童虐待発見時の相談機関（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「児童相談所」が7.5ポイント、「学校・幼稚園・保育所等」が8.7ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「警察」が12.1ポイント、「市町村役場」が5.9ポイント高くなっている。

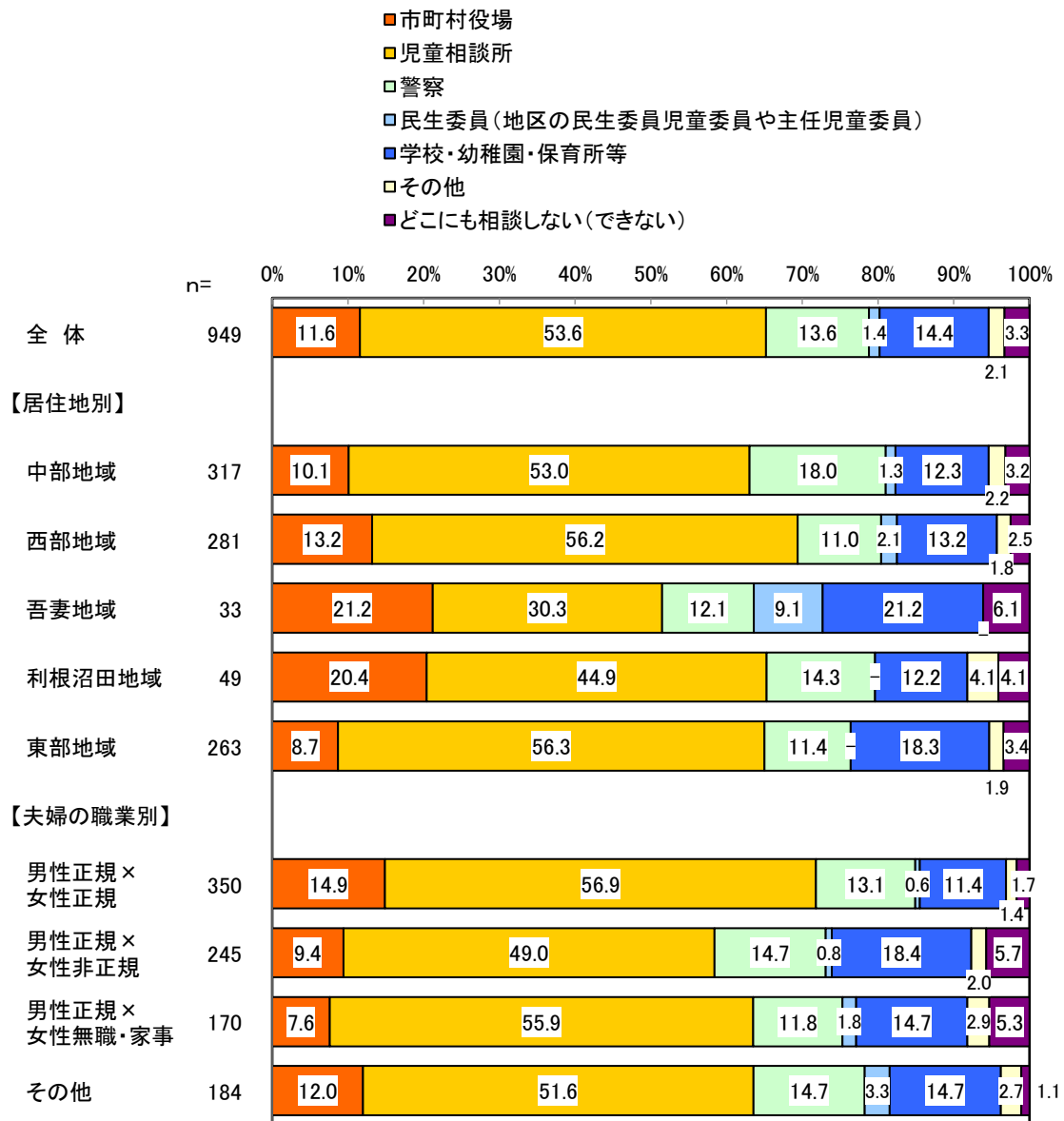
【年齢別】

年齢別でみると、「児童相談所」は20歳代で64.0%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「児童相談所」は1人で58.0%と高く、おおむね子どもの数が増えるほど低くなっている。「学校・幼稚園・保育所等」は3人で21.3%、「市町村役場」は4人以上で25.0%と高くなっている。

児童虐待発見時の相談機関（居住地別、夫婦の職業別）



【居住地別】

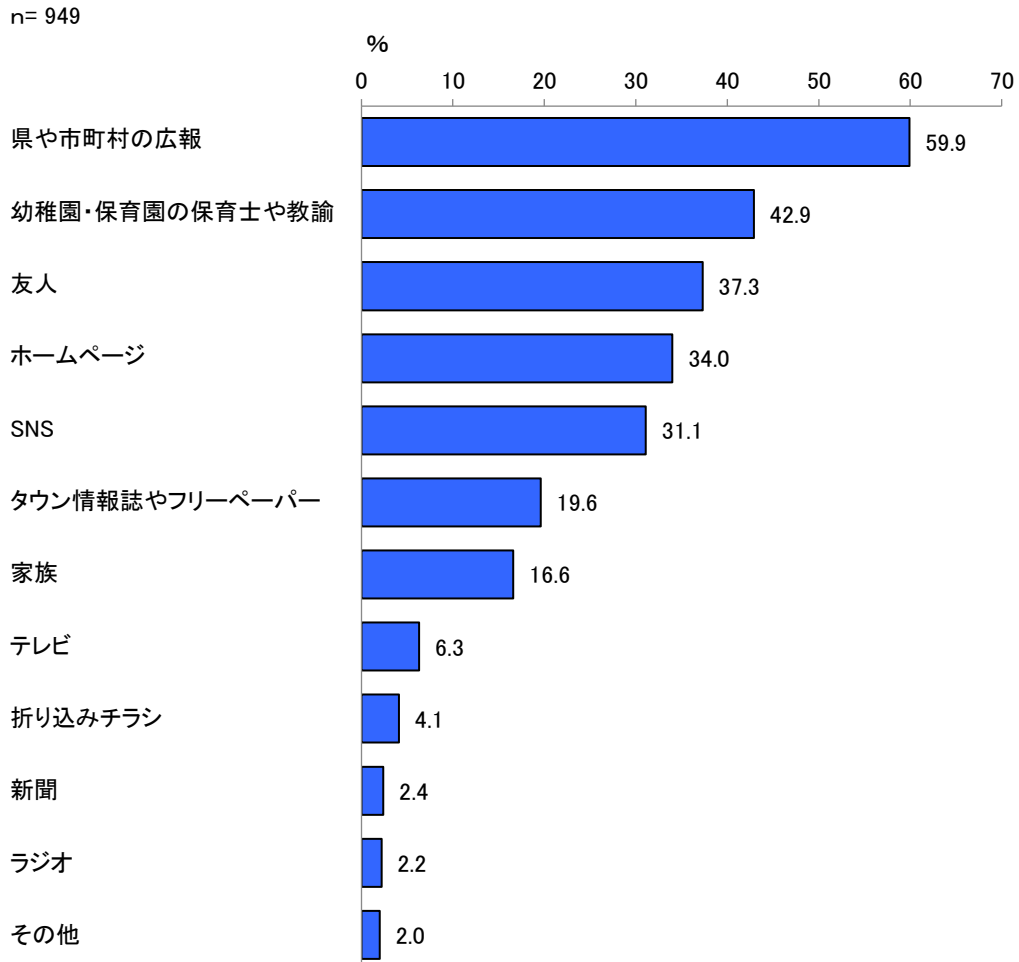
居住地別でみると、「児童相談所」は東部地域で56.3%、西部地域で56.2%と高くなっている。「学校・幼稚園・保育所等」は吾妻地域で21.2%と高くなっている。「市町村役場」は吾妻地域で21.2%、利根沼田地域で20.4%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「学校・幼稚園・保育所等」は男性正規×女性非正規で18.4%とやや高くなっている。

問 20 行政が行っている子育て支援サービスなどの情報をどのように入手していますか。
(回答はいくつでも)

行政が行っている子育て支援サービスなどの情報入手源は、「県や市町村の広報」が 59.9%で最も高く、次いで「幼稚園・保育園の保育士や教諭」が 42.9%、「友人」が 37.3%となっている。



行政の子育て支援サービスなどの情報入手源（就園・未就園別）

(%)

	n	県や市町村の 広報	幼稚園・保育 園の保育士や 教諭	友人	ホームページ	SNS	タウン情報誌 やフリーペー パー
全 体	949	59.9	42.9	37.3	34.0	31.1	19.6
【就園・未就園別】							
就園	714	61.8	45.2	35.3	31.4	30.3	21.1
未就園	235	54.0	35.7	43.4	42.1	33.6	14.9

(%)

	n	家族	テレビ	折り込みチラ シ	新聞	ラジオ	その他
全 体	949	16.6	6.3	4.1	2.4	2.2	2.0
【就園・未就園別】							
就園	714	16.5	7.4	4.5	2.7	2.7	2.2
未就園	235	17.0	3.0	3.0	1.7	0.9	1.3

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園は未就園よりも「幼稚園・保育園の保育士や教諭」が9.5ポイント、「県や市町村の広報」が7.8ポイント、「タウン情報誌やフリーペーパー」が6.2ポイント高くなっている。一方、未就園は就園よりも「ホームページ」が10.7ポイント、「友人」が8.1ポイント高くなっている。

行政の子育て支援サービスなどの情報入手源（性別、年齢別）

(%)

	n	県や市町村の 広報	幼稚園・保育園 の保育士や教諭	友人	ホームページ	SNS	タウン情報誌や フリーペーパー
全体	949	59.9	42.9	37.3	34.0	31.1	19.6
【性別】							
男性	77	68.8	42.9	18.2	31.2	24.7	15.6
女性	871	59.0	42.8	38.9	34.3	31.6	20.0
【年齢別】							
20歳代	86	52.3	34.9	33.7	29.1	47.7	10.5
30歳代	607	58.2	46.1	41.0	33.9	33.4	20.6
40歳以上	256	66.4	37.9	29.7	35.9	19.9	20.3

(%)

	n	家族	テレビ	折り込みチラシ	新聞	ラジオ	その他
全体	949	16.6	6.3	4.1	2.4	2.2	2.0
【性別】							
男性	77	29.9	13.0	5.2	7.8	9.1	3.9
女性	871	15.4	5.6	4.0	2.0	1.6	1.8
【年齢別】							
20歳代	86	22.1	8.1	5.8	1.2	1.2	1.2
30歳代	607	18.1	6.4	3.1	1.6	1.6	2.1
40歳以上	256	11.3	5.5	5.9	4.7	3.9	2.0

【性別】

性別でみると、男性は女性よりも「家族」が14.5ポイント、「県や市町村の広報」が9.8ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「友人」が20.7ポイント、「SNS」が6.9ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「県や市町村の広報」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で66.4%となっている。一方、「SNS」は20歳代で47.7%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。30歳代は「幼稚園・保育園の保育士や教諭」が46.1%、「友人」が41.0%と高くなっている。

行政の子育て支援サービスなどの情報入手源（子どもの数別）

(%)

	n	県や市町村の 広報	幼稚園・保育 園の保育士や 教諭	友人	ホームページ	SNS	タウン情報誌 やフリーペー パー
全 体	949	59.9	42.9	37.3	34.0	31.1	19.6
【子どもの数別】							
1人	331	56.5	37.8	34.4	39.3	31.7	17.2
2人	421	61.8	46.3	38.7	31.1	30.4	20.9
3人	169	60.9	44.4	39.6	34.9	32.5	22.5
4人以上	28	64.3	42.9	35.7	10.7	25.0	10.7

(%)

	n	家族	テレビ	折り込みチラ シ	新聞	ラジオ	その他
全 体	949	16.6	6.3	4.1	2.4	2.2	2.0
【子どもの数別】							
1人	331	16.6	3.0	3.6	1.2	1.2	2.4
2人	421	15.9	6.4	4.5	3.3	2.4	1.9
3人	169	18.3	11.8	4.1	2.4	3.6	1.2
4人以上	28	17.9	10.7	3.6	3.6	3.6	3.6

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「県や市町村の広報」は4人以上で64.3%、「幼稚園・保育園の保育士や教諭」は2人で46.3%、「ホームページ」は1人で39.3%と高くなっている。

行政の子育て支援サービスなどの情報入手源（居住地別）

(%)

	n	県や市町村の 広報	幼稚園・保育 園の保育士や 教諭	友人	ホームページ	SNS	タウン情報誌 やフリーペー パー
全 体	949	59.9	42.9	37.3	34.0	31.1	19.6
【居住地別】							
中部地域	317	55.5	40.1	39.1	38.5	33.1	22.7
西部地域	281	59.1	42.3	36.3	34.5	31.3	22.4
吾妻地域	33	54.5	39.4	42.4	21.2	24.2	6.1
利根沼田地域	49	71.4	40.8	53.1	28.6	28.6	14.3
東部地域	263	64.3	47.9	32.7	30.4	29.7	15.6

(%)

	n	家族	テレビ	折り込みチラ シ	新聞	ラジオ	その他
全 体	949	16.6	6.3	4.1	2.4	2.2	2.0
【居住地別】							
中部地域	317	18.3	5.4	4.1	3.2	2.5	2.2
西部地域	281	12.8	8.9	5.3	2.1	3.2	2.1
吾妻地域	33	18.2	9.1	3.0	-	3.0	3.0
利根沼田地域	49	20.4	8.2	2.0	2.0	-	2.0
東部地域	263	17.1	4.2	3.4	2.3	1.1	1.5

【居住地別】

居住地別でみると、「県や市町村の広報」は利根沼田地域で71.4%、「友人」も利根沼田地域で53.1%、「幼稚園・保育園の保育士や教諭」は東部地域で47.9%と高くなっている。

行政の子育て支援サービスなどの情報入手源（夫婦の職業別）

(%)

	n	県や市町村の 広報	幼稚園・保育 園の保育士や 教諭	友人	ホームページ	SNS	タウン情報誌 やフリーペー パー
全 体	949	59.9	42.9	37.3	34.0	31.1	19.6
【夫婦の職業別】							
男性正規× 女性正規	350	64.3	40.0	35.7	37.7	32.9	20.3
男性正規× 女性非正規	245	58.4	45.7	36.3	29.0	32.2	21.6
男性正規× 女性無職・家事	170	61.2	41.2	39.4	38.2	25.9	22.4
その他	184	52.2	46.2	39.7	29.9	31.0	13.0

(%)

	n	家族	テレビ	折り込みチラ シ	新聞	ラジオ	その他
全 体	949	16.6	6.3	4.1	2.4	2.2	2.0
【夫婦の職業別】							
男性正規× 女性正規	350	18.0	6.3	3.4	2.9	2.3	2.3
男性正規× 女性非正規	245	13.5	7.8	4.1	1.6	2.4	1.2
男性正規× 女性無職・家事	170	15.9	2.9	2.9	1.2	2.4	1.8
その他	184	19.0	7.6	6.5	3.8	1.6	2.7

【夫婦の職業別】

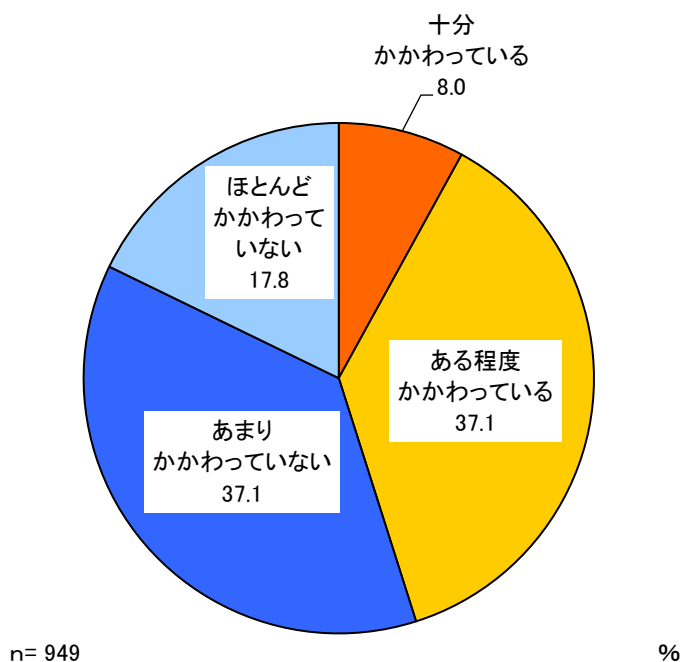
夫婦の職業別でみると、「県や市町村の広報」は男性正規×女性正規で64.3%と高くなっている。

3 地域とのかかわりについて

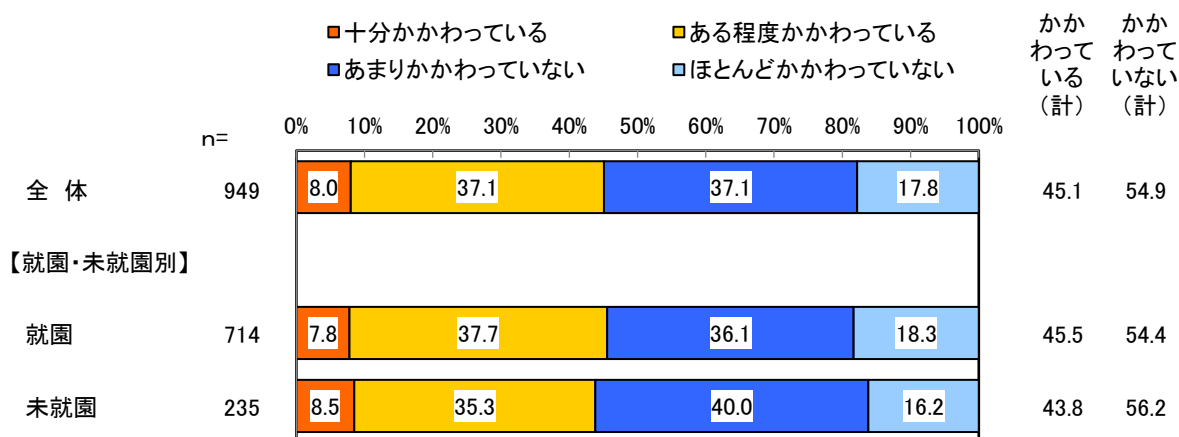
問 21 子育てをしている中で、現在、あなたの住んでいる地域（※）とのかかわりはどれくらいありますか。

※地域：近隣住民、子ども会、自治会など

子育てをしている中で、現在の住んでいる地域とのかかわりは、「ある程度かかわっている」と「あまりかかわっていない」がそれぞれ 37.1%、「ほとんどかかわっていない」が 17.8%となっている。「かかわっている（計）」（「十分かかわっている」と「ある程度かかわっている」の合計）は 45.1%、「かかわっていない（計）」（「あまりかかわっていない」と「ほとんどかかわっていない」の合計）は 54.9%となっている。



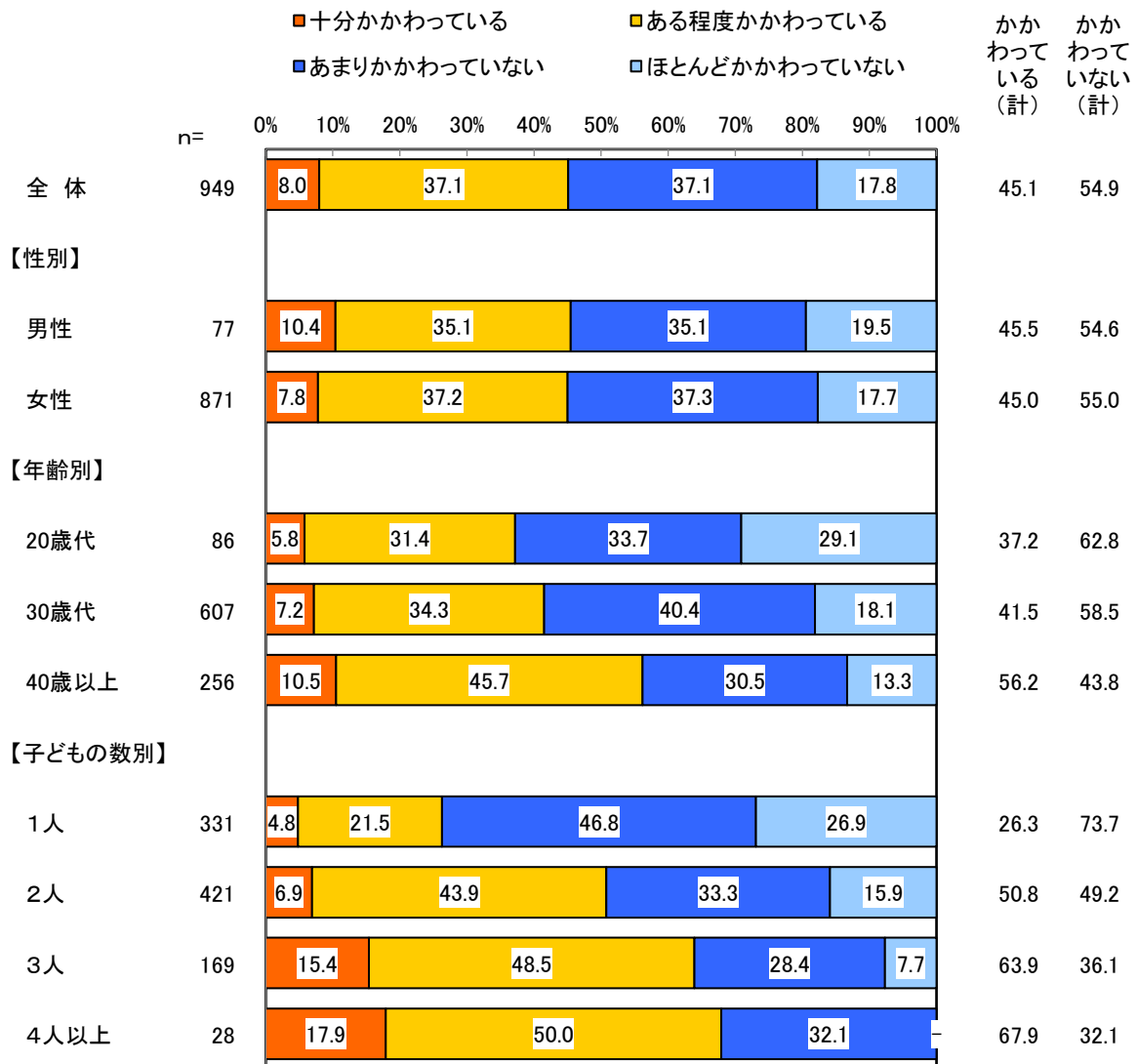
子育てにおける地域とのかかわりの程度（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別で見ると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

子育てにおける地域とのかかわりの程度（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

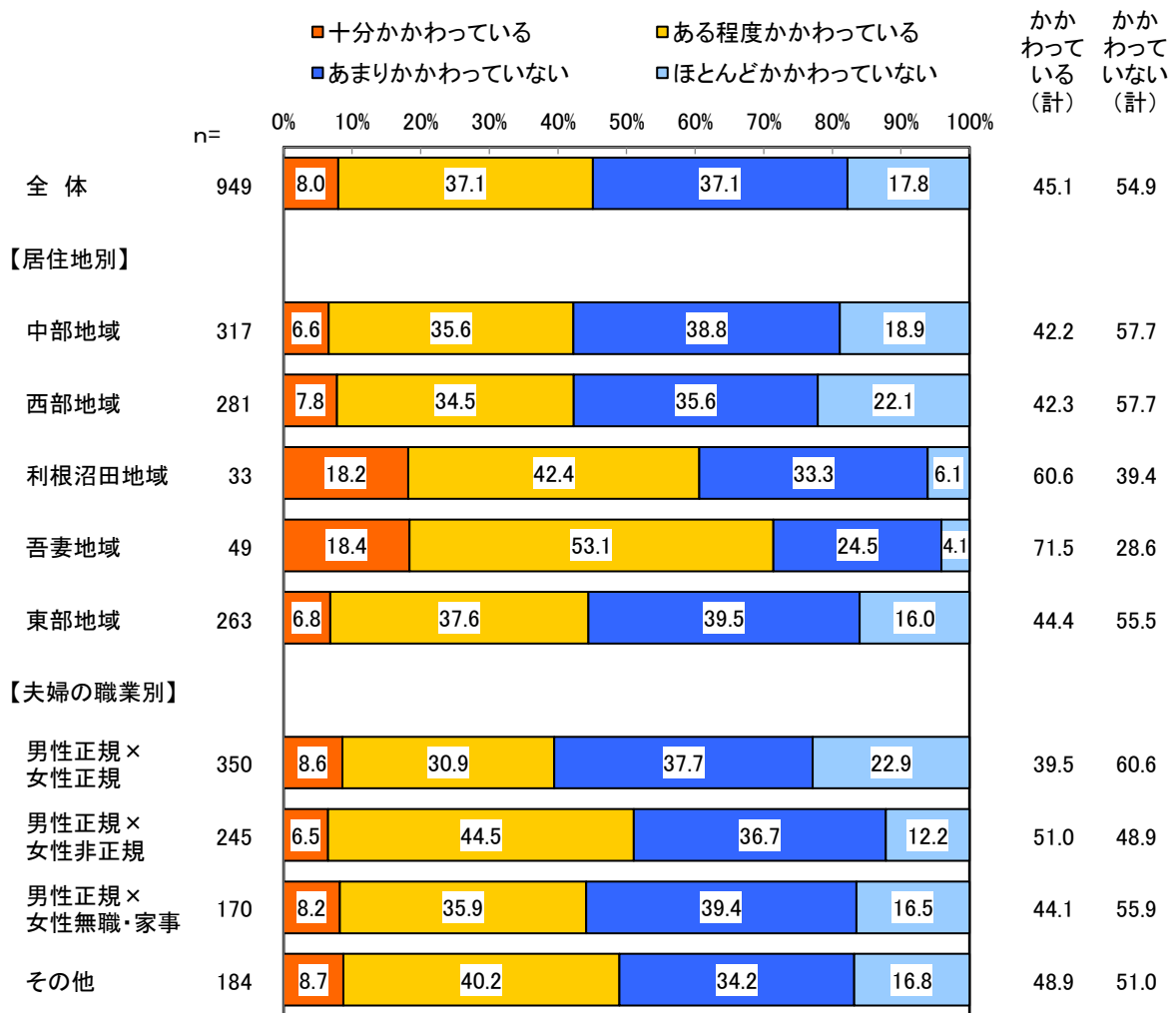
【年齢別】

年齢別でみると、「かかわっている (計)」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で56.2%となっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「かかわっている (計)」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人で67.9%となっている。

子育てにおける地域とのかかわりの程度（居住地別、夫婦の職業別）



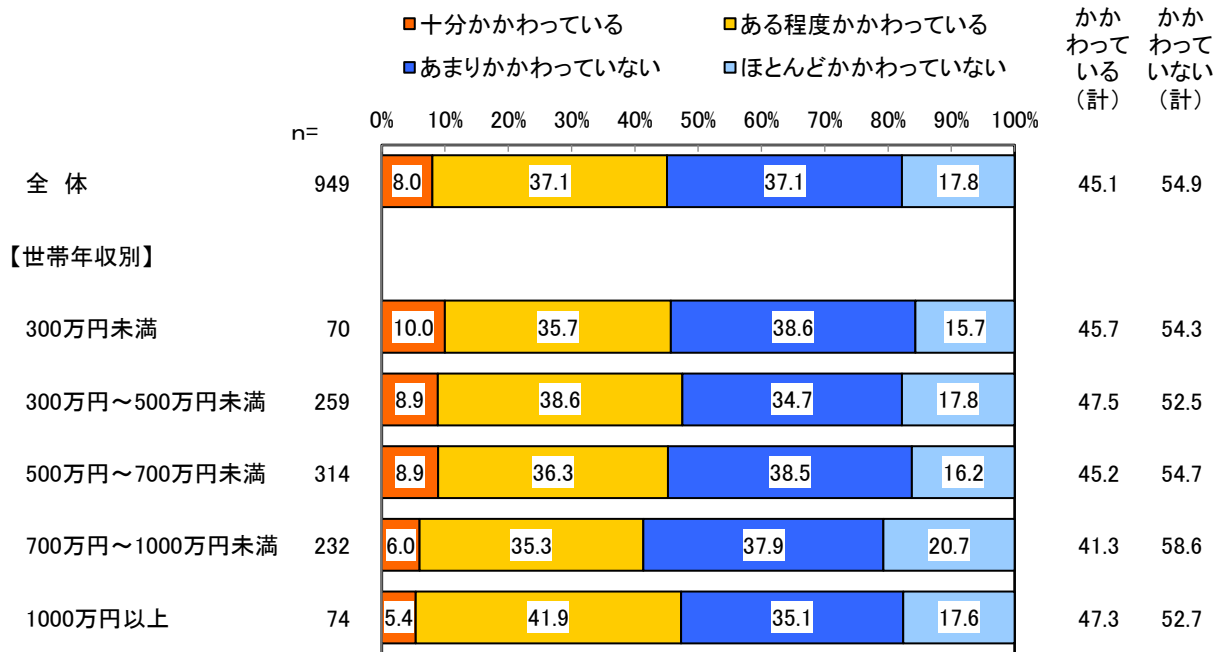
【居住地別】

居住地別では、「かかわっている（計）」は吾妻地域が 71.5%と最も高く、次いで利根沼田地域が 60.6%となっている。一方、西部地域は「ほとんどかかわっていない」が 22.1%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「かかわっている（計）」は男性正規×女性非正規で 51.0%と高くなっている。一方、男性正規×女性正規では 39.5%と低くなっている。

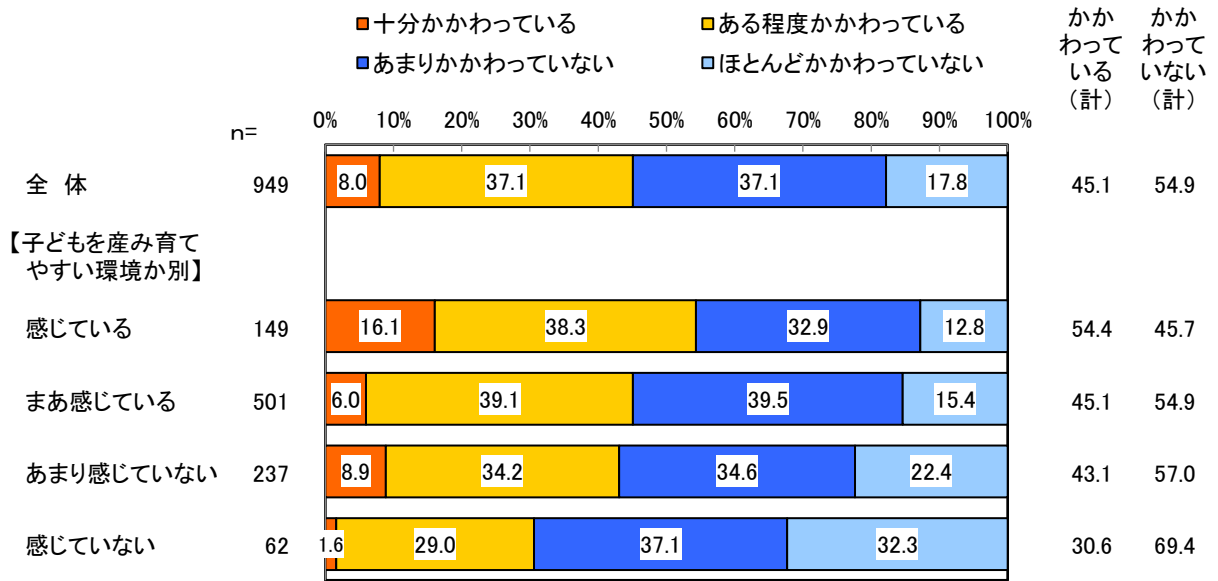
子育てにおける地域とのかかわりの程度（世帯年収別）



【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「かかわっている (計)」は300万円～500万円未満で47.5%、1000万円以上で47.3%と高くなっている。一方、700万円～1000万円未満では41.3%と低くなっている。

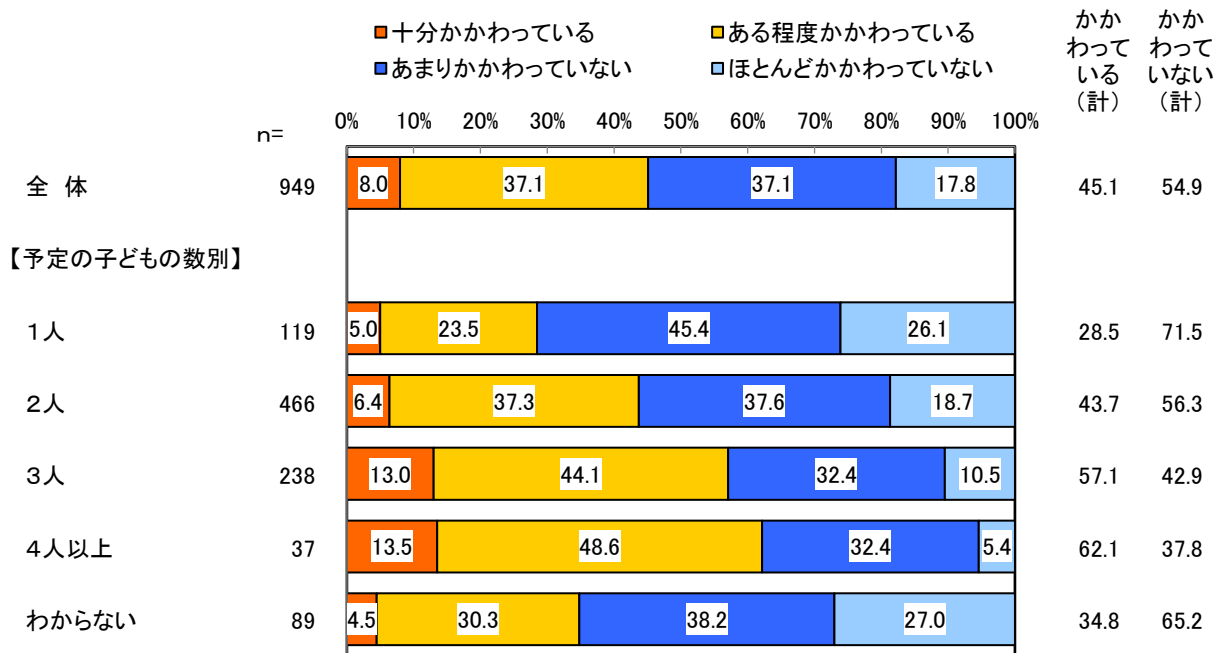
子育てにおける地域とのかかわりの程度（子どもを産み育てやすい環境か別）



【子どもを産み育てやすい環境か別】

子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「かかっている（計）」は産み育てやすいと感じているほど高く、「感じる」で54.4%となっている。一方、「感じていない」では30.6%と低くなっている。

子育てにおける地域とのかかわりの程度（予定の子どもの数別）



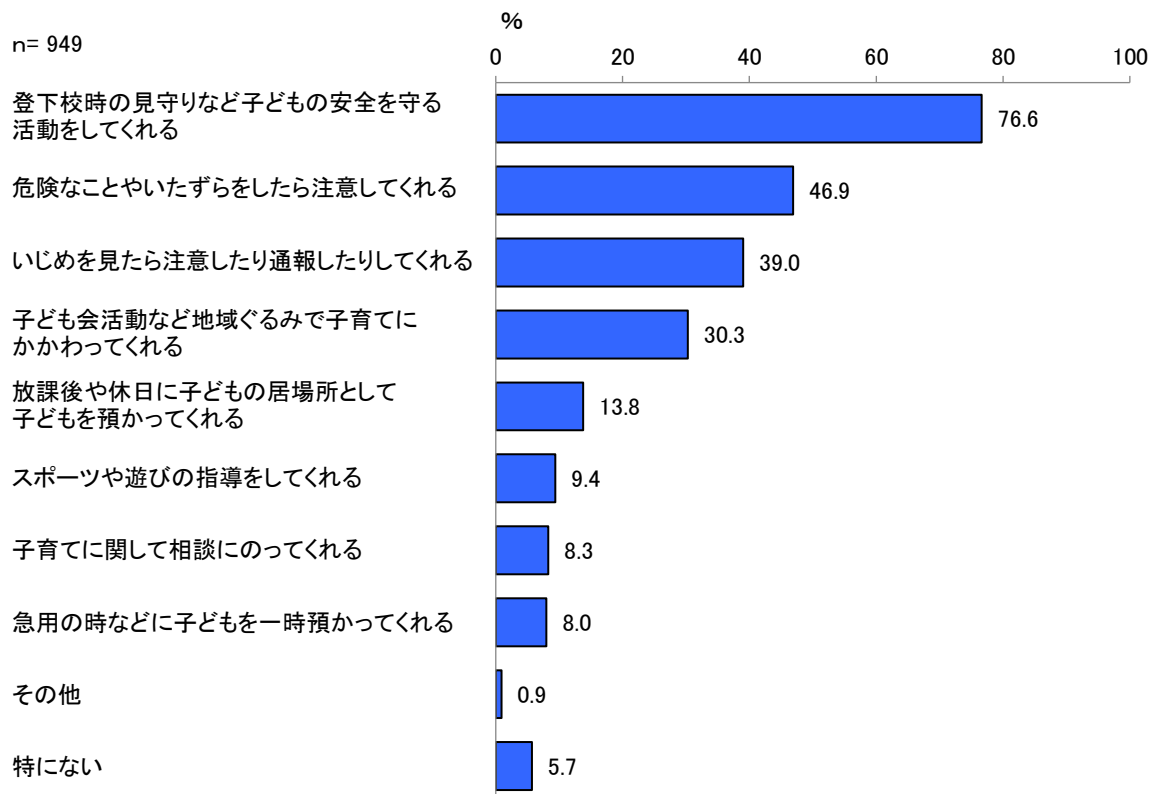
【予定の子どもの数別】

問 25 の予定の子どもの数別で見ると、「かかわっている (計)」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人以上で62.1%となっている。

問 22 あなたは子育てをする上で、近所や地域の人にどのようなことを期待しますか。

(回答は3つまで)

子育てをする上で近所や地域の人に期待することは、「登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる」が76.6%で最も高く、次いで「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」が46.9%、「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」が39.0%となっている。



近所や地域の人に期待すること（就園・未就園別）

(%)

	n	登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる	危険なことやいたずらをしたら注意してくれる	いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる	子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる	放課後や休日に子どもの居場所として子どもを預かってくれる
全体	949	76.6	46.9	39.0	30.3	13.8
【就園・未就園別】						
就園	714	76.8	46.9	38.0	28.7	14.6
未就園	235	76.2	46.8	42.1	35.3	11.5

(%)

	n	スポーツや遊びの指導をしてくれる	子育てに関して相談にのってくれる	急用の時などに子どもを一時預かってくれる	その他	特にない
全体	949	9.4	8.3	8.0	0.9	5.7
【就園・未就園別】						
就園	714	9.5	7.7	8.5	0.6	6.2
未就園	235	8.9	10.2	6.4	2.1	4.3

【就園・未就園別】

就園・未就園別で見ると、未就園は就園よりも「子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる」が6.6ポイント高くなっている。

近所や地域の人に期待すること（性別、年齢別）

(%)

	n	登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる	危険なことやいたずらをしたら注意してくれる	いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる	子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる	放課後や休日に子どもの居場所として子どもを預かってくれる
全体	949	76.6	46.9	39.0	30.3	13.8
【性別】						
男性	77	66.2	53.2	46.8	29.9	9.1
女性	871	77.6	46.4	38.3	30.4	14.2
【年齢別】						
20歳代	86	74.4	38.4	33.7	30.2	9.3
30歳代	607	77.1	44.0	39.4	30.6	14.7
40歳以上	256	76.2	56.6	39.8	29.7	13.3

(%)

	n	スポーツや遊びの指導をしてくれる	子育てに関して相談にのってくれる	急用の時などに子どもを一時預かってくれる	その他	特にない
全体	949	9.4	8.3	8.0	0.9	5.7
【性別】						
男性	77	11.7	7.8	9.1	2.6	6.5
女性	871	9.2	8.4	7.9	0.8	5.5
【年齢別】						
20歳代	86	8.1	9.3	4.7	3.5	9.3
30歳代	607	10.2	7.9	7.6	0.5	5.9
40歳以上	256	7.8	9.0	10.2	1.2	3.9

【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる」が11.4ポイント、「放課後や休日に子どもの居場所として子どもを預かってくれる」が5.1ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」が8.5ポイント、「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」が6.8ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で56.6%となっている。

近所や地域の人に期待すること（子どもの数別）

(%)

	n	登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる	危険なことやいたずらをしたら注意してくれる	いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる	子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる	放課後や休日に子どもの居場所として子どもを預かってくれる
全体	949	76.6	46.9	39.0	30.3	13.8
【子どもの数別】						
1人	331	73.4	45.6	38.1	31.1	11.5
2人	421	80.5	45.8	39.4	29.2	15.4
3人	169	72.2	49.7	40.8	32.0	11.8
4人以上	28	82.1	60.7	32.1	28.6	28.6

(%)

	n	スポーツや遊びの指導をしてくれる	子育てに関して相談にのってくれる	急用の時などに子どもを一時預かってくれる	その他	特になし
全体	949	9.4	8.3	8.0	0.9	5.7
【子どもの数別】						
1人	331	6.6	11.2	6.9	1.5	8.2
2人	421	9.7	6.4	8.6	0.5	4.0
3人	169	14.2	7.1	8.9	0.6	5.3
4人以上	28	7.1	10.7	7.1	3.6	3.6

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」は子どもが増えるほど高くなり、4人以上で60.7%となっている。

近所や地域の人に期待すること（居住地別）

(%)

	n	登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる	危険なことやいたずらをしたら注意してくれる	いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる	子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる	放課後や休日に子どもの居場所として子どもを預かってくれる
全体	949	76.6	46.9	39.0	30.3	13.8
【居住地別】						
中部地域	317	76.0	43.2	38.5	30.0	18.0
西部地域	281	79.7	43.4	36.3	29.2	13.5
吾妻地域	33	63.6	42.4	27.3	39.4	6.1
利根沼田地域	49	69.4	51.0	46.9	42.9	8.2
東部地域	263	77.2	54.8	42.6	28.5	11.4

(%)

	n	スポーツや遊びの指導をしてくれる	子育てに関して相談にのってくれる	急用の時などに子どもを一時預かってくれる	その他	特にない
全体	949	9.4	8.3	8.0	0.9	5.7
【居住地別】						
中部地域	317	7.9	7.9	8.5	1.9	4.7
西部地域	281	8.5	8.5	8.5	0.7	6.4
吾妻地域	33	18.2	9.1	15.2	-	12.1
利根沼田地域	49	22.4	10.2	8.2	-	2.0
東部地域	263	8.4	8.0	6.1	0.4	6.1

【居住地別】

居住地別でみると、「登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる」は西部地域で79.7%と高くなっている。「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」は東部地域で54.8%、利根沼田地域で51.0%と高くなっている。「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」は利根沼田地域で46.9%、東部地域で42.6%と高くなっている。「子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる」は利根沼田地域で42.9%、吾妻地域で39.4%と高くなっている。

近所や地域の人に期待すること（夫婦の職業別）

(%)

	n	登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる	危険なことやいたずらをしたら注意してくれる	いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる	子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる	放課後や休日に子どもの居場所として子どもを預かってくれる
全体	949	76.6	46.9	39.0	30.3	13.8
【夫婦の職業別】						
男性正規×女性正規	350	76.9	43.4	34.0	29.7	18.9
男性正規×女性非正規	245	78.8	46.9	34.3	31.0	11.8
男性正規×女性無職・家事	170	78.2	48.8	50.6	29.4	10.0
その他	184	71.7	51.6	44.0	31.5	10.3

(%)

	n	スポーツや遊びの指導をしてくれる	子育てに関して相談にのってくれる	急用の時などに子どもを一時預かってくれる	その他	特にない
全体	949	9.4	8.3	8.0	0.9	5.7
【夫婦の職業別】						
男性正規×女性正規	350	10.0	7.4	8.3	0.9	4.3
男性正規×女性非正規	245	7.8	9.4	9.0	0.8	7.3
男性正規×女性無職・家事	170	8.2	10.0	5.9	1.8	3.5
その他	184	11.4	7.1	8.2	0.5	8.2

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」は男性正規×女性無職・家事で50.6%と高くなっている。

近所や地域の人に期待すること（世帯年収別）

(%)

	n	登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる	危険なことやいたずらをしたら注意してくれる	いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる	子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる	放課後や休日に子どもの居場所として子どもを預かってくれる
全体	949	76.6	46.9	39.0	30.3	13.8
【世帯年収別】						
300万円未満	70	70.0	44.3	45.7	37.1	8.6
300万円～500万円未満	259	77.6	46.7	38.2	32.8	13.5
500万円～700万円未満	314	80.6	49.0	41.4	29.0	13.7
700万円～1000万円未満	232	76.7	44.8	36.6	28.0	17.7
1000万円以上	74	62.2	47.3	32.4	28.4	8.1

(%)

	n	スポーツや遊びの指導をしてくれる	子育てに関して相談にのってくれる	急用の時などに子どもを一時預かってくれる	その他	特にない
全体	949	9.4	8.3	8.0	0.9	5.7
【世帯年収別】						
300万円未満	70	10.0	4.3	7.1	-	8.6
300万円～500万円未満	259	6.6	10.4	6.9	0.8	4.2
500万円～700万円未満	314	8.6	8.9	8.0	1.6	4.1
700万円～1000万円未満	232	13.4	7.8	9.5	0.9	5.6
1000万円以上	74	9.5	4.1	8.1	-	14.9

【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる」は500万円～700万円未満で80.6%と高くなっている。「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」、「子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる」は300万円未満で最も高く、年収が上がるほど低くなる傾向がみられる。

近所や地域の人に期待すること（子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

	n	登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる	危険なことやいたずらをしたら注意してくれる	いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる	子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる	放課後や休日に子どもの居場所として子どもを預かってくれる
全体	949	76.6	46.9	39.0	30.3	13.8
【子どもを産み育てやすい環境か別】						
感じている	149	78.5	45.6	38.3	37.6	6.7
まあ感じている	501	77.8	48.1	40.1	30.1	13.2
あまり感じている	237	73.0	45.1	35.9	29.5	17.3
感じている	62	75.8	46.8	43.5	17.7	22.6

(%)

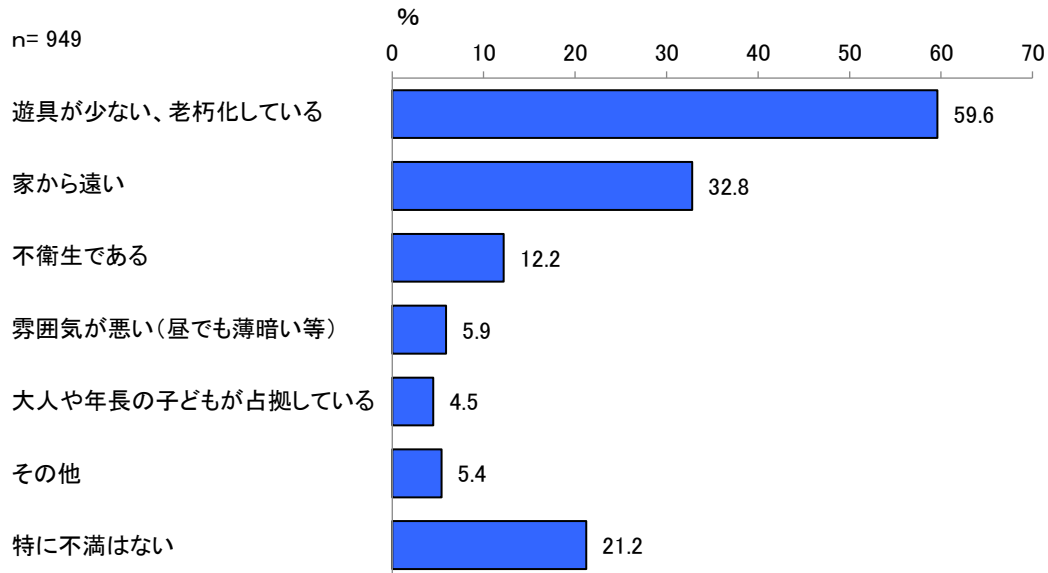
	n	スポーツや遊びの指導をしてくれる	子育てに関して相談にのってくれる	急用の時などに子どもを一時預かってくれる	その他	特になし
全体	949	9.4	8.3	8.0	0.9	5.7
【子どもを産み育てやすい環境か別】						
感じている	149	9.4	8.1	7.4	0.7	4.7
まあ感じている	501	7.2	9.4	5.6	0.6	4.8
あまり感じている	237	11.8	7.6	11.8	1.7	8.0
感じている	62	17.7	3.2	14.5	1.6	6.5

【子どもを産み育てやすい環境か別】

子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「子ども会活動など地域ぐるみで子育てにかかわってくれる」は産み育てやすいと感じているほど高く、“感じている”で37.6%となっている。

問 23 近所の公園について不満はありますか。(回答は2つまで)

近所の公園についての不満は、「遊具が少ない、老朽化している」が59.6%で最も高く、次いで「家から遠い」が32.8%、「特に不満はない」が21.2%となっている。



近所の公園への不満 (就園・未就園別)

	n	遊具が少ない、老朽化している	家から遠い	不衛生である	雰囲気が悪い(昼でも薄暗い等)	大人や年長の子どもが占拠している	その他	特に不満はない
全体	949	59.6	32.8	12.2	5.9	4.5	5.4	21.2
【就園・未就園別】								
就園	714	59.8	32.5	12.2	6.0	4.8	4.8	21.6
未就園	235	59.1	33.6	12.3	5.5	3.8	7.2	20.0

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

近所の公園への不満（性別、年齢別、子どもの数別）

(%)

	n	遊具が少ない、老朽化している	家から遠い	不衛生である	雰囲気が悪い(昼でも薄暗い等)	大人や年長の子どもが占拠している	その他	特に不満はない
全体	949	59.6	32.8	12.2	5.9	4.5	5.4	21.2
【性別】								
男性	77	68.8	29.9	10.4	9.1	3.9	2.6	18.2
女性	871	58.9	33.1	12.4	5.6	4.6	5.6	21.4
【年齢別】								
20歳代	86	50.0	33.7	12.8	4.7	8.1	7.0	23.3
30歳代	607	62.3	33.4	13.0	6.4	4.0	5.1	18.9
40歳以上	256	56.6	30.9	10.2	5.1	4.7	5.5	25.8
【子どもの数別】								
1人	331	58.9	29.9	12.4	5.4	4.5	5.7	23.0
2人	421	60.3	34.2	12.8	6.7	3.8	5.7	19.0
3人	169	59.2	35.5	10.1	5.3	6.5	3.0	23.7
4人以上	28	60.7	28.6	14.3	3.6	3.6	10.7	17.9

【性別】

性別でみると、男性は女性よりも「遊具が少ない、老朽化している」が9.9ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「遊具が少ない、老朽化している」は30歳代で62.3%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「家から遠い」は3人で35.5%と高くなっている。

近所の公園への不満（居住地別、夫婦の職業別）

(%)

	n	遊具が少ない、老朽化している	家から遠い	不衛生である	雰囲気が悪い(昼でも薄暗い等)	大人や年長の子どもが占拠している	その他	特に不満はない
全体	949	59.6	32.8	12.2	5.9	4.5	5.4	21.2
【居住地別】								
中部地域	317	59.9	30.0	15.5	4.4	5.0	5.4	21.8
西部地域	281	59.4	34.9	7.5	8.5	5.3	4.6	21.4
吾妻地域	33	51.5	54.5	3.0	9.1	-	3.0	15.2
利根沼田地域	49	57.1	44.9	6.1	2.0	6.1	10.2	16.3
東部地域	263	61.2	29.3	15.6	5.3	3.4	5.7	21.7
【夫婦の職業別】								
男性正規×女性正規	350	61.1	33.7	13.4	5.1	4.9	4.6	19.7
男性正規×女性非正規	245	60.4	33.9	12.7	5.3	4.9	4.5	21.6
男性正規×女性無職・家事	170	58.8	32.9	12.9	5.3	1.8	8.2	20.0
その他	184	56.5	29.3	8.7	8.7	6.0	5.4	24.5

【居住地別】

居住地別でみると、「遊具が少ない、老朽化している」は東部地域で61.2%と高くなっている。「家から遠い」は吾妻地域で54.5%、利根沼田地域で44.9%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、職業による大きな差はみられない。

近所の公園への不満（子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

	n	遊具が少ない、老朽化している	家から遠い	不衛生である	雰囲気が悪い(昼でも薄暗い等)	大人や年長の子どもが占拠している	その他	特に不満はない
全体	949	59.6	32.8	12.2	5.9	4.5	5.4	21.2
【子どもを産み育てやすい環境か別】								
感じている	149	54.4	28.2	7.4	3.4	3.4	8.1	26.8
まあ感じている	501	58.3	31.9	11.4	5.4	4.0	4.0	22.8
あまり感じていない	237	65.0	36.7	14.8	7.6	5.1	6.8	16.0
感じていない	62	62.9	35.5	21.0	9.7	9.7	4.8	14.5

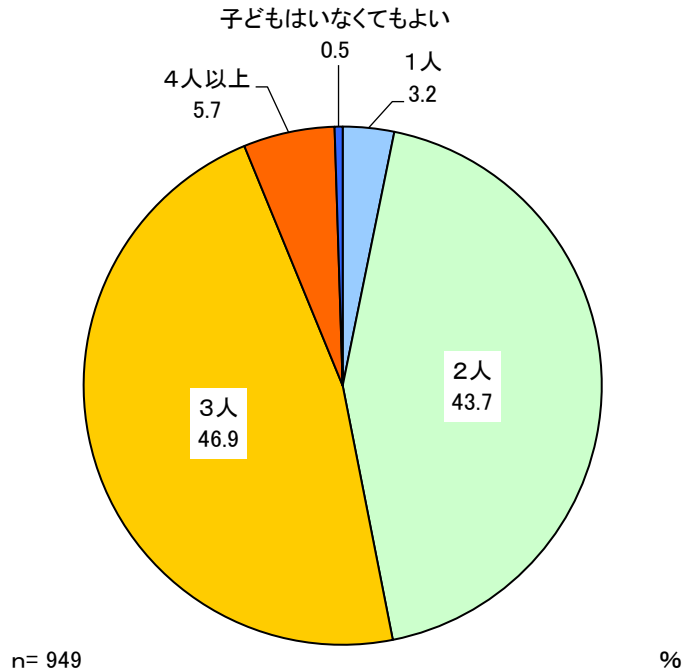
【子どもを産み育てやすい環境か別】

子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「遊具が少ない、老朽化している」や「家から遠い」は産み育てやすいと“あまり感じていない”や“感じていない”で高くなっている。

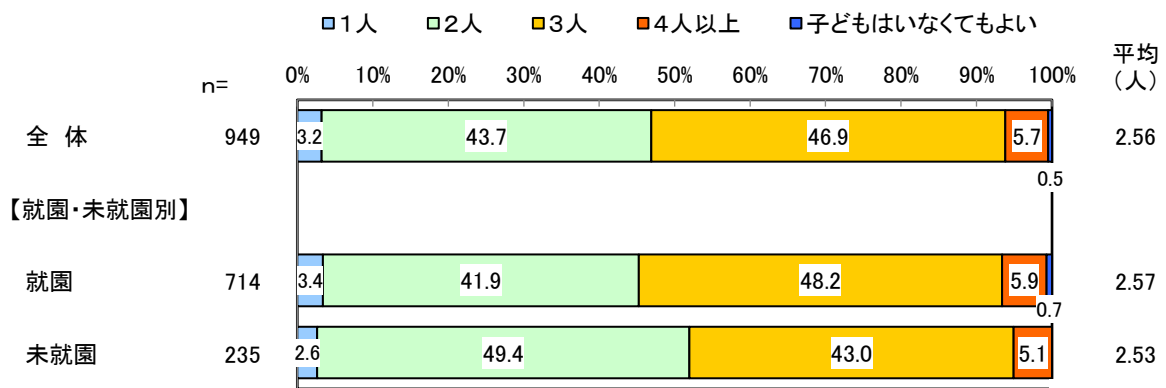
4 子どもについて

問 24 あなたにとって、理想の子どもの数は何人ですか (理想の子どもの数)。

理想の子どもの数は、「3人」が46.9%で最も高く、次いで「2人」が43.7%、「4人」が5.7%となっている。平均は2.56人となっている。



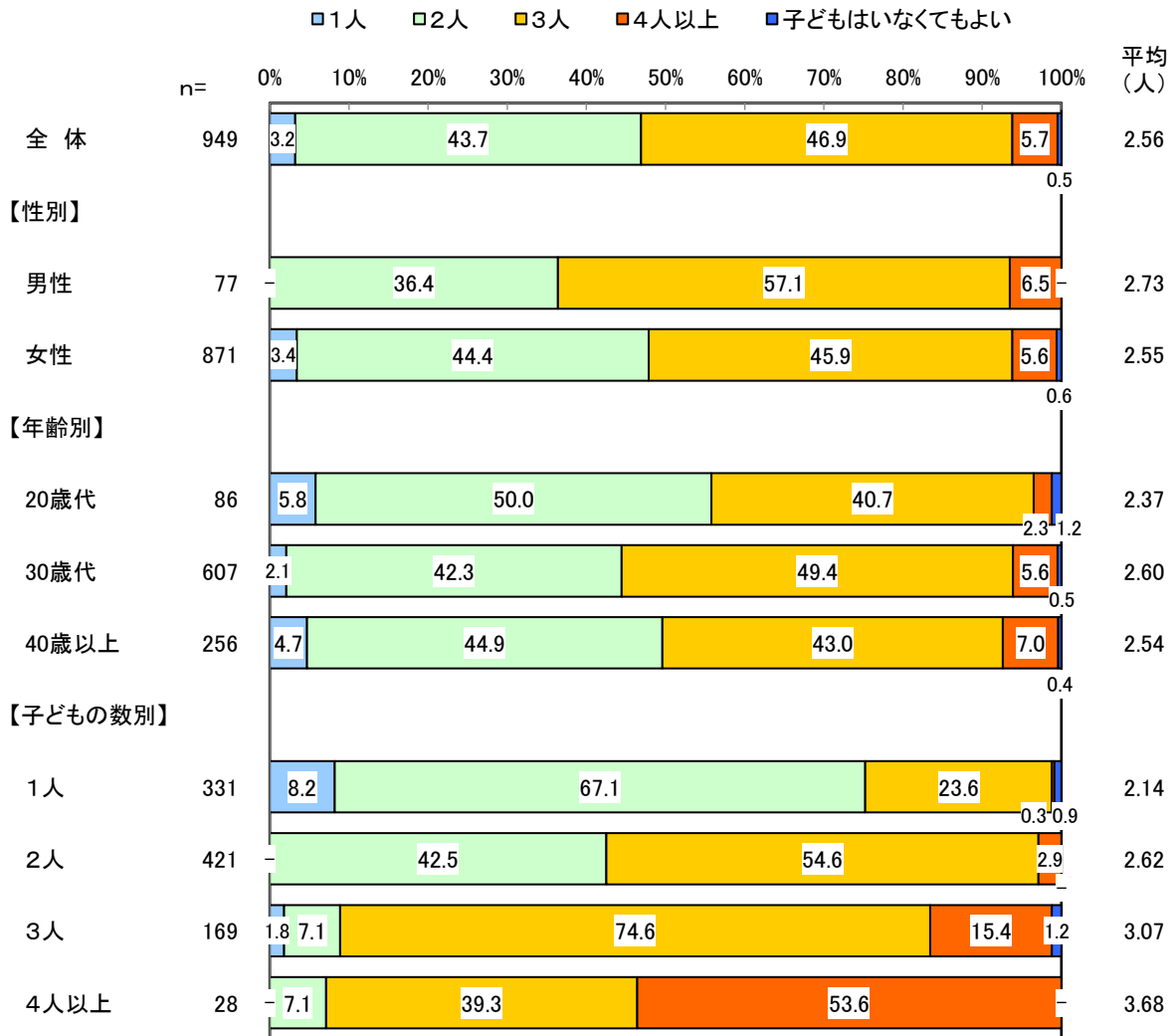
理想の子どもの数 (就園・未就園別)



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「2人」が7.5ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「3人」が5.2ポイント高くなっている。

理想の子どもの数（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男性は女性よりも「3人」が11.2ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「2人」が8.0ポイント高くなっている。平均では男性が女性よりも0.18人多くなっている。

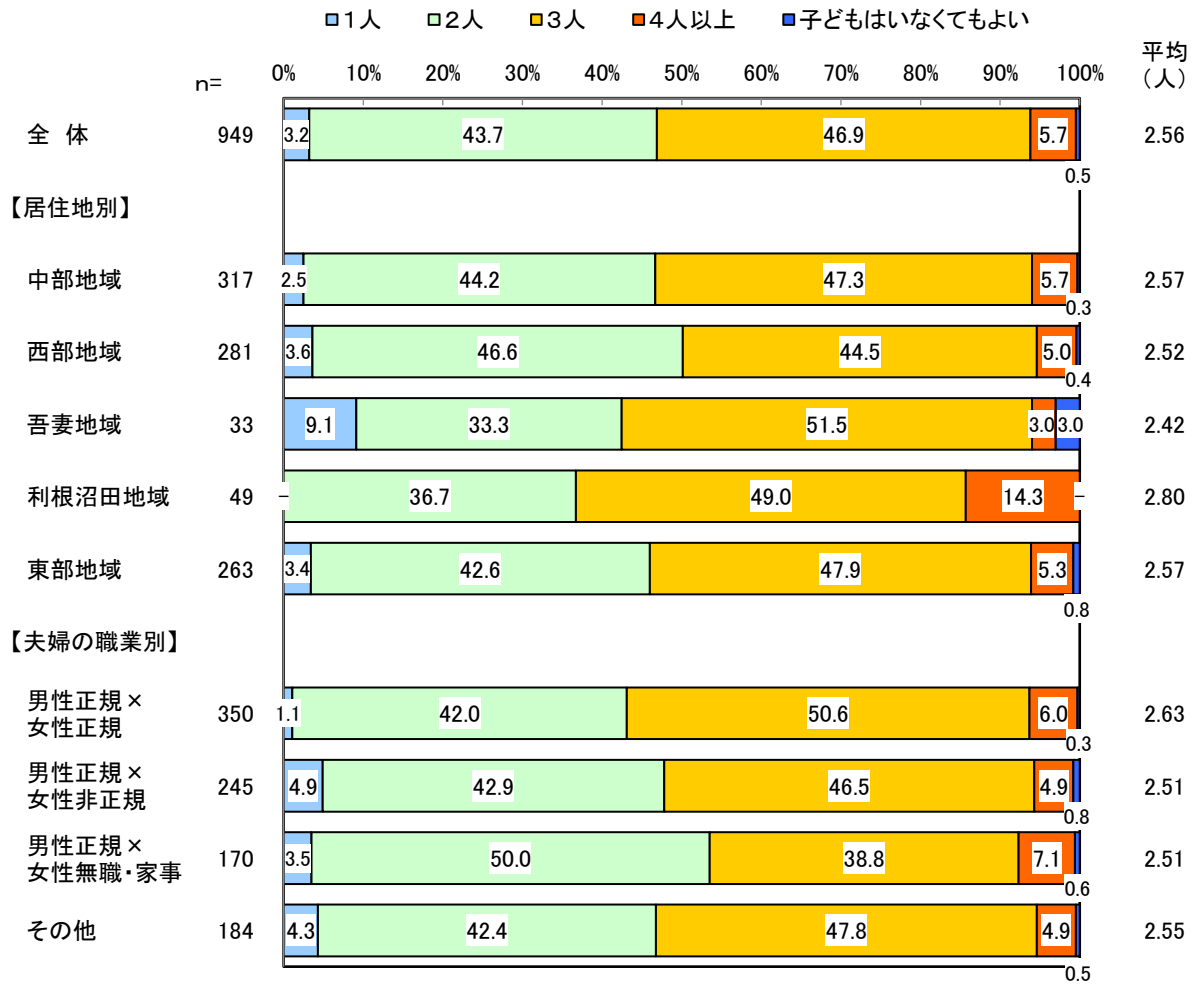
【年齢別】

年齢別でみると、「3人」は30歳代で49.4%と高く、「2人」は20歳代で50.0%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、子ども1人では「2人」が67.1%で最も高く、「3人」が23.6%となっている。2人では「3人」が54.6%で最も高く、理想の子どもの数と実際の子どもの数が一致している。「2人」は42.5%となっている。なお、3人は74.6%、4人以上は53.6%が理想の子どもの数と実際の子どもの数が一致している。

理想の子どもの数（居住地別、夫婦の職業別）



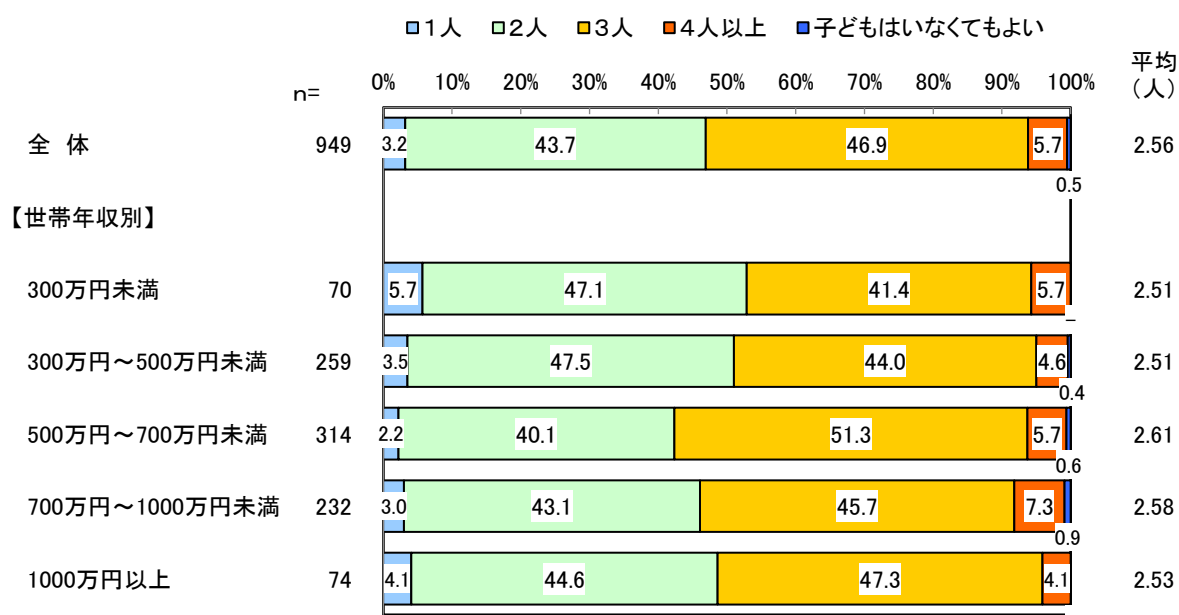
【居住地別】

居住地別でみると、利根沼田地域は「4人以上」が14.3%と高く、平均2.80人と多くなっている。一方、吾妻地域は「1人」が9.1%とやや高く、平均2.42人と少なくなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、男性正規×女性正規は「3人」が50.6%と高く、平均2.63人と多くなっている。「2人」は男性正規×女性無職・家事で50.0%と高くなっている。

理想の子どもの数（世帯年収別）

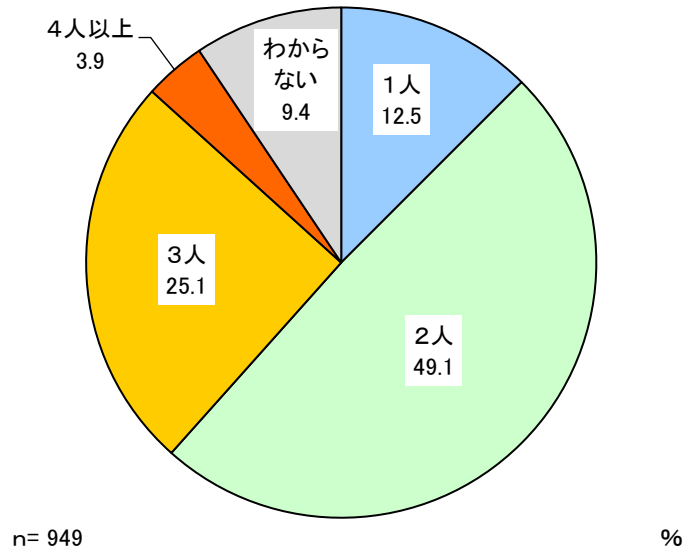


【世帯年収別】

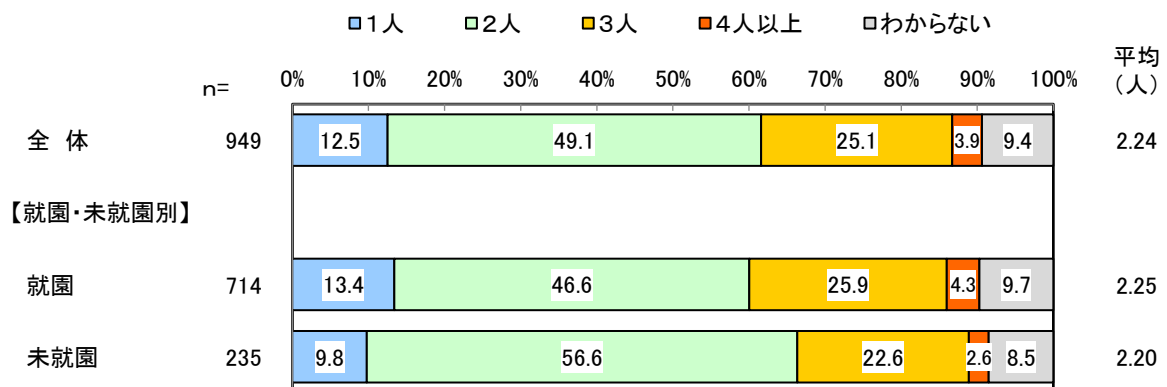
世帯年収別で見ると、500万円～700万円未満は「3人」が51.3%と高く、平均でも2.61人と他の層よりも多くなっている。

問 25 あなたの子どもの数について、最終的に何人を予定していますか (予定の子どもの数)。

子どもの最終的な予定数は、「2人」が49.1%で最も高く、次いで「3人」が25.1%、「わからない」が9.4%となっている。平均は2.24人となっている。



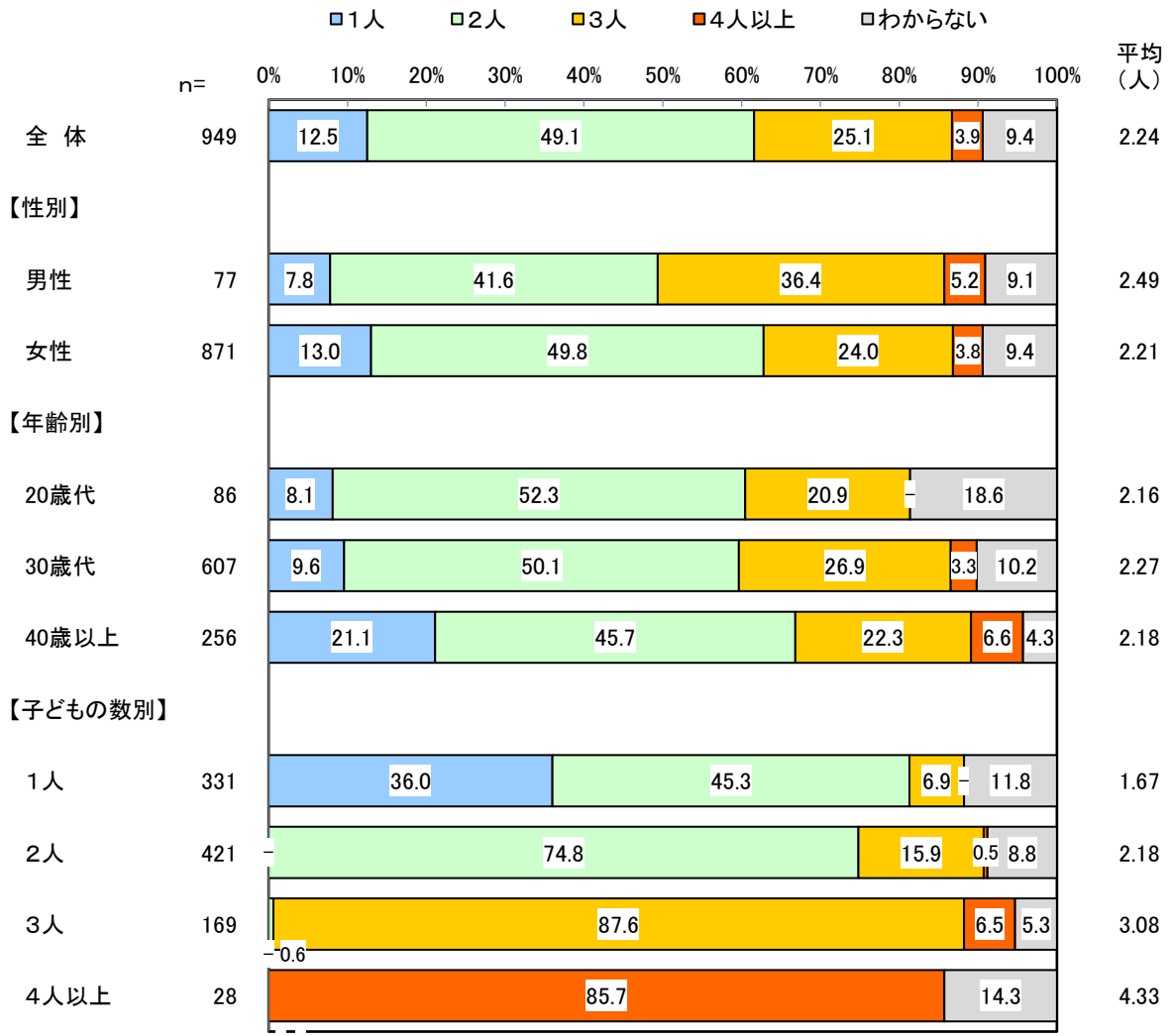
予定の子どもの数 (就園・未就園別)



【就園・未就園別】

就園・未就園別で見ると、未就園は就園よりも「2人」が10.0ポイント高くなっている。

予定の子どもの数（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「2人」が8.2ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「3人」が12.4ポイント高くなっている。平均では男性が女性よりも0.28人多くなっている。

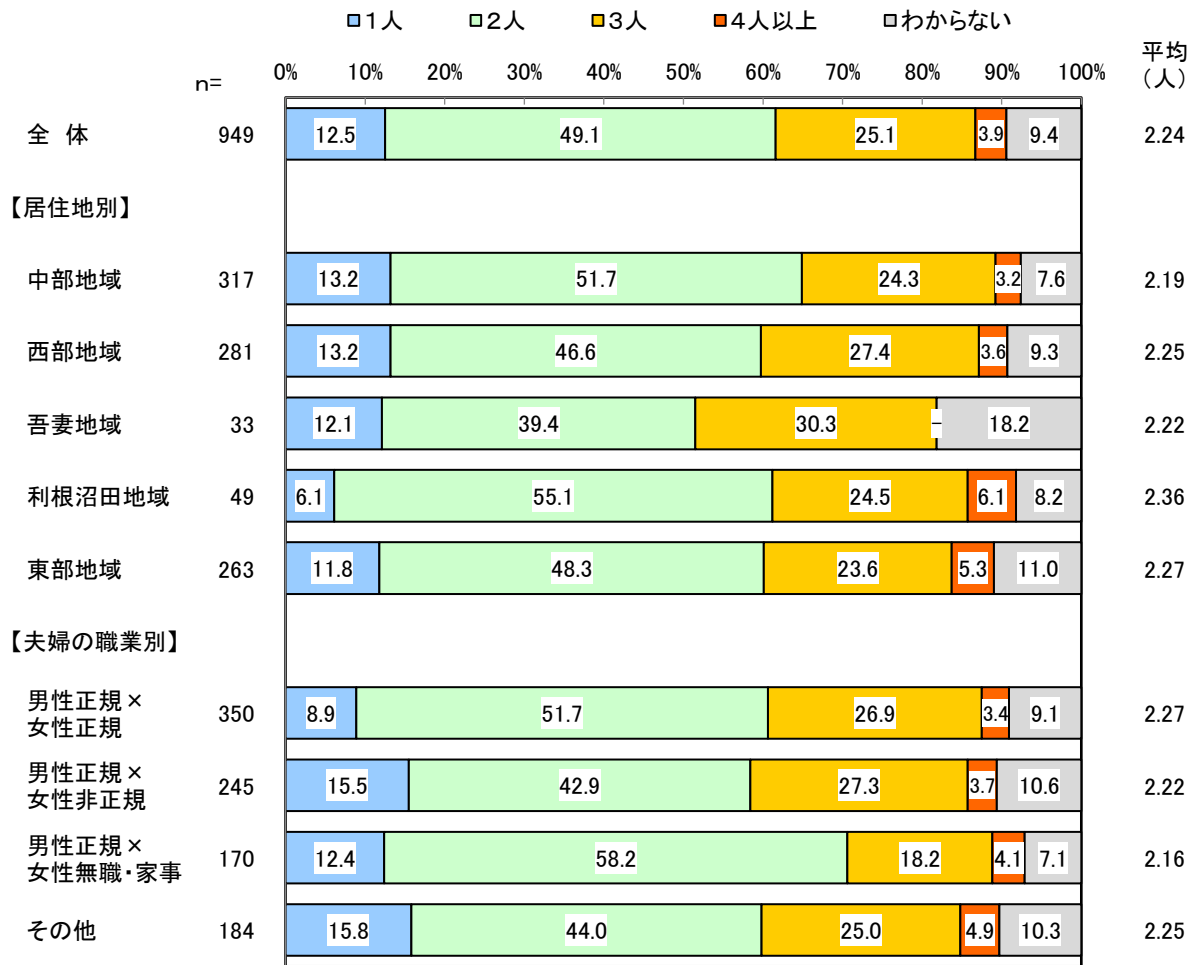
【年齢別】

年齢別でみると、「2人」は20歳代で52.3%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。一方、「1人」は40歳以上で21.1%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、2人以上ではおおむね現在の数と最終的な予定数が一致している。一方、1人では一致しているのは36.0%で、「2人」が45.3%と高くなっている。

予定の子どもの数（居住地別、夫婦の職業別）



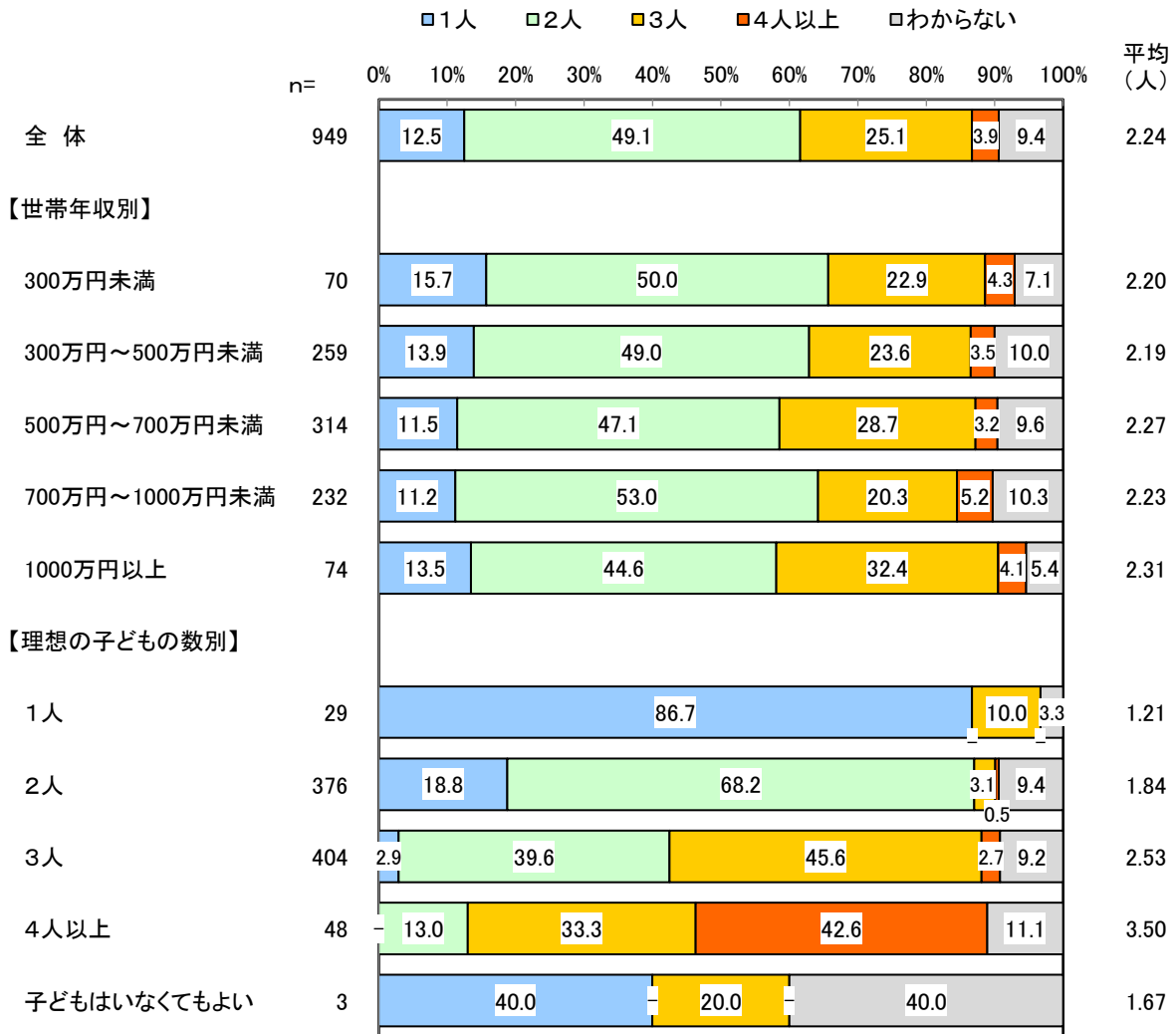
【居住地別】

居住地別でみると、「2人」は利根沼田地域で 55.1%、中部地域で 51.7%と高くなっている。「3人」は吾妻地域で 30.3%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「2人」は男性正規×女性無職・家事で 58.2%と高くなっている。

予定の子どもの数（世帯年収別、理想の子どもの数別）



※母数が20未満の項目は参考値とする。

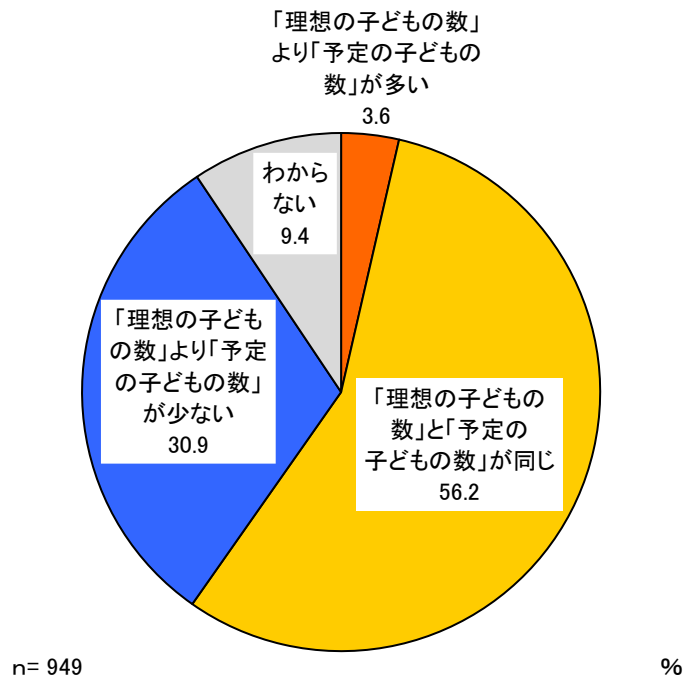
【世帯年収別】

世帯年収別で見ると、1000万円以上は「3人」が32.4%と高く、平均でも2.31人と多くなっている。「2人」は700万円～1000万円未満で53.0%と高くなっている。

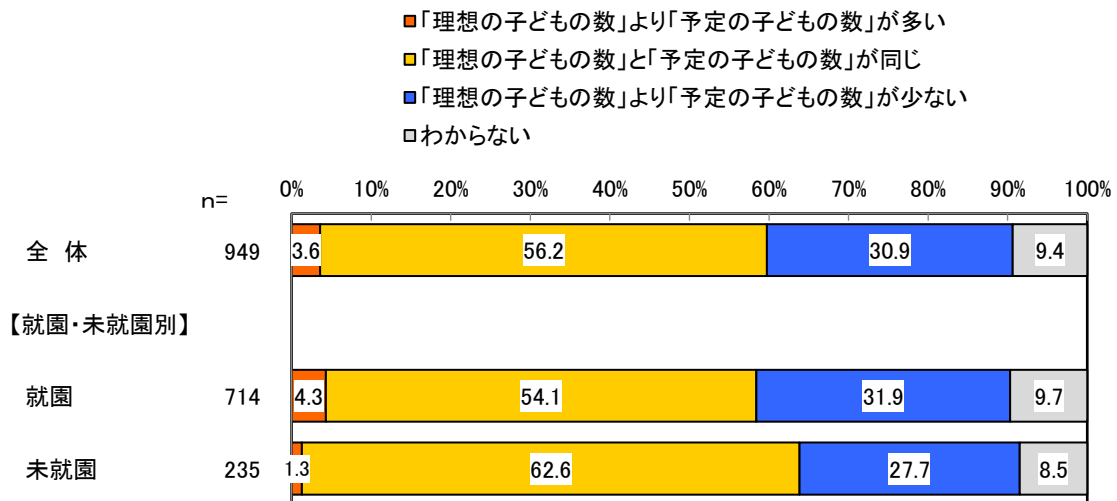
【理想の子どもの数別】

理想の子どもの数別で見ると、理想と予定の子どもの数は概ね一致しているが、理想1人は平均1.21人で、理想より予定の子どもの数が多くなっている。一方、理想2人以上は理想より予定の子どもの数の平均人数が少なくなっている。

理想の子どもの数と予定の子どもの数を比較すると、『理想の子どもの数』と『予定の子どもの数』が同じが56.2%で最も高く、『理想の子どもの数』より『予定の子どもの数』が少ないが30.9%、『理想の子どもの数』より『予定の子どもの数』が多いが3.6%となっている。



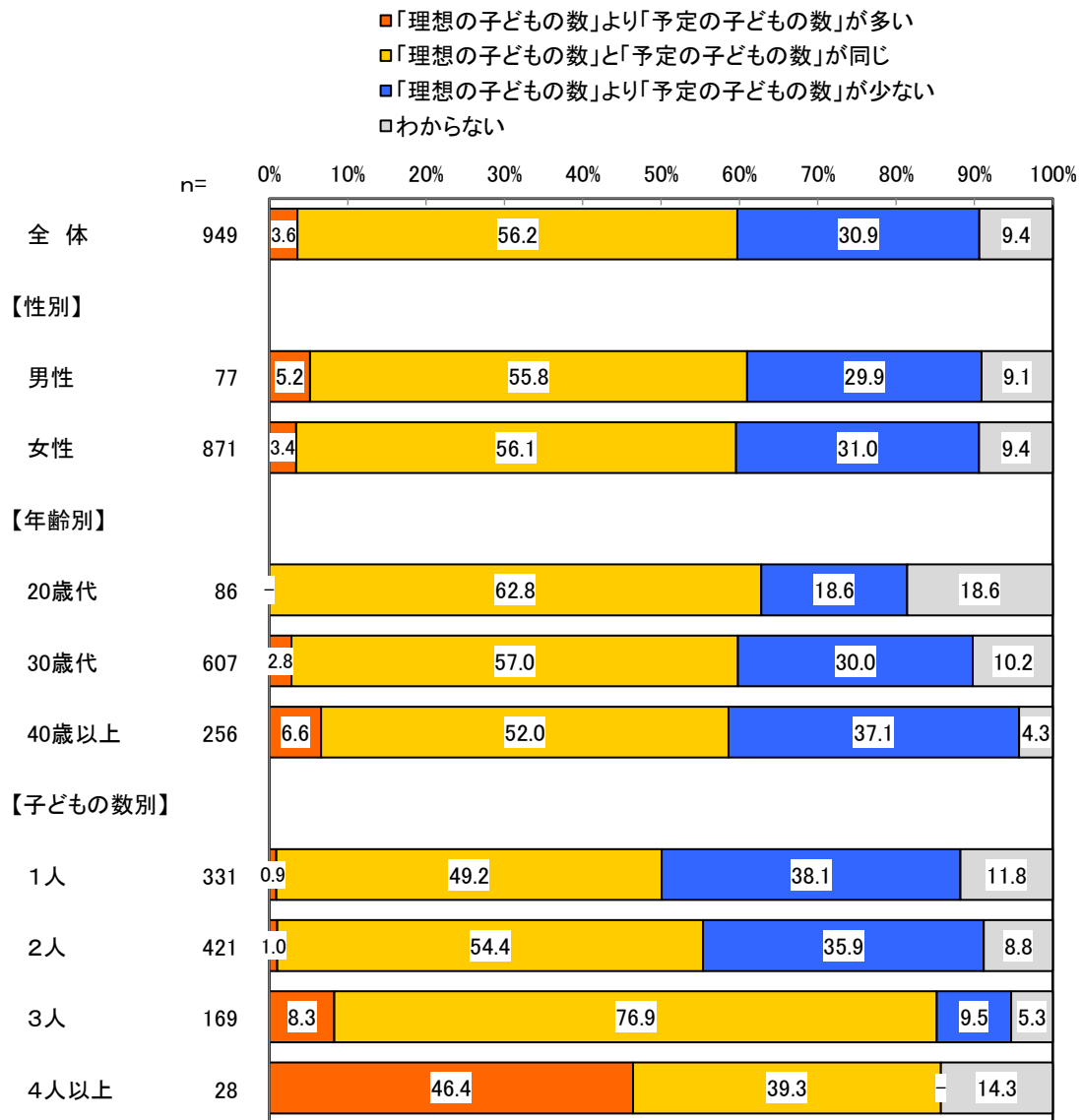
理想と予定の子どもの数（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも『理想の子どもの数』と『予定の子どもの数』が同じが8.5ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも『理想の子どもの数』より『予定の子どもの数』が少ないが4.2ポイント高くなっている。

理想と予定の子どもの数（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

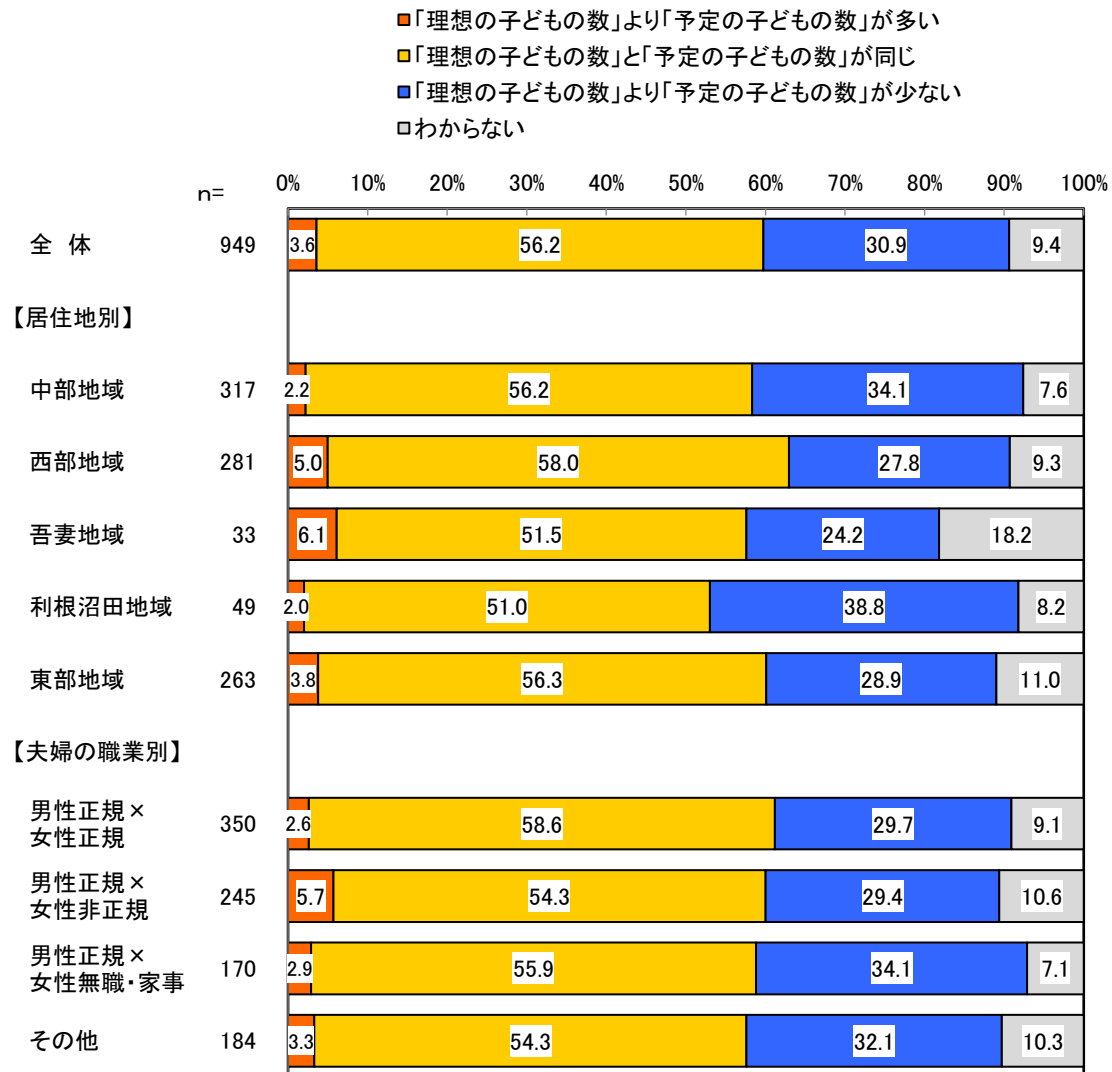
【年齢別】

年齢別でみると、「『理想の子どもの数』と『予定の子どもの数』が同じ」は20歳代で62.8%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。一方、「『理想の子どもの数』より『予定の子どもの数』が少ない」は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で37.1%となっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「『理想の子どもの数』より『予定の子どもの数』が多い」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人以上で46.4%となっている。「『理想の子どもの数』と『予定の子どもの数』が同じ」は3人で76.9%と高くなっている。「『理想の子どもの数』より『予定の子どもの数』が少ない」は1人で38.1%、2人で35.9%と高くなっている。

理想と予定の子どもの数（居住地別、夫婦の職業別）



【居住地別】

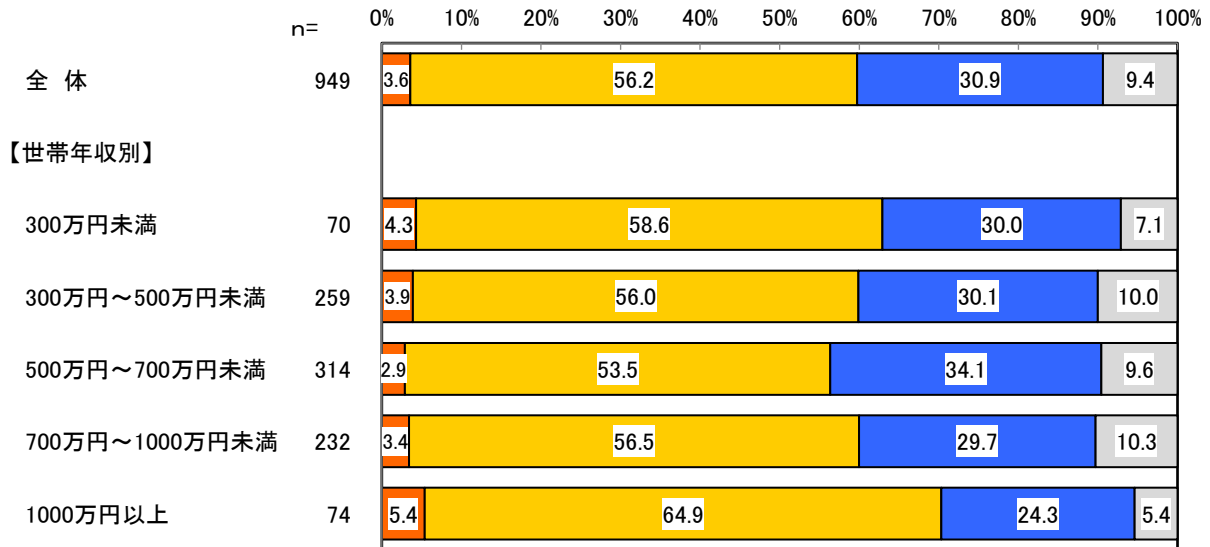
居住地別でみると、『理想の子どもの数』より『予定の子どもの数』が少ないは利根沼田地域で38.8%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、『理想の子どもの数』より『予定の子どもの数』が少ないは男性正規×女性無職・家事で34.1%と高くなっている。

理想と予定の子どもの数（世帯年収別）

- 「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が多い
- 「理想の子どもの数」と「予定の子どもの数」が同じ
- 「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない
- わからない

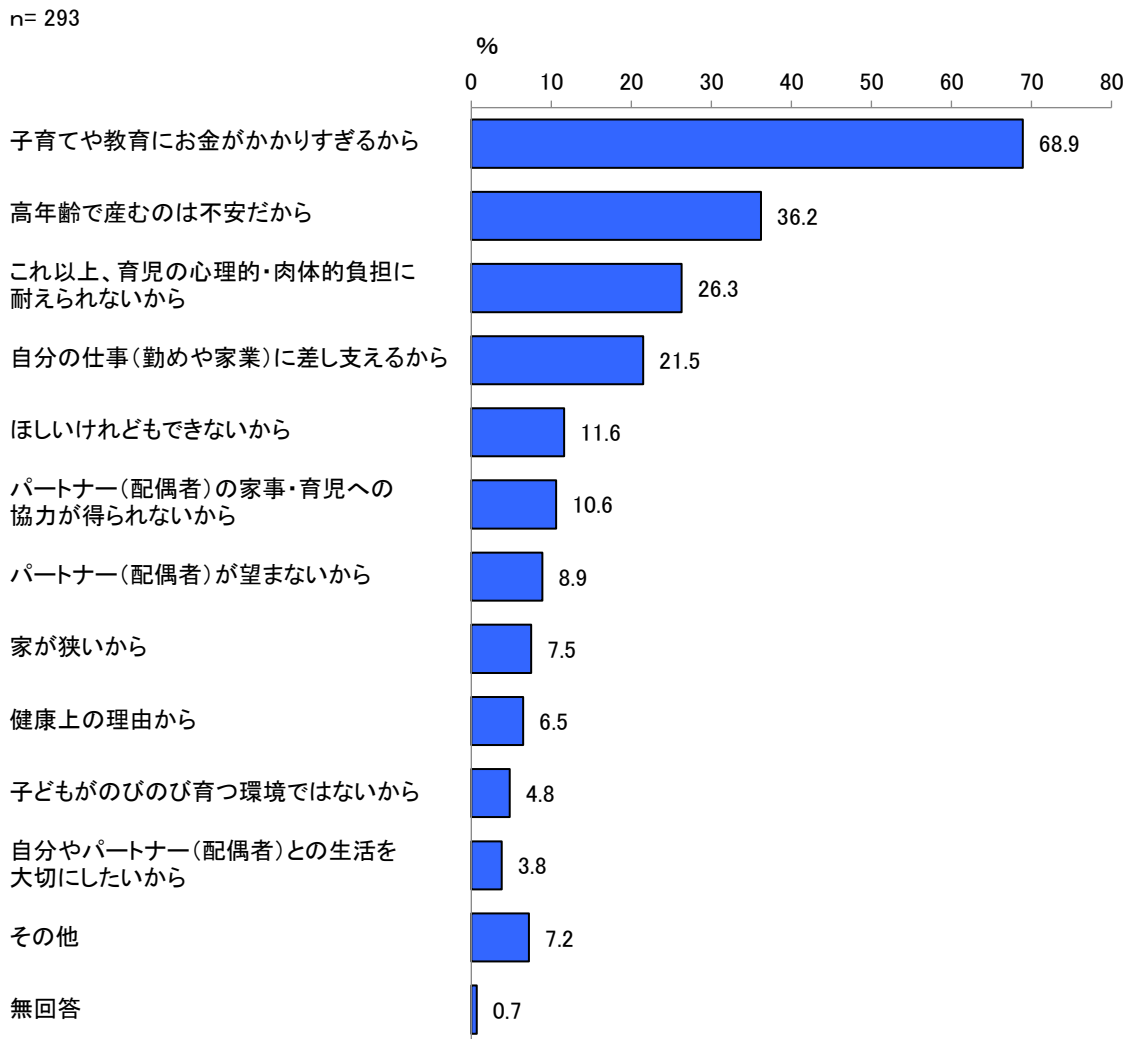


【世帯年収別】

世帯年収別で見ると、「『理想の子どもの数』と『予定の子どもの数』が同じ」は1000万円以上で64.9%と高くなっている。

【問 24 「理想の子どもの数」より問 25 「予定の子どもの数」が少ない人のみにお聞きします。】
 問 26 「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由は何ですか。(回答は3つまで)

「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 68.9%で最も高く、次いで「高年齢で産むのは不安だから」が 36.2%、「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」が 26.3%となっている。



「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由（就園・未就園別）

(%)

	n	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	ほしいけれどもできないから	パートナー（配偶者）の家事・育児への協力が得られないから	パートナー（配偶者）が望まないから
全体	293	68.9	36.2	26.3	21.5	11.6	10.6	8.9
【就園・未就園別】								
就園	228	66.7	36.8	28.1	21.9	11.0	11.0	9.2
未就園	65	76.9	33.8	20.0	20.0	13.8	9.2	7.7

(%)

	n	家が狭いから	健康上の理由から	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分やパートナー（配偶者）との生活を大切にしたいから	その他	無回答
全体	293	7.5	6.5	4.8	3.8	7.2	0.7
【就園・未就園別】							
就園	228	5.7	7.5	3.9	3.1	6.6	0.9
未就園	65	13.8	3.1	7.7	6.2	9.2	-

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が10.2ポイント、「家が狭いから」が8.1ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」が8.1ポイント高くなっている。

「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由（性別、年齢別）

(%)

	n	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	ほしいけれどもできないから	パートナー（配偶者）の家事・育児への協力が得られないから	パートナー（配偶者）が望まないから
全体	293	68.9	36.2	26.3	21.5	11.6	10.6	8.9
【性別】								
男性	23	73.9	26.1	34.8	17.4	-	-	13.0
女性	270	68.5	37.0	25.6	21.9	12.6	11.5	8.5
【年齢別】								
20歳代	16	81.3	-	25.0	12.5	6.3	18.8	6.3
30歳代	182	79.1	21.4	29.1	25.8	8.2	12.1	11.0
40歳以上	95	47.4	70.5	21.1	14.7	18.9	6.3	5.3

(%)

	n	家が狭いから	健康上の理由から	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分やパートナー（配偶者）との生活を大切にしたいから	その他	無回答
全体	293	7.5	6.5	4.8	3.8	7.2	0.7
【性別】							
男性	23	21.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
女性	270	6.3	6.7	4.8	3.7	7.4	0.4
【年齢別】							
20歳代	16	12.5	12.5	12.5	-	6.3	-
30歳代	182	9.3	3.8	6.0	4.9	8.2	-
40歳以上	95	3.2	10.5	1.1	2.1	5.3	2.1

※母数が20未満の項目は参考値とする。

【性別】

性別でみると、男性は女性よりも「家が狭いから」が15.4ポイント、「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」が9.2ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「高齢で産むのは不安だから」が10.9ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は30歳代で79.1%と高くなっている。一方、「高齢で産むのは不安だから」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で70.5%となっている。

「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由（子どもの数別）

(%)

	n	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	ほしいけれどもできないから	パートナー（配偶者）の家事・育児への協力が得られないから	パートナー（配偶者）が望まないから
全体	293	68.9	36.2	26.3	21.5	11.6	10.6	8.9
【子どもの数別】								
1人	126	57.1	39.7	27.0	15.9	17.5	11.1	6.3
2人	151	78.8	35.8	24.5	23.2	7.9	9.9	11.3
3人	16	68.8	12.5	37.5	50.0	-	12.5	6.3
4人以上	0	-	-	-	-	-	-	-

(%)

	n	家が狭いから	健康上の理由から	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分やパートナー（配偶者）との生活を大切にしたいから	その他	無回答
全体	293	7.5	6.5	4.8	3.8	7.2	0.7
【子どもの数別】							
1人	126	3.2	7.1	4.8	4.8	8.7	1.6
2人	151	10.6	6.0	5.3	3.3	5.3	-
3人	16	12.5	6.3	-	-	12.5	-
4人以上	0	-	-	-	-	-	-

※母数が20未満の項目は参考値とする。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は2人で78.8%と高くなっている。

「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由（居住地別）

(%)

	n	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	ほしいけれどもできないから	パートナー（配偶者）の家事・育児への協力が得られないから	パートナー（配偶者）が望まないから
全体	293	68.9	36.2	26.3	21.5	11.6	10.6	8.9
【居住地別】								
中部地域	108	65.7	36.1	26.9	22.2	10.2	10.2	9.3
西部地域	78	67.9	38.5	29.5	21.8	9.0	10.3	9.0
吾妻地域	8	100.0	25.0	12.5	37.5	12.5	12.5	-
利根沼田地域	19	73.7	42.1	31.6	26.3	5.3	10.5	5.3
東部地域	76	72.4	31.6	21.1	18.4	15.8	10.5	10.5

(%)

	n	家が狭いから	健康上の理由から	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分やパートナー（配偶者）との生活を大切にしたいから	その他	無回答
全体	293	7.5	6.5	4.8	3.8	7.2	0.7
【居住地別】							
中部地域	108	8.3	5.6	3.7	2.8	10.2	-
西部地域	78	7.7	9.0	6.4	6.4	5.1	2.6
吾妻地域	8	-	-	12.5	12.5	-	-
利根沼田地域	19	5.3	10.5	15.8	-	-	-
東部地域	76	7.9	3.9	1.3	2.6	7.9	-

※母数が20未満の項目は参考値とする。

【居住地別】

居住地別でみると、地域による大きな差はみられない。

「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由（夫婦の職業別）

(%)

	n	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高年齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	ほしいけれどもできないから	パートナー（配偶者）の家事・育児への協力が得られないから	パートナー（配偶者）が望まないから
全体	293	68.9	36.2	26.3	21.5	11.6	10.6	8.9
【夫婦の職業別】								
男性正規×女性正規	104	71.2	30.8	26.0	28.8	9.6	5.8	12.5
男性正規×女性非正規	72	75.0	33.3	23.6	19.4	13.9	9.7	5.6
男性正規×女性無職・家事	58	70.7	44.8	22.4	8.6	12.1	17.2	12.1
その他	59	55.9	40.7	33.9	23.7	11.9	13.6	3.4

(%)

	n	家が狭いから	健康上の理由から	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分やパートナー（配偶者）との生活を大切にしたいから	その他	無回答
全体	293	7.5	6.5	4.8	3.8	7.2	0.7
【夫婦の職業別】							
男性正規×女性正規	104	9.6	6.7	6.7	4.8	6.7	1.0
男性正規×女性非正規	72	2.8	5.6	5.6	1.4	6.9	-
男性正規×女性無職・家事	58	10.3	8.6	-	5.2	10.3	-
その他	59	6.8	5.1	5.1	3.4	5.1	1.7

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は男性正規×女性非正規で75.0%と高くなっている。「高年齢で産むのは不安だから」は男性正規×女性無職・家事で44.8%と高くなっている。「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」は男性正規×女性正規で28.8%と高くなっている。

「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由（世帯年収別）

(%)

	n	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高年齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから	ほしいけれどもできないから	パートナー(配偶者)の家事・育児への協力が得られないから	パートナー(配偶者)が望まないから
全体	293	68.9	36.2	26.3	21.5	11.6	10.6	8.9
【世帯年収別】								
300万円未満	21	66.7	33.3	23.8	9.5	9.5	9.5	-
300万円～500万円未満	78	75.6	37.2	24.4	12.8	15.4	10.3	9.0
500万円～700万円未満	107	69.2	35.5	27.1	23.4	8.4	13.1	8.4
700万円～1000万円未満	69	71.0	31.9	29.0	27.5	13.0	8.7	13.0
1000万円以上	18	33.3	55.6	22.2	38.9	11.1	5.6	5.6

(%)

	n	家が狭いから	健康上の理由から	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分やパートナー(配偶者)との生活を大切にしたいから	その他	無回答
全体	293	7.5	6.5	4.8	3.8	7.2	0.7
【世帯年収別】							
300万円未満	21	4.8	19.0	4.8	-	9.5	-
300万円～500万円未満	78	9.0	5.1	7.7	1.3	6.4	1.3
500万円～700万円未満	107	6.5	6.5	2.8	3.7	9.3	0.9
700万円～1000万円未満	69	10.1	4.3	4.3	8.7	4.3	-
1000万円以上	18	-	5.6	5.6	-	5.6	-

※母数が20未満の項目は参考値とする。

【世帯年収別】

世帯年収別で見ると、「自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから」は年収が上がるほど高くなり、700万円～1000万円未満で27.5%となっている。

「理想の子どもの数」より「予定の子どもの数」が少ない理由（子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

	n	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	ほしいけれどもできないから	パートナー（配偶者）の家事・育児への協力が得られないから	パートナー（配偶者）が望まないから
全体	293	68.9	36.2	26.3	21.5	11.6	10.6	8.9
【子どもを産み育てやすい環境か別】								
感じている	28	60.7	39.3	10.7	17.9	14.3	14.3	17.9
まあ感じている	159	66.0	39.6	22.0	16.4	11.3	9.4	8.2
あまり感じていない	81	71.6	32.1	35.8	28.4	13.6	12.3	4.9
感じていない	25	88.0	24.0	40.0	36.0	4.0	8.0	16.0

(%)

	n	家が狭いから	健康上の理由から	子どもがのびのび育つ環境ではないから	自分やパートナー（配偶者）との生活を大切にしたいから	その他	無回答
全体	293	7.5	6.5	4.8	3.8	7.2	0.7
【子どもを産み育てやすい環境か別】							
感じている	28	10.7	3.6	3.6		7.1	
まあ感じている	159	5.0	6.9	1.9	4.4	5.7	1.3
あまり感じていない	81	8.6	8.6	6.2	2.5	9.9	
感じていない	25	16.0		20.0	8.0	8.0	

【子どもを産み育てやすい環境か別】

子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は産み育てやすいと感じていないほど高く、“感じていない”で88.0%となっている。「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」や「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」も同様の傾向がみられる。一方、「高齢で産むのは不安だから」は“まあ感じている”で39.6%、“感じている”で39.3%と高くなっている。

5 子育てと仕事について

問 27 あなたは、自分自身の仕事と子育てについて、どのように考えますか。

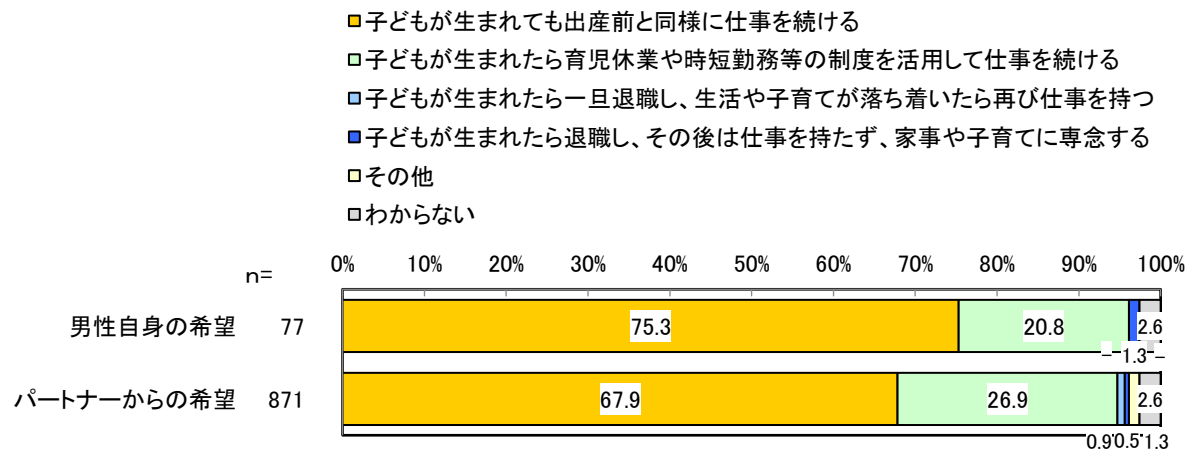
問 28 あなたは、パートナー（夫や妻など）の仕事と子育てについて、どのような希望がありますか。

【男性の希望、パートナー（女性）からの希望】

男性自身の仕事と子育てについての考えは、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が75.3%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が20.8%となっている。

女性がパートナーに望む仕事と子育てについては、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が67.9%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が26.9%となっている。

男性自身の希望と女性から男性への希望を比較すると、男性は女性よりも「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が7.4ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が6.1ポイント高くなっている。

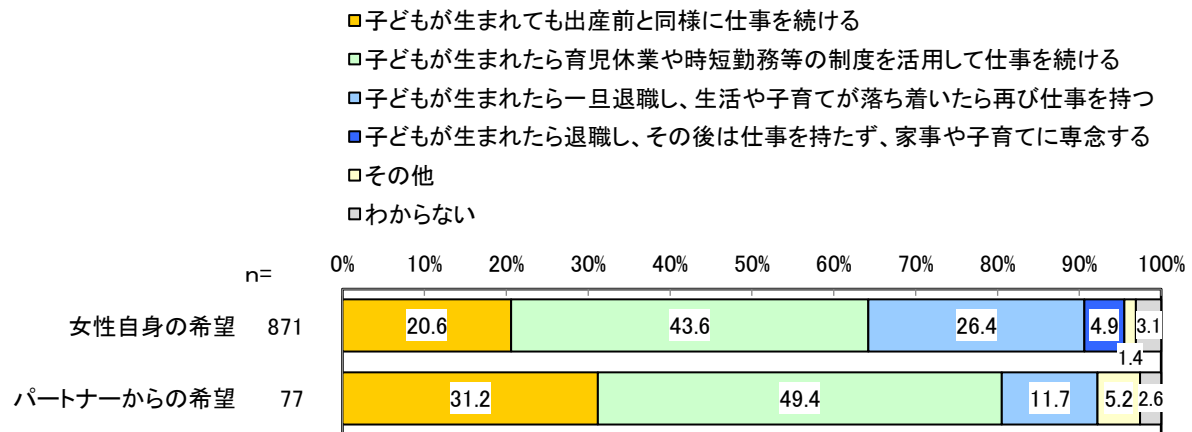


【女性の希望、パートナー（男性）からの希望】

女性自身の仕事と子育てについての考えは、「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が43.6%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が26.4%、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が20.6%となっている。

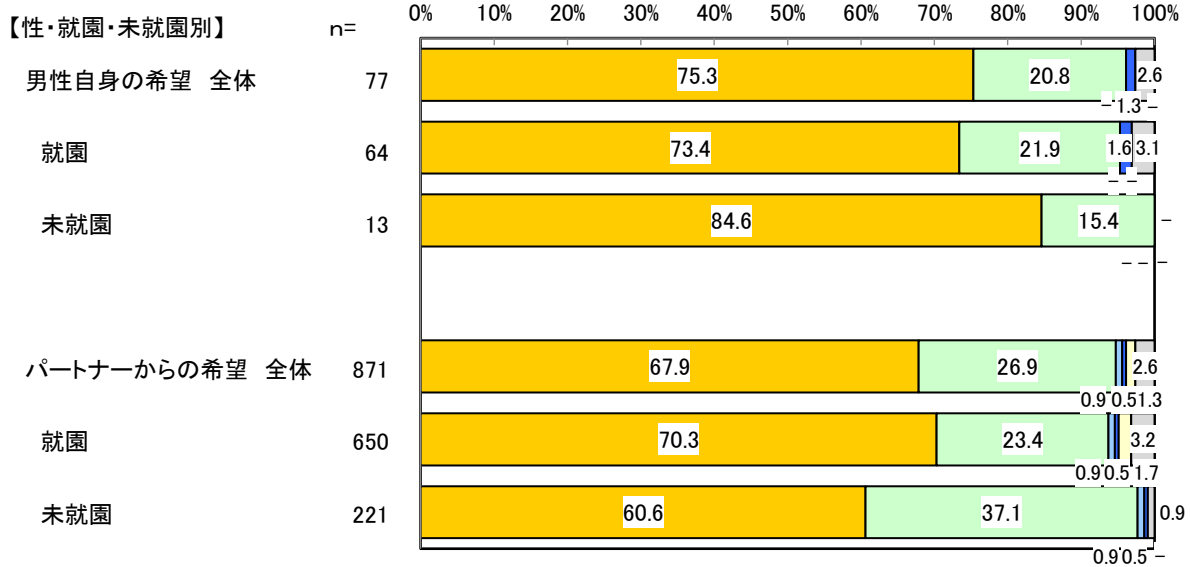
男性がパートナーに望む仕事と子育てについては、「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が49.4%で最も高く、次いで「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が31.2%、「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が11.7%となっている。

女性自身の希望と男性から女性への希望を比較すると、女性は男性よりも「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が14.7ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が10.6ポイント、「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が5.8ポイント高くなっている。



男性の仕事と子育てについて（性・就園・未就園別）

- 子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける
- 子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける
- 子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ
- 子どもが生まれたら退職し、その後は仕事を持たず、家事や子育てに専念する
- その他
- わからない

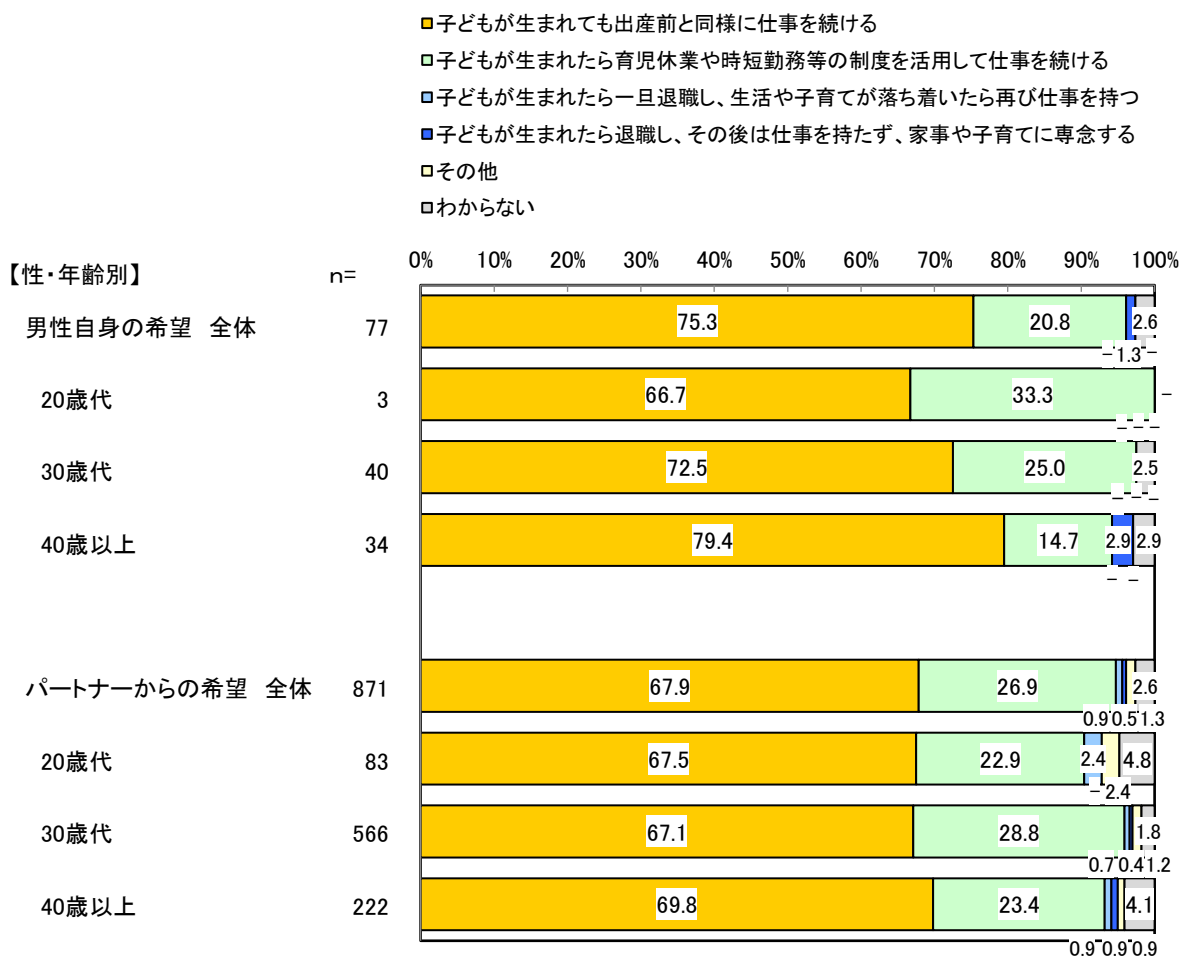


※母数が 20 未満の項目は参考値とする。

【性・就園・未就園別】

男性について性・就園・未就園別で見ると、就園では男女間に大きな差はみられない。

男性の仕事と子育てについて（性・年齢別）

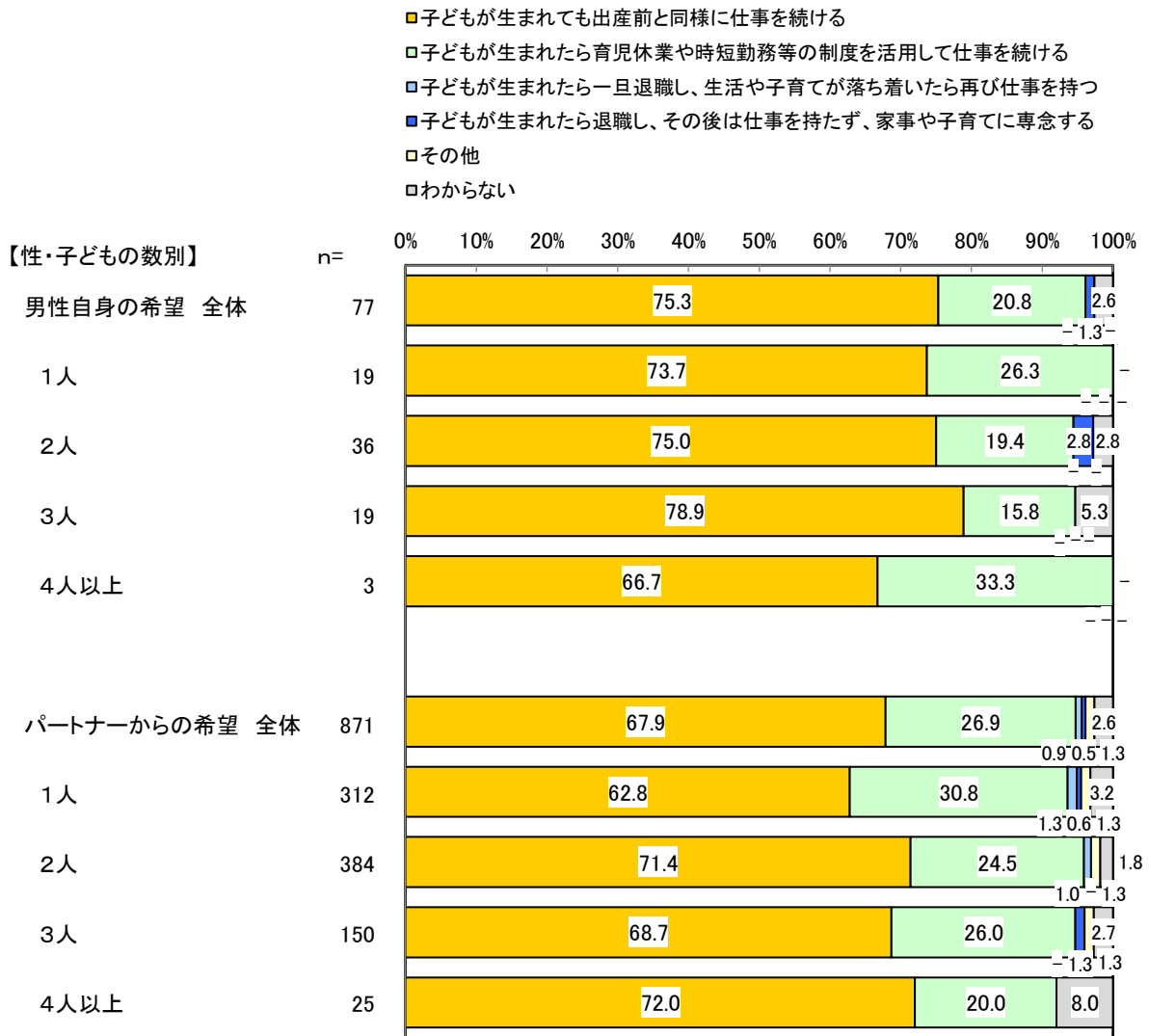


※母数が 20 未満の項目は参考値とする。

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」は男性 40 歳以上が女性 40 歳以上よりも 9.6 ポイント、男性 30 歳代が女性 30 歳代よりも 5.4 ポイント高くなっている。一方、「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」は女性 40 歳以上が男性 40 歳以上よりも 8.7 ポイント高くなっている。

男性の仕事と子育てについて（性・子どもの数別）

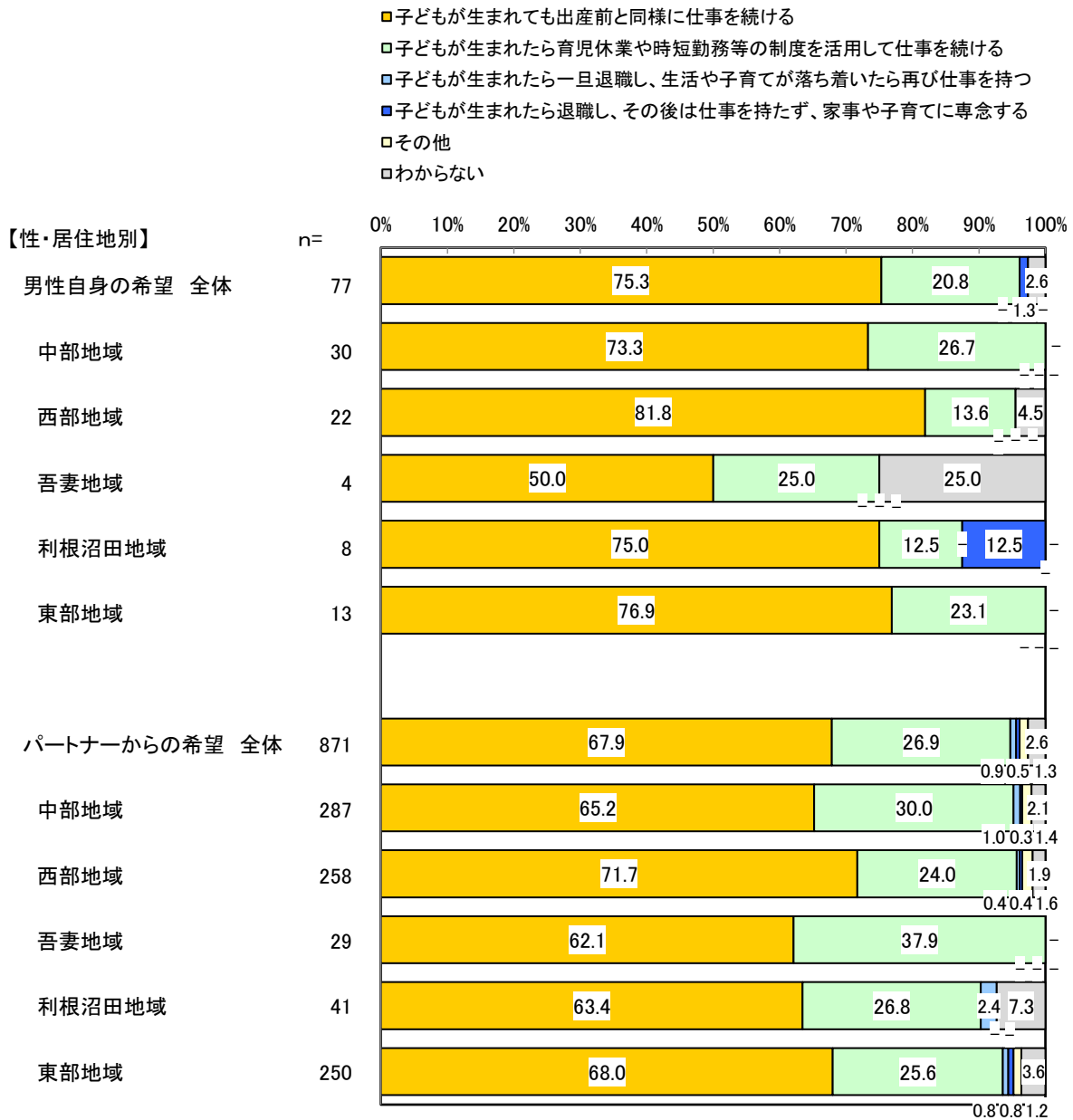


※母数が20未満の項目は参考値とする。

【性・子どもの数別】

性・子どもの数別で見ると、女性は男性よりも「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が2人で5.1ポイント高くなっている。

男性の仕事と子育てについて（性・居住地別）

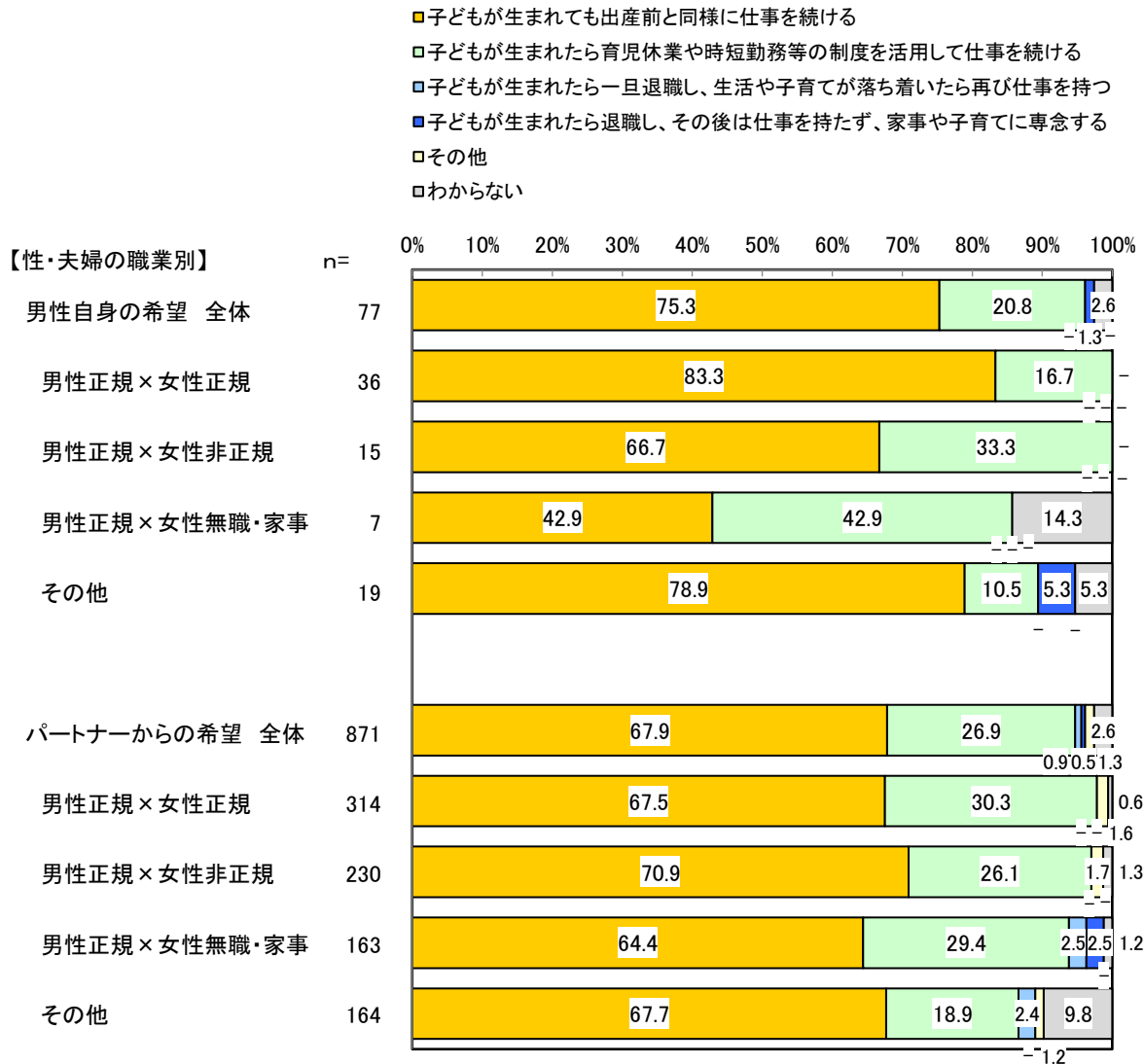


※母数が 20 未満の項目は参考値とする。

【性・居住地別】

性・居住地別でみると、男性は女性よりも「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が西部地域で 10.1 ポイント、中部地域で 8.1 ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が西部地域で 10.4 ポイント高くなっている。

男性の仕事と子育てについて（性・夫婦の職業別）

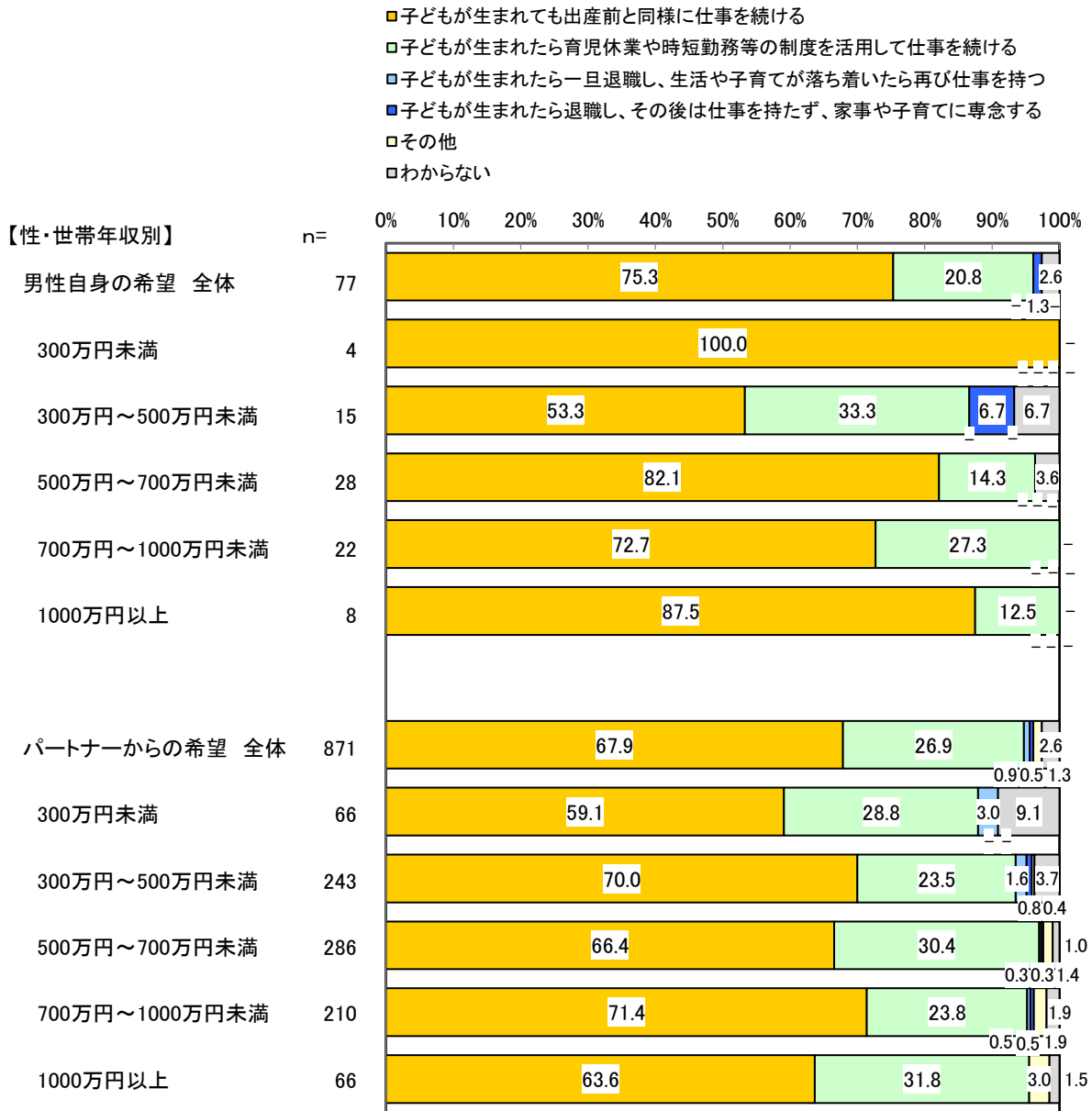


※母数が 20 未満の項目は参考値とする。

【性・夫婦の職業別】

性・夫婦の職業別で見ると、男性は女性よりも「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が男性正規×女性正規で 15.8 ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が男性正規×女性正規で 13.6 ポイント高くなっている。

男性の仕事と子育てについて（性・世帯年収別）

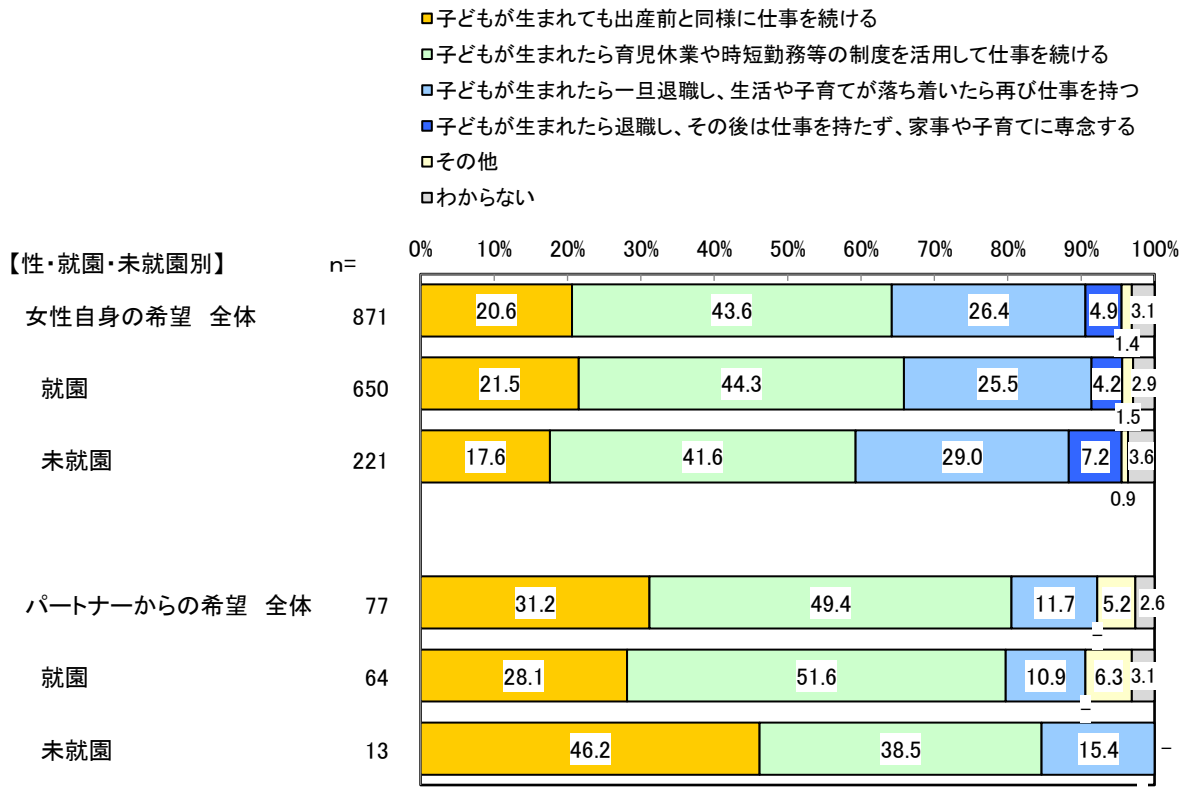


※母数が20未満の項目は参考値とする。

【性・世帯年収別】

性・世帯年収別で見ると、男性は女性よりも「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が500万円～700万円未満で15.7ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が500万円～700万円未満で16.1ポイント高くなっている。

女性の仕事と子育てについて（性・就園・未就園別）



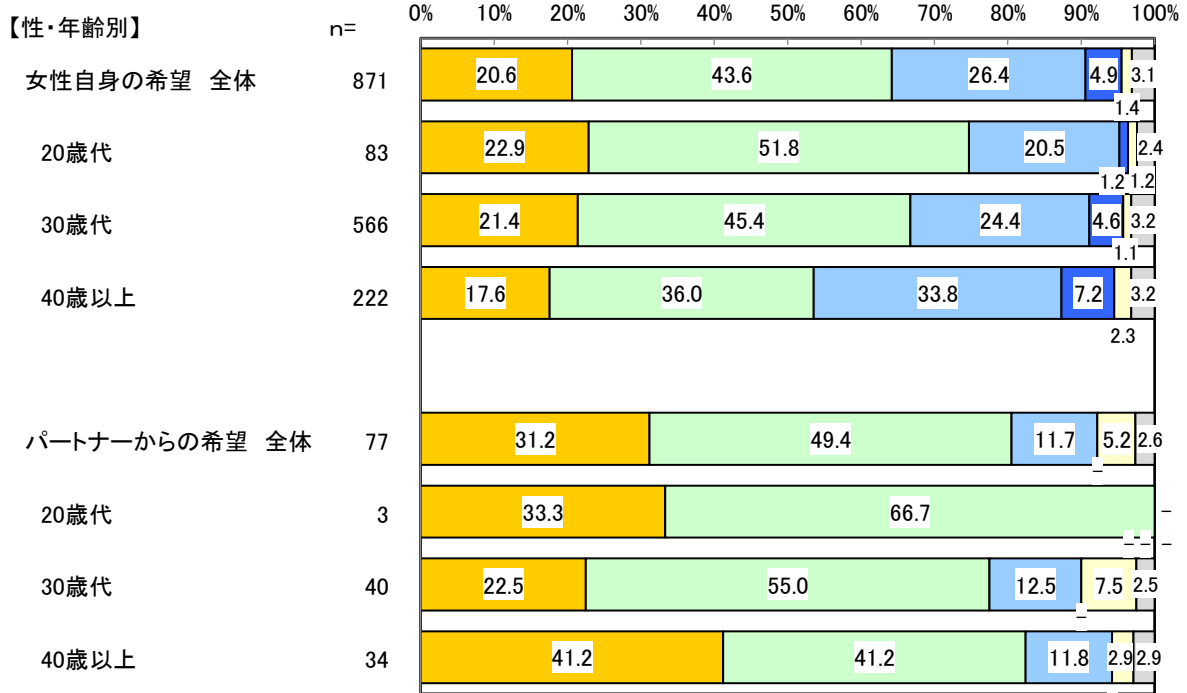
※母数が 20 未満の項目は参考値とする。

【性・就園・未就園別】

女性について性・就園・未就園別で見ると、就園の男性は女性よりも「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が 6.6 ポイント、「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が 7.3 ポイント高くなっている。一方、就園の女性は男性よりも「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が 14.6 ポイント高くなっている。

女性の仕事と子育てについて（性・年齢別）

- 子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける
- 子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける
- 子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ
- 子どもが生まれたら退職し、その後は仕事を持たず、家事や子育てに専念する
- その他
- わからない



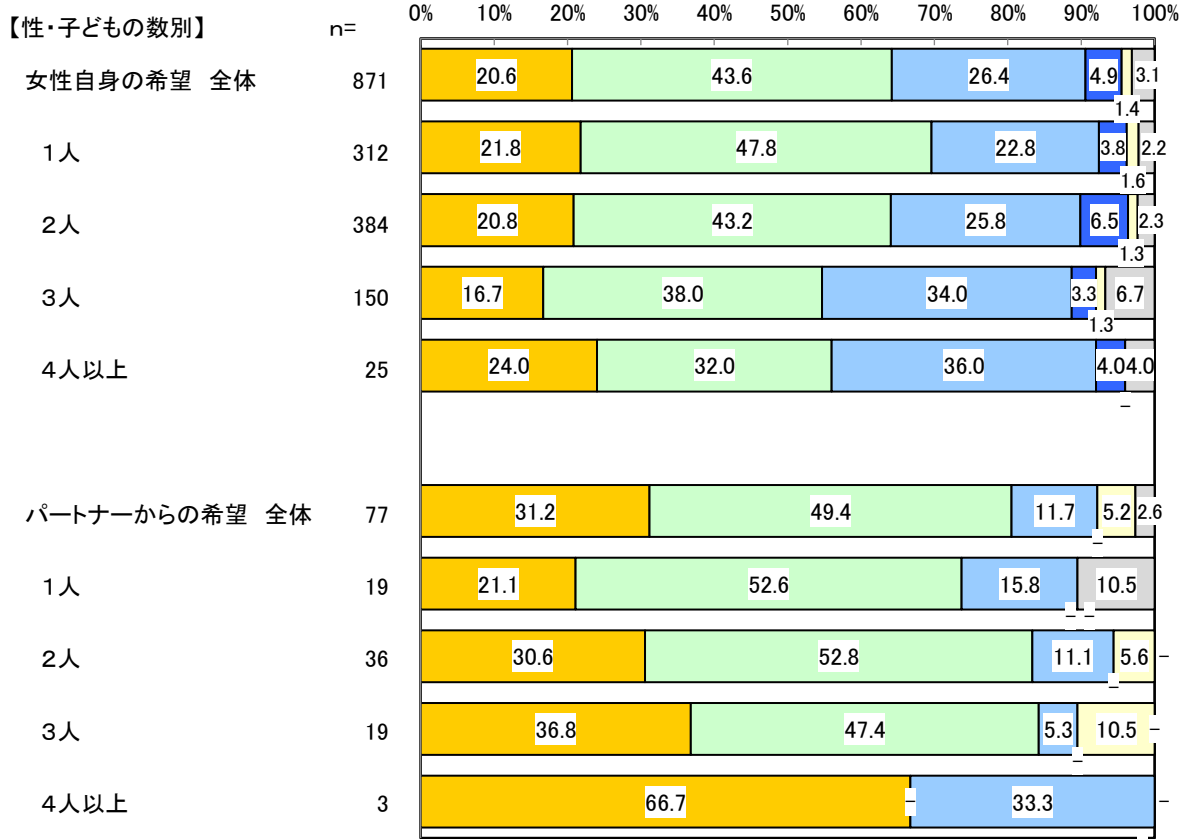
※母数が20未満の項目は参考値とする。

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」は男性40歳以上が女性40歳以上よりも23.6ポイント高くなっている。「結婚し、子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」は男性30歳代が女性30歳代よりも9.6ポイント高くなっている。一方、「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」は女性40歳以上が男性40歳以上よりも22.0ポイント、女性30歳代が男性30歳代よりも11.9ポイント高くなっている。

女性の仕事と子育てについて（性・子どもの数別）

- 子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける
- 子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける
- 子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ
- 子どもが生まれたら退職し、その後は仕事を持たず、家事や子育てに専念する
- その他
- わからない

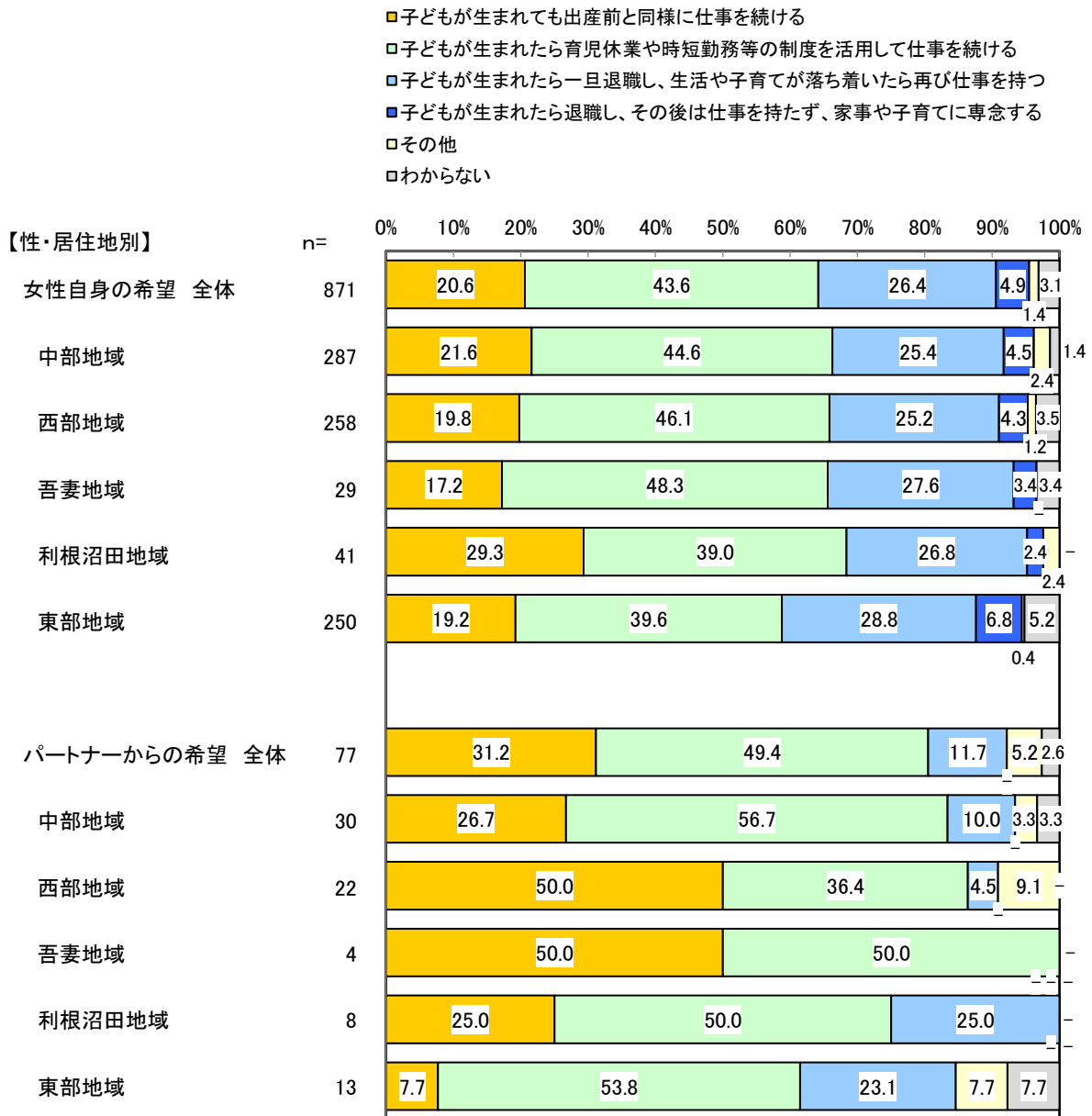


※母数が20未満の項目は参考値とする。

【性・子どもの数別】

性・子どもの数別で見ると、子ども2人において、男性は女性よりも「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が9.8ポイント、「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が9.6ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が14.7ポイント高くなっている。

女性の仕事と子育てについて（性・居住地別）

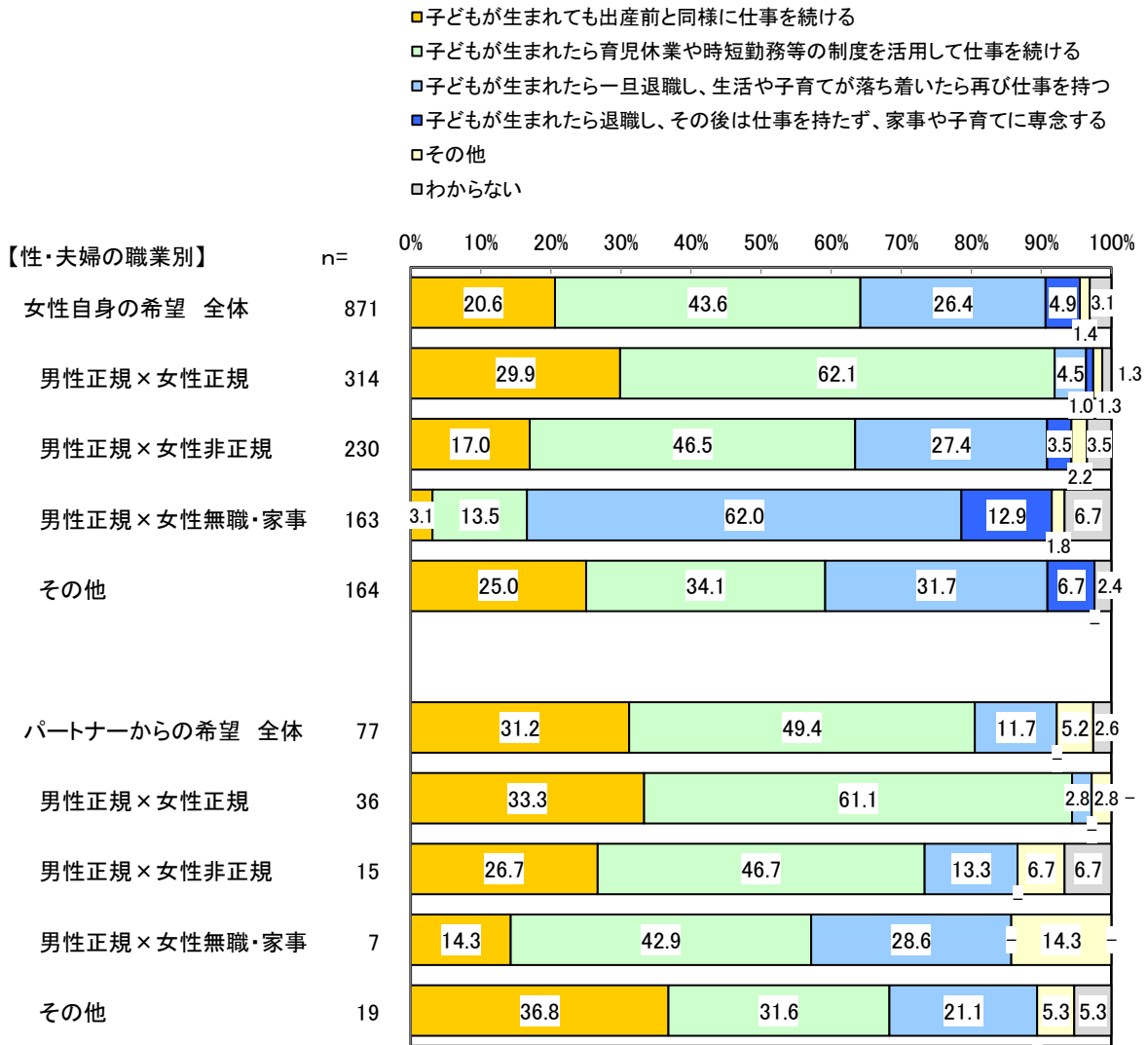


※母数が 20 未満の項目は参考値とする。

【性・居住地別】

性・居住地別でみると、男性は女性よりも「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が西部地域で 30.2 ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が西部地域で 20.7 ポイント、中部地域で 15.4 ポイント高くなっている。「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」は中部地域では男性が女性よりも 12.1 ポイント高いが、西部地域では女性が男性よりも 9.7 ポイント高くなっている。

女性の仕事と子育てについて（性・夫婦の職業別）



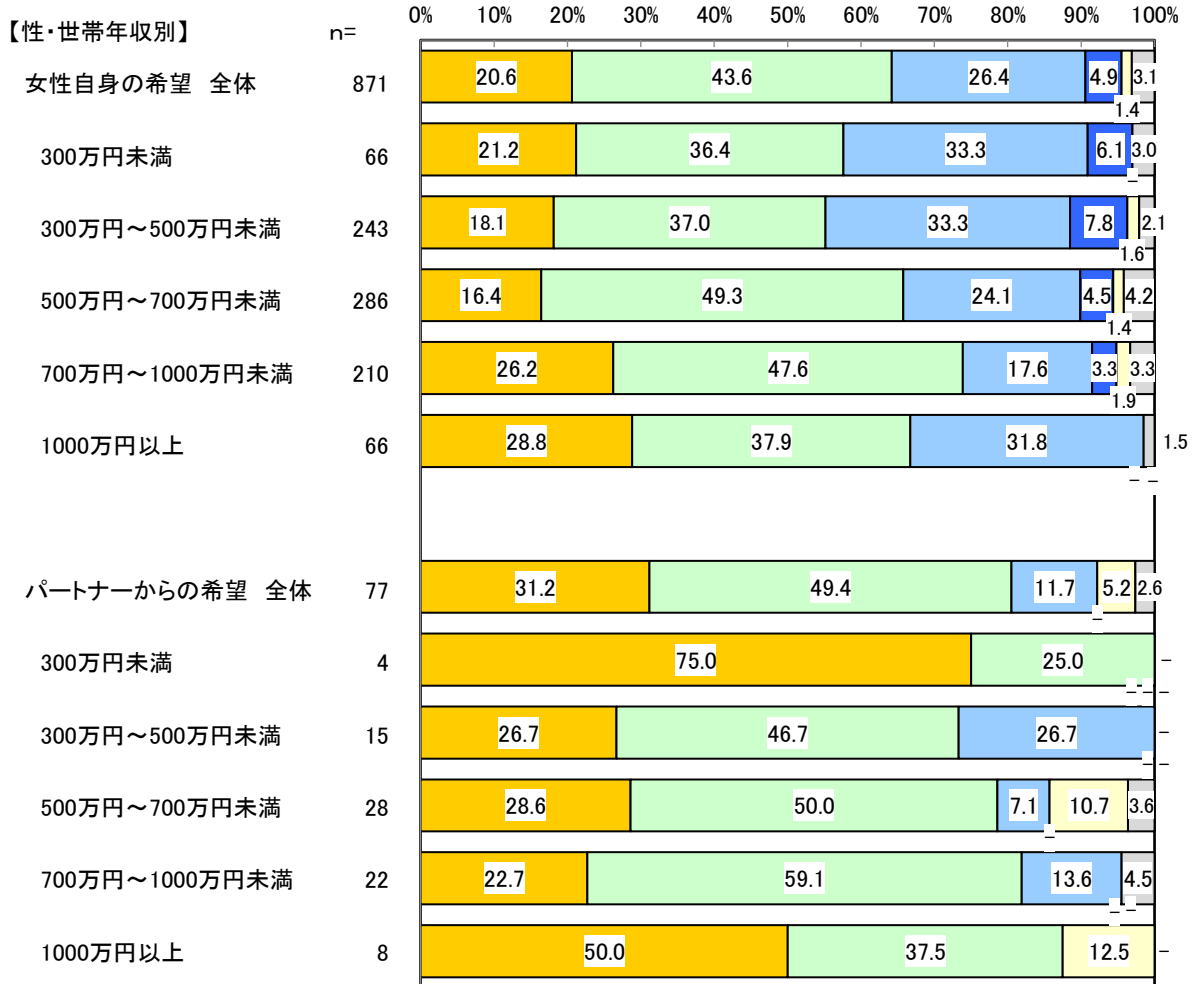
※母数が20未満の項目は参考値とする。

【性・夫婦の職業別】

性・夫婦の職業別でみると、男性正規×女性正規では男女間に大きな差はみられない。

女性の仕事と子育てについて（性・世帯年収別）

- 子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける
- 子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける
- 子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ
- 子どもが生まれたら退職し、その後は仕事を持たず、家事や子育てに専念する
- その他
- わからない



※母数が20未満の項目は参考値とする。

【性・世帯年収別】

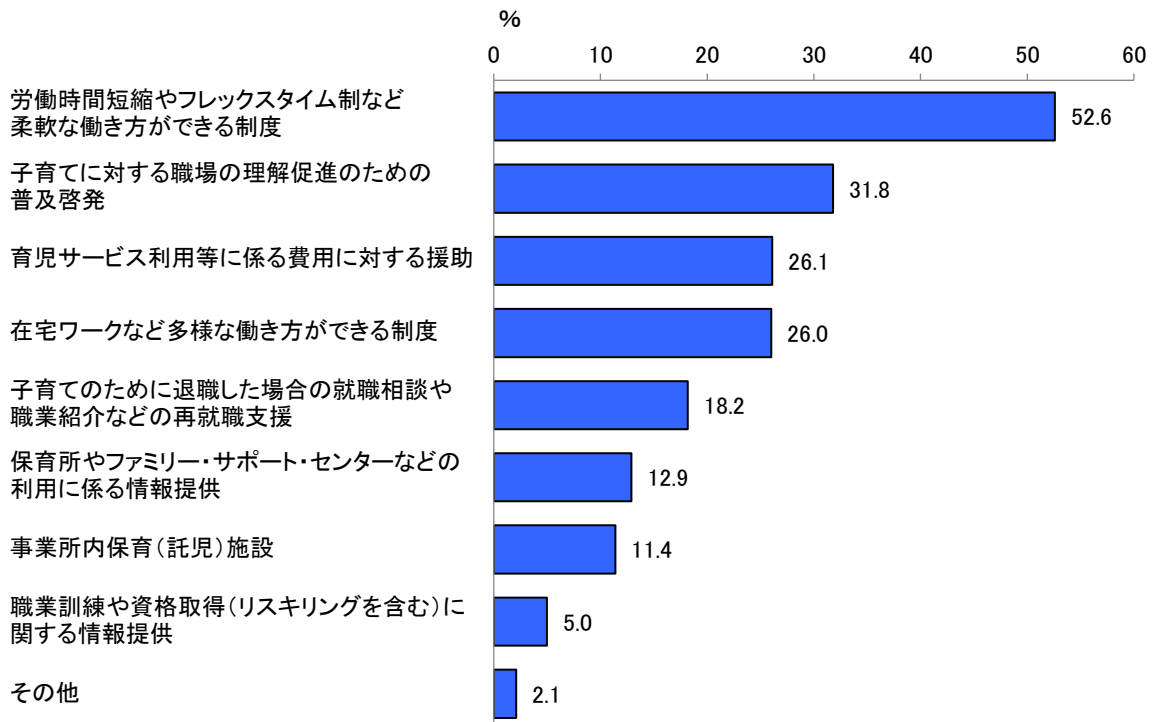
性・世帯年収別で見ると、男性は女性よりも「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が500万円～700万円未満で12.2ポイント、「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が700万円～1000万円未満で11.5ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が500万円～700万円未満で17.0ポイント高くなっている。

問 29 あなたは、仕事と子育ての両立に関して、どのような支援が必要だと思いますか。

(回答は2つまで)

仕事と子育ての両立に関して必要だと思う支援は、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」が52.6%で最も高く、次いで「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」が31.8%、「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」が26.1%となっている。

n= 949



仕事と子育ての両立に関して必要な支援（就園・未就園別）

(%)

	n	労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度	子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発	育児サービス利用等に係る費用に対する援助	在宅ワークなど多様な働き方ができる制度	子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援
全体	949	52.6	31.8	26.1	26.0	18.2
【就園・未就園別】						
就園	714	51.3	31.9	25.5	26.6	17.9
未就園	235	56.6	31.5	28.1	24.3	19.1

(%)

	n	保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供	事業所内保育（託児）施設	職業訓練や資格取得（リスキングを含む）に関する情報提供	その他
全体	949	12.9	11.4	5.0	2.1
【就園・未就園別】					
就園	714	13.6	11.3	5.3	2.2
未就園	235	10.6	11.5	3.8	1.7

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」が5.3ポイント高くなっている。

仕事と子育ての両立に関して必要な支援（性別、年齢別）

(%)

	n	労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度	子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発	育児サービス利用等に係る費用に対する援助	在宅ワークなど多様な働き方ができる制度	子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援
全体	949	52.6	31.8	26.1	26.0	18.2
【性別】						
男性	77	44.2	35.1	37.7	15.6	14.3
女性	871	53.3	31.6	25.0	27.0	18.6
【年齢別】						
20歳代	86	48.8	27.9	23.3	24.4	18.6
30歳代	607	53.2	33.6	24.4	26.7	18.3
40歳以上	256	52.3	28.9	31.3	25.0	18.0

(%)

	n	保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供	事業所内保育(託児)施設	職業訓練や資格取得(リスキングを含む)に関する情報提供	その他
全体	949	12.9	11.4	5.0	2.1
【性別】					
男性	77	15.6	14.3	2.6	2.6
女性	871	12.6	11.1	5.2	2.1
【年齢別】					
20歳代	86	15.1	12.8	5.8	2.3
30歳代	607	13.0	11.0	4.4	2.1
40歳以上	256	11.7	11.7	5.9	2.0

【性別】

性別で見ると、男性は女性よりも「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」が12.7ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「在宅ワークなど多様な働き方ができる制度」が11.4ポイント、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」が9.1ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別で見ると、「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で31.3%となっている。一方、「保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供」は年齢が下がるほど高くなり、20歳代で15.1%となっている。

仕事と子育ての両立に関して必要な支援（子どもの数別）

(%)

	n	労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度	子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発	育児サービス利用等に係る費用に対する援助	在宅ワークなど多様な働き方ができる制度	子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援
全体	949	52.6	31.8	26.1	26.0	18.2
【子どもの数別】						
1人	331	58.0	28.1	26.0	26.0	17.2
2人	421	53.4	32.8	24.0	27.3	20.4
3人	169	44.4	33.7	29.0	25.4	16.0
4人以上	28	25.0	50.0	42.9	10.7	10.7

(%)

	n	保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供	事業所内保育（託児）施設	職業訓練や資格取得（リスクリングを含む）に関する情報提供	その他
全体	949	12.9	11.4	5.0	2.1
【子どもの数別】					
1人	331	13.6	10.6	2.4	2.7
2人	421	12.4	11.2	5.7	1.2
3人	169	13.0	13.6	7.1	2.4
4人以上	28	10.7	10.7	10.7	7.1

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」は子どもの数が減るごとに高くなり、1人で58.0%となっている。一方、「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」は子どもの数が増えるごとに高くなり、4人以上で50.0%となっている。

仕事と子育ての両立に関して必要な支援（居住地別）

(%)

	n	労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度	子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発	育児サービス利用等に係る費用に対する援助	在宅ワークなど多様な働き方ができる制度	子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援
全体	949	52.6	31.8	26.1	26.0	18.2
【居住地別】						
中部地域	317	52.4	36.3	25.2	24.9	15.5
西部地域	281	53.7	30.6	25.6	28.5	16.7
吾妻地域	33	45.5	21.2	27.3	24.2	12.1
利根沼田地域	49	40.8	28.6	38.8	18.4	12.2
東部地域	263	54.4	30.0	24.7	26.6	25.5

(%)

	n	保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供	事業所内保育（託児）施設	職業訓練や資格取得（リスキングを含む）に関する情報提供	その他
全体	949	12.9	11.4	5.0	2.1
【居住地別】					
中部地域	317	13.9	9.5	4.7	3.2
西部地域	281	13.9	10.7	6.0	1.8
吾妻地域	33	12.1	24.2	-	3.0
利根沼田地域	49	14.3	16.3	4.1	8.2
東部地域	263	10.6	11.4	4.9	-

【居住地別】

居住地別でみると、「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」は中部地域で 36.3%と高くなっている。「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」は利根沼田地域で 38.8%と高くなっている。「子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援」は東部地域で 25.5%と高くなっている。

仕事と子育ての両立に関して必要な支援（夫婦の職業別）

(%)

	n	労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度	子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発	育児サービス利用等に係る費用に対する援助	在宅ワークなど多様な働き方ができる制度	子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援
全体	949	52.6	31.8	26.1	26.0	18.2
【夫婦の職業別】						
男性正規×女性正規	350	61.4	38.6	27.4	23.7	8.3
男性正規×女性非正規	245	45.3	29.0	25.3	27.8	23.3
男性正規×女性無職・家事	170	54.7	26.5	20.0	28.2	29.4
その他	184	43.5	27.7	30.4	26.1	20.1

(%)

	n	保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供	事業所内保育(託児)施設	職業訓練や資格取得(リスキングを含む)に関する情報提供	その他
全体	949	12.9	11.4	5.0	2.1
【夫婦の職業別】					
男性正規×女性正規	350	14.3	10.0	1.7	2.9
男性正規×女性非正規	245	11.8	13.1	5.3	1.2
男性正規×女性無職・家事	170	12.4	8.8	8.2	0.6
その他	184	12.0	14.1	7.6	3.3

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」は男性正規×女性正規で 61.4%と高く、「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」も男性正規×女性正規で 38.6%と高くなっている。「子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援」は男性正規×女性無職・家事で 29.4%と高くなっている。

仕事と子育ての両立に関して必要な支援（世帯年収別）

(%)

	n	労働時間短縮 やフレックスタイム制など柔軟な働き方が できる制度	子育てに対する職場の理解 促進のための普及啓発	育児サービス 利用等に係る 費用に対する 援助	在宅ワークなど多様な働き 方ができる制 度	子育てのために退職した場合の就職相談 や職業紹介などの再就職支援
全 体	949	52.6	31.8	26.1	26.0	18.2
【世帯年収別】						
300万円未満	70	32.9	32.9	27.1	24.3	30.0
300万円～500万円未満	259	49.4	27.0	29.0	23.6	23.6
500万円～700万円未満	314	58.6	31.5	27.7	24.8	17.8
700万円～1000万円未満	232	55.2	38.8	22.4	28.0	10.8
1000万円以上	74	48.6	27.0	20.3	35.1	13.5

(%)

	n	保育所やファミ リリー・サポート センターなどの 利用に係る情 報提供	事業所内保育 (託児)施設	職業訓練や資 格取得(リス キングを含む) に関する情報 提供	その他
全 体	949	12.9	11.4	5.0	2.1
【世帯年収別】					
300万円未満	70	14.3	10.0	7.1	-
300万円～500万円未満	259	10.4	13.9	4.6	1.2
500万円～700万円未満	314	11.8	8.9	5.4	2.5
700万円～1000万円未満	232	15.1	12.5	3.4	2.2
1000万円以上	74	17.6	10.8	6.8	5.4

【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」は500万円～700万円未満で58.6%と高くなっている。「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」は700万円～1000万円未満で38.8%と高くなっている。「在宅ワークなど多様な働き方ができる制度」は1000万円以上で35.1%と高くなっている。「子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援」は300万円未満で30.0%と高く、年収が上がるほど低くなる傾向がみられる。

仕事と子育ての両立に関して必要な支援（子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

	n	労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度	子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発	育児サービス利用等に係る費用に対する援助	在宅ワークなど多様な働き方ができる制度	子育てのために退職した場合の就職相談や職業紹介などの再就職支援
全体	949	52.6	31.8	26.1	26.0	18.2
【子どもを産み育てやすい環境か別】						
感じている	149	53.7	26.8	22.1	31.5	16.1
まあ感じている	501	51.9	36.5	25.5	24.2	19.4
あまり感じていない	237	53.2	24.9	28.3	26.2	19.0
感じていない	62	53.2	32.3	32.3	27.4	11.3

(%)

	n	保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供	事業所内保育（託児）施設	職業訓練や資格取得（リスクリングを含む）に関する情報提供	その他
全体	949	12.9	11.4	5.0	2.1
【子どもを産み育てやすい環境か別】					
感じている	149	12.1	10.1	7.4	2.7
まあ感じている	501	11.8	11.6	4.2	0.8
あまり感じていない	237	15.6	11.8	5.1	4.6
感じていない	62	12.9	11.3	4.8	1.6

【子どもを産み育てやすい環境か別】

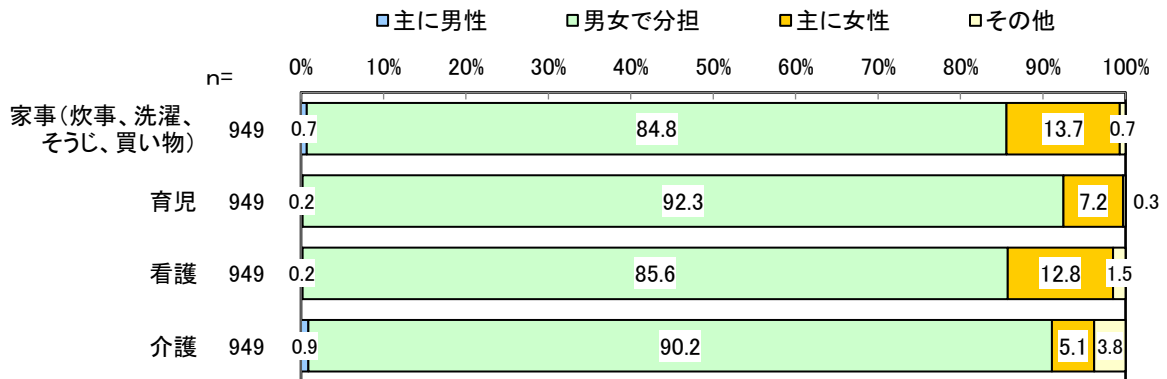
子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」は産み育てやすいと感じていないほど高く、“感じていない”で32.3%となっている。

問 30 あなたは家庭内での家事、育児や看護・介護の分担について（１）理想としてどのように考えますか。また、（２）現実はどうですか。（回答はそれぞれ１つだけ）

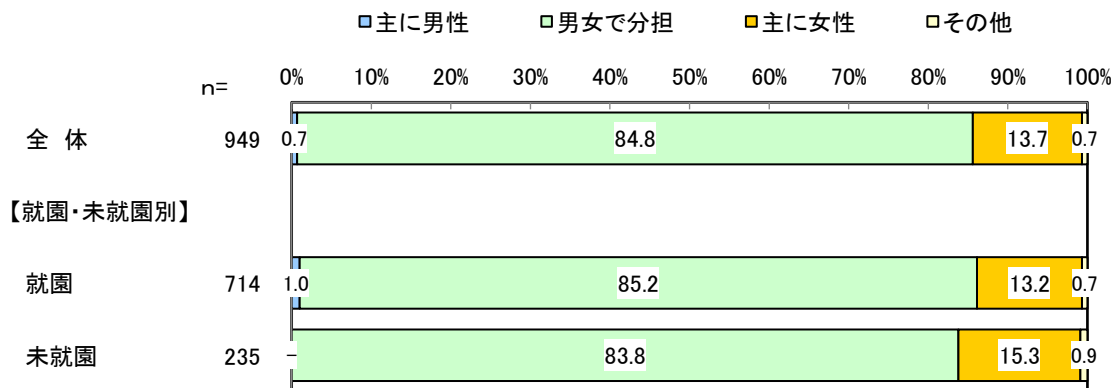
（１）理想

理想は、「男女で分担」がいずれも最も高くなっているが、育児が92.3%、介護が90.2%に対し、家事（炊事、洗濯、そうじ、買い物）は84.8%、看護は85.6%でやや低くなっており、「主に女性」は家事（炊事、洗濯、そうじ、買い物）が13.7%、看護が12.8%となっている。

性別でみると、男女とも、全ての項目で「男女で分担」が8割以上となっている。



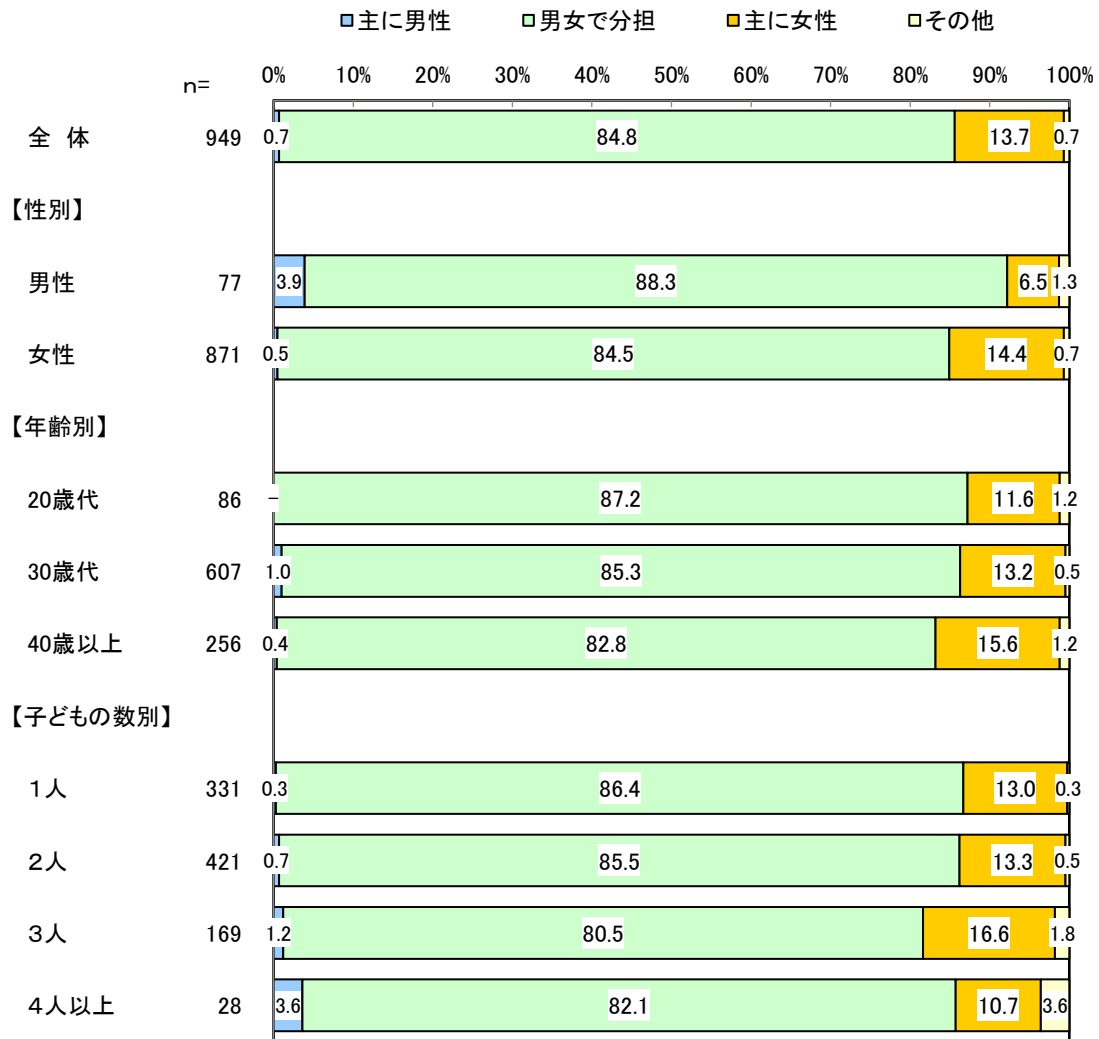
「家事」の分担の理想（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

「家事」の分担の理想（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が7.9ポイント高くなっている。

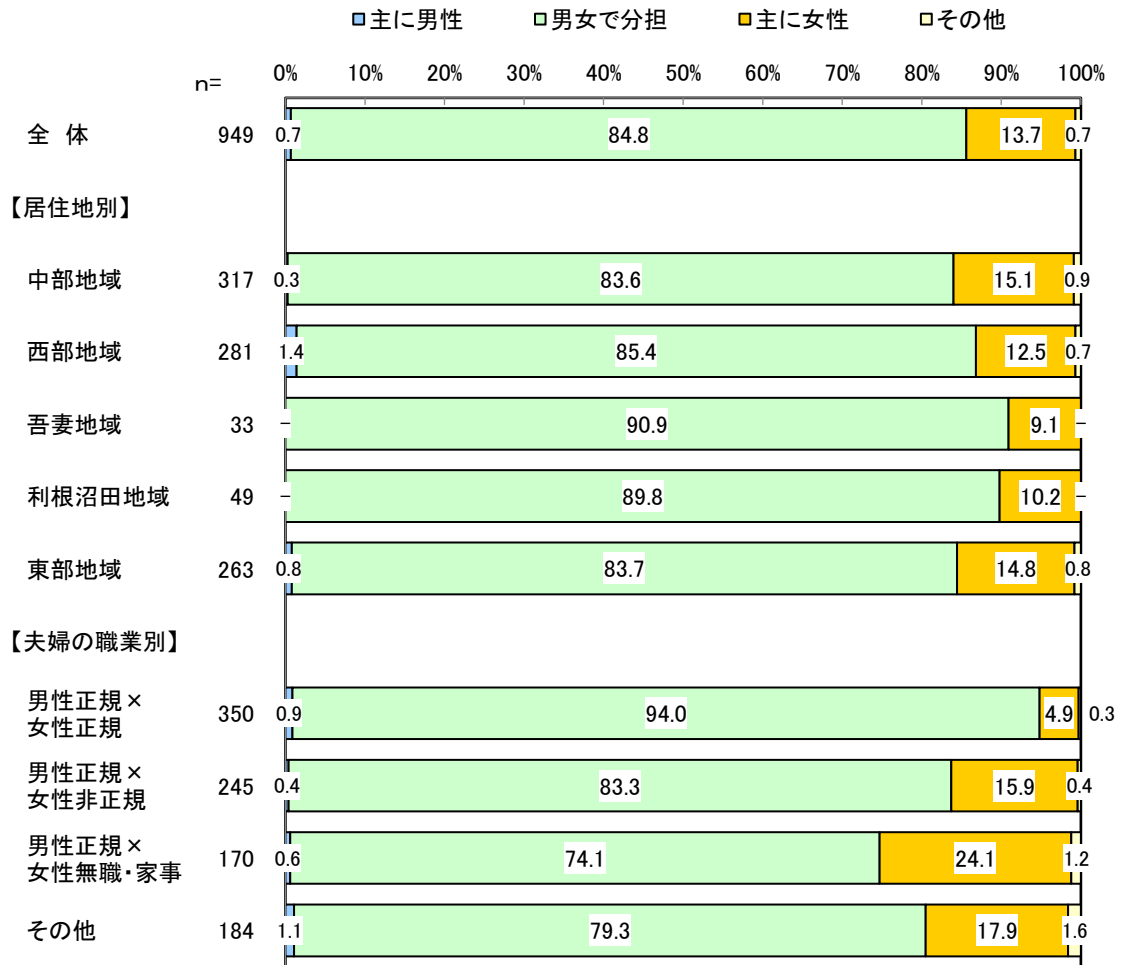
【年齢別】

年齢別でみると、「男女で分担」は20歳代で87.2%と最も高く、年齢が上がるほど低くなっている。一方、「主に女性」は40歳代で15.6%となっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「男女で分担」は1人で86.4%、2人で85.5%と高くなっている。一方、「主に女性」は3人で16.6%とやや高くなっている。

「家事」の分担の理想（居住地別、夫婦の職業別）



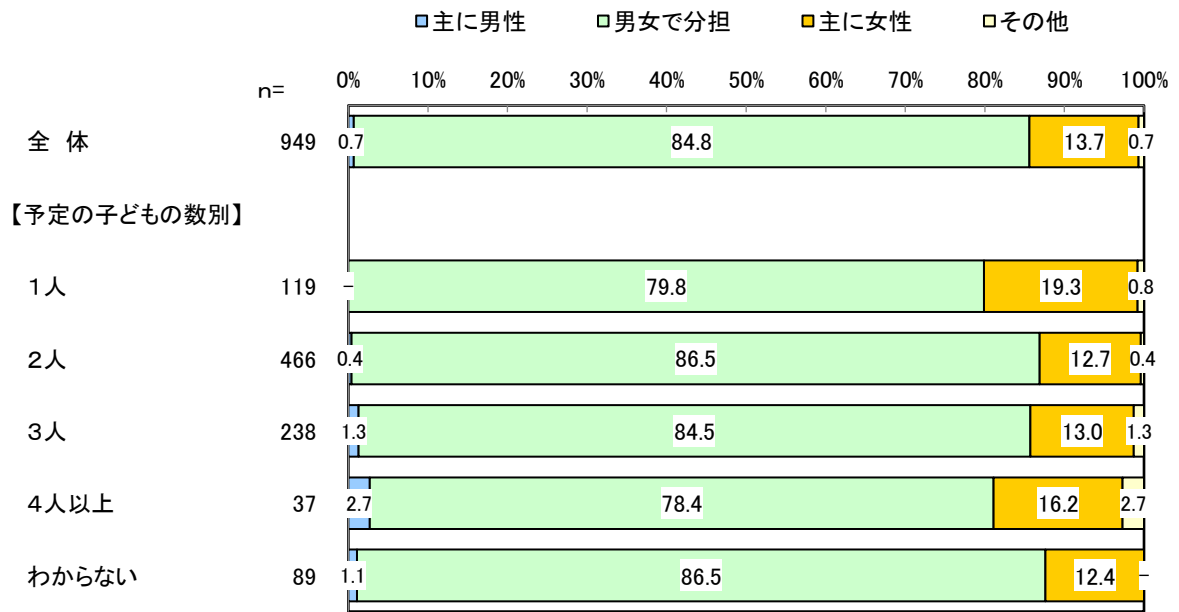
【居住地別】

居住地別で見ると、「男女で分担」は吾妻地域で90.9%と高くなっている。一方、「主に女性」は中部地域で15.1%とやや高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別で見ると、「男女で分担」は男性正規×女性正規で94.0%と高くなっている。一方、「主に女性」は男性正規×女性無職・家事で24.1%と高くなっている。

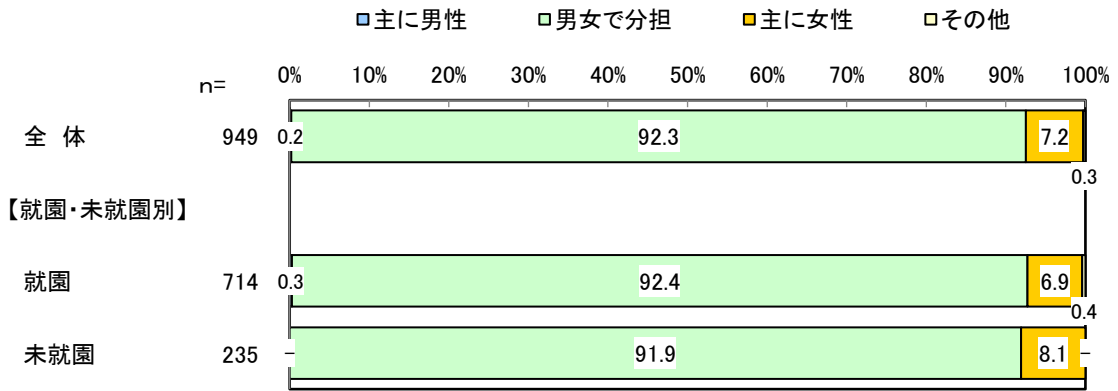
「家事」の分担の理想（予定の子どもの数別）



【予定の子どもの数別】

予定の子どもの数別でみると、「主に女性」は1人で19.3%と高くなっている。

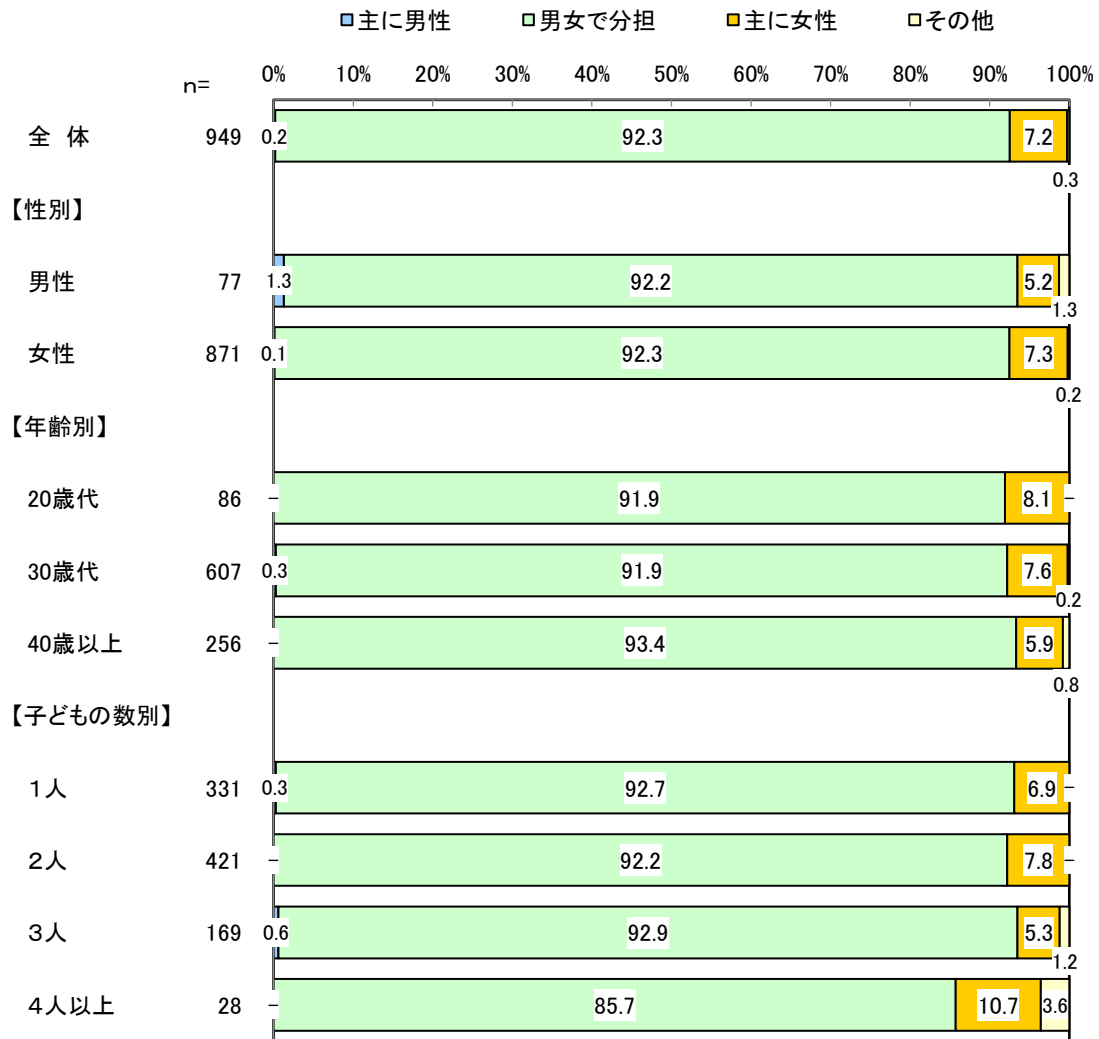
「育児」の分担の理想（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別で見ると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

「育児」の分担の理想（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

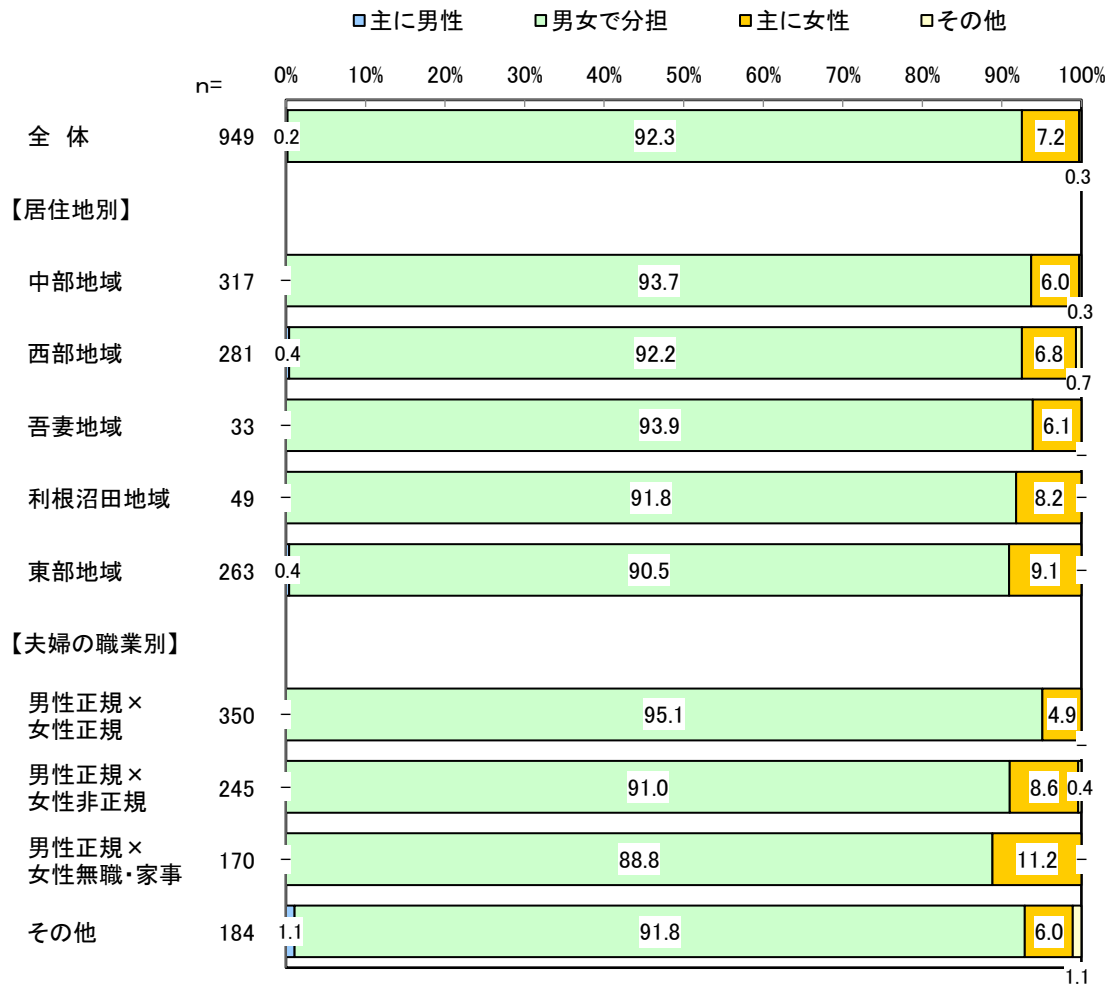
【年齢別】

年齢別でみると、年齢による大きな差はみられない。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「主に女性」は4人以上で10.7%とやや高くなっている。

「育児」の分担の理想（居住地別、夫婦の職業別）



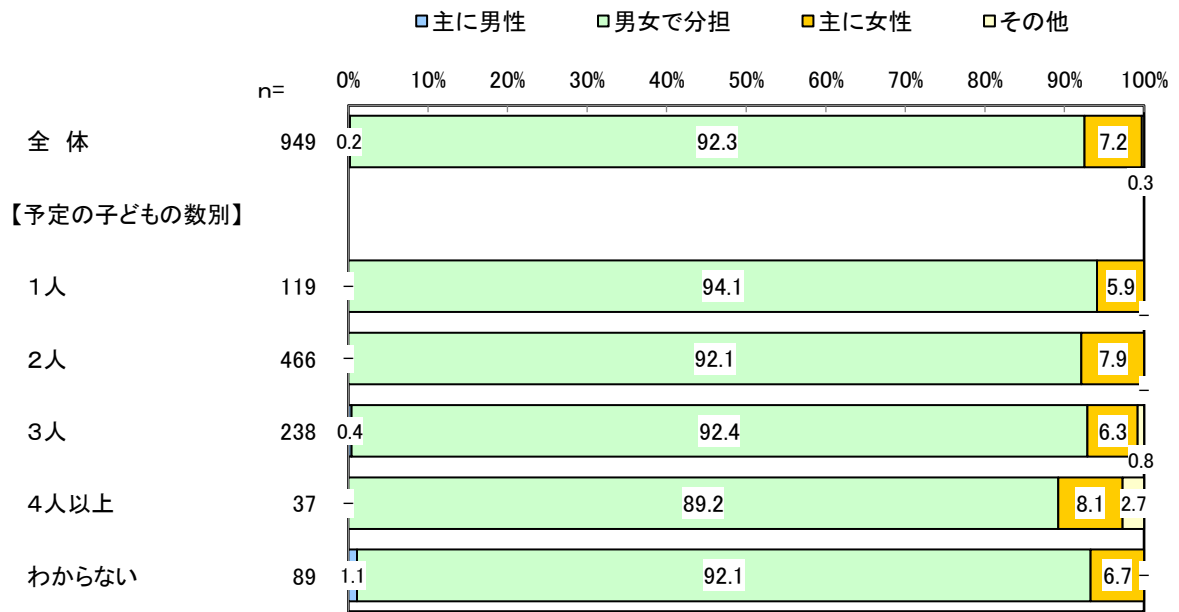
【居住地別】

居住地別でみると、地域による大きな差はみられない。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「男女で分担」は男性正規×女性正規で 95.1%と高くなっている。一方、「主に女性」は男性正規×女性無職・家事で 11.2%とやや高くなっている。

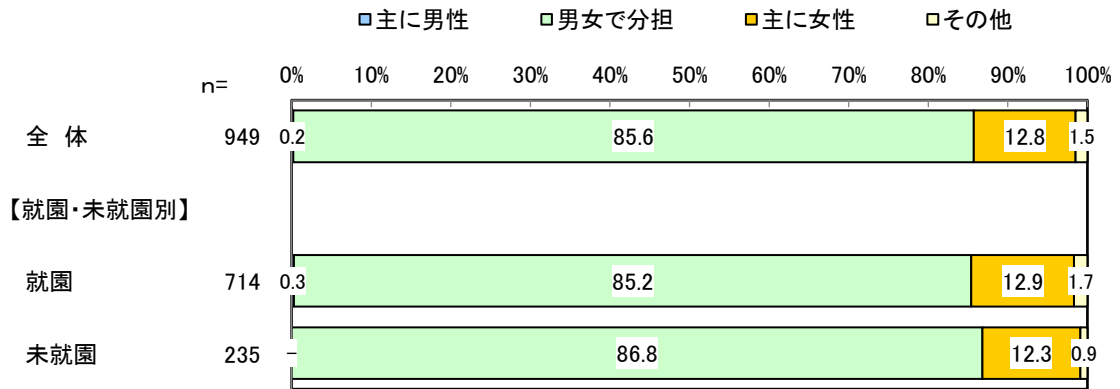
「育児」の分担の理想（予定の子どもの数別）



【予定の子どもの数別】

予定の子どもの数別で見ると、大きな差はみられない。

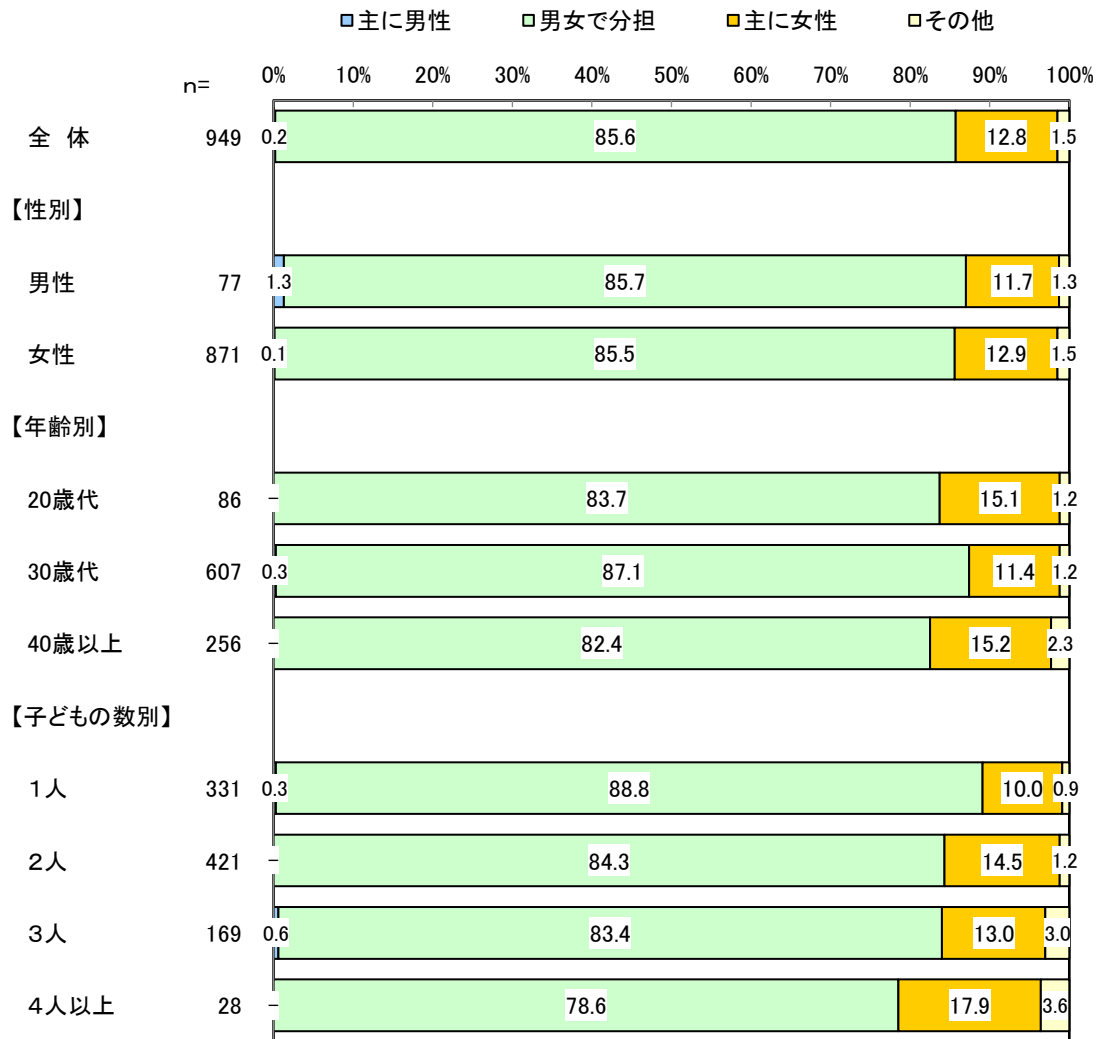
「看護」の分担の理想（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

「看護」の分担の理想（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

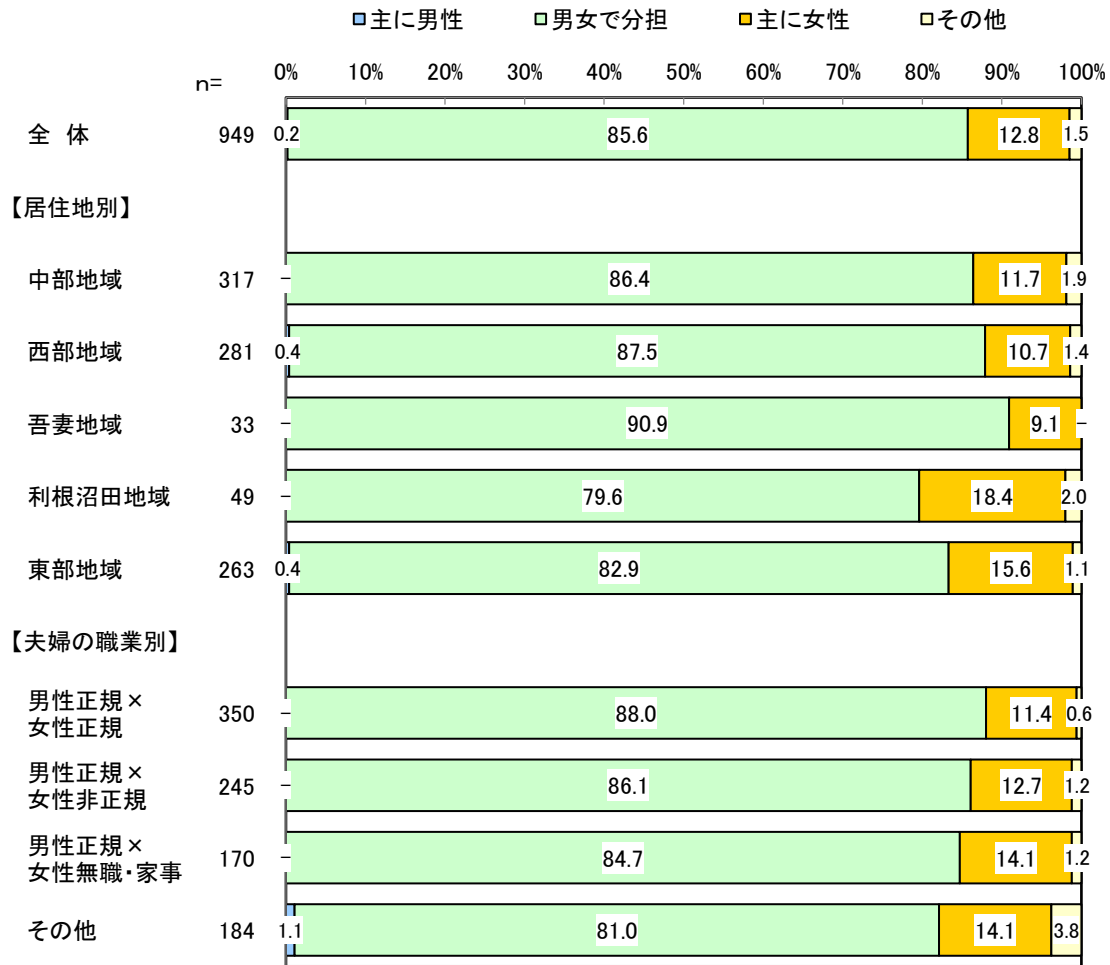
【年齢別】

年齢別でみると、「男女で分担」は30歳代で87.1%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「男女で分担」は1人で88.8%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。一方、「主に女性」は4人で17.9%と高くなっている。

「看護」の分担の理想（居住地別、夫婦の職業別）



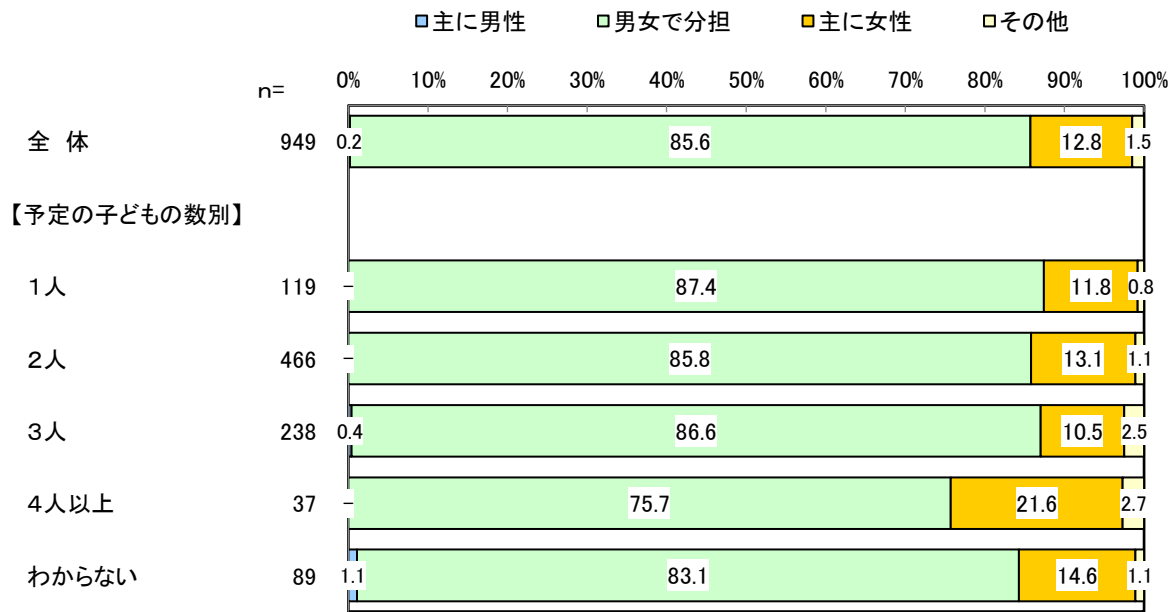
【居住地別】

居住地別で見ると、「男女で分担」は吾妻地域で90.9%と高くなっている。一方、「主に女性」は利根沼田地域で18.4%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別で見ると、「男女で分担」は男性正規×女性正規で88.0%と高くなっている。

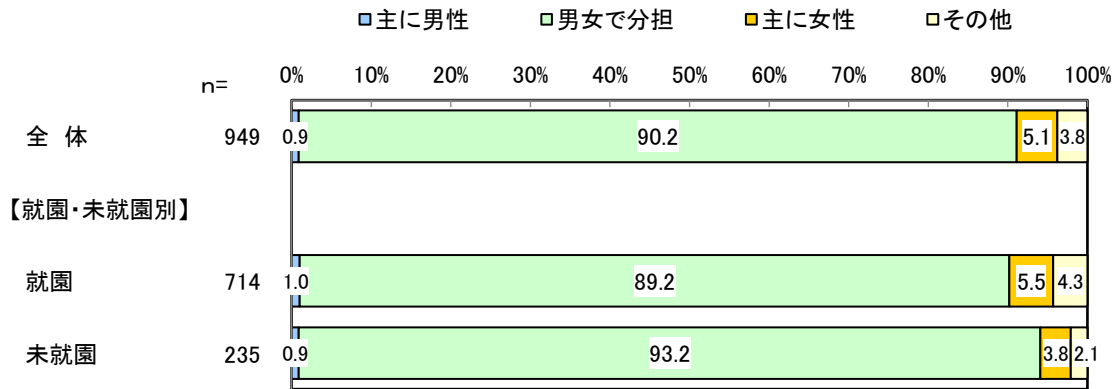
「看護」の分担の理想（予定の子どもの数別）



【予定の子どもの数別】

予定の子どもの数別でみると、「主に女性」は4人以上で21.6%と高くなっている。

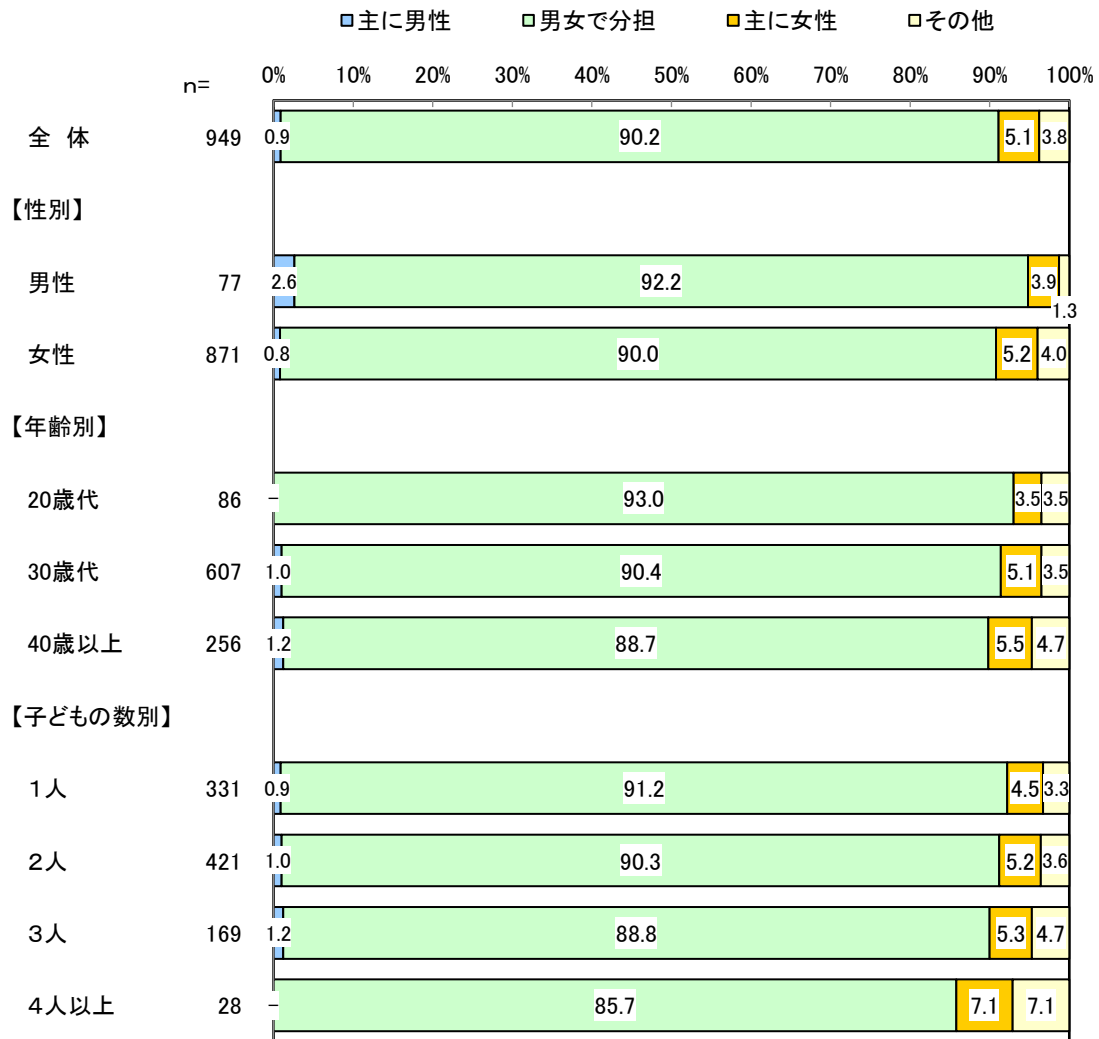
「介護」の分担の理想（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別で見ると、未就園は就園よりも「男女で分担」が4.0ポイント高くなっている。

「介護」の分担の理想（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

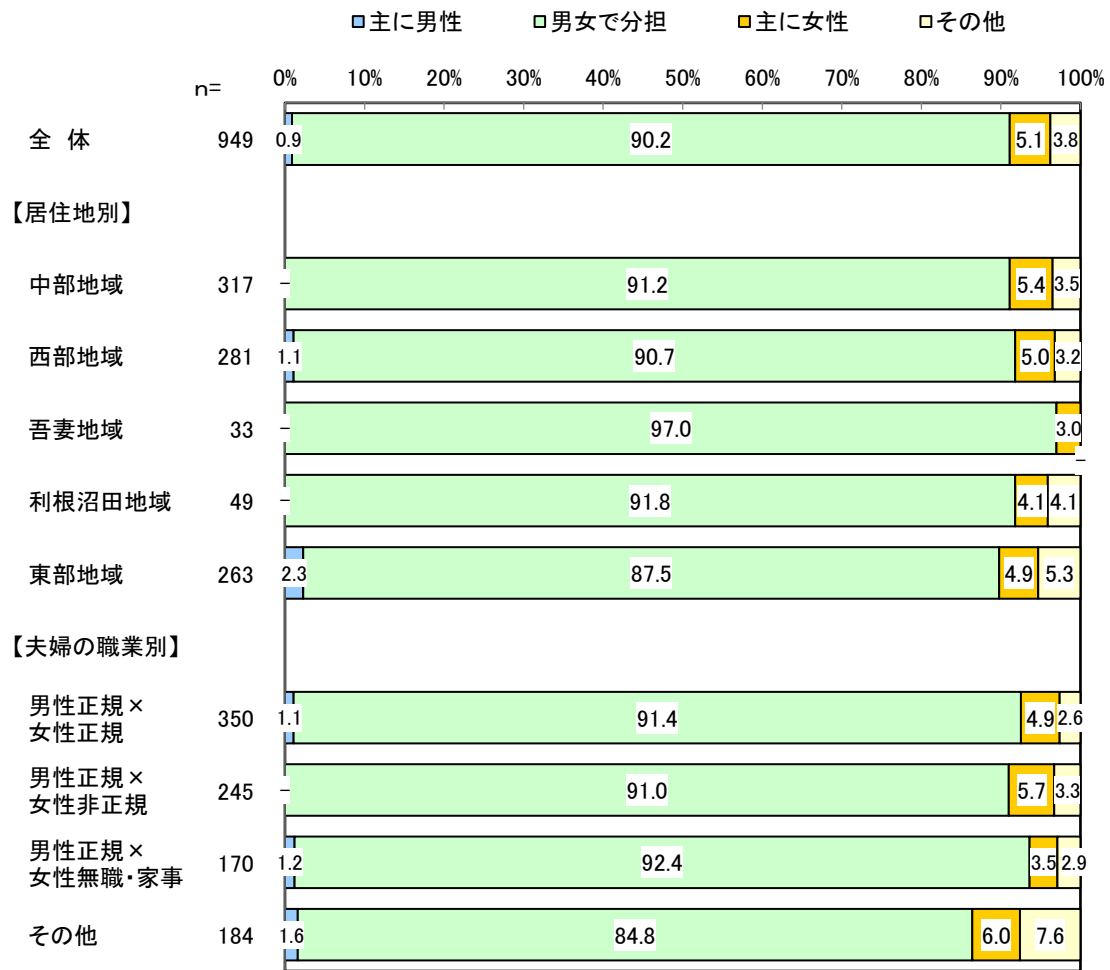
【年齢別】

年齢別でみると、「男女で分担」は20歳代で93.0%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「男女で分担」は1人で91.2%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。

「介護」の分担の理想（居住地別、夫婦の職業別）



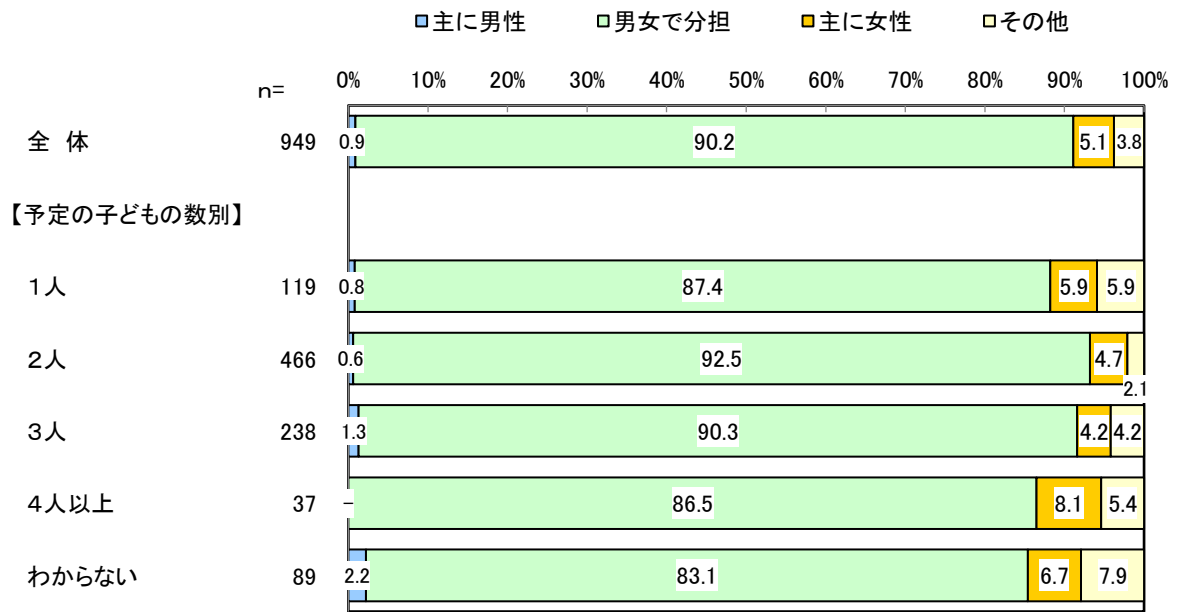
【居住地別】

居住地別でみると、「男女で分担」は吾妻地域で97.0%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、職業による大きな差はみられない。

「介護」の分担の理想（予定の子どもの数別）



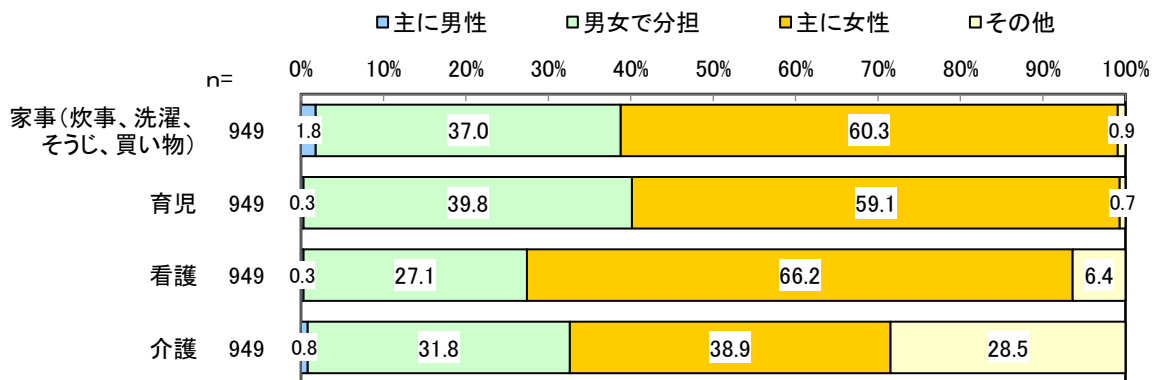
【予定の子どもの数別】

予定の子どもの数別でみると、「男女で分担」は2人で92.5%と高くなっている。

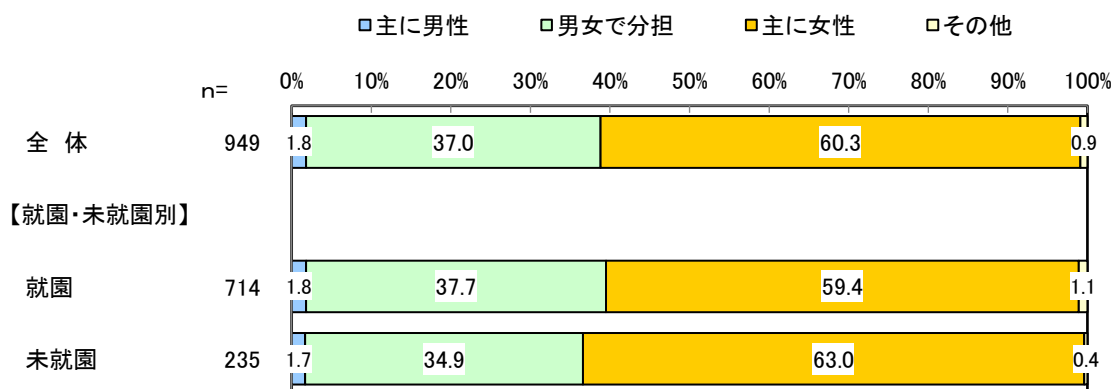
(2) 現実

現実には、「主に女性」がいずれも最も高く、看護が66.2%、家事（炊事、洗濯、そうじ、買い物）が60.3%、育児が59.1%となっている。「男女で分担」は育児が39.8%、家事（炊事、洗濯、そうじ、買い物）が37.0%となっている。

性別でみると、男性は全ての項目で「男女で分担」が5～6割台で最も高くなっているが、女性は全ての項目で「主に女性」が最も高く、看護が69.1%、家事（炊事、洗濯、そうじ、買い物）と育児が6割強となっている。



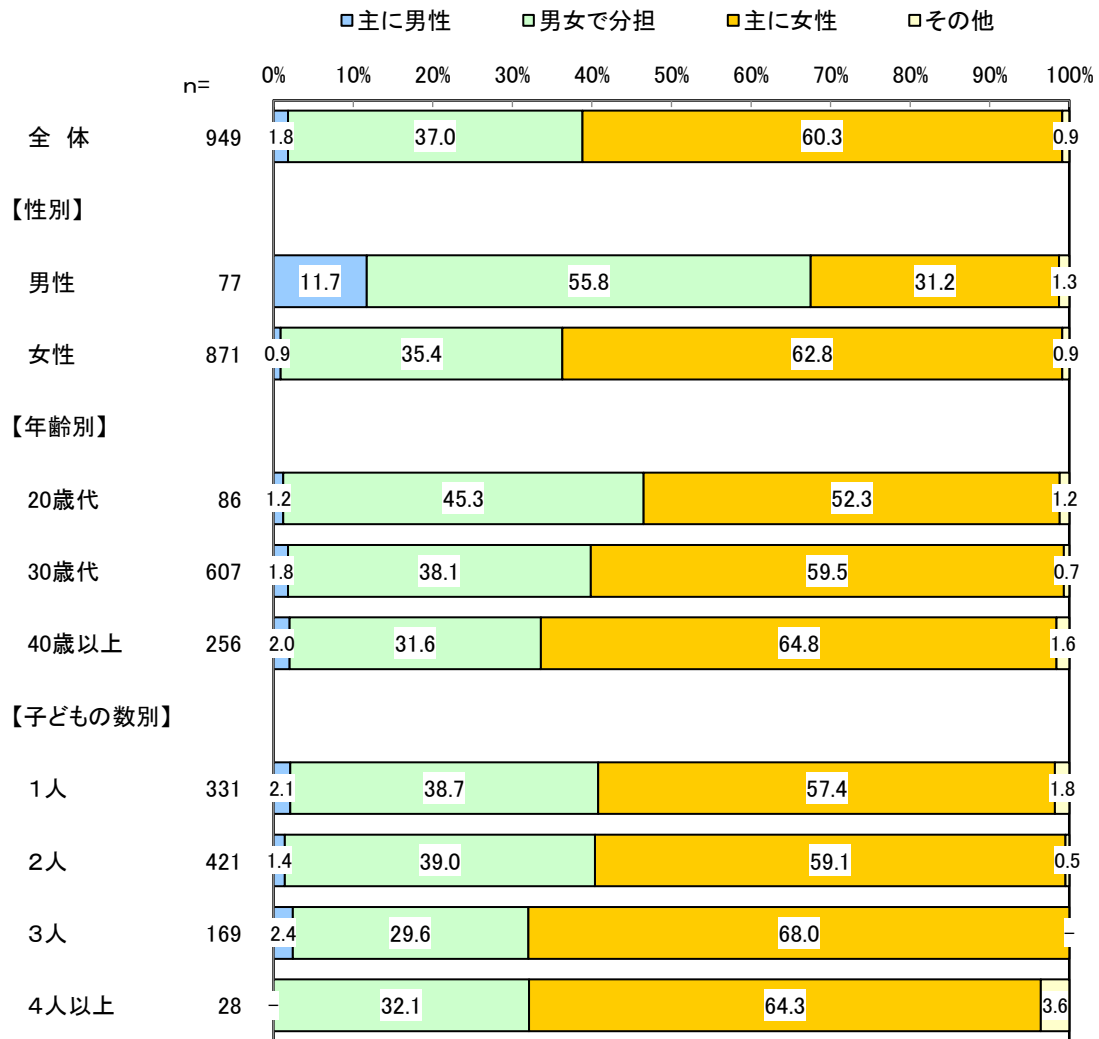
「家事」の分担の現実（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

「家事」の分担の現実（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が31.6ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「男女で分担」が20.4ポイント高くなっている。

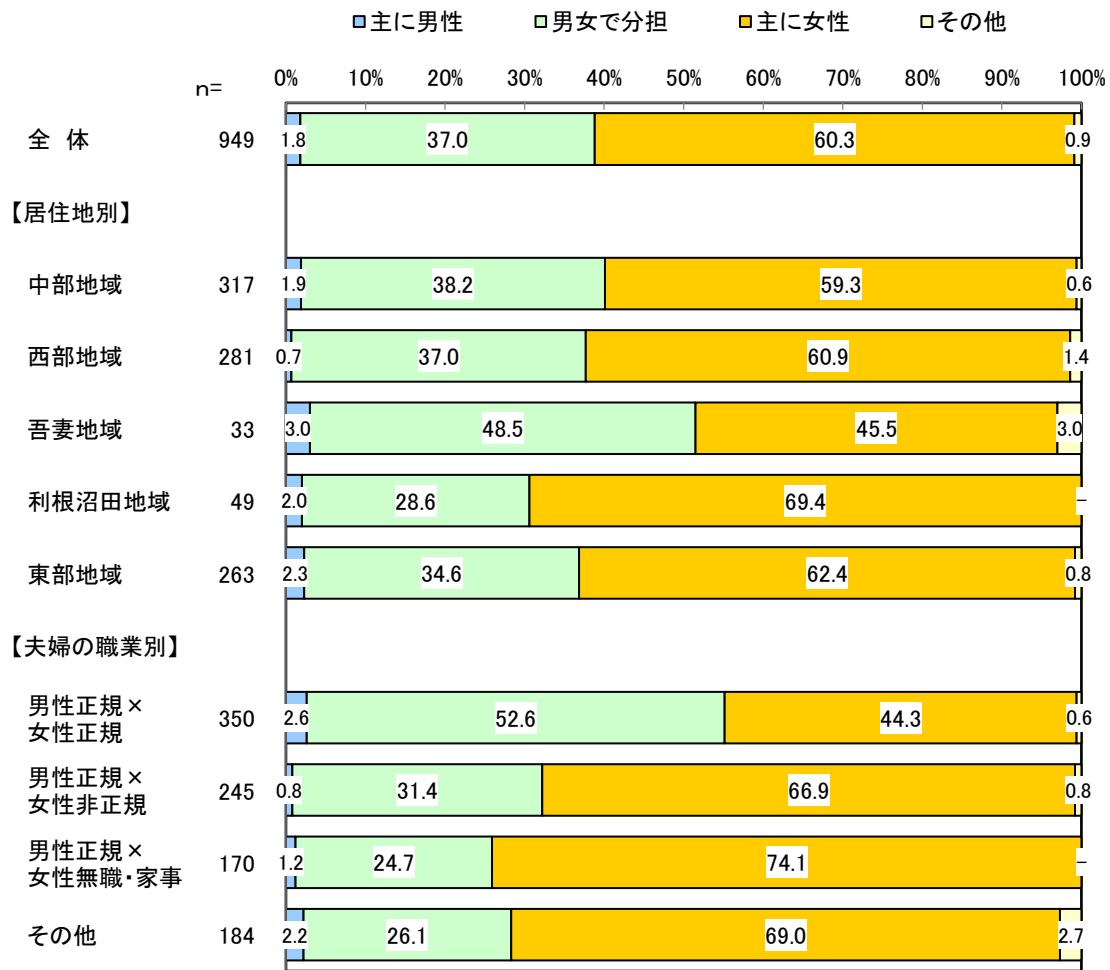
【年齢別】

年齢別でみると、「主に女性」は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で64.8%となっている。一方、「男女で分担」は20歳代で45.3%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「主に女性」は3人で68.0%、4人以上で64.3%と高くなっている。一方、「男女で分担」は2人で39.0%、1人で38.7%と高くなっている。

「家事」の分担の現実（居住地別、夫婦の職業別）



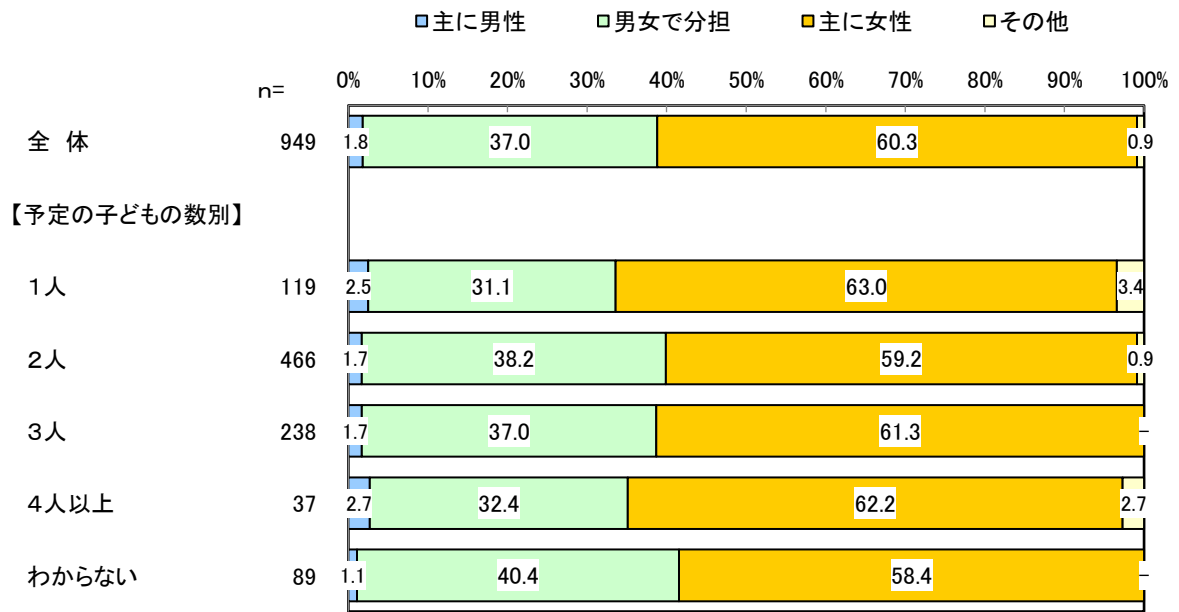
【居住地別】

居住地別で見ると、「主に女性」は利根沼田地域で 69.4%と高くなっている。一方、「男女で分担」は吾妻地域で 48.5%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別で見ると、「男女で分担」は男性正規×女性正規で 52.6%と高くなっている。一方、「主に女性」は男性正規×女性無職・家事で 74.1%と高くなっている。

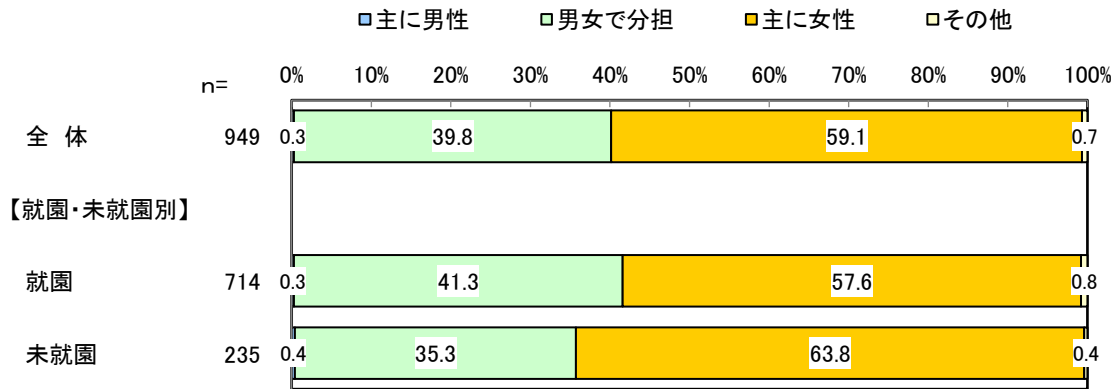
「家事」の分担の現実（予定の子どもの数別）



【予定の子どもの数別】

予定の子どもの数別でみると、「男女で分担」はわからないで40.4%と高くなっている。

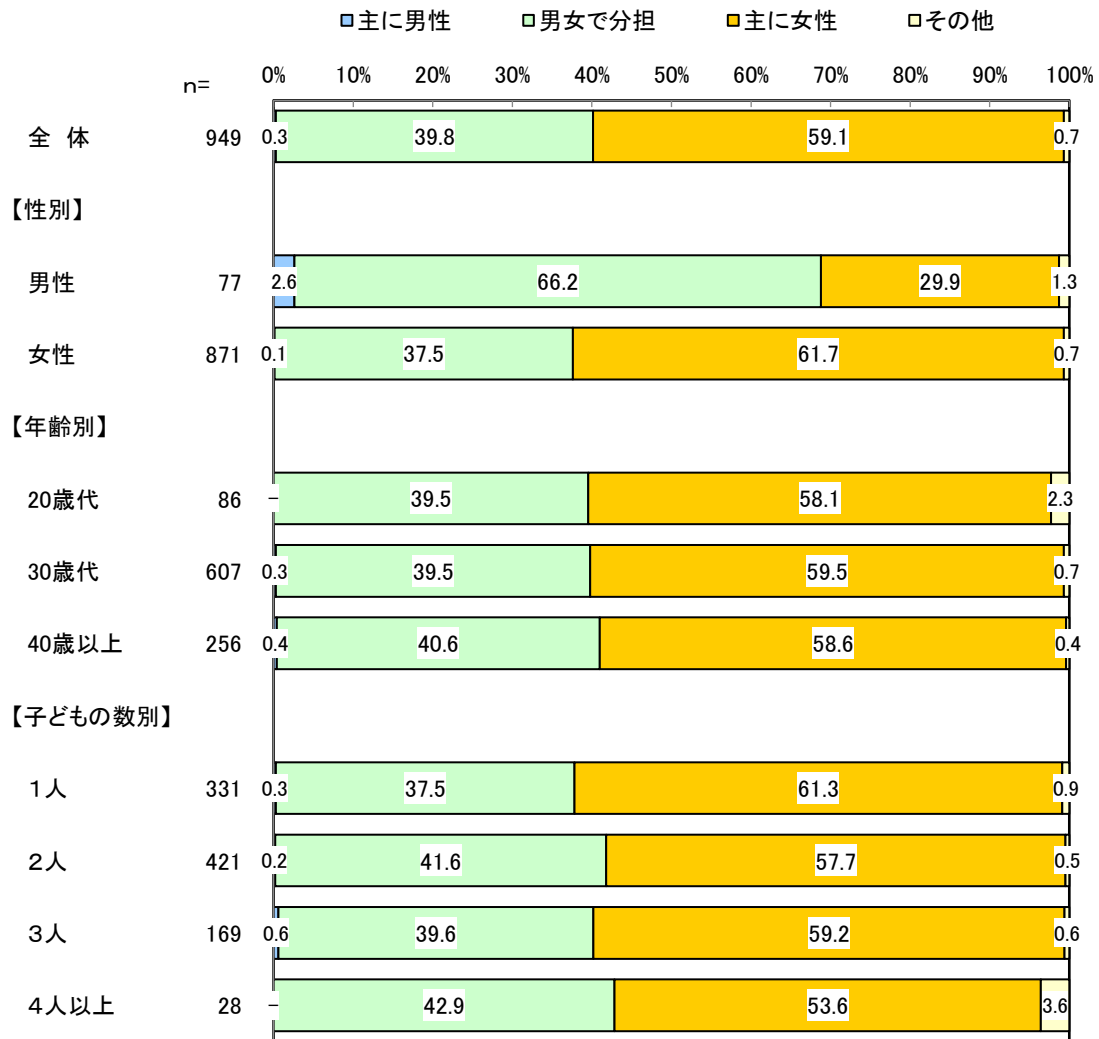
「育児」の分担の現実（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別で見ると、未就園は就園よりも「主に女性」が6.2ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「男女で分担」が6.0ポイント高くなっている。

「育児」の分担の現実（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が31.8ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「男女で分担」が28.7ポイント高くなっている。

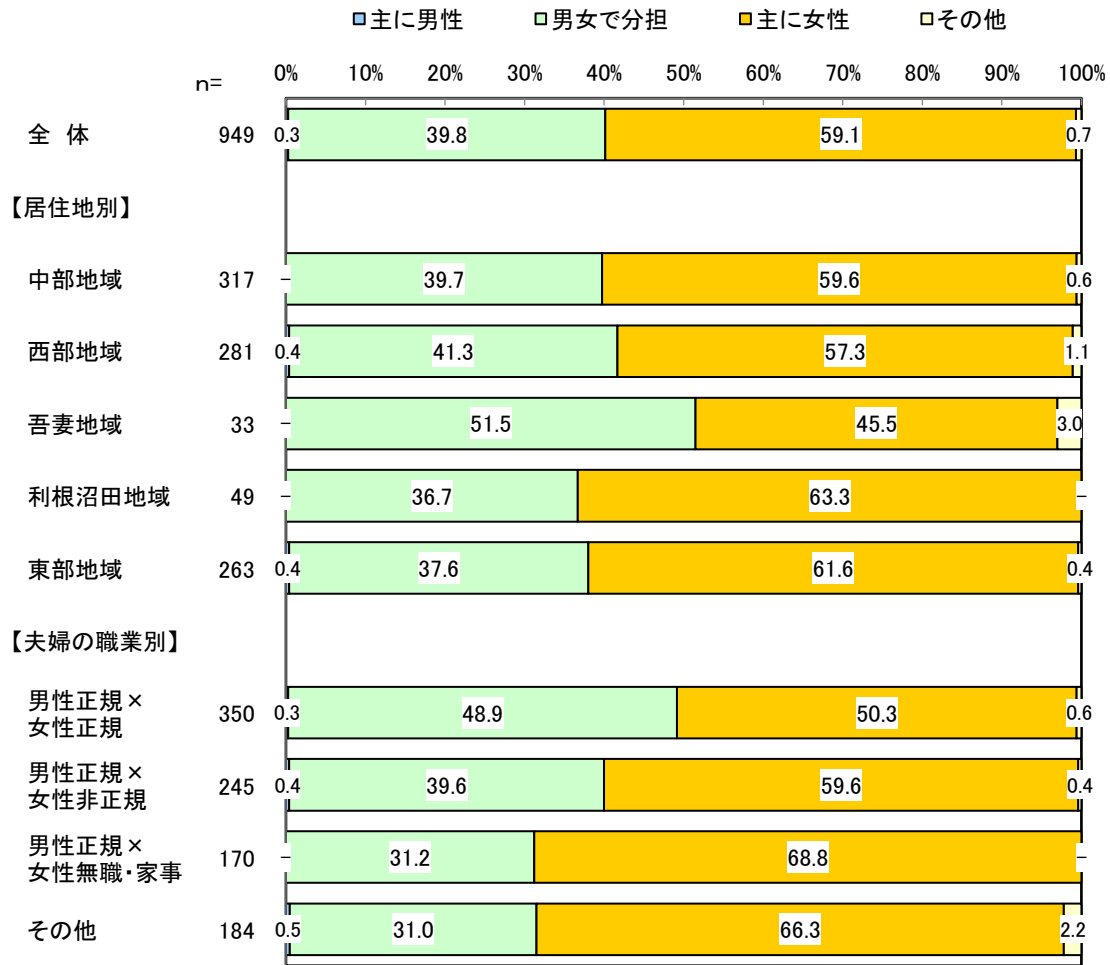
【年齢別】

年齢別でみると、年齢による大きな差はみられない。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「主に女性」は1人で61.3%と高くなっている。

「育児」の分担の現実（居住地別、夫婦の職業別）



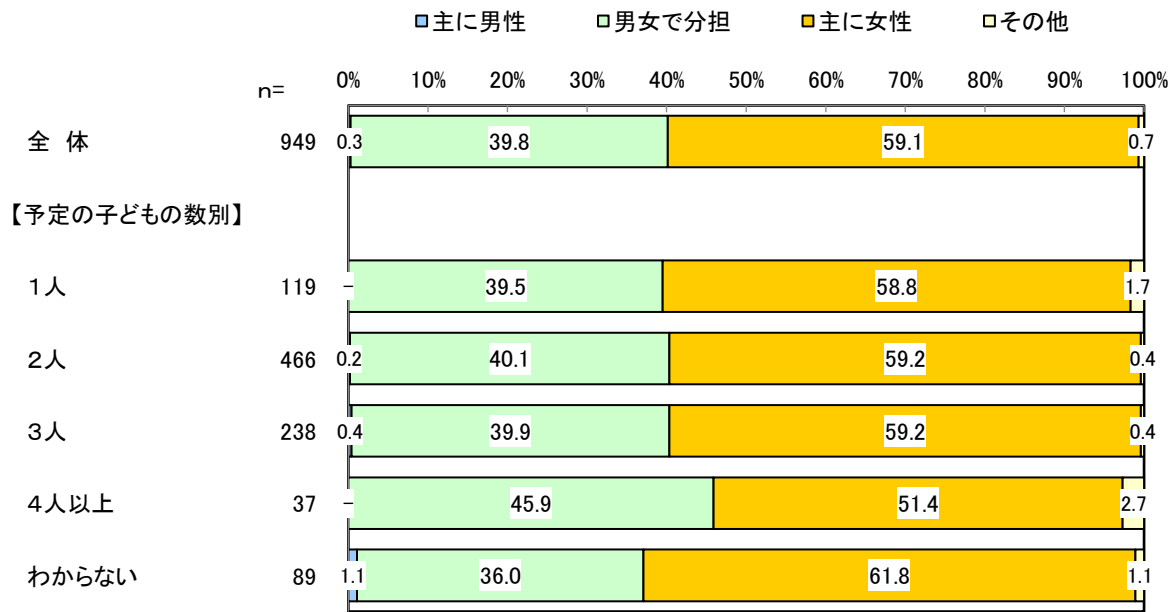
【居住地別】

居住地別で見ると、「主に女性」は利根沼田地域で 63.3%と高くなっている。一方、「男女で分担」は吾妻地域で 51.5%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別で見ると、「男女で分担」は男性正規×女性正規で 48.9%と高くなっている。一方、「主に女性」は男性正規×女性無職・家事で 68.8%と高くなっている。

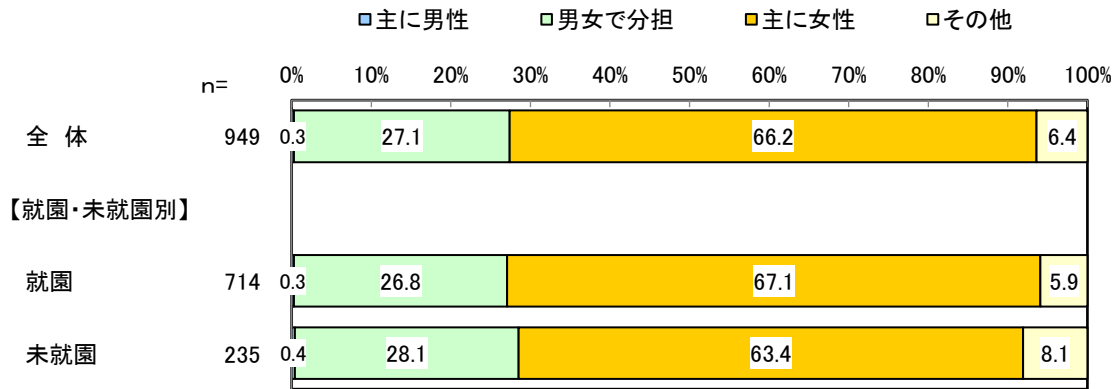
「育児」の分担の現実（予定の子どもの数別）



【予定の子どもの数別】

予定の子どもの数別でみると、「男女で分担」は4人以上で45.9%と高くなっている。

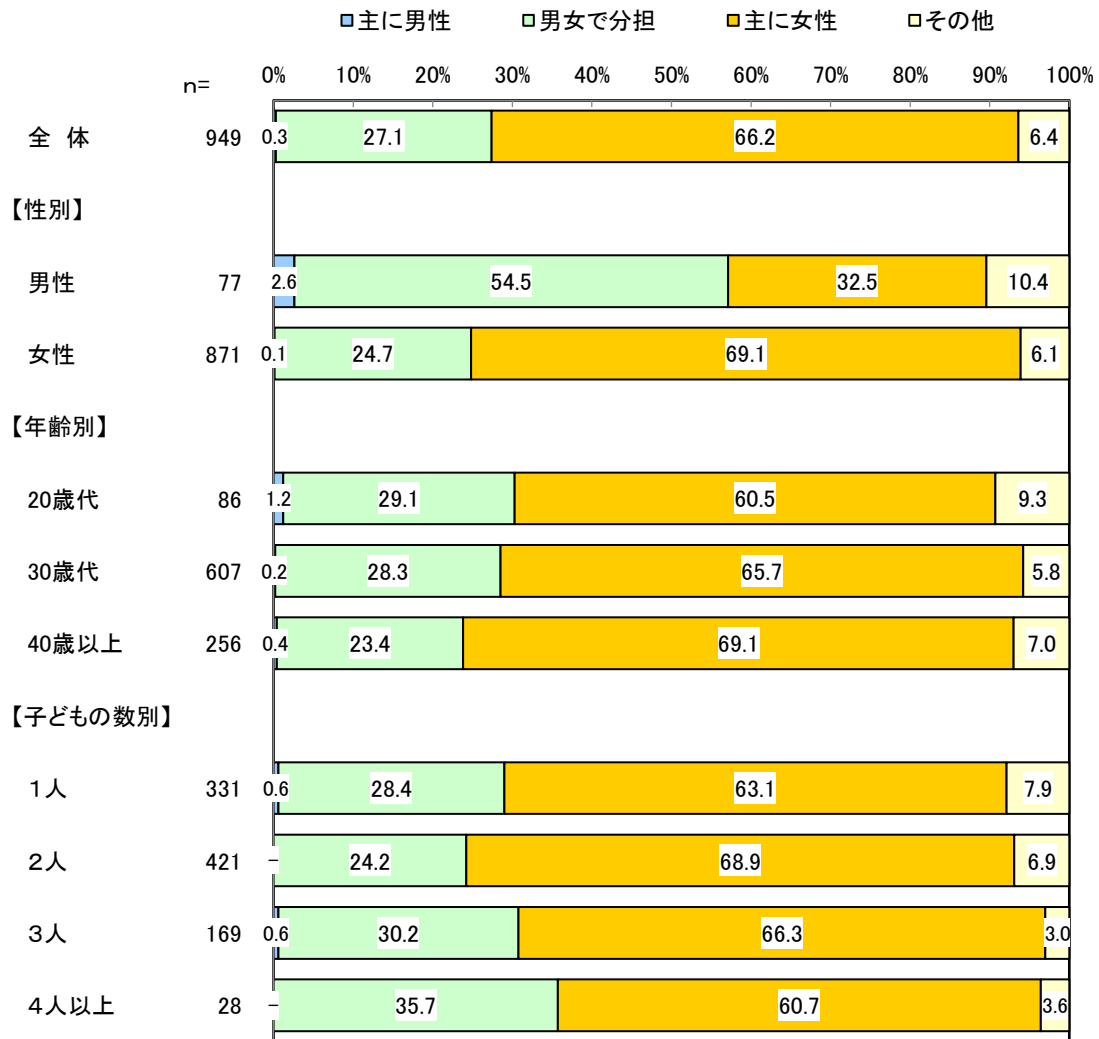
「看護」の分担の現実（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

「看護」の分担の現実（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が36.6ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「男女で分担」が29.8ポイント高くなっている。

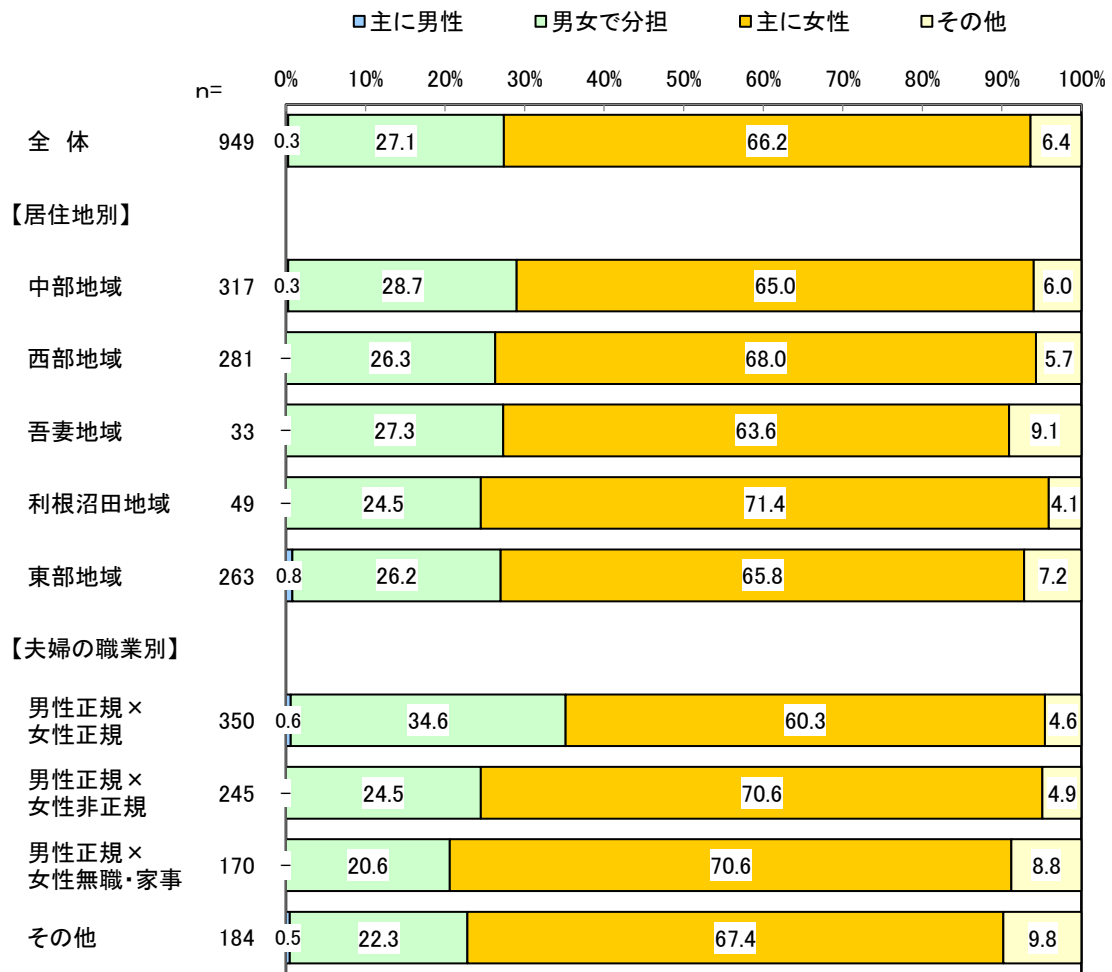
【年齢別】

年齢別でみると、「主に女性」は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で69.1%となっている。一方、「男女で分担」は20歳代で29.1%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「主に女性」は2人で68.9%と高くなっている。一方、「男女で分担」は4人以上で35.7%と高くなっている。

「看護」の分担の現実（居住地別、夫婦の職業別）



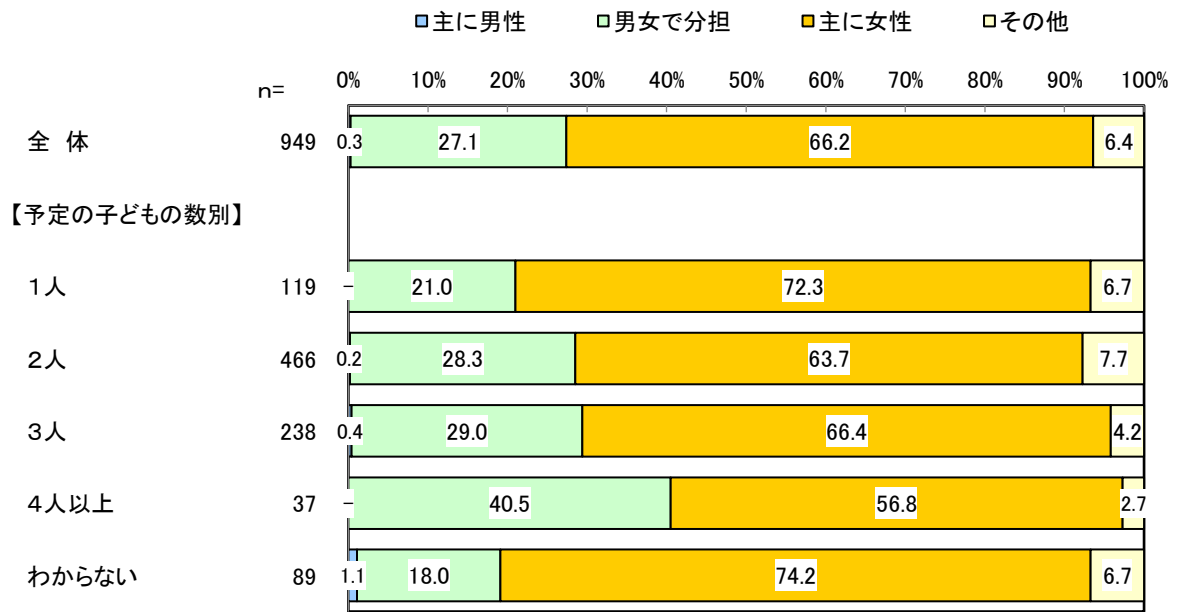
【居住地別】

居住地別で見ると、「主に女性」は利根沼田地域で 71.4%と高くなっている。一方、「男女で分担」は中部地域で 28.7%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別で見ると、「男女で分担」は男性正規×女性正規で 34.6%と高くなっている。

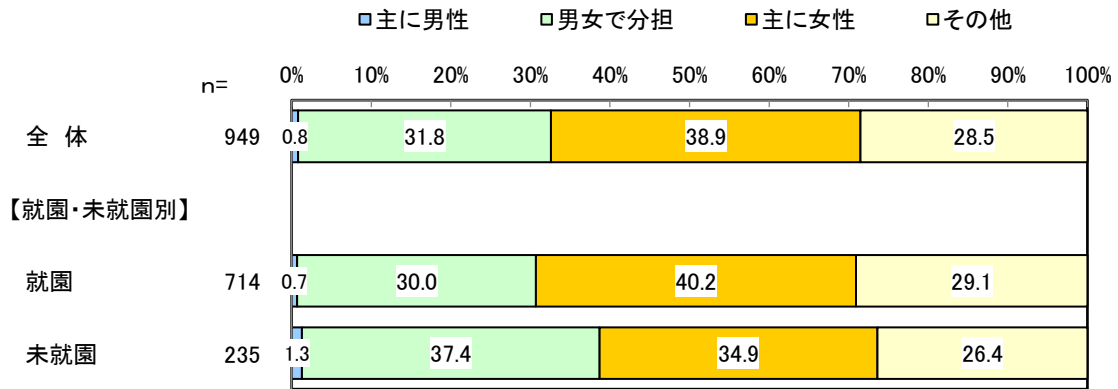
「看護」の分担の現実（予定の子どもの数別）



【予定の子どもの数別】

予定の子どもの数別でみると、「男女で分担」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人以上で40.5%となっている。一方、「主に女性」はわからないで74.2%、1人で72.3%と高くなっている。

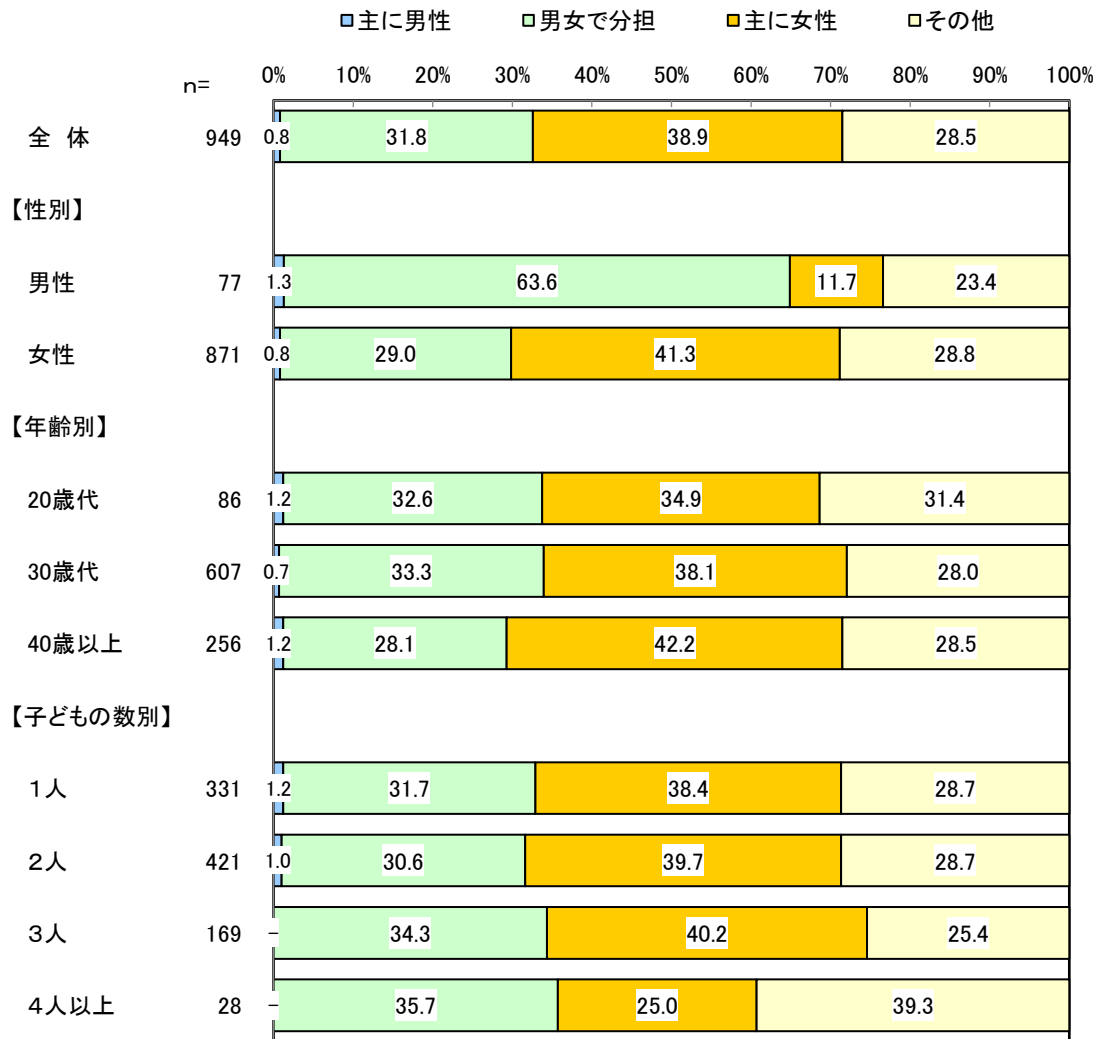
「介護」の分担の現実（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園は未就園よりも「主に女性」が5.3ポイント高くなっている。一方、未就園は就園よりも「男女で分担」が7.4ポイント高くなっている。

「介護」の分担の現実（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が29.6ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「男女で分担」が34.6ポイント高くなっている。

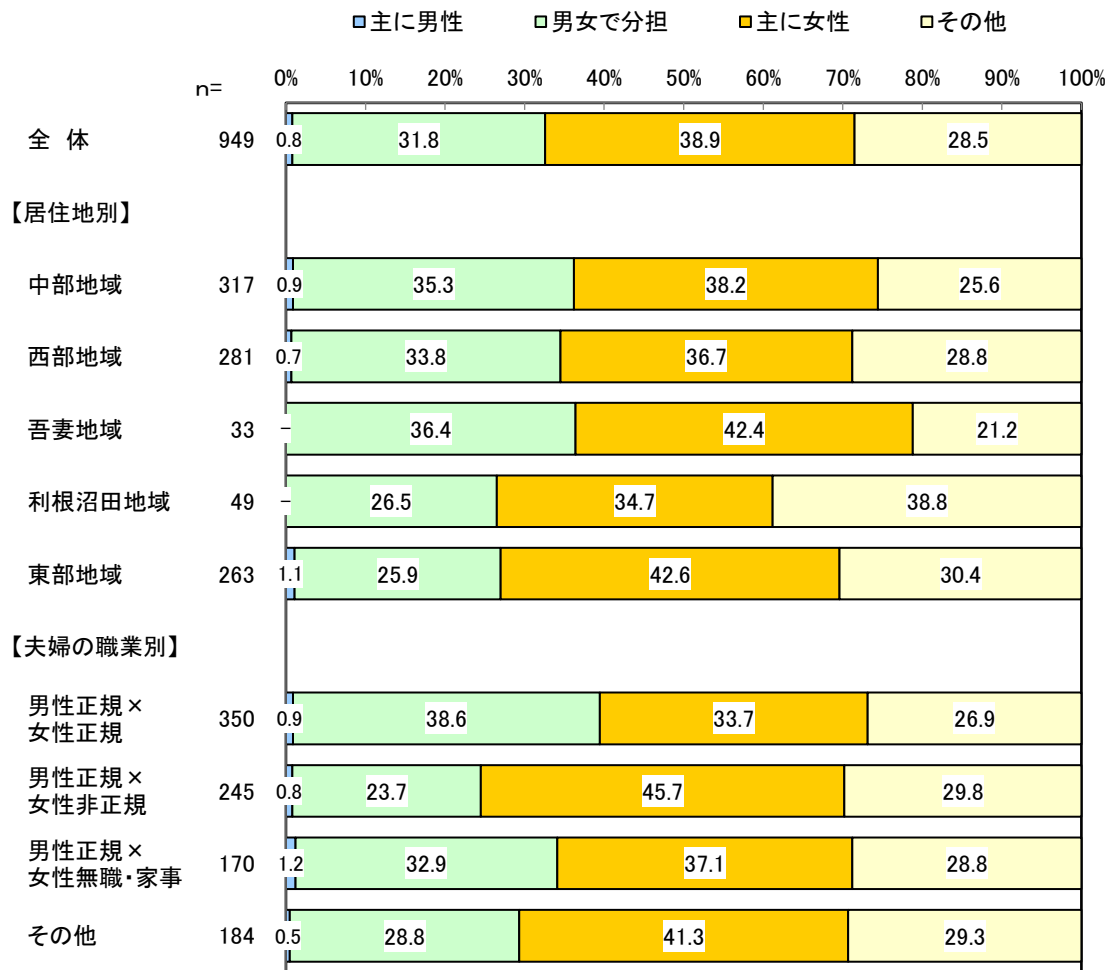
【年齢別】

年齢別でみると、「主に女性」は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で42.2%となっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「主に女性」は3人で40.2%と高くなっている。一方、「男女で分担」は4人以上で35.7%と高くなっている。

「介護」の分担の現実（居住地別、夫婦の職業別）



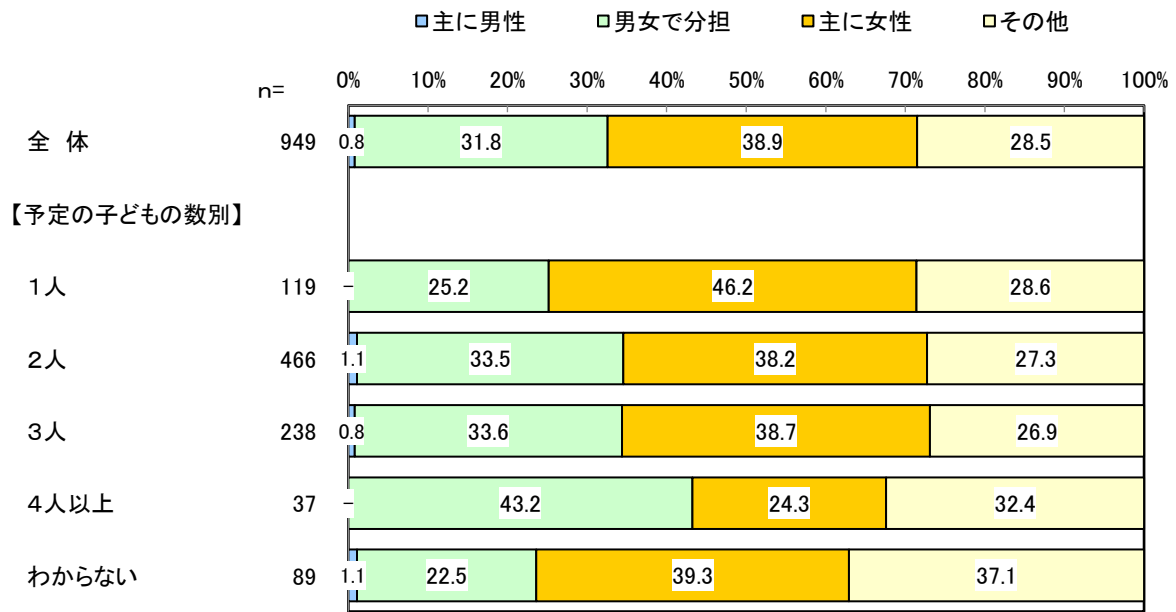
【居住地別】

居住地別でみると、「主に女性」は東部地域で42.6%、吾妻地域で42.4%と高くなっている。一方、「男女で分担」は吾妻地域で36.4%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「主に女性」は男性正規×女性非正規で45.7%と高くなっている。一方、「男女で分担」は男性正規×女性正規で38.6%と高くなっている。

「介護」の分担の現実（予定の子どもの数別）



【予定の子どもの数別】

予定の子どもの数別でみると、「男女で分担」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人以上で43.2%となっている。一方、「主に女性」は1人で46.2%と高くなっている。

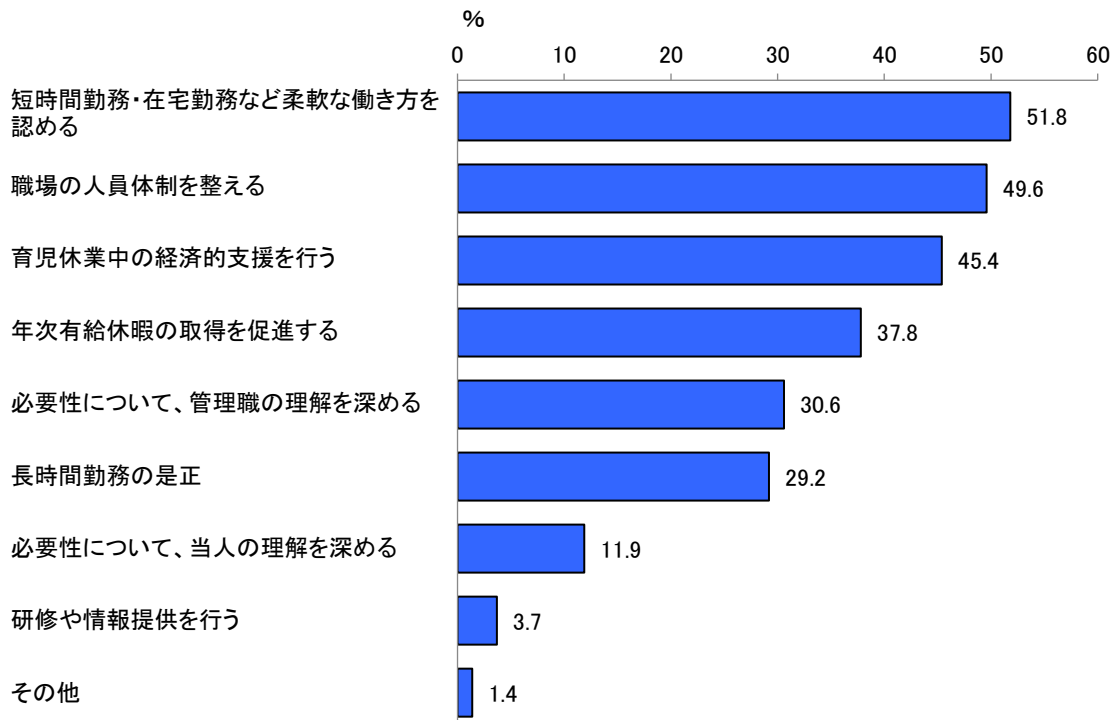
問 31 「共育て※」を促進するために、職場に対してあなたが必要だと思うことは何ですか。

(回答は3つまで)

※共育て：男性育休の取得促進や育児期を通じた柔軟で多様な働き方を推進することで、仕事と子育てを両立し、夫婦（パートナー）がともに子育てを行うこと

「共育て」を促進するために必要だと思うことは、「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」が51.8%で最も高く、次いで「職場の人員体制を整える」が49.6%、「育児休業中の経済的支援を行う」が45.4%となっている。

n= 949



「共育で」を促進するために必要だと思うこと（就園・未就園別）

(%)

	n	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	職場の人員体制を整える	育児休業中の経済的支援を行う	年次有給休暇の取得を促進する	必要性について、管理職の理解を深める
全体	949	51.8	49.6	45.4	37.8	30.6
【就園・未就園別】						
就園	714	51.4	48.6	42.4	38.4	31.0
未就園	235	53.2	52.8	54.5	36.2	29.4

(%)

	n	長時間勤務の是正	必要性について、本人の理解を深める	研修や情報提供を行う	その他
全体	949	29.2	11.9	3.7	1.4
【就園・未就園別】					
就園	714	28.2	12.5	3.2	1.8
未就園	235	32.3	10.2	5.1	-

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「育児休業中の経済的支援を行う」が12.1ポイント高くなっている。

「共育で」を促進するために必要だと思うこと（性別、年齢別）

(%)

	n	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	職場の人員体制を整える	育児休業中の経済的支援を行う	年次有給休暇の取得を促進する	必要性について、管理職の理解を深める
全体	949	51.8	49.6	45.4	37.8	30.6
【性別】						
男性	77	42.9	62.3	57.1	39.0	24.7
女性	871	52.6	48.6	44.3	37.7	31.1
【年齢別】						
20歳代	86	44.2	43.0	55.8	36.0	32.6
30歳代	607	54.5	49.8	46.5	38.6	30.0
40歳以上	256	48.0	51.6	39.5	36.7	31.3

(%)

	n	長時間勤務の是正	必要性について、当人の理解を深める	研修や情報提供を行う	その他
全体	949	29.2	11.9	3.7	1.4
【性別】					
男性	77	23.4	6.5	6.5	2.6
女性	871	29.7	12.4	3.4	1.3
【年齢別】					
20歳代	86	27.9	17.4	2.3	-
30歳代	607	29.7	9.7	3.5	1.5
40歳以上	256	28.5	15.2	4.7	1.6

【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」が9.7ポイント、「必要性について、管理職の理解を深める」が6.4ポイント、「長時間勤務の是正」が6.3ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「職場の人員体制を整える」が13.7ポイント、「育児休業中の経済的支援を行う」が12.8ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「職場の人員体制を整える」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で51.6%となっている。一方、「育児休業中の経済的支援を行う」は20歳代で55.8%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。

「共育で」を促進するために必要だと思うこと（子どもの数別）

(%)

	n	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	職場の人員体制を整える	育児休業中の経済的支援を行う	年次有給休暇の取得を促進する	必要性について、管理職の理解を深める
全体	949	51.8	49.6	45.4	37.8	30.6
【子どもの数別】						
1人	331	54.4	54.7	49.5	33.8	29.9
2人	421	51.5	48.7	40.4	39.2	32.1
3人	169	51.5	43.2	47.3	43.2	29.0
4人以上	28	28.6	42.9	60.7	32.1	25.0

(%)

	n	長時間勤務の是正	必要性について、本人の理解を深める	研修や情報提供を行う	その他
全体	949	29.2	11.9	3.7	1.4
【子どもの数別】					
1人	331	30.8	10.3	2.7	1.2
2人	421	28.5	14.0	3.8	1.2
3人	169	28.4	9.5	5.9	1.2
4人以上	28	25.0	14.3	-	7.1

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「育児休業中の経済的支援を行う」は4人以上で60.7%と高くなっている。一方、「職場の人員体制を整える」は1人で54.7%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。

「共育で」を促進するために必要だと思うこと（居住地別）

(%)

	n	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	職場の人員体制を整える	育児休業中の経済的支援を行う	年次有給休暇の取得を促進する	必要性について、管理職の理解を深める
全体	949	51.8	49.6	45.4	37.8	30.6
【居住地別】						
中部地域	317	47.3	50.2	45.1	37.9	32.2
西部地域	281	55.9	49.8	41.3	38.4	27.0
吾妻地域	33	57.6	33.3	48.5	30.3	30.3
利根沼田地域	49	49.0	53.1	46.9	28.6	32.7
東部地域	263	53.2	50.2	49.0	39.5	32.3

(%)

	n	長時間勤務の是正	必要性について、当人の理解を深める	研修や情報提供を行う	その他
全体	949	29.2	11.9	3.7	1.4
【居住地別】					
中部地域	317	30.9	13.2	3.8	0.9
西部地域	281	32.0	11.7	5.3	1.8
吾妻地域	33	18.2	15.2	-	3.0
利根沼田地域	49	24.5	16.3	2.0	4.1
東部地域	263	26.6	9.5	2.7	0.8

【居住地別】

居住地別でみると、「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」は吾妻地域で 57.6%と高くなっている。「職場の人員体制を整える」は利根沼田地域で 53.1%と高くなっている。

「共育て」を促進するために必要だと思うこと（夫婦の職業別）

(%)

	n	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	職場の人員体制を整える	育児休業中の経済的支援を行う	年次有給休暇の取得を促進する	必要性について、管理職の理解を深める
全体	949	51.8	49.6	45.4	37.8	30.6
【夫婦の職業別】						
男性正規×女性正規	350	50.6	57.7	52.3	34.0	31.4
男性正規×女性非正規	245	53.9	46.1	44.1	44.5	30.6
男性正規×女性無職・家事	170	55.3	45.9	40.0	39.4	32.9
その他	184	48.4	42.4	39.1	34.8	26.6

(%)

	n	長時間勤務の是正	必要性について、当人の理解を深める	研修や情報提供を行う	その他
全体	949	29.2	11.9	3.7	1.4
【夫婦の職業別】					
男性正規×女性正規	350	34.6	8.9	2.6	0.9
男性正規×女性非正規	245	24.5	10.2	4.1	0.8
男性正規×女性無職・家事	170	27.6	14.1	5.3	1.2
その他	184	26.6	17.9	3.8	3.3

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、男性正規×女性正規で「職場の人員体制を整える」が57.7%、「育児休業中の経済的支援を行う」が52.3%、「長時間勤務の是正」が34.6%と高くなっている。「年次有給休暇の取得を促進する」は男性正規×女性非正規で44.5%と高くなっている。

「共育て」を促進するために必要だと思うこと（世帯年収別）

(%)

	n	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	職場の人員体制を整える	育児休業中の経済的支援を行う	年次有給休暇の取得を促進する	必要性について、管理職の理解を深める
全体	949	51.8	49.6	45.4	37.8	30.6
【世帯年収別】						
300万円未満	70	50.0	45.7	48.6	41.4	30.0
300万円～500万円未満	259	51.7	46.3	51.0	40.9	26.3
500万円～700万円未満	314	49.7	49.7	49.4	36.9	32.8
700万円～1000万円未満	232	56.9	52.6	40.9	37.5	30.6
1000万円以上	74	47.3	55.4	20.3	28.4	36.5

(%)

	n	長時間勤務の是正	必要性について、当人の理解を深める	研修や情報提供を行う	その他
全体	949	29.2	11.9	3.7	1.4
【世帯年収別】					
300万円未満	70	22.9	8.6	2.9	1.4
300万円～500万円未満	259	22.8	12.4	3.5	1.2
500万円～700万円未満	314	30.9	11.1	3.2	1.6
700万円～1000万円未満	232	30.6	12.5	3.0	1.3
1000万円以上	74	45.9	14.9	9.5	1.4

【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」は700万円～1000万円未満で56.9%と高くなっている。「職場の人員体制を整える」と「長時間勤務の是正」は年収が上がるほど高くなり、1000万円以上で55.4%、45.9%と最も高くなっている。「育児休業中の経済的支援を行う」は700万円未満で5割前後と高くなっている。

「共育て」を促進するために必要だと思うこと（子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

	n	短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める	職場の人員体制を整える	育児休業中の経済的支援を行う	年次有給休暇の取得を促進する	必要性について、管理職の理解を深める
全体	949	51.8	49.6	45.4	37.8	30.6
【子どもを産み育てやすい環境か別】						
感じている	149	54.4	45.6	45.0	43.0	26.2
まあ感じている	501	52.1	50.1	45.9	37.7	30.3
あまり感じていない	237	51.9	50.2	44.7	36.7	32.1
感じていない	62	43.5	53.2	45.2	30.6	37.1

(%)

	n	長時間勤務の是正	必要性について、本人の理解を深める	研修や情報提供を行う	その他
全体	949	29.2	11.9	3.7	1.4
【子どもを産み育てやすい環境か別】					
感じている	149	23.5	12.8	4.7	0.7
まあ感じている	501	28.1	12.0	3.2	0.8
あまり感じていない	237	33.8	11.4	4.6	2.5
感じていない	62	33.9	11.3	1.6	3.2

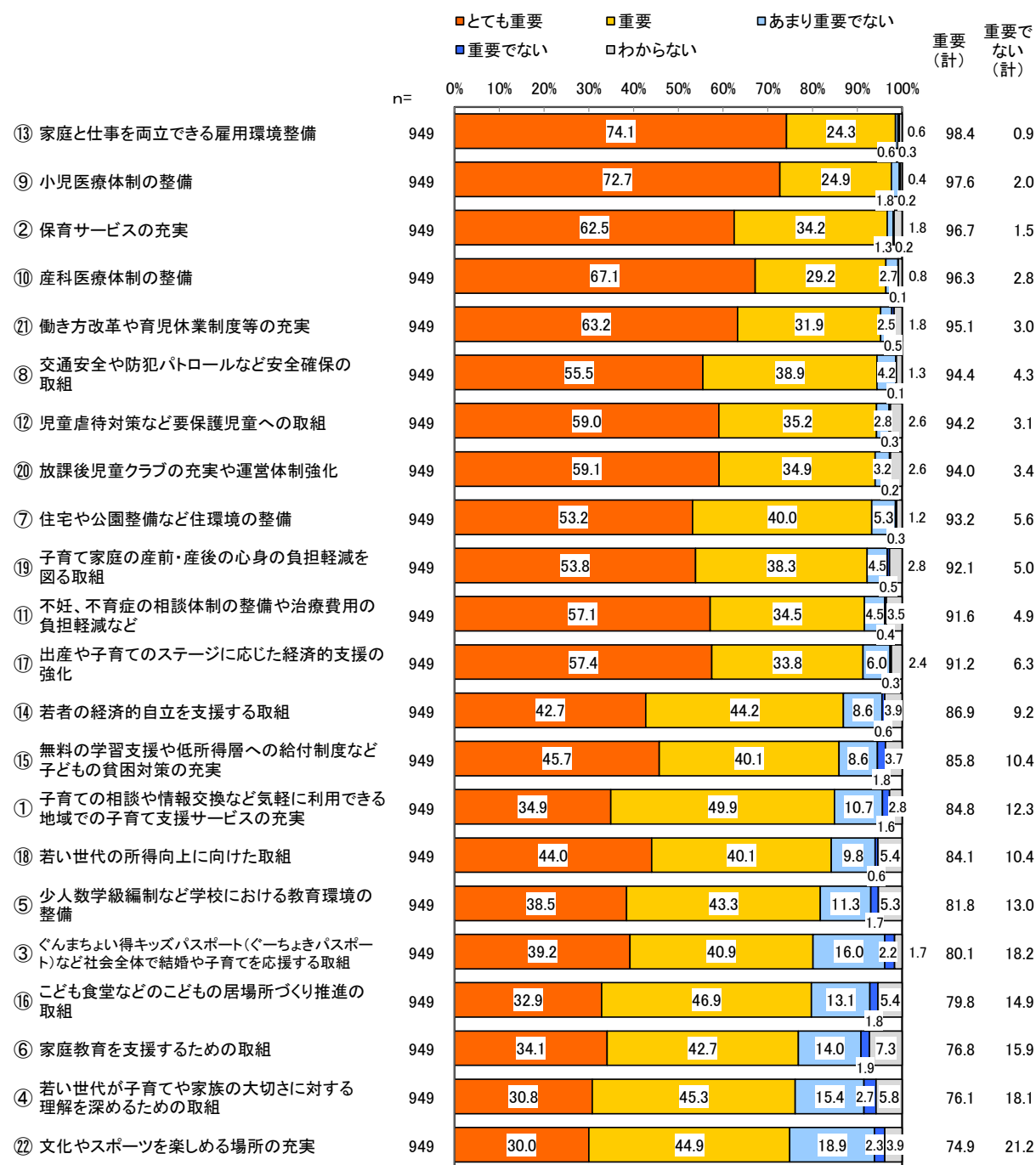
【子どもを産み育てやすい環境か別】

子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「年次有給休暇の取得を促進する」は産み育てやすいと感じているほど高く、「感じている」で43.0%となっている。一方、「必要性について、管理職の理解を深める」は産み育てやすいと感じていないほど高く、「感じていない」で37.1%となっている。

6 少子化対策について

問 32 次の各施策について、総合的にみて少子化対策としての重要度はどの程度だと思いますか。
(回答はそれぞれ1つだけ)

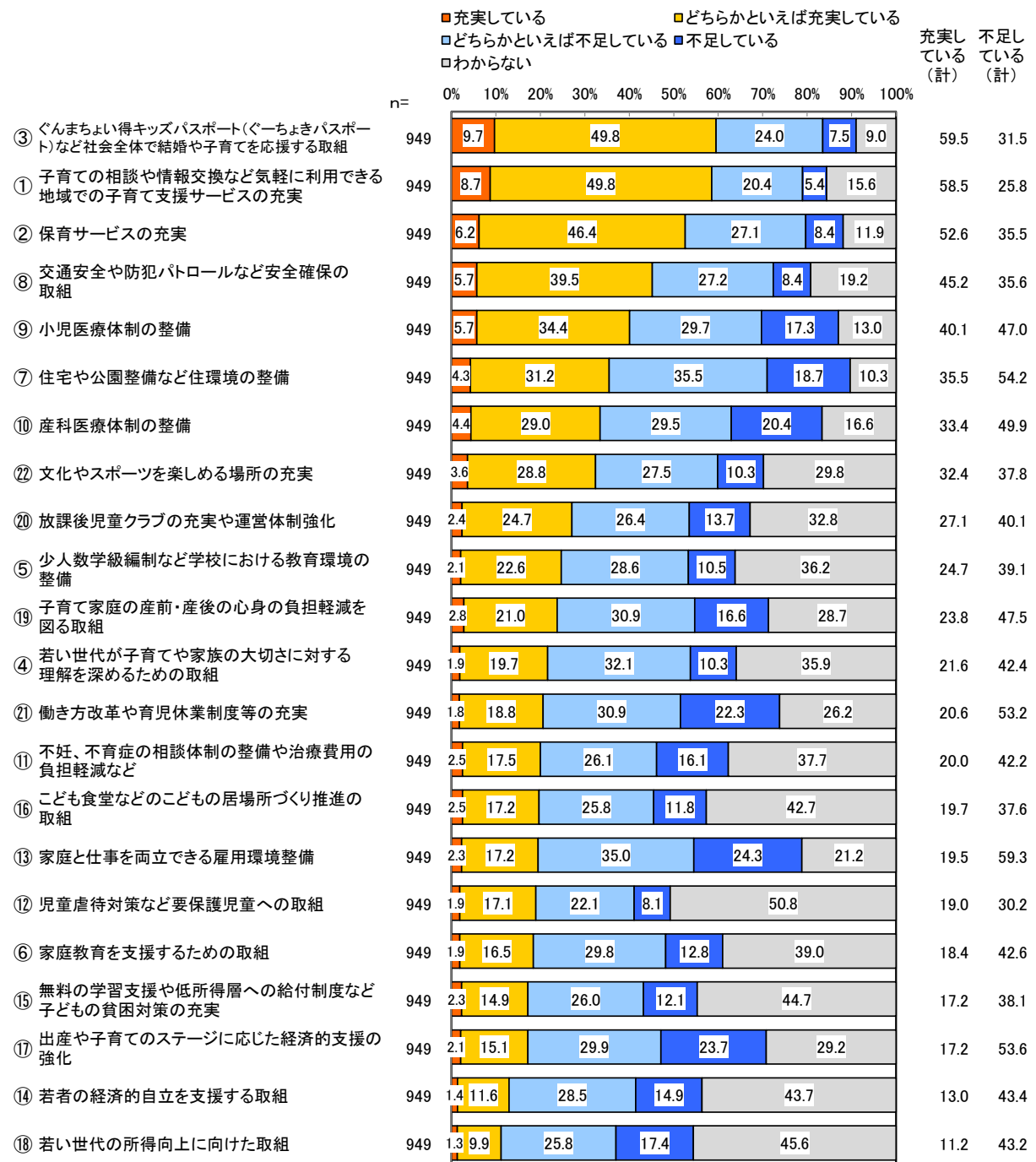
少子化対策の重要度については、「重要(計)」は“⑬家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が98.4%で最も高く、次いで“⑨小児医療体制の整備”が97.6%、“②保育サービスの充実”が96.7%となっている。一方、「重要でない(計)」は“㉒文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が21.2%で最も高く、次いで“③ぐんまちよい得キッズパスポート(ぐーちょきパスポート)など社会全体で結婚や子育てを応援する取組”が18.2%、“④若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組”が18.1%となっている。



※ 「とても重要」と「重要」の計を「重要(計)」、「あまり重要でない」と「重要でない」の計を「重要でない(計)」とした。

問 33 現状の少子化対策の各施策の取組状況についてどう思いますか。(回答はそれぞれ1つだけ)

少子化対策の取組状況については、「充実している(計)」は“③ぐんまちょい得キッズパスポート(ぐーちょきパスポート)など社会全体で結婚や子育てを応援する取組”が59.5%で最も高く、次いで“①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実”が58.5%、“②保育サービスの充実”が52.6%となっている。一方、「不足している(計)」は“⑬家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が59.3%で最も高く、次いで“⑦住宅や公園整備など住環境の整備”が54.2%、“⑰出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化”が53.6%となっている。



※「充実している」と「どちらかといえば充実している」の計を「充実している(計)」、「どちらかといえば不足している」と「不足している」の計を「不足している(計)」とした。

問 32 及び問 33 の 5 段階回答を指標化（※）した結果、重要度は「⑬家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が 3.71 点で最も高く、次いで「⑨小児医療体制の整備」が 3.68 点、「⑩産科医療体制の整備」が 3.60 点となっている。

充実度は「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援」が 2.36 点で最も高く、次いで「③ぐんまちよい得キッズパスポート（ぐーちよきパスポート）など社会全体で結婚や子育てを応援する取組」が 2.30 点、「②保育サービスの充実」が 2.15 点となっている。一方、「⑬家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」（1.38 点）、「⑰出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」（1.42 点）、「⑳働き方改革や育児休業制度等の充実」（1.47 点）は低くなっている。

※指標化の方法

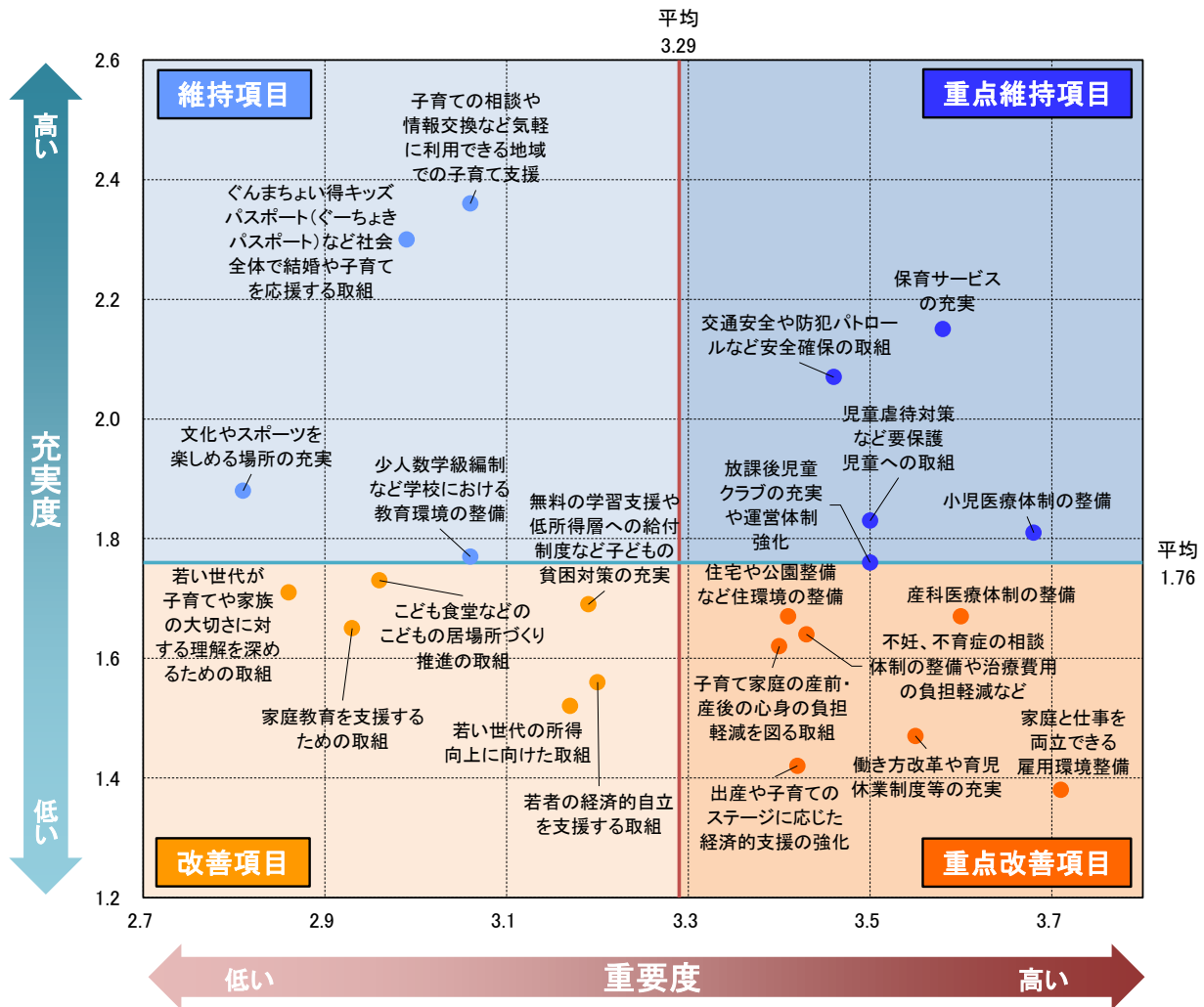
各項目の回答結果を下表の通りに得点化し、無回答を母数から除き、加重平均により指標化した。得点が高いほど、より重要に思っている／充実していることを示している。

	4点	3点	2点	1点	0点
重要度 (問 32)	とても重要	重要	わからない	あまり重要でない	重要でない
充実度 (問 33)	充実している	どちらかといえば充実している	わからない	どちらかといえば不足している	不足している

重要度・充実度の加重平均

	重要度	充実度
⑬ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.71	1.38
⑨ 小児医療体制の整備	3.68	1.81
⑩ 産科医療体制の整備	3.60	1.67
② 保育サービスの充実	3.58	2.15
㉑ 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.55	1.47
⑫ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.50	1.83
⑳ 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	3.50	1.76
⑧ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	3.46	2.07
⑪ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.43	1.64
⑰ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.42	1.42
⑦ 住宅や公園整備など住環境の整備	3.41	1.67
⑲ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.40	1.62
⑭ 若者の経済的自立を支援する取組	3.20	1.56
⑮ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	3.19	1.69
⑱ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.17	1.52
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援	3.06	2.36
⑤ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	3.06	1.77
③ ぐんまちよい得キッズパスポート(ぐーちよきパスポート)など社会全体で結婚や子育てを応援する取組	2.99	2.30
⑯ こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.96	1.73
⑥ 家庭教育を支援するための取組	2.93	1.65
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.86	1.71
㉒ 文化やスポーツを楽しむ場所の充実	2.81	1.88

重要度を横軸、充実度を縦軸として設定し、プロットした結果が、下図の通りである。



重点維持項目	重要度が高く、充実度も高いことから、今後もより重点的に維持（充実）すべき項目
維持項目	重要度が低いが、充実度が高いことから、現状を維持すべき項目
重点改善項目	重要度が高く、充実度が低いことから、重点的に改善すべき項目
改善項目	重要度が低く、充実度も低いことから、優先度は低い改善すべき項目

重要度及び充実度の平均値で区切った4つのグループに分類すると、重要度、充実度がともに高い“重点維持項目”は、「②保育サービスの充実」、「⑧交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」など5項目となっている。また、重要度が低いが充実度が高い“維持項目”は、「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援」など4項目が該当している。

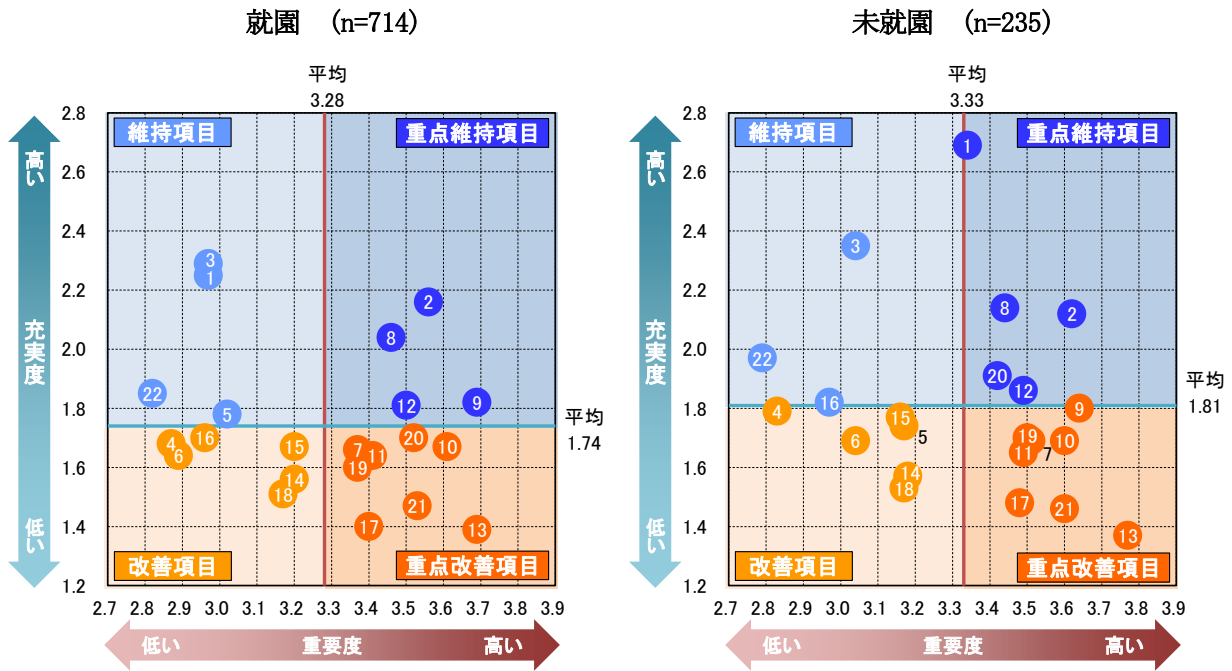
一方、重要度が高く充実度が低い“重点改善項目”は、「⑬家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」、「⑭働き方改革や育児休業制度等の充実」、「⑮出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」など7項目が該当している。また、重要度も充実度も低い“改善項目”は、「⑯若い世代の所得向上に向けた取組」、「⑰若者の経済的自立を支援する取組」など6項目となっている。

【就園・未就園別】

全体で“重点維持項目”に属している項目を就園・未就園別でみると、「⑳放課後児童クラブの充実や運営体制強化」は未就園は“重点維持項目”だが就園は“重点改善項目”となっている。

一方、全体で“重点改善項目”に属している項目をみると、就園・未就園の間に大きな違いはみられない。

少子化対策の重要度・充実度（就園・未就園別）

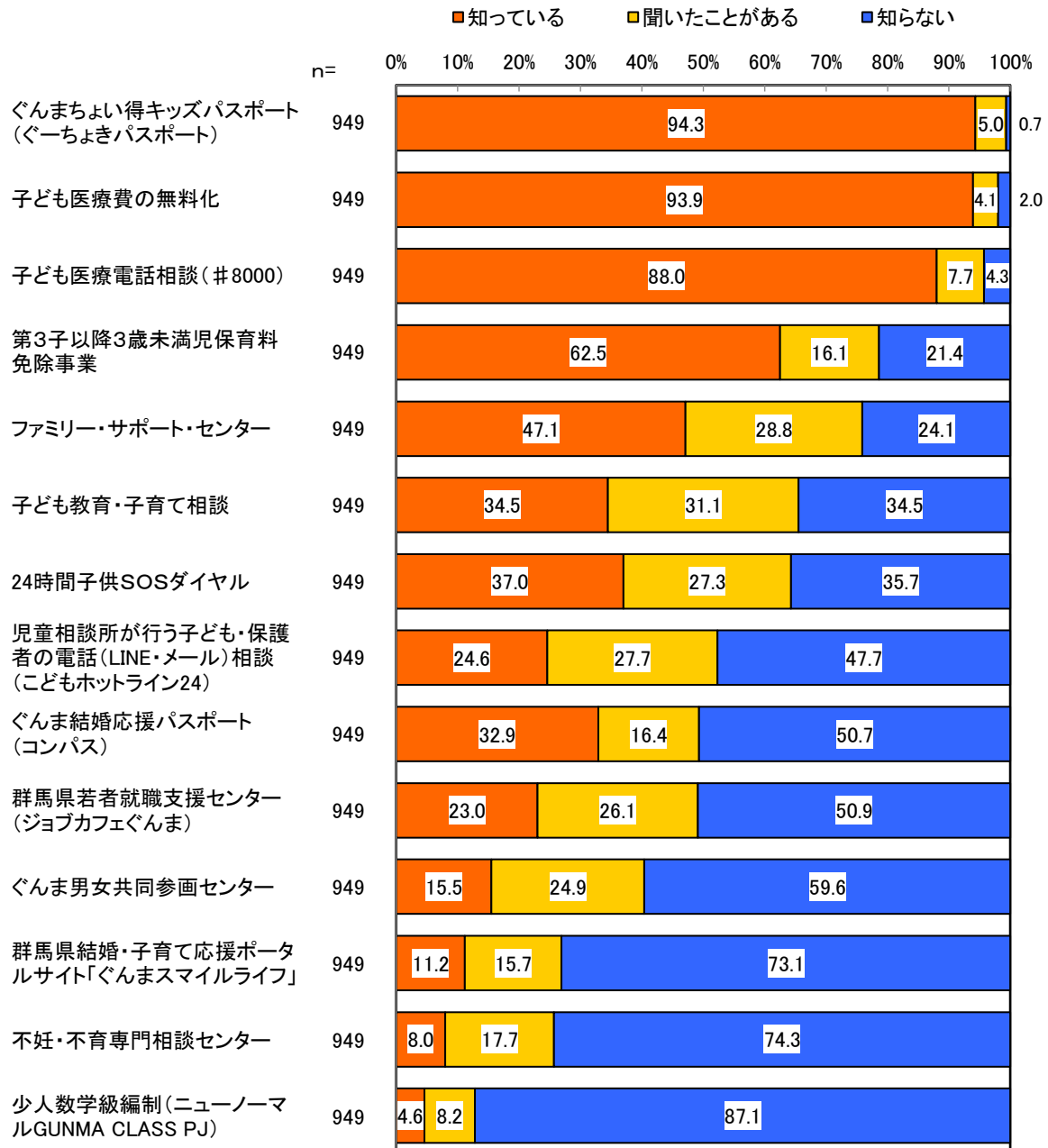


番号	項目名	番号	項目名
①	子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援	⑫	児童虐待対策など要保護児童への取組
②	保育サービスの充実	⑬	家庭と仕事を両立できる雇用環境整備
③	ぐんまちよい得キッズパスポート(ぐーちよきパスポート)など社会全体で結婚や子育てを応援する取組	⑭	若者の経済的自立を支援する取組
④	若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	⑮	無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実
⑤	少人数学級編制など学校における教育環境の整備	⑯	こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組
⑥	家庭教育を支援するための取組	⑰	出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化
⑦	住宅や公園整備など住環境の整備	⑱	若い世代の所得向上に向けた取組
⑧	交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	⑲	子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組
⑨	小児医療体制の整備	⑳	放課後児童クラブの充実や運営体制強化
⑩	産科医療体制の整備	㉑	働き方改革や育児休業制度等の充実
⑪	不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	㉒	文化やスポーツを楽しめる場所の充実

問 34 次の少子化対策関連の制度や事業について、あなたはご存知でしたか。

(回答はそれぞれ1つだけ)

少子化対策関連の制度や事業の認知度については、「知っている」は“ぐんまちょい得キッズパスポート（ぐーちょきパスポート）”が94.3%で最も高く、次いで“子ども医療費の無料化”が93.9%、“子ども医療電話相談（#8000）”が88.0%となっている。一方、「知らない」は“少人数学級編制（ニューノーマル GUNMA CLASS PJ）”が87.1%で最も高く、次いで“不妊・不育専門相談センター”が74.3%、“群馬県結婚・子育て応援ポータルサイト「ぐんまスマイルライフ」”が73.1%となっている。



少子化対策関連の制度や事業の認知度（「知っている」の割合－就園・未就園別）

(%)

	n	ぐんまちよい 得キッズパス ポート (ぐーちよき パスポート)	子ども医療 費の無料化	子ども医療 電話相談 (#8000)	第3子以降 3歳未満児 保育料免除 事業	ファミリー・ サポート・セ ンター	24時間子供 SOSダイヤ ル	子ども教育・ 子育て相談
全体	949	94.3	93.9	88.0	62.5	47.1	37.0	34.5
【就園・未就園別】								
就園	714	95.0	94.5	86.8	65.5	46.1	39.2	35.6
未就園	235	92.3	91.9	91.5	53.2	50.2	30.2	31.1

(%)

	n	ぐんま結婚 応援パス ポート(コン パス)	児童相談所 が行う子ど も・保護者 の電話 (LINE・メー ル)相談(こ どもホットラ イン24)	群馬県若者 就職支援セ ンター(ジョ ブカフェぐん ま)	ぐんま男女 共同参画セ ンター	群馬県結 婚・子育て 応援ポータル サイト「ぐ んまスマイ ルライフ」	不妊・不育 専門相談セ ンター	少人数学級 編制(ニュー ノーマル GUNMA CLASS PJ)
全体	949	32.9	24.6	23.0	15.5	11.2	8.0	4.6
【就園・未就園別】								
就園	714	27.5	25.4	23.7	17.1	10.1	7.6	3.8
未就園	235	49.4	22.1	20.9	10.6	14.5	9.4	7.2

【就園・未就園別】

「知っている」の割合を就園・未就園別でみると、就園は未就園よりも「第3子以降3歳未満児保育料免除事業」が12.3ポイント、「24時間子供SOSダイヤル」が9.0ポイント、「ぐんま男女共同参画センター」が6.5ポイント高くなっている。一方、未就園は就園よりも「ぐんま結婚応援パスポート(コンパス)」が21.9ポイント高くなっている。

少子化対策関連の制度や事業の認知度（「知っている」の割合－性別、年齢別）

(%)

	n	ぐんまちよい得キッズパスポート(ぐんちよきパスポート)	子ども医療費の無料化	子ども医療電話相談(#8000)	第3子以降3歳未満児保育料免除事業	ファミリー・サポート・センター	24時間子供SOSダイヤル	子ども教育・子育て相談
全体	949	94.3	93.9	88.0	62.5	47.1	37.0	34.5
【性別】								
男性	77	90.9	88.3	51.9	53.2	31.2	32.5	29.9
女性	871	94.6	94.4	91.2	63.3	48.6	37.4	34.9
【年齢別】								
20歳代	86	90.7	93.0	87.2	53.5	45.3	41.9	40.7
30歳代	607	94.1	94.1	90.4	64.3	48.3	37.7	36.2
40歳以上	256	96.1	93.8	82.4	61.3	44.9	33.6	28.1

(%)

	n	ぐんま結婚応援パスポート(コンパス)	児童相談所が行う子ども・保護者の電話(LINE・メール)相談(こどもホットライン24)	群馬県若者就職支援センター(ジョブカフェぐんま)	ぐんま男女共同参画センター	群馬県結婚・子育て応援ポータルサイト「ぐんまスマイルライフ」	不妊・不育専門相談センター	少人数学級編制(ニューノーマル GUNMA CLASS PJ)
全体	949	32.9	24.6	23.0	15.5	11.2	8.0	4.6
【性別】								
男性	77	32.5	23.4	29.9	28.6	11.7	9.1	7.8
女性	871	32.8	24.7	22.4	14.4	11.0	7.9	4.4
【年齢別】								
20歳代	86	45.3	27.9	23.3	12.8	19.8	11.6	11.6
30歳代	607	36.1	23.2	22.7	15.3	12.2	7.7	4.4
40歳以上	256	21.1	26.6	23.4	16.8	5.9	7.4	2.7

【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「子ども医療電話相談(#8000)」が39.3ポイント、「ファミリー・サポート・センター」が17.4ポイント、「第3子以降3歳未満児保育料免除事業」が10.1ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「ぐんま男女共同参画センター」が14.2ポイント、「群馬県若者就職支援センター(ジョブカフェぐんま)」が7.5ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「24時間子供SOSダイヤル」は20歳代で41.9%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。「子ども教育・子育て相談」、「ぐんま結婚応援パスポート(コンパス)」も同様の傾向がみられ、20歳代で4割台となっている。

少子化対策関連の制度や事業の認知度（「知っている」の割合－子どもの数別）

(%)

	n	ぐんまちよい 得キッズパス ポート (ぐーちよき パスポート)	子ども医療 費の無料化	子ども医療 電話相談 (#8000)	第3子以降3 歳未満児保 育料免除事 業	ファミリー・ サポート・セ ンター	24時間子供 SOSダイヤ ル	子ども教育・ 子育て相談
全 体	949	94.3	93.9	88.0	62.5	47.1	37.0	34.5
【子どもの数別】								
1人	331	92.7	90.9	85.5	44.1	39.3	27.8	27.5
2人	421	94.3	94.8	89.3	64.1	47.7	38.7	36.1
3人	169	96.4	97.0	89.3	89.9	56.8	49.1	41.4
4人以上	28	100.0	96.4	89.3	89.3	71.4	46.4	50.0

(%)

	n	ぐんま結婚 応援パス ポート(コン パス)	児童相談所 が行う子ど も・保護者の 電話(LINE・ メール)相談 (こどもホット ライン24)	群馬県若者 就職支援セ ンター(ジョ ブカフェぐん ま)	ぐんま男女 共同参画セ ンター	群馬県結 婚・子育て 応援ポータ ルサイト「ぐ んまスマイ ルライフ」	不妊・不育 専門相談セ ンター	少人数学級 編制(ニュー ノーマル GUNMA CLASS PJ)
全 体	949	32.9	24.6	23.0	15.5	11.2	8.0	4.6
【子どもの数別】								
1人	331	43.2	17.5	22.7	13.0	13.3	6.9	4.5
2人	421	30.2	25.7	23.3	15.7	10.9	8.8	5.2
3人	169	23.1	31.4	23.7	19.5	9.5	7.7	3.6
4人以上	28	10.7	50.0	17.9	17.9	-	10.7	3.6

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「第3子以降3歳未満児保育料免除事業」は子どもの数が増えるほど高くなる傾向がみられ、3人で89.9%、4人以上で89.3%となっている。「ファミリー・サポート・センター」、「子ども教育・子育て相談」、「児童相談所が行う子ども・保護者の電話(LINE・メール)相談(こどもホットライン24)」も同様の傾向がみられる。一方、「ぐんま結婚応援パスポート(コンパス)」は1人で43.2%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。

少子化対策関連の制度や事業の認知度（「知っている」の割合 - 居住地別）

(%)

	n	ぐんまちよい 得キッズパス ポート (ぐーちよき パスポート)	子ども医療 費の無料化	子ども医療 電話相談 (#8000)	第3子以降3 歳未満児保 育料免除事 業	ファミリー・ サポート・セ ンター	24時間子供 SOSダイヤ ル	子ども教育・ 子育て相談
全 体	949	94.3	93.9	88.0	62.5	47.1	37.0	34.5
【居住地別】								
中部地域	317	95.3	95.3	88.0	65.0	49.2	37.9	33.1
西部地域	281	94.7	93.2	90.7	63.0	44.5	38.8	35.2
吾妻地域	33	90.9	87.9	84.8	39.4	18.2	39.4	27.3
利根沼田地域	49	85.7	87.8	67.3	63.3	36.7	36.7	34.7
東部地域	263	95.4	95.1	89.7	62.4	53.2	34.2	36.5

(%)

	n	ぐんま結婚 応援パス ポート(コン パス)	児童相談所 が行う子ど も・保護者の 電話(LINE・ メール)相談 (こどもホット ライン24)	群馬県若者 就職支援セ ンター(ジョ ブカフェぐん ま)	ぐんま男女 共同参画セ ンター	群馬県結 婚・子育て 応援ポータ ルサイト「ぐ んまスマイ ルライフ」	不妊・不育 専門相談セ ンター	少人数学級 編制(ニュー ノーマル GUNMA CLASS PJ)
全 体	949	32.9	24.6	23.0	15.5	11.2	8.0	4.6
【居住地別】								
中部地域	317	36.6	28.4	29.3	21.1	12.6	8.5	4.1
西部地域	281	33.1	23.5	22.4	15.7	11.4	8.2	6.0
吾妻地域	33	15.2	12.1	9.1	3.0	3.0	3.0	-
利根沼田地域	49	26.5	18.4	26.5	12.2	10.2	6.1	-
東部地域	263	32.3	24.0	17.5	11.0	10.6	8.0	5.3

【居住地別】

居住地別でみると、「ファミリー・サポート・センター」は東部地域で 53.2%と高くなっている。

少子化対策関連の制度や事業の認知度（「知っている」の割合－夫婦の職業別）

(%)

	n	ぐんまちよい 得キッズパス ポート (ぐーちよき パスポート)	子ども医療 費の無料化	子ども医療 電話相談 (#8000)	第3子以降 3歳未満児 保育料免除 事業	ファミリー・ サポート・セ ンター	24時間子供 SOSダイヤ ル	子ども教育・ 子育て相談
全 体	949	94.3	93.9	88.0	62.5	47.1	37.0	34.5
【夫婦の職業別】								
男性正規× 女性正規	350	94.0	94.3	88.3	62.9	48.3	39.1	33.1
男性正規× 女性非正規	245	95.9	95.5	86.1	66.9	49.4	37.6	37.6
男性正規× 女性無職・家事	170	94.7	92.9	94.1	54.1	48.2	31.8	32.4
その他	184	92.4	91.8	84.2	63.6	40.8	37.0	34.8

(%)

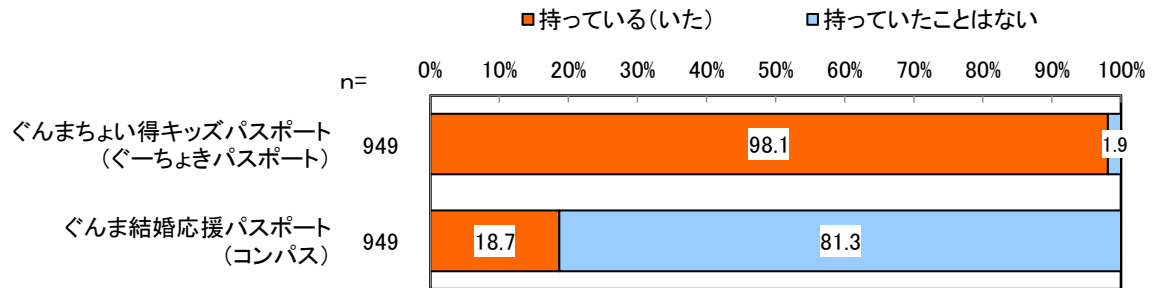
	n	ぐんま結婚 応援パス ポート(コン パス)	児童相談所 が行う子ど も・保護者 の電話 (LINE・メー ル)相談(こ どもホットラ イン24)	群馬県若者 就職支援セ ンター(ジョ ブカフェぐん ま)	ぐんま男女 共同参画セ ンター	群馬県結 婚・子育て 応援ポータ ルサイト「ぐ んまスマイ ルライフ」	不妊・不育 専門相談セ ンター	少人数学級 編制(ニュー ノーマル GUNMA CLASS PJ)
全 体	949	32.9	24.6	23.0	15.5	11.2	8.0	4.6
【夫婦の職業別】								
男性正規× 女性正規	350	44.0	26.6	23.7	20.9	15.1	10.3	8.3
男性正規× 女性非正規	245	23.7	24.9	23.3	13.1	9.8	7.3	1.6
男性正規× 女性無職・家事	170	34.7	20.6	22.4	11.8	8.8	7.1	2.4
その他	184	22.3	23.9	21.7	12.0	7.6	5.4	3.8

【夫婦の職業別】

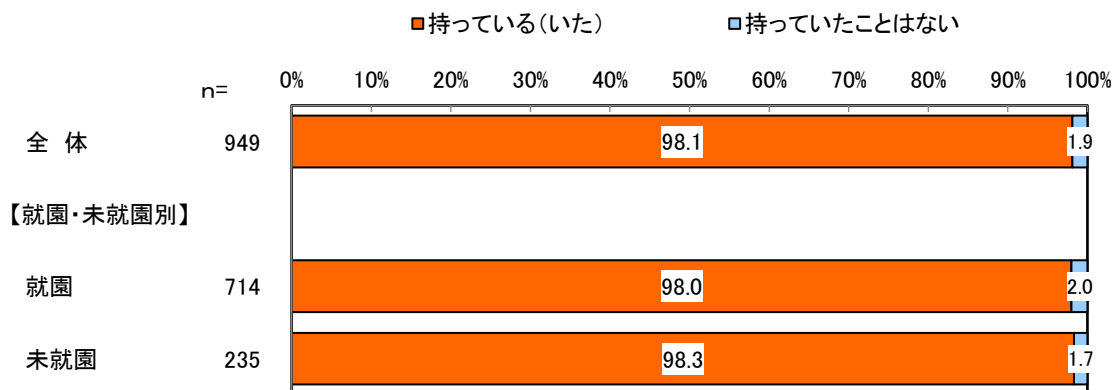
夫婦の職業別でみると、「子ども医療電話相談（#8000）」は男性正規×女性無職・家事で94.1%と高くなっている。「ぐんま結婚応援パスポート（コンパス）」は男性正規×女性正規で44.0%と高くなっている。

問 35-1 ぐんまちょい得キッズパスポート（ぐーちょきパスポート）、ぐんま結婚応援パスポート（コンパス）を持っていますか（持っていたことがありますか）。（回答はそれぞれ1つ）

ぐーちょきパスポート及びコンパスの所持については、「持っている（いた）」は、“ぐんまちょい得キッズパスポート（ぐーちょきパスポート）”が98.1%、“ぐんま結婚応援パスポート（コンパス）”が18.7%となっている。



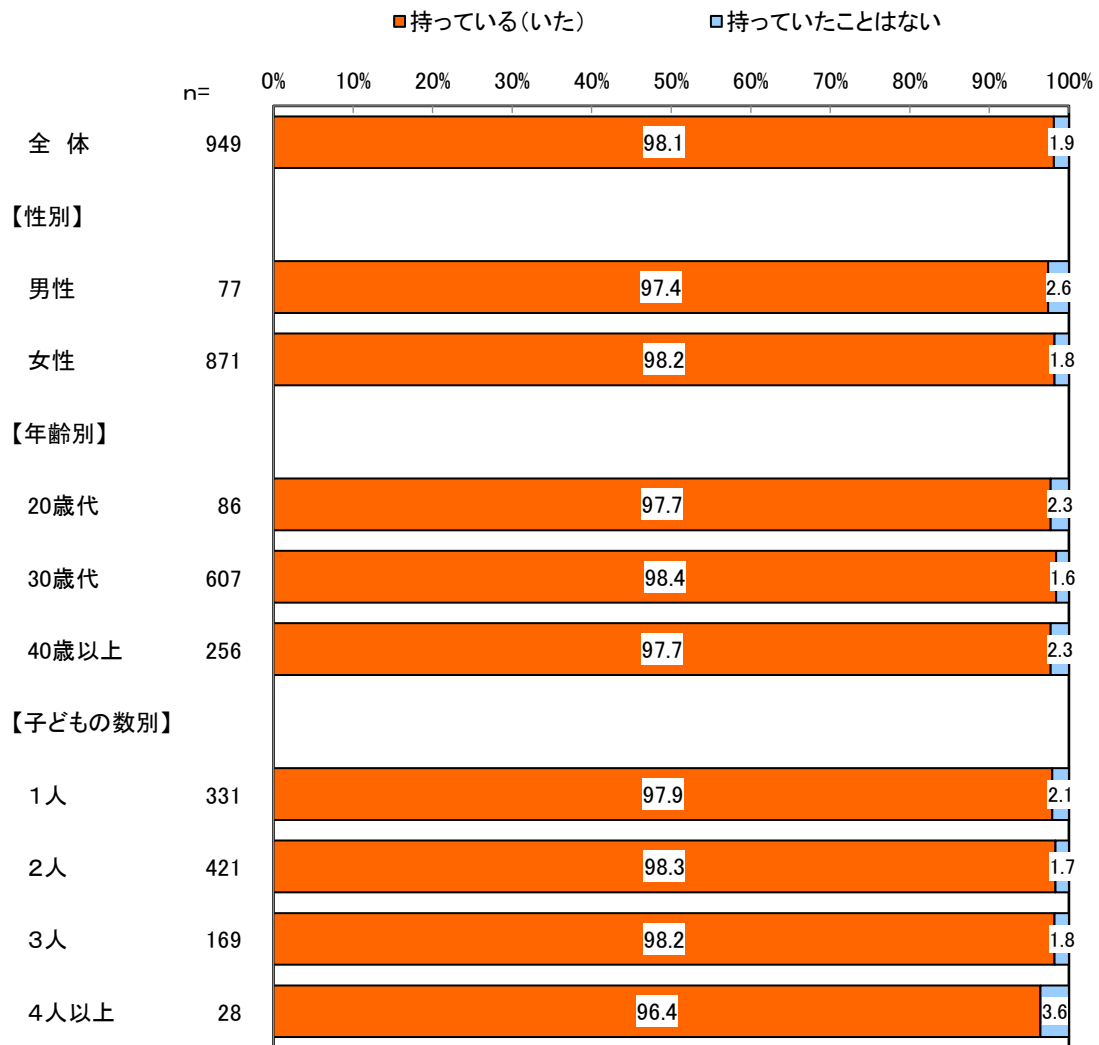
ぐーちょきパスポートの所持（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

ぐーちょきパスポートの所持（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

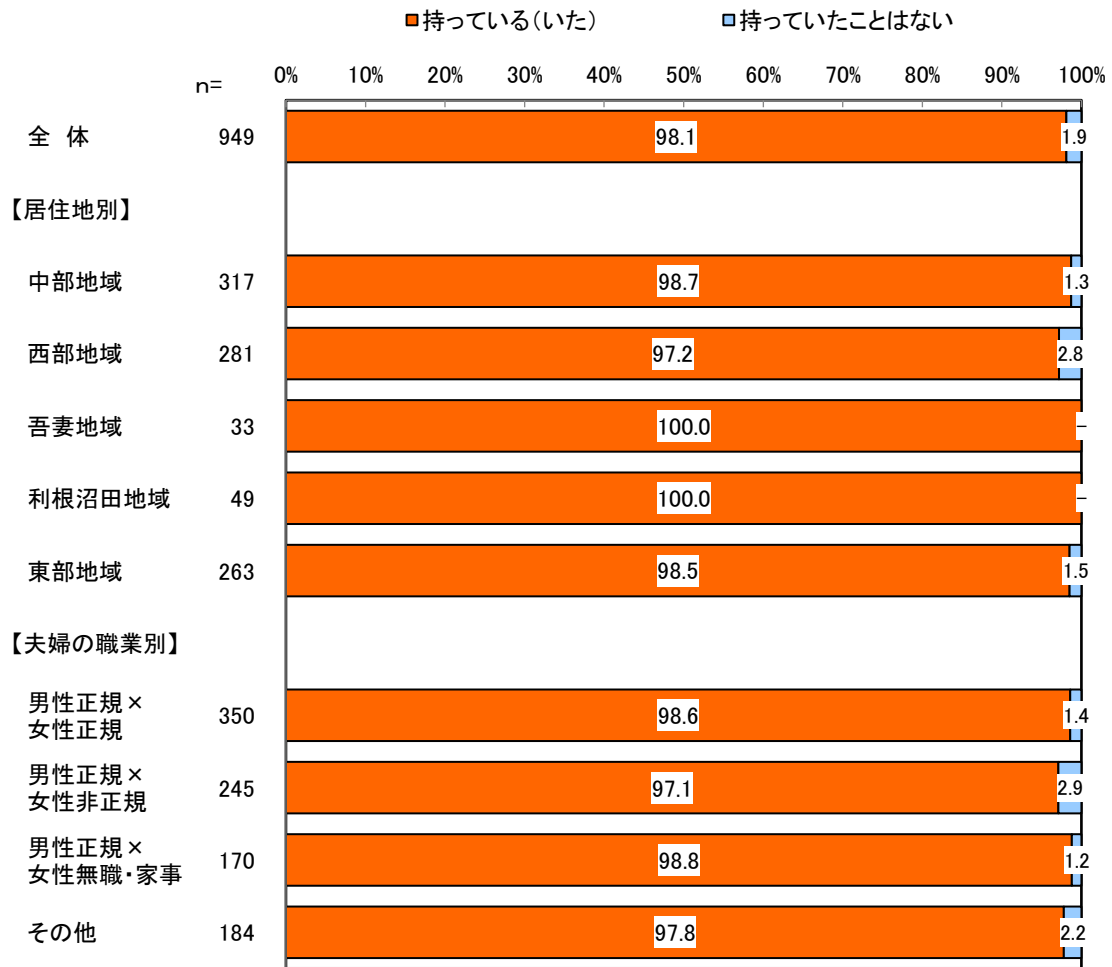
【年齢別】

年齢別でみると、年齢による大きな差はみられない。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、子どもの数による大きな差はみられない。

ぐーちょきパスポートの所持（居住地別、夫婦の職業別）



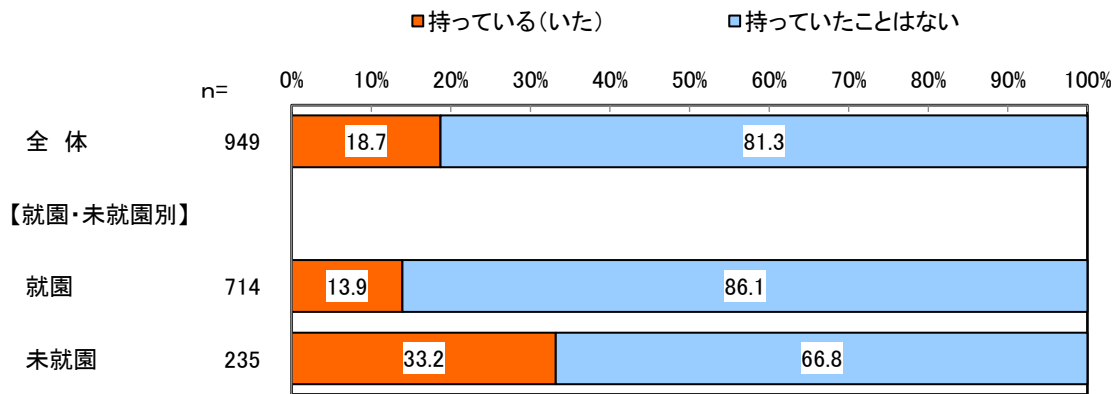
【居住地別】

居住地別でみると、地域による大きな差はみられない。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、職業による大きな差はみられない。

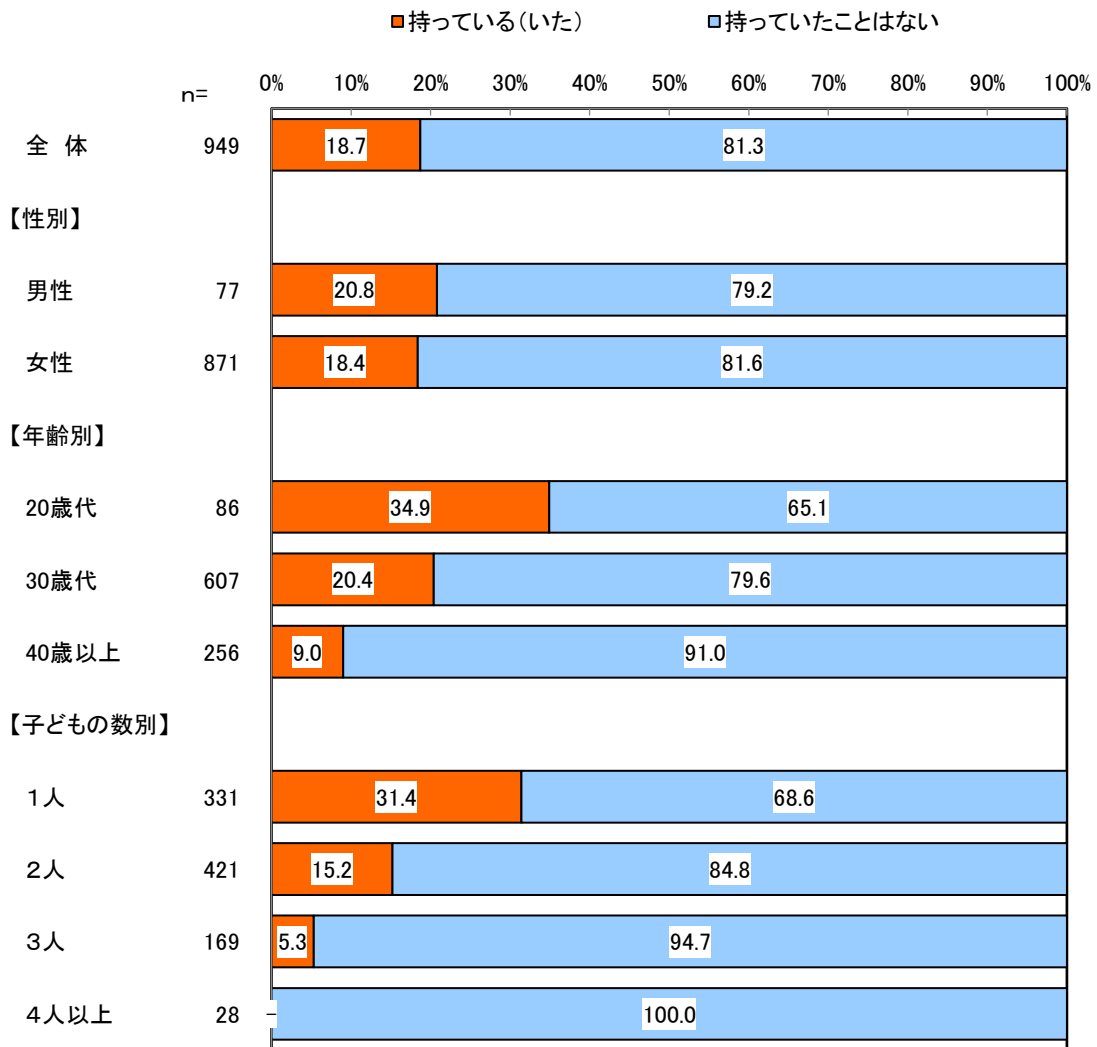
コンパスの所持（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「持っている（いた）」が19.3ポイント高くなっている。

コンパスの所持（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

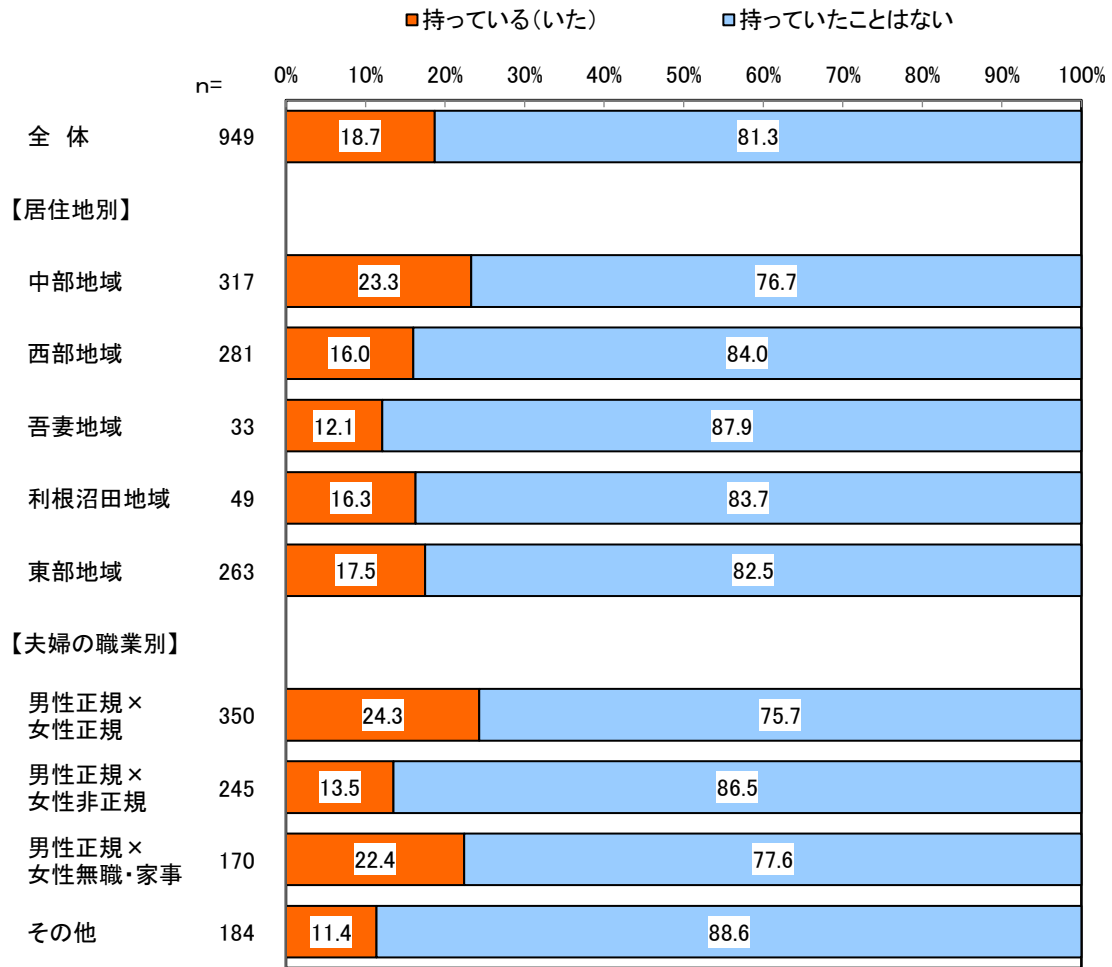
【年齢別】

年齢別でみると、「持っている (いた)」は20歳代で34.9%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「持っている (いた)」は1人で31.4%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。

コンパスの所持（居住地別、夫婦の職業別）



【居住地別】

居住地別でみると、「持っている（いた）」は中部地域で23.3%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

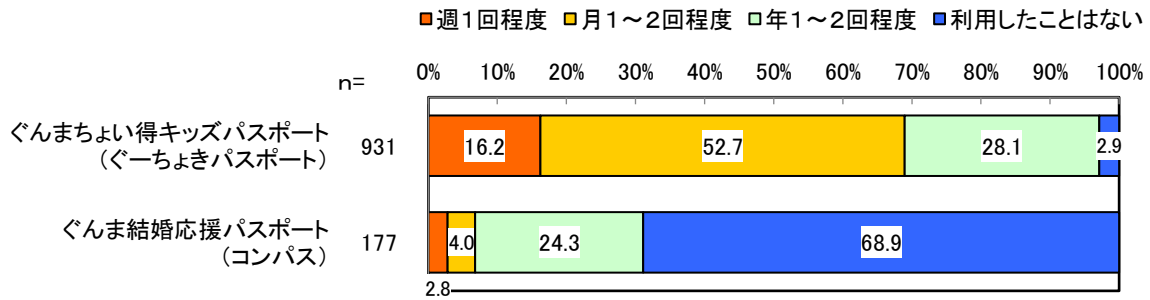
夫婦の職業別でみると、「持っている（いた）」は男性正規×女性正規で24.3%、男性正規×女性無職・家事で22.4%と高くなっている。

【問 35-1 で「持っている (いた)」と回答した方に伺います。】

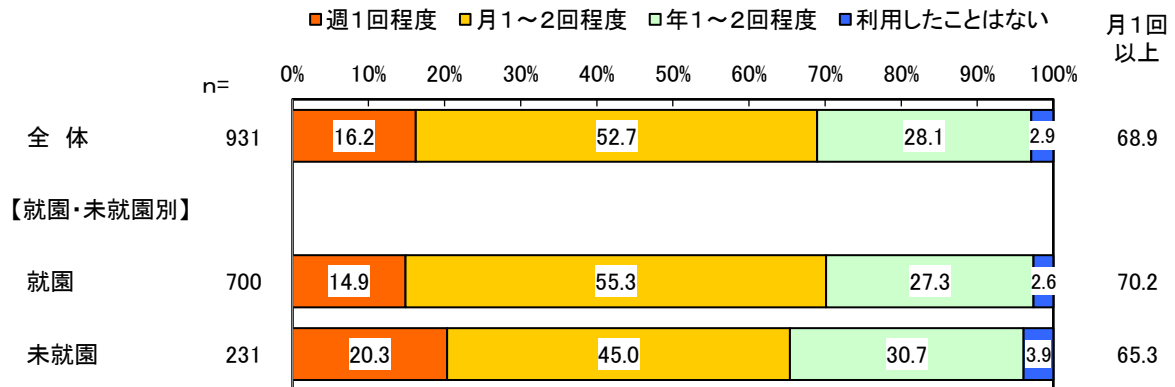
問 35-2 利用頻度をお答えください。(回答はそれぞれ1つ)

“ぐんまちょい得キッズパスポート (ぐーちょきパスポート)” の利用頻度は、「月1～2回程度」が52.7%で最も高く、「年1～2回程度」が28.1%、「週1回程度」が16.2%となっている。

“ぐんま結婚応援パスポート (コンパス)” の利用頻度は、「利用したことはない」が68.9%で最も高く、「年1～2回程度」が24.3%となっている。



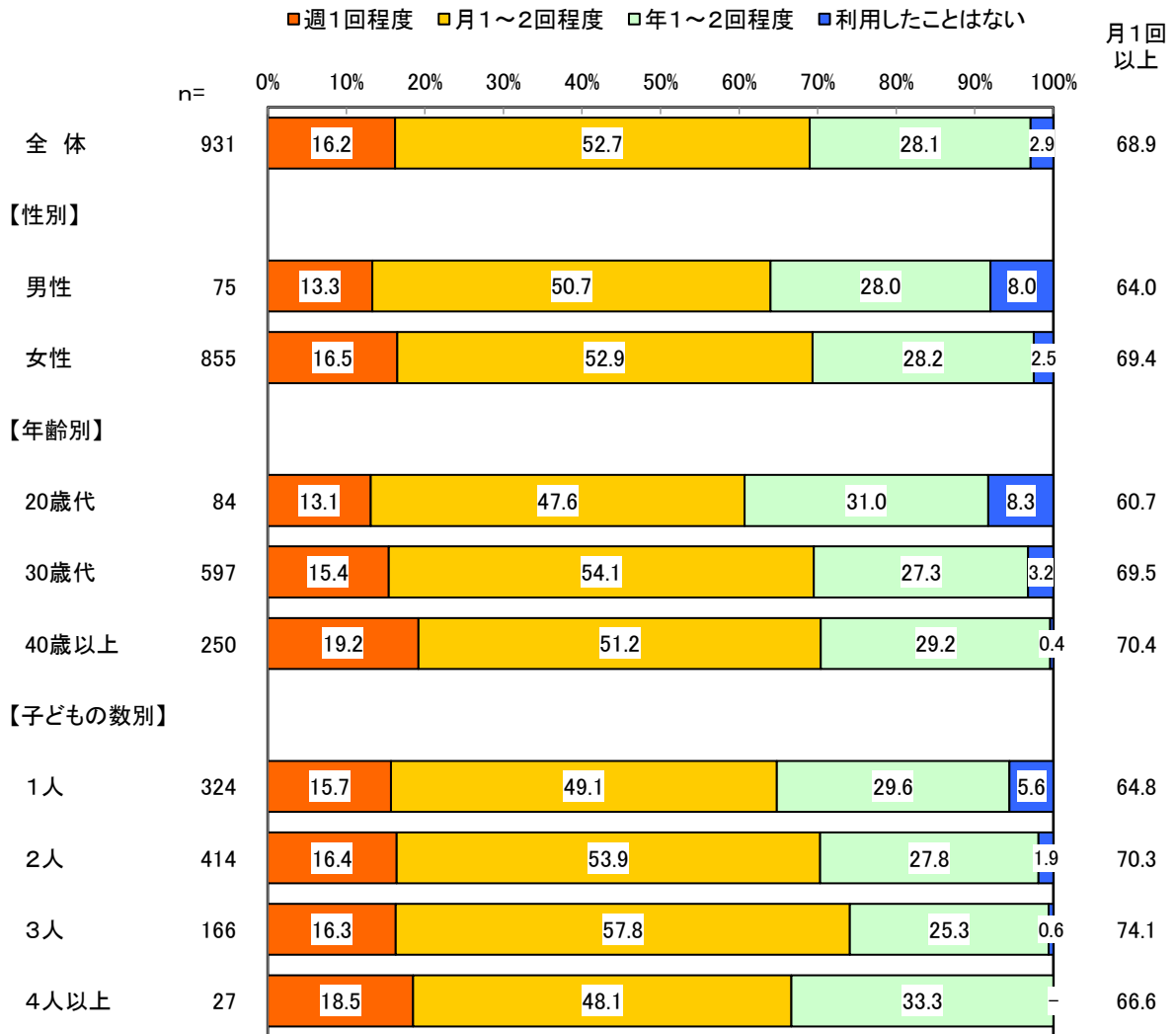
ぐーちょきパスポートの利用頻度 (就園・未就園別)



【就園・未就園別】

就園・未就園別で見ると、未就園は就園よりも「週1回程度」が5.4ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「月1～2回程度」が10.3ポイント高くなっている。

ぐーちょきパスポートの利用頻度（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「月1回以上」利用している割合が5.4ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「利用したことはない」が5.5ポイント高くなっている。

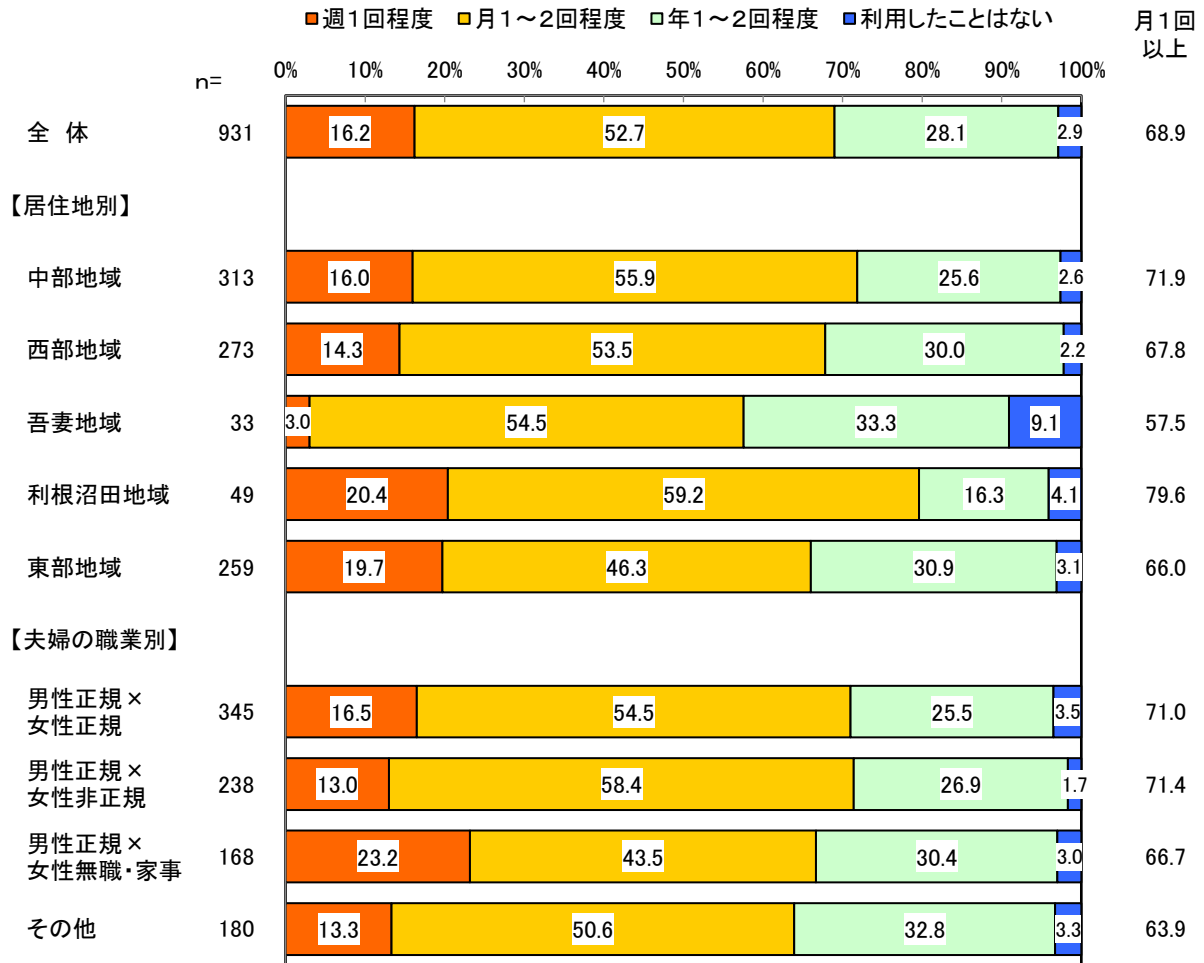
【年齢別】

年齢別でみると、「月1回以上」は年齢が上がるほど高く、40歳代で70.4%となっている。一方、20歳代では60.7%と低くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「月1回以上」は3人で74.1%と高くなっている。

ぐーちょきパスポートの利用頻度（居住地別、夫婦の職業別）



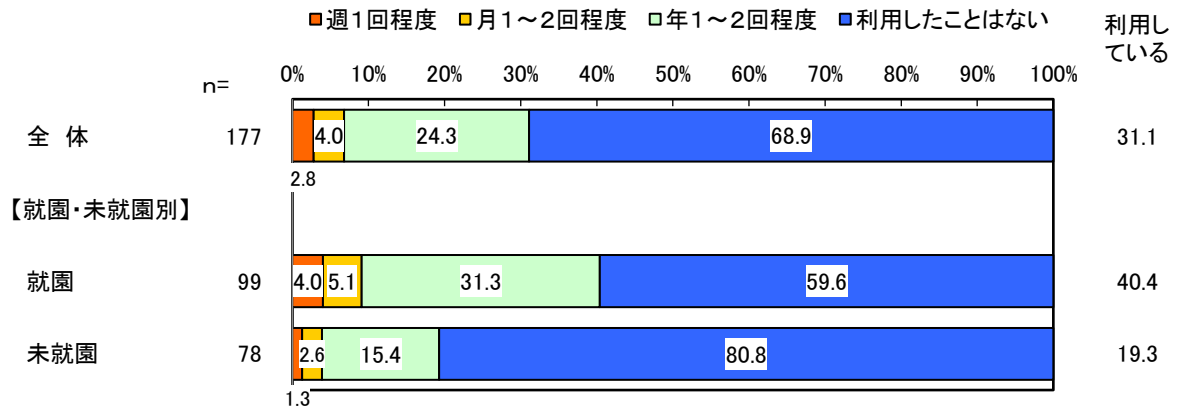
【居住地別】

居住地別でみると、「月1回以上」は利根沼田地域で79.6%と高くなっている。一方、「年1~2回程度」は吾妻地域で33.3%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「週1回程度」は男性正規×女性無職・家事で23.2%と高くなっている。

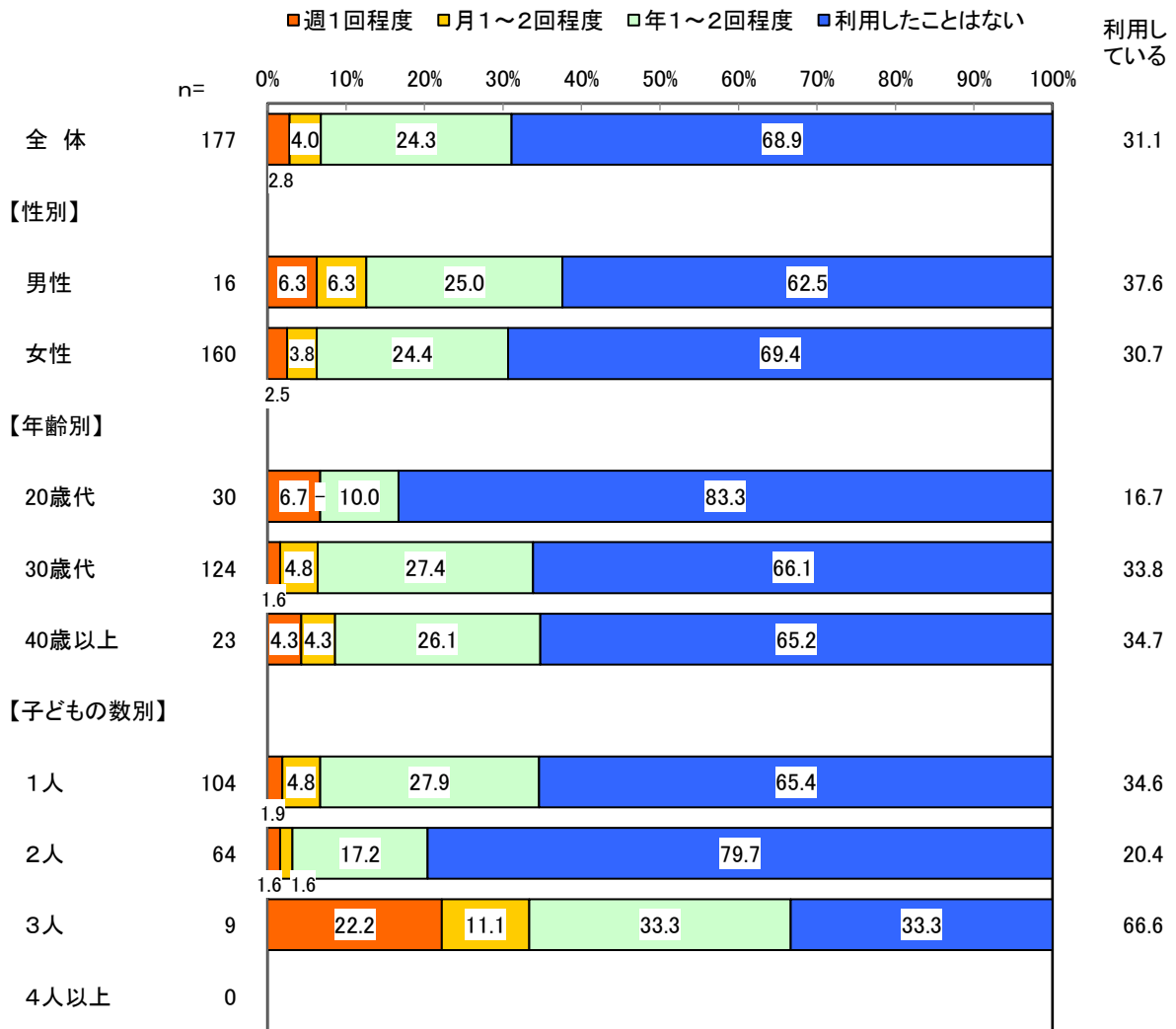
コンパスの利用頻度（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園は未就園よりも「利用している」（「週1回以上」～「年1～2回程度」の合計）が21.1ポイント高くなっている。

コンパスの利用頻度（性別、年齢別、子どもの数別）



※母数が20未満の項目は参考値とする。

【性別】

性別で見ると、「利用している」は女性で30.7%となっている。

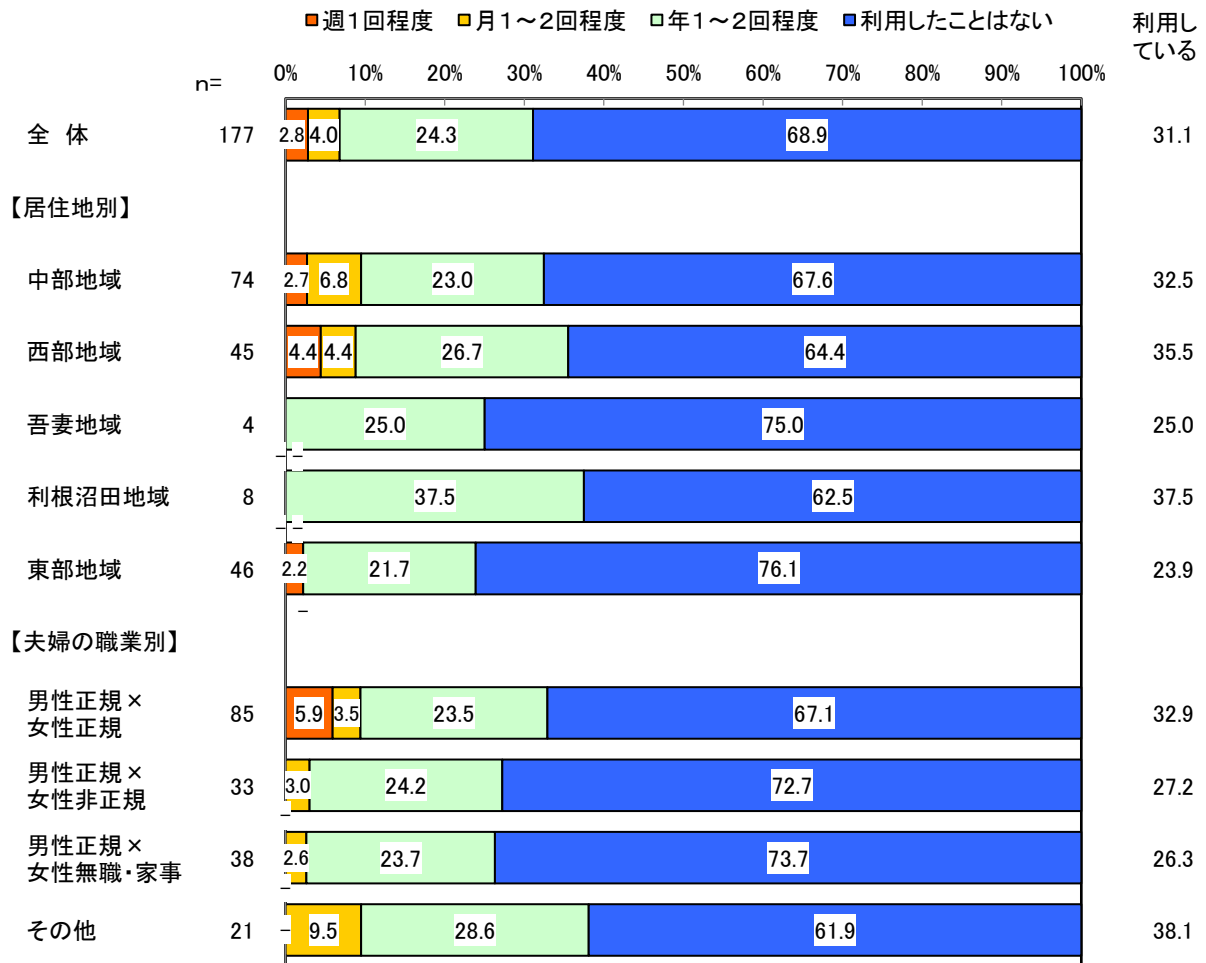
【年齢別】

年齢別で見ると、「利用している」は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で34.7%となっている。一方、20歳代では16.7%と低くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別で見ると、「利用している」は1人で34.6%、2人で20.4%となっている。

コンパスの利用頻度（居住地別、夫婦の職業別）



※母数が20未満の項目は参考値とする。

【居住地別】

居住地別でみると、「利用している」は西部地域で35.5%と高くなっている。一方、東部地域では23.9%と低くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「利用している」は男性正規×女性無職・家事で26.3%、男性正規×女性非正規で27.2%と低くなっている。

【問 35－2 で「利用したことはない」と回答した方に伺います。】

問 35－3 その理由は何ですか。(自由記述)

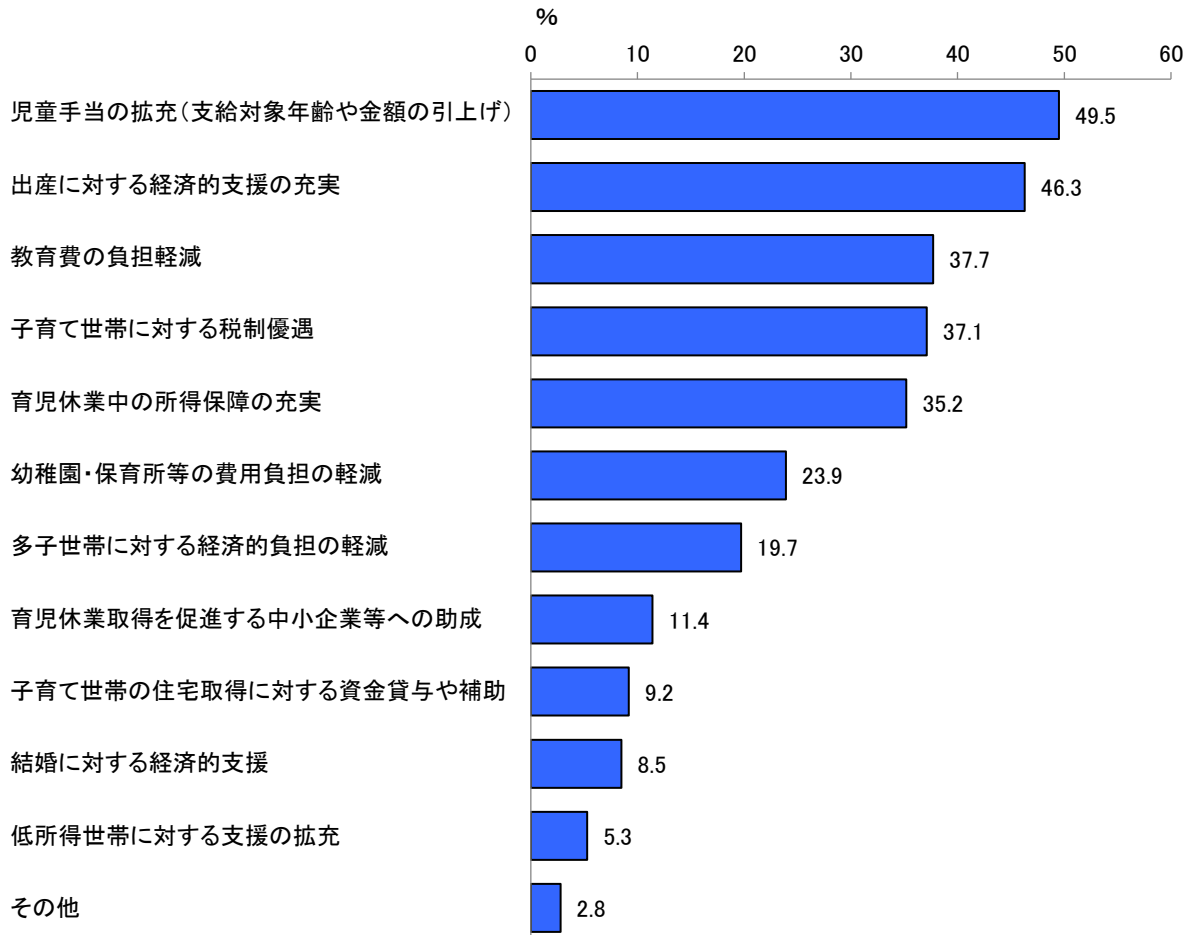
“ぐんまちょい得キッズパスポート(ぐーちょきパスポート)”を利用したことがないと回答した 27 名全員から理由の回答があった。具体的な理由としては、「利用できる施設や利用方法を知らない」が 10 件、「利用できる、利用したい施設・サービスがない・少ない」が 7 件、「申請手続きや利用方法が面倒」が 5 件となっている。

“ぐんま結婚応援パスポート(コンパス)”を利用したことがないと回答した 122 名全員から理由の回答があった。具体的な理由としては、「利用できる、利用したい施設・サービスがない・少ない」が 42 件、「利用できる施設や利用方法を知らない」が 37 件、「利用する機会がない」が 32 件となっている。

問 36 あなたは少子化対策としてどのような経済的支援が必要だと思いますか。(回答は3つまで)

少子化対策として必要だと思う経済的支援は、「児童手当の拡充（支給対象年齢や金額の引上げ）」が49.5%で最も高く、次いで「出産に対する経済的支援の充実」が46.3%、「教育費の負担軽減」が37.7%となっている。

n= 949



少子化対策として必要な経済的支援（就園・未就園別）

(%)

	n	児童手当の拡充(支給対象年齢や金額の引上げ)	出産に対する経済的支援の充実	教育費の負担軽減	子育て世帯に対する税制優遇	育児休業中の所得保障の充実	幼稚園・保育所等の費用負担の軽減
全体	949	49.5	46.3	37.7	37.1	35.2	23.9
【就園・未就園別】							
就園	714	50.7	43.7	38.7	37.0	32.8	23.4
未就園	235	46.0	54.0	34.9	37.4	42.6	25.5

(%)

	n	多子世帯に対する経済的負担の軽減	育児休業取得を促進する中企業等への助成	子育て世帯の住宅取得に対する資金貸与や補助	結婚に対する経済的支援	低所得世帯に対する支援の拡充	その他
全体	949	19.7	11.4	9.2	8.5	5.3	2.8
【就園・未就園別】							
就園	714	21.0	11.9	9.9	8.5	5.9	3.1
未就園	235	15.7	9.8	6.8	8.5	3.4	2.1

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、未就園は就園よりも「出産に対する経済的支援の充実」が 10.3 ポイント、「育児休業中の所得保障の充実」が 9.8 ポイント高くなっている。一方、就園は未就園よりも「多子世帯に対する経済的負担の軽減」が 5.3 ポイント高くなっている。

少子化対策として必要な経済的支援（性別、年齢別）

(%)

	n	児童手当の拡充(支給対象年齢や金額の引上げ)	出産に対する経済的支援の充実	教育費の負担軽減	子育て世帯に対する税制優遇	育児休業中の所得保障の充実	幼稚園・保育所等の費用負担の軽減
全体	949	49.5	46.3	37.7	37.1	35.2	23.9
【性別】							
男性	77	41.6	49.4	27.3	36.4	29.9	18.2
女性	871	50.3	45.9	38.7	37.2	35.7	24.3
【年齢別】							
20歳代	86	48.8	51.2	26.7	36.0	51.2	25.6
30歳代	607	50.6	48.1	37.7	36.7	36.9	24.5
40歳以上	256	47.3	40.2	41.4	38.3	25.8	21.9

(%)

	n	多子世帯に対する経済的負担の軽減	育児休業取得を促進する中小企業等への助成	子育て世帯の住宅取得に対する資金貸与や補助	結婚に対する経済的支援	低所得世帯に対する支援の拡充	その他
全体	949	19.7	11.4	9.2	8.5	5.3	2.8
【性別】							
男性	77	28.6	13.0	16.9	15.6	5.2	5.2
女性	871	18.9	11.3	8.4	7.9	5.3	2.6
【年齢別】							
20歳代	86	8.1	9.3	8.1	12.8	3.5	2.3
30歳代	607	19.9	11.0	9.2	7.1	4.1	2.1
40歳以上	256	23.0	12.9	9.4	10.5	8.6	4.7

【性別】

性別でみると、女性は男性よりも「教育費の負担軽減」が11.4ポイント、「児童手当の拡充（支給対象年齢や金額の引上げ）」が8.7ポイント、「幼稚園・保育所等の費用負担の軽減」が6.1ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「多子世帯に対する経済的負担の軽減」が9.7ポイント、「子育て世帯の住宅取得に対する資金貸与や補助」が8.5ポイント、「結婚に対する経済的支援」が7.7ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別でみると、「出産に対する経済的支援の充実」は20歳代で51.2%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。「育児休業中の所得保障の充実」も同様の傾向となっている。一方、「教育費の負担軽減」は年齢が上がるほど高くなり、40歳以上で41.4%となっている。

少子化対策として必要な経済的支援（子どもの数別）

(%)

	n	児童手当の拡充(支給対象年齢や金額の引上げ)	出産に対する経済的支援の充実	教育費の負担軽減	子育て世帯に対する税制優遇	育児休業中の所得保障の充実	幼稚園・保育所等の費用負担の軽減
全体	949	49.5	46.3	37.7	37.1	35.2	23.9
【子どもの数別】							
1人	331	43.8	51.7	31.7	35.6	42.9	27.5
2人	421	49.4	45.4	43.9	37.8	35.6	28.3
3人	169	57.4	40.8	35.5	39.1	21.9	8.9
4人以上	28	71.4	28.6	28.6	32.1	17.9	7.1

(%)

	n	多子世帯に対する経済的負担の軽減	育児休業取得を促進する中小企業等への助成	子育て世帯の住宅取得に対する資金貸与や補助	結婚に対する経済的支援	低所得世帯に対する支援の拡充	その他
全体	949	19.7	11.4	9.2	8.5	5.3	2.8
【子どもの数別】							
1人	331	7.3	12.7	8.8	11.5	4.8	4.8
2人	421	10.2	11.9	10.5	6.4	6.4	1.4
3人	169	58.0	8.3	6.5	8.9	3.0	2.4
4人以上	28	78.6	7.1	10.7	3.6	7.1	3.6

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「児童手当の拡充（支給対象年齢や金額の引上げ）」と「多子世帯に対する経済的負担の軽減」は子どもの数が増えるほど高くなり、4人以上で71.4%、78.6%と高くなっている。一方、「出産に対する経済的支援の充実」は1人で51.7%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。「育児休業中の所得保障の充実」も同様の傾向となっている。

少子化対策として必要な経済的支援（居住地別）

(%)

	n	児童手当の拡充(支給対象年齢や金額の引上げ)	出産に対する経済的支援の充実	教育費の負担軽減	子育て世帯に対する税制優遇	育児休業中の所得保障の充実	幼稚園・保育所等の費用負担の軽減
全体	949	49.5	46.3	37.7	37.1	35.2	23.9
【居住地別】							
中部地域	317	47.0	43.8	38.2	39.7	34.4	23.3
西部地域	281	51.2	43.1	39.9	35.6	36.3	28.1
吾妻地域	33	51.5	45.5	30.3	27.3	33.3	12.1
利根沼田地域	49	46.9	51.0	38.8	38.8	24.5	14.3
東部地域	263	50.2	51.7	35.7	35.7	37.3	23.6

(%)

	n	多子世帯に対する経済的負担の軽減	育児休業取得を促進する中企業等への助成	子育て世帯の住宅取得に対する資金貸与や補助	結婚に対する経済的支援	低所得世帯に対する支援の拡充	その他
全体	949	19.7	11.4	9.2	8.5	5.3	2.8
【居住地別】							
中部地域	317	22.1	10.4	10.7	8.8	4.4	3.8
西部地域	281	19.2	12.8	7.5	7.5	5.7	2.5
吾妻地域	33	15.2	15.2	15.2	6.1	9.1	-
利根沼田地域	49	24.5	12.2	10.2	12.2	6.1	4.1
東部地域	263	17.5	10.6	8.0	9.1	5.3	2.3

【居住地別】

居住地別でみると、「出産に対する経済的支援の充実」は東部地域で51.7%、利根沼田地域で51.0%と高くなっている。

少子化対策として必要な経済的支援（夫婦の職業別）

(%)

	n	児童手当の拡充(支給対象年齢や金額の引上げ)	出産に対する経済的支援の充実	教育費の負担軽減	子育て世帯に対する税制優遇	育児休業中の所得保障の充実	幼稚園・保育所等の費用負担の軽減
全体	949	49.5	46.3	37.7	37.1	35.2	23.9
【夫婦の職業別】							
男性正規×女性正規	350	46.3	40.6	36.9	36.6	47.7	26.0
男性正規×女性非正規	245	52.7	44.5	42.0	38.4	34.3	21.2
男性正規×女性無職・家事	170	52.9	55.9	37.1	37.6	22.9	28.2
その他	184	48.4	50.5	34.2	35.9	23.9	19.6

(%)

	n	多子世帯に対する経済的負担の軽減	育児休業取得を促進する中小企業等への助成	子育て世帯の住宅取得に対する資金貸与や補助	結婚に対する経済的支援	低所得世帯に対する支援の拡充	その他
全体	949	19.7	11.4	9.2	8.5	5.3	2.8
【夫婦の職業別】							
男性正規×女性正規	350	18.6	15.1	8.3	6.9	2.0	3.1
男性正規×女性非正規	245	22.9	8.6	7.8	7.8	5.3	3.7
男性正規×女性無職・家事	170	17.1	11.2	5.9	8.8	5.9	2.4
その他	184	20.1	8.2	15.8	12.5	10.9	1.6

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「出産に対する経済的支援の充実」は男性正規×女性無職・家事で 55.9%と高くなっている。「教育費の負担軽減」は男性正規×女性非正規で 42.0%と高くなっている。「育児休業中の所得保障の充実」は男性正規×女性正規で 47.7%と高くなっている。

少子化対策として必要な経済的支援（世帯年収別）

(%)

	n	児童手当の 拡充(支給 対象年齢や 金額の引上 げ)	出産に対す る経済的支 援の充実	教育費の負 担軽減	子育て世帯 に対する税 制優遇	育児休業中 の所得保障 の充実	幼稚園・保 育所等の費 用負担の軽 減
全体	949	49.5	46.3	37.7	37.1	35.2	23.9
【世帯年収別】							
300万円未満	70	52.9	50.0	28.6	32.9	27.1	21.4
300万円～500万円未満	259	50.2	52.5	35.9	40.2	35.5	23.6
500万円～700万円未満	314	54.5	48.1	41.4	34.1	33.8	22.9
700万円～1000万円未満	232	45.7	39.7	38.8	37.9	40.1	26.7
1000万円以上	74	35.1	33.8	33.8	40.5	32.4	23.0

(%)

	n	多子世帯に 対する経済 的負担の軽 減	育児休業取 得を促進す る中小企業 等への助成	子育て世帯 の住宅取得 に対する資 金貸与や補 助	結婚に対す る経済的支 援	低所得世帯 に対する支 援の拡充	その他
全体	949	19.7	11.4	9.2	8.5	5.3	2.8
【世帯年収別】							
300万円未満	70	15.7	7.1	11.4	10.0	20.0	1.4
300万円～500万円未満	259	16.2	8.9	11.2	6.9	6.2	1.5
500万円～700万円未満	314	20.4	10.8	7.3	8.0	2.9	3.5
700万円～1000万円未満	232	21.6	12.9	9.1	10.3	3.9	3.4
1000万円以上	74	27.0	21.6	8.1	9.5	2.7	4.1

【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「児童手当の拡充（支給対象年齢や金額の引上げ）」と「出産に対する経済的支援の充実」は700万円未満で5割前後と高くなっている。

少子化対策として必要な経済的支援（子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

	n	児童手当の拡充(支給対象年齢や金額の引上げ)	出産に対する経済的支援の充実	教育費の負担軽減	子育て世帯に対する税制優遇	育児休業中の所得保障の充実	幼稚園・保育所等の費用負担の軽減
全体	949	49.5	46.3	37.7	37.1	35.2	23.9
【子どもを産み育てやすい環境か別】							
感じている	149	46.3	49.7	34.9	32.2	39.6	22.8
まあ感じている	501	49.1	49.7	39.1	34.5	36.9	25.1
あまり感じていない	237	49.4	40.5	40.1	42.2	30.8	22.4
感じていない	62	61.3	32.3	24.2	50.0	27.4	22.6

(%)

	n	多子世帯に対する経済的負担の軽減	育児休業取得を促進する中小企業等への助成	子育て世帯の住宅取得に対する資金貸与や補助	結婚に対する経済的支援	低所得世帯に対する支援の拡充	その他
全体	949	19.7	11.4	9.2	8.5	5.3	2.8
【子どもを産み育てやすい環境か別】							
感じている	149	24.2	11.4	12.1	6.7	3.4	2.0
まあ感じている	501	18.0	11.2	7.4	9.6	5.6	1.8
あまり感じていない	237	20.7	11.8	9.3	6.8	5.9	5.1
感じていない	62	19.4	11.3	16.1	11.3	4.8	4.8

【子どもを産み育てやすい環境か別】

子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「児童手当の拡充（支給対象年齢や金額の引上げ）」は産み育てやすいと感じていないほど高く、「感じていない」で61.3%となっている。「子育て世帯に対する税制優遇」も同様の傾向がみられる。一方、「出産に対する経済的支援の充実」は産み育てやすいと「感じている」及び「まあ感じている」で49.7%と高くなっている。「育児休業中の所得保障の充実」も産み育てやすいと感じているほど高く、「感じている」で39.6%となっている。

少子化対策として必要な経済的支援（理想と予定の子どもの数別）

(%)

	n	児童手当の 拡充(支給 対象年齢や 金額の引上 げ)	出産に対す る経済的支 援の充実	教育費の負 担軽減	子育て世帯 に対する税 制優遇	育児休業中 の所得保障 の充実	幼稚園・保 育所等の費 用負担の軽 減
全 体	949	49.5	46.3	37.7	37.1	35.2	23.9
【理想と予定の子どもの数別】							
「理想の子どもの数」より 「予定の子どもの数」が多い	31	74.2	29.0	29.0	35.5	19.4	6.5
「理想の子どもの数」と 「予定の子どもの数」が同じ	533	49.2	49.3	36.2	35.8	37.5	24.2
「理想の子どもの数」より 「予定の子どもの数」が少ない	293	47.4	40.6	43.0	39.2	31.4	24.6

(%)

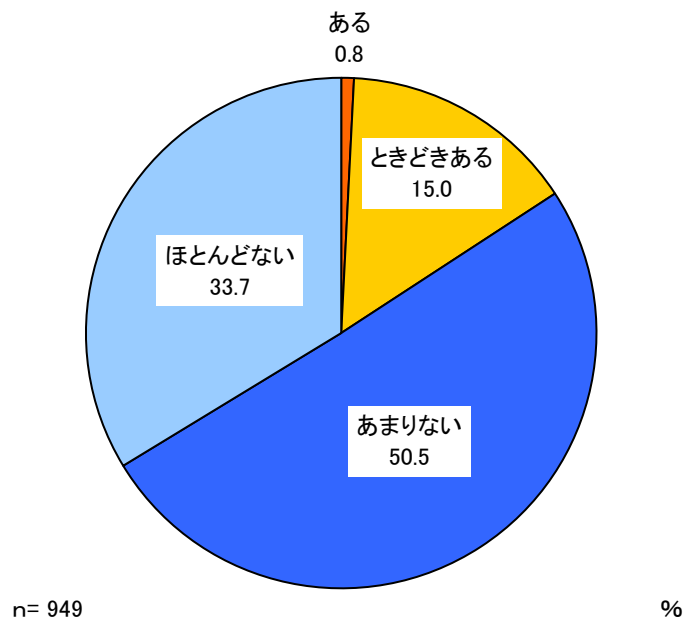
	n	多子世帯に 対する経済 的負担の軽 減	育児休業取 得を促進す る中小企業 等への助成	子育て世帯 の住宅取得 に対する資 金貸与や補 助	結婚に対す る経済的支 援	低所得世帯 に対する支 援の拡充	その他
全 体	949	19.7	11.4	9.2	8.5	5.3	2.8
【理想と予定の子どもの数別】							
「理想の子どもの数」より 「予定の子どもの数」が多い	31	61.3	3.2	6.5	6.5	6.5	6.5
「理想の子どもの数」と 「予定の子どもの数」が同じ	533	22.7	9.4	8.1	7.7	4.9	1.9
「理想の子どもの数」より 「予定の子どもの数」が少ない	293	10.9	16.0	10.9	10.6	5.8	4.8

【理想と予定の子どもの数別】

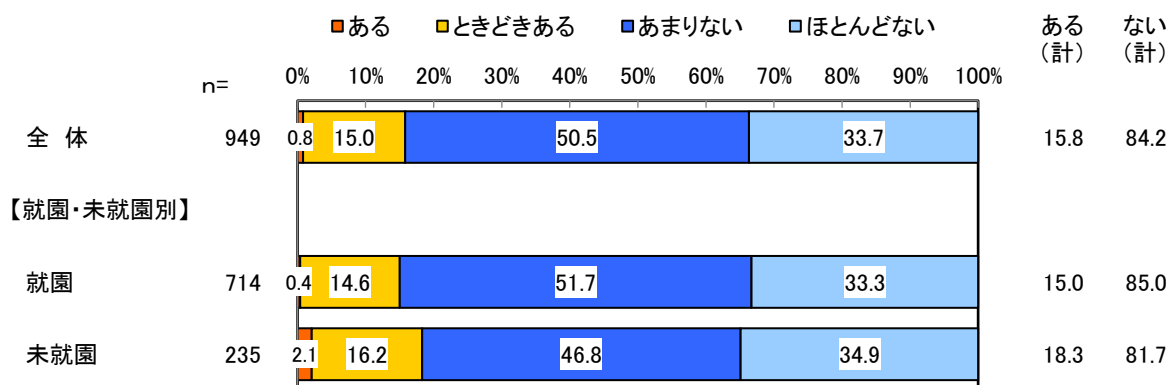
理想と予定の子どもの数別でみると、「児童手当の拡充（支給対象年齢や金額の引上げ）」は“理想の子どもの数”より「予定の子どもの数」が多い”で74.2%と高く、「多子世帯に対する経済的負担の軽減」も“理想の子どもの数”より「予定の子どもの数」が多い”で61.3%と高くなっている。一方、「教育費の負担軽減」は“理想の子どもの数”より「予定の子どもの数」が少ない”で43.0%と高くなっている。

問 37 主に結婚、妊娠・出産、子育てや少子化対策について、行政の施策に対して自身の意見が反映されている実感がありますか。

行政の施策に対して自身の意見が反映されている実感は、「あまりない」が 50.5%で最も高く、次いで「ほとんどない」が 33.7%、「ときどきある」が 15.0%となっている。「ある（計）」（「ある」と「ときどきある」の合計）は 15.8%、「ない（計）」（「あまりない」と「ほとんどない」の合計）は 84.2%となっている。



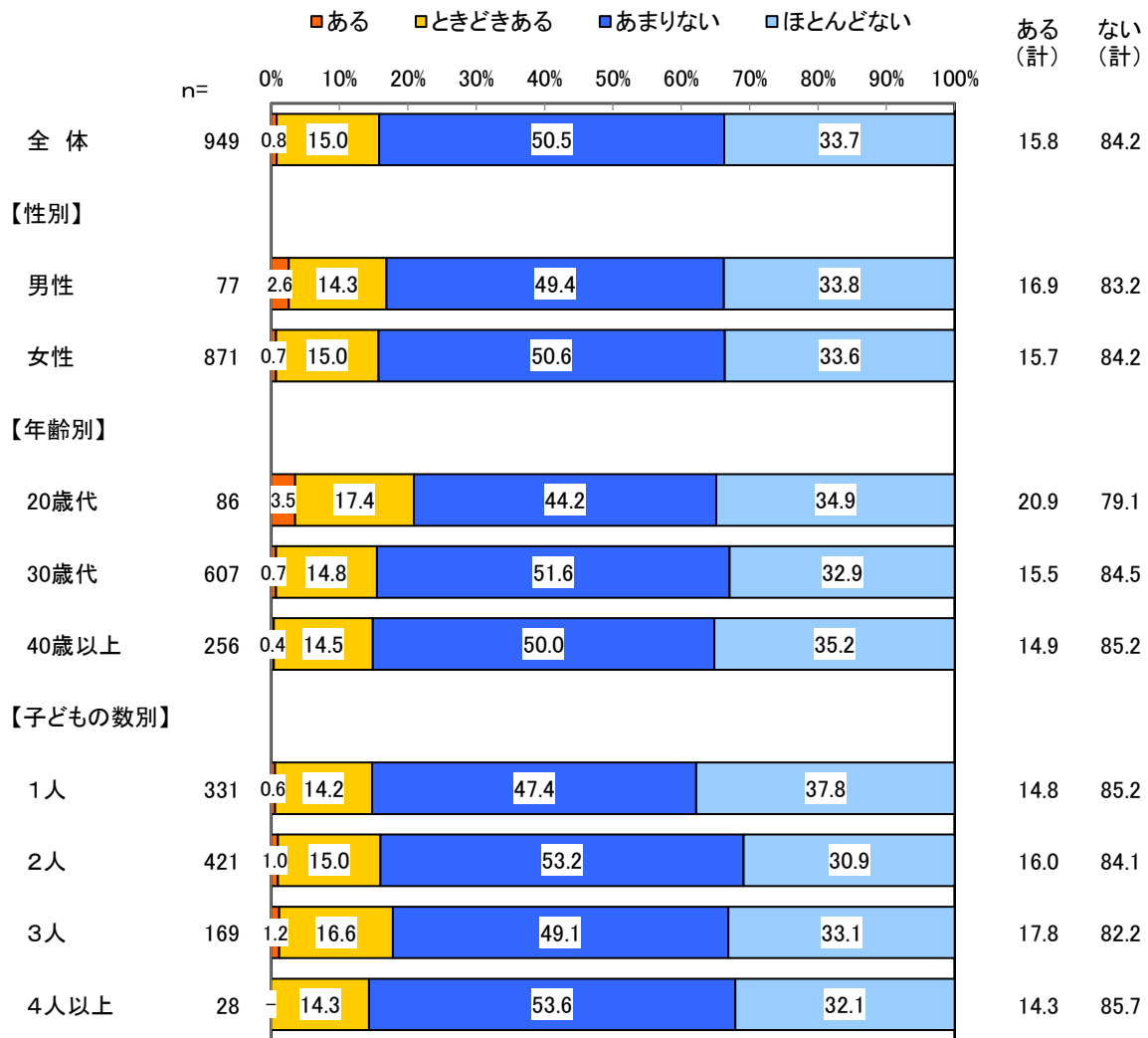
行政施策に意見が反映されている実感（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別で見ると、就園は未就園よりも「あまりない」が 4.9 ポイント高くなっている。

行政施策に意見が反映されている実感（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

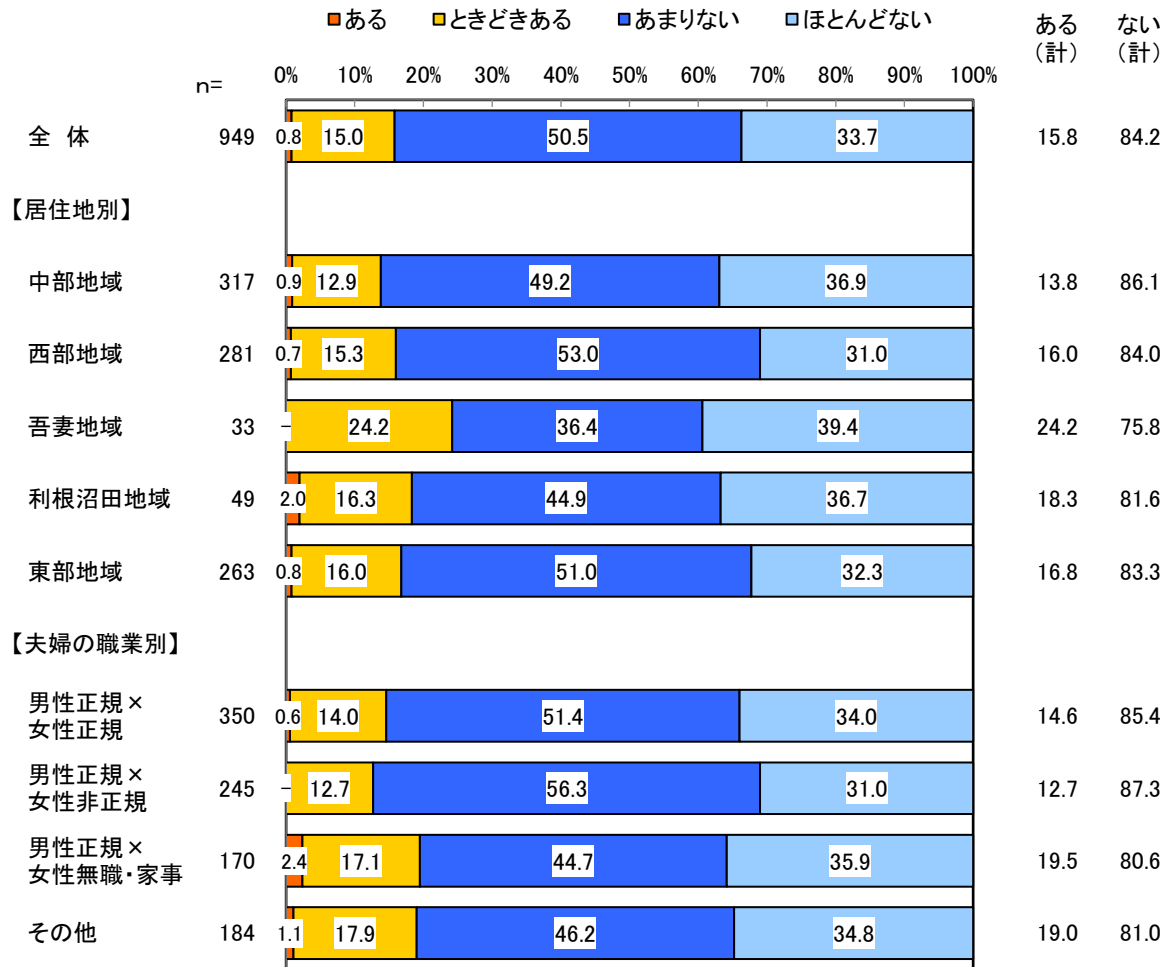
【年齢別】

年齢別でみると、「ない（計）」は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で85.2%となっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、子どもの数による大きな差はみられない。

行政施策に意見が反映されている実感（居住地別、夫婦の職業別）



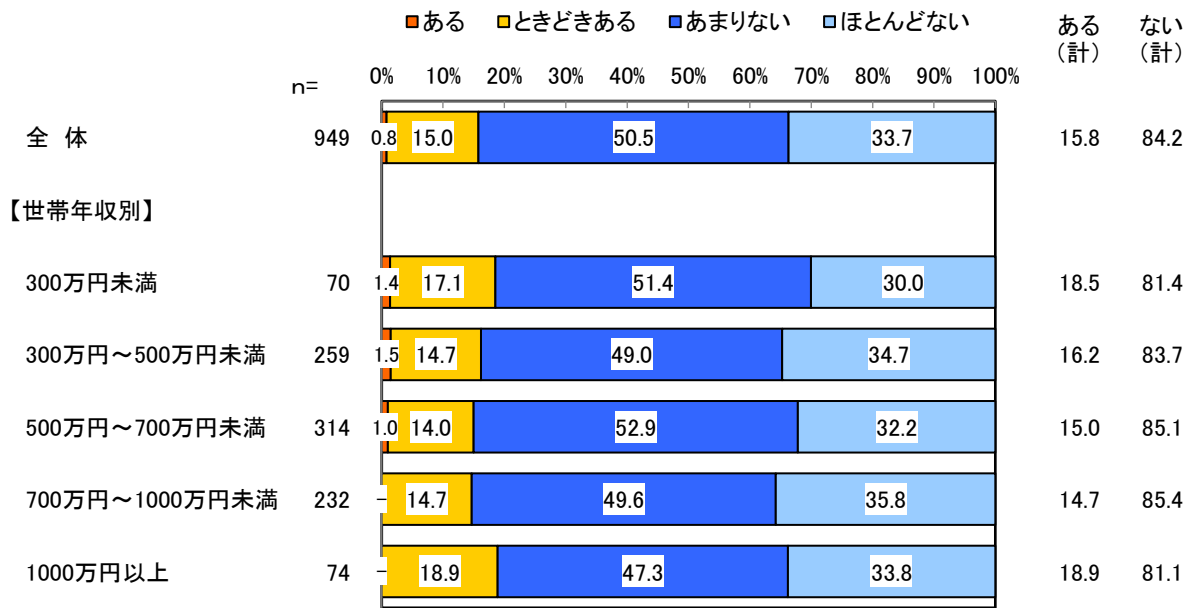
【居住地別】

居住地別で見ると、「ない（計）」は中部地域で86.1%と高くなっている。一方、「ある（計）」は吾妻地域で24.2%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別で見ると、「ない（計）」は男性正規×女性非正規で87.3%と高くなっている。

行政施策に意見が反映されている実感（世帯年収別）



【世帯年収別】

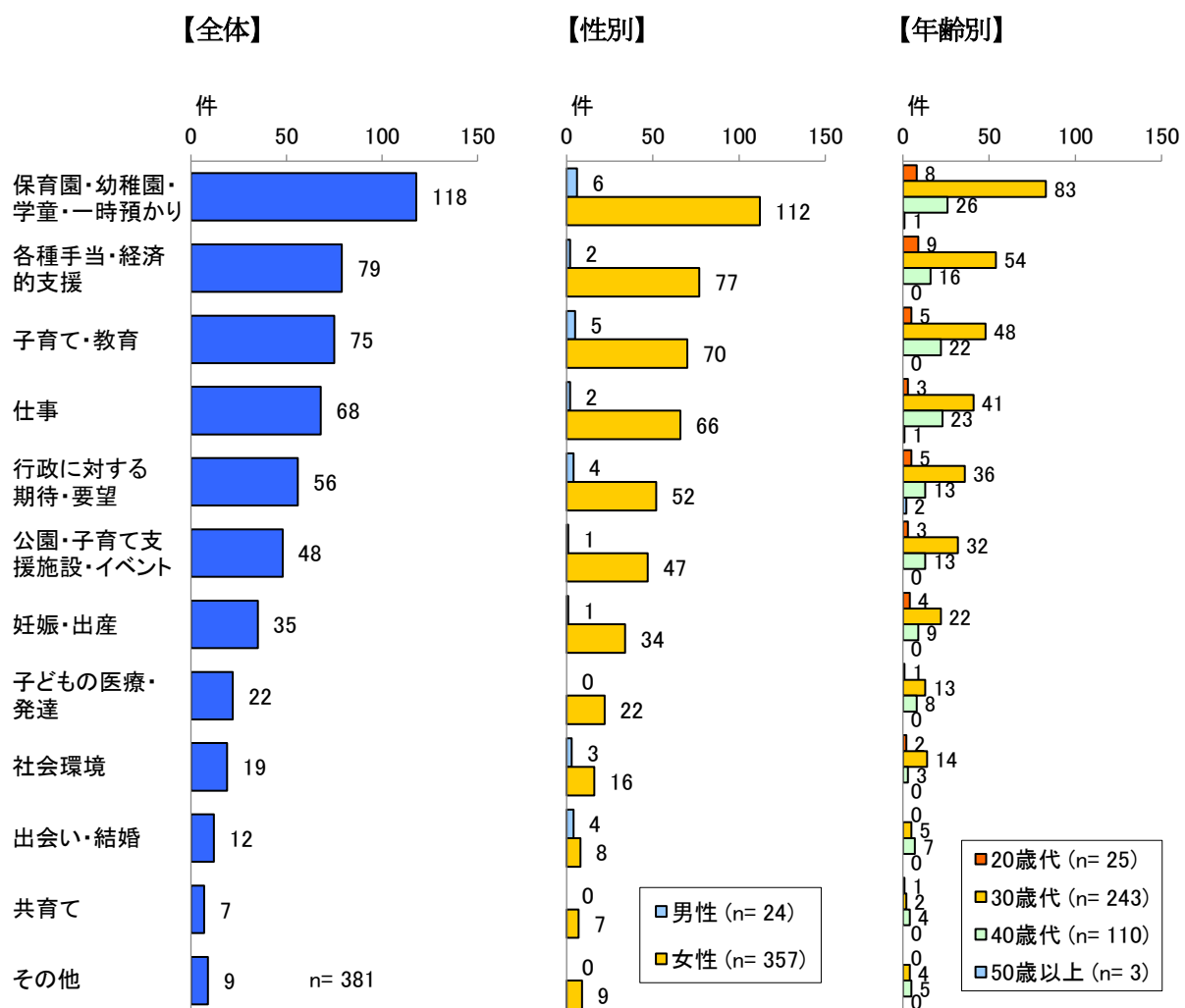
世帯年収別でみると、「ない（計）」は700万円～1000万円未満で85.4%、500万円～700万円未満で85.1%と高くなっている。

問 38 子育て支援や少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたら
ご自由にお書きください。(結婚支援、妊娠・出産支援、子育て支援に係る精神的支援など経済
的支援以外の取組等)

日頃お考えのことや行政に対する要望等を自由に記入してもらったところ、381 名の方から回答があつた。1 名で複数の意見を記入している場合もあるため、延べ件数は 548 件となっている。意見の内容で 12 項目に分類したところ、全体で見ると「保育園・幼稚園・学童・一時預かり」についての意見が 118 件で最も多く、次いで「各種手当・経済的支援」が 79 件、「子育て・教育」が 75 件となっている。

性別では、女性がほとんどであるため全体と変わらない傾向となっている。

年齢別で見ると、回答者が最も多い 30 歳代は全体と変わらない傾向となっている。40 歳代は「保育園・幼稚園・学童・一時預かり」が 26 件で最も多く、「仕事」が 23 件、「子育て・教育」が 22 件となっている。



※性別「その他」は意見がなかったため省略した。

以下に代表的な意見を掲載する。

【保育園・幼稚園・学童・一時預かり】

- 市によっては3歳未満でも保育園無料であるが、市によっては有料である事に不満を感じているので、県で統一で3歳未満も保育料無償化してほしい。

- ・家事や育児に疲れて投げ出したくなり精神的に参った時に家事代行やベビーシッターを利用したかったが、どこも予約制で当日利用する事がほぼできない。日にちを決めて助けてほしいのではなく、今この瞬間を助けてほしいと強く思う時があります。人手不足で難しいと思うが当日助けに来てくれる制度があったらすごく助かる。
- ・病児保育施設を充実させてほしい。
- ・保育士を10年間しているが、保育園は現在も保育士不足と低賃金が改善されておらず、責任やストレス、重労働のはざままで疲弊している。仕事を続けたいとは思いますが、心身の限界と今後の保育園経営について強く不安を感じる。いずれ少子化で預かる人数は減るのだからと見込まれているが、保育士の担い手不足は警鐘レベルである。
- ・小学校入学後や特に学校が長期休みの際に、学童の受け入れ体制（人員や施設）が十分でないのを非常に強く感じています。学童の充実、地域で子どもの居場所を作るなど、子どもや保護者の事情にあった居場所が選択できると子育てしやすいと個人的に思っています。
- ・多様性が言われている中、町内に療育施設や放課後デイサービスがない。また、送迎サービスもない。特別な支援を要する子どもに対する取り組みがないのは暮らしにくさにつながるため、是非検討してほしい。

【各種手当・経済的支援】

- ・子どもが国の宝であるなら「〇人以上で税制優遇」「所得制限」など設けるのではなく、子ども一人ひとり、すべての子に対しての教育や税制上の援助をしたらよいと思う。そんな援助をしてくれるなら、子どもをたくさん持ちたい家庭は少なくないはず。
- ・児童手当の拡充（所得に関わらない全世帯への給付）、扶養控除の復活については大至急対応すべきだと思います。国レベルではいつまでたっても実現されないため、群馬県が率先して実現してほしいです。
- ・子どもが1～2人いる世帯が現代日本のスタンダードであるが、1世帯に子ども3～4人がスタンダードにならないと少子化に歯止めはかからないと思う。フランスのように子どもの人数に応じて税金が優遇される制度の拡充を期待する。

【子育て・教育】

- ・おむつや粉ミルク等を無償で提供してほしい。過去にあった子育て世代向けの商品券をまた考えてほしい。
- ・乳児期は買い物にも行けないのでオムツやミルク、食費、日用品などを宅配してくれる支援などがあれば育てやすくなって思います。
- ・子どもを育てるのにお金がかかるため教育費の支援など拡充してほしい。教育費公立無料等。
- ・小、中学生の給食費無償化を行ってほしい。
- ・子どもの給食費や学校で使う物（体操着や上履き）、中学の制服の金額を見直してほしい。小学生は身長が一年で数センチも伸びるので毎年体育着や上履きを買って換えるのは負担になる。
- ・小学生の子どもが不登校になり、十分に働けない状態が続き、経済的に困っている。フリースクールは高額な場所が多く、働けない状態ではとても払えない。不登校が増加しているのに、行政の対策が追い付いていないと感じている。公的な安い料金のフリースクールを作ったり、仕事ができない親に内職を紹介するなどの支援があったらありがたい。
- ・若い子の妊娠や虐待の問題は、世代間連鎖を断ち切るための努力が必要かと思っています。貧困家庭の教育支援、勉強が苦手であったり不登校の子どもに対して教育現場で手厚くサポートし、なるべく歪みなく、心身ともに成長できる支援が必要かと思っています。
- ・子どもが多ければ多いほど親の負担がかなり大きい。金銭面的にも、子ども会や学校、保育園、PTAの役員、地区の催しなどなどの負担がかなり大きく、皆やりたくないのに仕方なくやっている。働く世代の親の負担がないような子育て環境にしてもらいたい。

【仕事】

- ・不妊治療の精神的負担は大きく、職場に理解を促す取り組みをしてほしい。
- ・妊娠中の仕事量を軽減できる職場環境になると良い。子どもや自分の体調不良の際は、気軽に休める職場になると良い。
- ・時短勤務が出来る期間が企業によって、3歳までだったり、小学3年生だったり、小学6年生だったり異なるが、全企業で小学6年生までにしてほしい。
- ・子どもが体調不良で保育園をお休みするとき、母親が仕事を休む場合が多くなる。男性の方が仕事を休みにくい傾向にあると感じる。企業の差による部分も多いかもしれないが、子どもを持つ親として、男女関係なく休みを取得しやすい体制が必要と考えます。
- ・子育てと仕事の両立もしなきゃ生活していけない現状なのに、唯一の両立方法の在宅ワークが都会しかない現実。もっと田舎も子育てしながら取り組める在宅ワークが増えたらいいと思う。
- ・世間的には男性の育休が広まり始めてはいるが、自分の職場で男性が育休を取得しても、上司から「仕事に出てきてほしい」と何度も電話をかけられて、結局早々に職場に復帰している人もいる。また、「男が休んだってしょうがないだろ」と上司に言われる始末。管理者の理解がなければ使える支援や政策があったとしても利用しづらく無意味に等しい。
- ・正社員でなくても育休が出来る（使える）職場が増えてほしいと思います。パートやアルバイトの方が妊娠すれば「退職するんだよね」と言われ、出産後働きたいと告げても出産前後で仕事来れないでしょ、と退職手続きを進める会社幹部がほとんどです。都会ならまだ雇用してくれる所はありますが田舎は出産イコール退職がほとんどです。

【行政に対する期待・要望】

- ・住んでいる地域や県によって受けられる支援などが違うのはおかしいと思う。
- ・子育て支援についての取り組みをやっているか全く伝わらない、市も同じ。やっているなら周知が大切。知らされないことはやっていないことと同じ。口コミなどの実体験が必要。SNSだけに頼らないこと。
- ・経済的支援などの前に、現実的なことや状況を把握するのが一番だと思う。色んな事で悩んでる人は沢山いるし、相談したくてもどこにしていかわからない人も沢山いるし、相談を待っているのではなく、行政側からのアプローチが必要だと思います。市のHPを開けば、どんな悩みはどこに相談すればいいのかわかりやすいページの作成してほしい。とりあえず子どもの事だったら保健センターに電話してみるが、それはこっちじゃないとか。じゃあ、どこを見たらそれがわかるのか。対象の人じゃないとわからないシステムに、諦めてしまう人もいるのではないかと思います。
- ・育児のことで悩み市に相談したが、相槌や共感だけで大したアドバイスを貰えず信用できなくなり相談しなくなったので、そこは改善してほしい。
- ・地方自治の観点から、各市町村間で行政サービスの格差があることは理解しますが、全てを市町村に任せてしまうのではなく、群馬県全体に及ぶような課題である子育て支援等については、群馬県が主体性と責任を持って取り組まなければ、群馬県という地方公共団体の存在意義はないと思います。子ども医療費の高校生拡大の際のように、市町村の施策の動向に便乗するだけではなく、群馬県の主体的な少子化対策を望みます。
- ・子育て時代は、親も「世の中を良くしたい、地域を良くしたい」と思うし、エネルギーもあります。行政だけに頼らず、親のエネルギーを生かす仕組みがあるといいと思う。人が集まる場所、対話ができる場所があれば、みんなの力が生かされると思います。孤立しないで、人が集まれば、問題も起きるけど、活力も生まれると思う。行政には、場を作る、問題解決をサポートするなどの手助けをお願いしたいです。
- ・少子化に関しては、近年の考え方や価値観の変化から結婚を望まない人も増えており、個々が自分自身の人生を生きることを優先しているので問題視する必要はないと思う。昔の人の「結婚して子どもを産むのが当たり前」という考え方は今の時代にはそぐわないと思う。少子化対策を行い、子

どもを増やすということよりも、児童虐待や望まない妊娠による産み捨てなどにより、尊い子どもの命が奪われないような対策をもっと考えていくべきだと思う。

【公園・子育て支援施設・イベント】

- ・新しい住宅が増えており、子どもが徒歩や自転車で気軽に遊びに行ける範囲に小さくてもいいので公園が欲しいと思う。
- ・公園の遊具を点検・整備してほしい。木が劣化してグラグラしているものがあって危険だった。
- ・出産して仕事をやめていた期間はとても孤立した感じがした。親子で通える居場所があると孤立せずすむ。
- ・市町村によって児童館があるところとないところがあるので、どの市町村でも児童館を設置してもらえると助かります。
- ・日中0歳児でも室内で安心して遊べるように、乳幼児と大きい子が分かれて遊べる場がもう少し充実していくといいなと思いました。
- ・雨の日の休日に子どもが遊べる場所が少ないです。特に日曜日は児童館が休館日なので本当に行き先がありません。体育館の開放でも図書館でのDVD上映でもいいので、日曜日に室内で過ごせる場所を増やしてほしいです。
- ・支援センターを利用していますが、利用前ハードルが高かった（支援センターによって申し込み方ややり方が違うので）。各支援センターを紹介する冊子などがあると利用しやすいと思った。
- ・子育てが孤育てと言われてしまう環境を実際の育児で痛感しました。家に1人であることに耐えられなくなり、自分自身は外に出て、児童館や支援センター、子育て支援サークルなど様々な場所で様々な人と出会って悩みや相談、何気ない会話をすることでリフレッシュできたと感じますが、それができなかつたらと思うと怖い。身近な場所にそういった場所がもっともっと増えること、そしてそういった場所に行きやすい雰囲気づくりを行政が積極的に行う必要があると感じます。
- ・気軽に参加できる地域の特性を活かした外遊びのイベントや保育、林間学校のような場所があると良い。

【妊娠・出産】

- ・産婦人科が少なすぎる。
- ・不妊治療助成の地域格差を無くして、手厚くしていただきたい。
- ・不妊や流産等で出産に至らなかった人への精神的、経済的支援。
- ・妊婦健診の券だけでなく、緊急で受診した際にも使える割引券などがあるといい。出産準備などで大きな出費があるから、お店で使えるギフト券など国の支援とは別に配布してほしい。
- ・出産支援として給付金額が上がったが、出産費用も上がっているので支援の見直しについて効果を感じられない。経済的支援があると子育ての不安が解消されるかもしれない。
- ・産後、孤立してしまうお母さんが増えてきている印象があります。妊娠中から、特定妊婦以外にもハイリスクな方がたくさんいると思うので、そういう方がピックアップされ、適切な支援（情報提供）を受けられる事を要望します。
- ・産後ケアで上の子ども預かってくれたらありがたい。産後ケアの利用機可能期間が短いと思う、また、回数を増やしてほしい。
- ・出産後に役所に提出しなければならない書類が多く、産後の身体で赤ちゃんを連れ、手続きをすることが本当に辛かったです。インターネットなどでできるようにしてほしいです。

【子どもの医療・発達】

- ・子どもの急病時の病院が少なすぎる。ひとり親や兄弟が居る場合など連れて行くのも大変。夜間などの小児科を作ってほしい。
- ・過疎地に住んでいるので、医療機関が遠く、受診させるのが負担です。小児科、耳鼻科が近くにあるとありがたいです。
- ・高齢者の予防接種は補助金が出るのに、子どもの予防接種は出ないのはなぜですか。インフルエン

ザワクチンは子どもは2回打たなくてはならないので、援助してほしい。

- ・多動など発達支援が必要と思われる場合に医療機関で診断を受けようとしても予約がなかなか取れず、数ヶ月かかる場合が多々あります。発達支援センターなどもあり相談体制も整っていますが、個別相談はやはり予約が取りにくいです。保育施設で発達について受診や相談を勧められてからセンターの面談まで1ヶ月、そこから紹介された医療機関での受診まで数ヶ月かかりやっと診断となります。発達障害の子どもを連れての外出を大変に感じる保護者の方もいますので、往診のような形で発達支援センターで相談の際に一度に診断も受けられるような形にいただけると、保育施設や学校での早期の支援に繋がるかと思います。

【社会環境】

- ・オムツ替え場所、授乳スペースがもっと増えたら出かけやすいと思う。
- ・公共交通機関がなく、子どもが習い事をするのに送り迎えで時間がとられる。子どもが安心して自立できる地域の仕組みがほしい。
- ・子育てしやすい、温かい目でみてくれる人が増えるといいなと思います。公共機関を利用する時などに、どうしても子どもが泣きやまなかったりすると、文句を言ってきたりする人もいて、心が折れてしまいそうになります。優しい気持ちの人が増えると、自然と子育てしやすいのかと思います。
- ・経済的な支援もちろん必要だが、最も必要なのは「学校と家庭、社会含めた性教育」や「授かり婚への理解」「受け入れる寛容さ」だと思う。自身も妊娠・出産をして初めて知ることが沢山あり、戸惑うことが沢山あった。もっと若いうちに知識を得たかったと心底感じたし、若いうちに子どもも産めばよかったとも思った。一時的な金銭援助だけではなく、安心して子どもが産める環境づくりに力を入れるべき。子育て経験のある女性を中心になって、制度を整えるべき。
- ・出産して様々なサポートがあることがわかり感謝しました。子どもが産まれるまで子どもが得意でなく、少子化問題もよく理解していなかった。まずは家庭を持つのは当たり前のこと、子どもがいる環境は楽しいもの、日本の将来にも必要なこととする刷り込みを小さいうちからすることで、自然と少子化対策できるのが理想。個人で楽しめるゲームやスマホがあることが問題で、簡単にはわかってはいますが、私自身結婚子育てに憧れや興味はなかったのですが、恵まれてよかった、経験できてよかったと感じています。小さいときからその環境が当たり前で、大人が楽しく生きてたら自然とその道に向かうのではないのでしょうか。

【出会い・結婚】

- ・職場や知り合いなどの若い世代を見ていて、コロナで出会いの場が減り、結婚や恋愛、出産について興味が薄い人が多いように感じています。少子化対策として、出会いの場につながるようなイベント等あるといいのかな、と思います。
- ・独身時代あったらよかったものは婚活支援サービスがもっと充実していればと思った。アプリと結婚相談所の中間のような婚活子育て支援課があったら相談したかった。どちらも孤立しがちで精神的に追い詰められる為。
- ・結婚している人は大体子どもを産んでいる気がします。若い人が結婚できないということをもっと重要視しても良いのではと感じます。若い人が結婚しない、できない理由をよく調査していただきたいと思います。

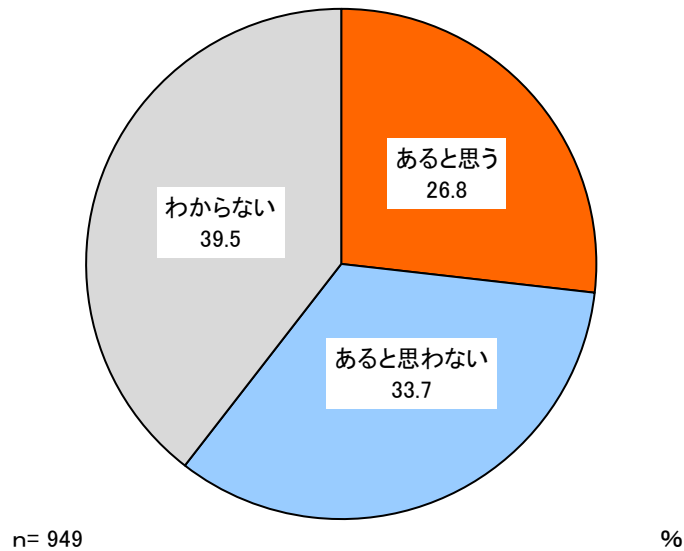
【共育て】

- ・女性が子どもを産めば少子化が改善するという考えを見直し、男性も一緒に子育てや家事をするという考え方に変わったほうがいいと思う。子どもを持つには男性の協力も不可欠です。結婚して子どもを持つ事に希望が持てるような世の中になってほしいです。
- ・子育てのサービスを充実することも重要だが、配偶者の子育てに対する教育が必要。特に第一子を妊娠した時に父親教室開催やパパ用の冊子を作って、妊娠、出産はどういうものか、産後の母親の心身の状態や変化、どんなサポートが必要なのかを学ぶ機会を作ってほしい。

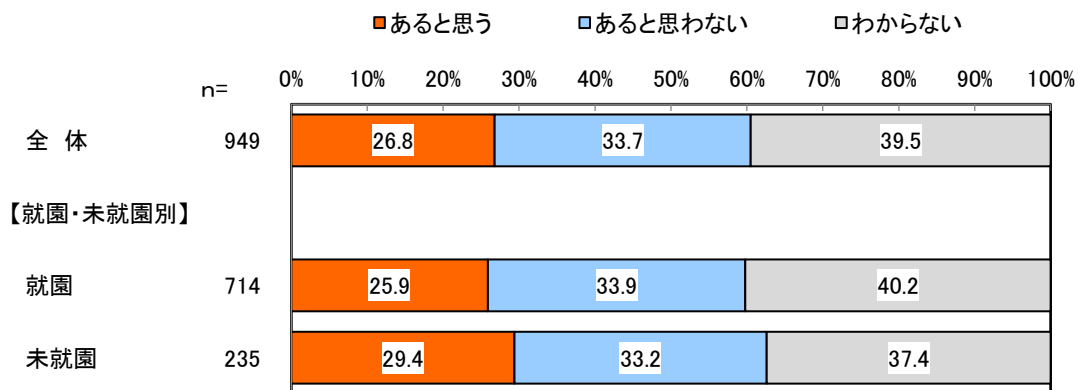
7 子どもの未来について

問 39 10年後、20年後のあなたのお子さん達の住む未来には希望がありますか。

10年後、20年後の子ども達の住む未来に希望があるかは、「わからない」が39.5%で最も高く、次いで「あると思わない」が33.7%、「あると思う」が26.8%となっている。



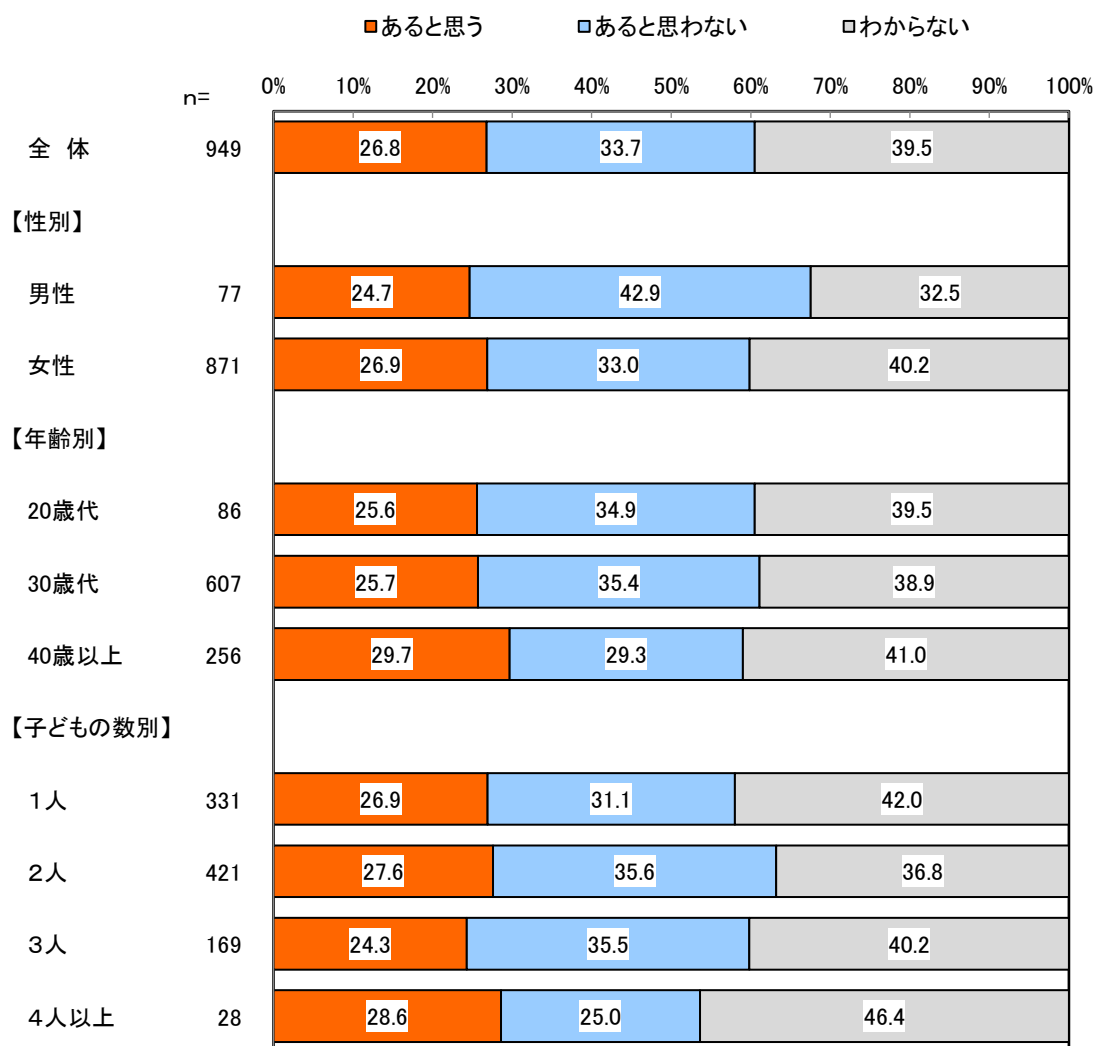
子どもたちの10年後、20年後の未来の希望（就園・未就園別）



【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園・未就園の間に大きな差はみられない。

子どもたちの10年後、20年後の未来の希望（性別、年齢別、子どもの数別）



【性別】

性別でみると、男性は女性よりも「あると思わない」が9.9ポイント高くなっている。一方、女性は男性よりも「わからない」が7.7ポイント高くなっている。

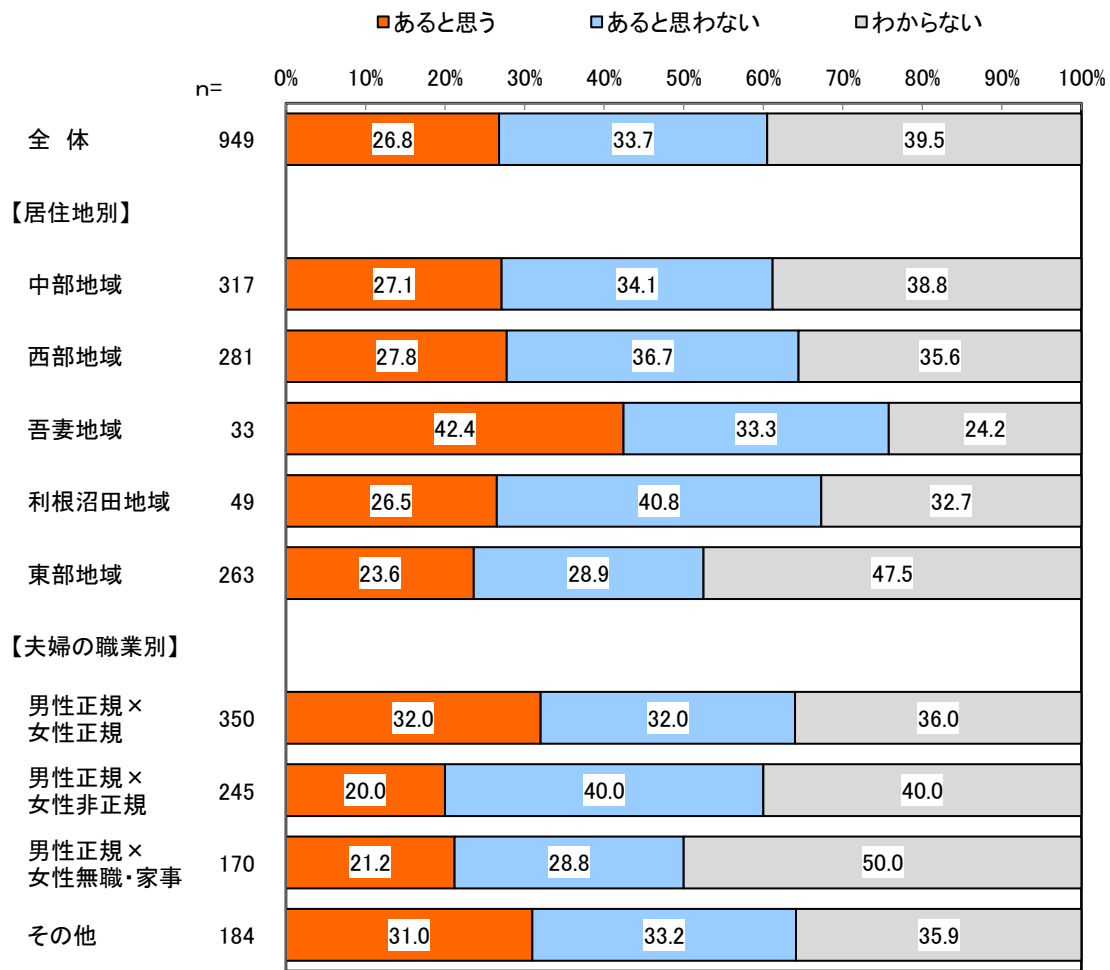
【年齢別】

年齢別でみると、「あると思う」は40歳以上で29.7%と高くなっている。

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「あると思わない」は2人で35.6%、3人で35.5%と高くなっている。

子どもたちの10年後、20年後の未来の希望（居住地別、夫婦の職業別）



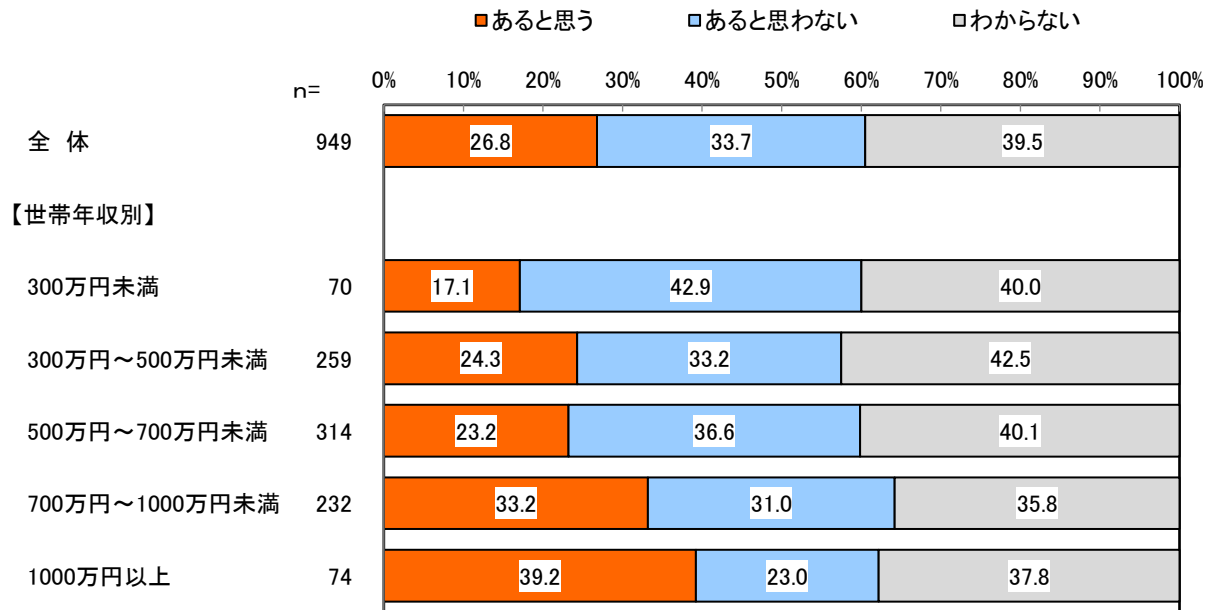
【居住地別】

居住地別でみると、「あると思わない」は利根沼田地域で40.8%と高くなっている。一方、「あると思う」は吾妻地域で42.4%と高くなっている。

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「あると思わない」は男性正規×女性非正規で40.0%と高くなっている。一方、「あると思う」は男性正規×女性正規で32.0%と高くなっている。

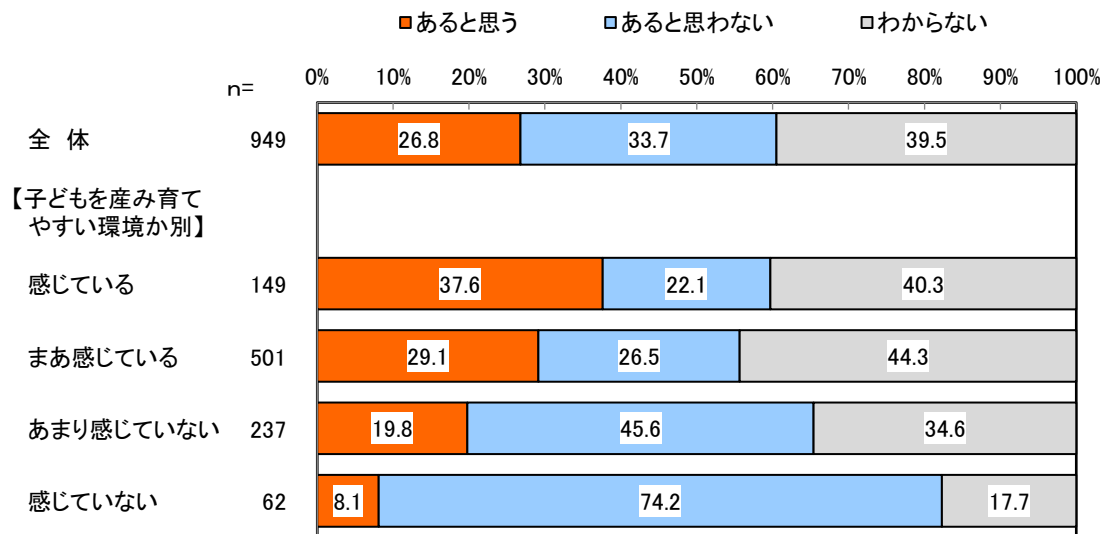
子どもたちの10年後、20年後の未来の希望（世帯年収別）



【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「あると思わない」は300万円未満で42.9%と高く、おおむね年収が上がるほど低くなっている。一方、「あると思う」は700万円以上で「あると思わない」を上回り、1000万円以上で39.2%と高くなっている。

子どもたちの10年後、20年後の未来の希望（子どもを産み育てやすい環境か別）

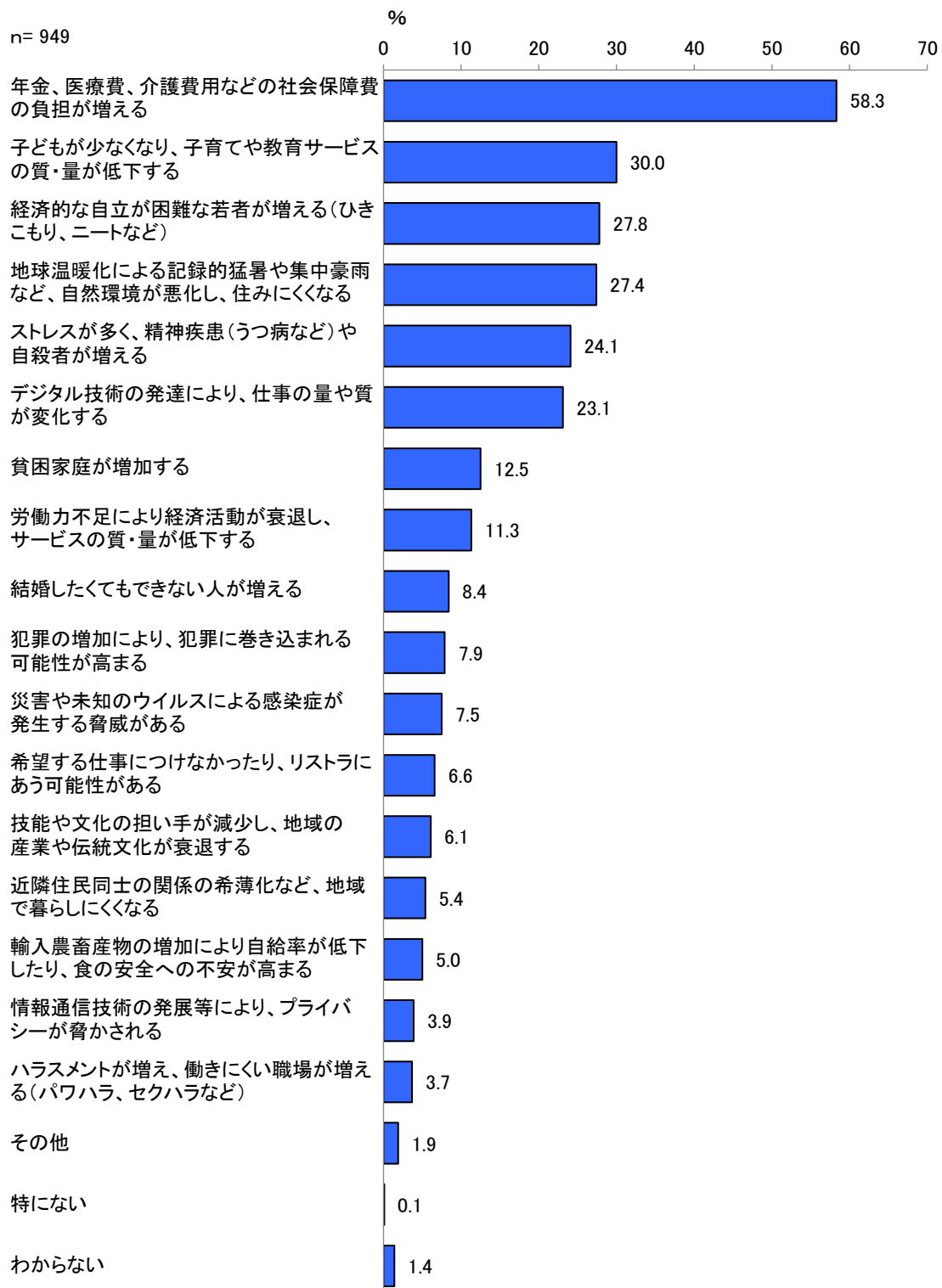


【子どもを産み育てやすい環境か別】

子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「あると思う」は産み育てやすいと感じているほど高く、「感じている」で37.6%となっている。一方、「感じていない」では8.1%と低くなっている。

問 40 10年後、20年後のあなたのお子さんたち（又はあなたの周囲のお子さんたち）の住む未来に不安があるとすれば、どんなことだと思いますか。（回答は3つまで）

10年後、20年後のあなたのお子さんたち（又はあなたの周囲のお子さんたち）の住む未来の不安は、「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が58.3%で最も高く、次いで「子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する」が30.0%、「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」が27.8%となっている。



子どもたちの10年後、20年後の不安（上位10項目／就園・未就園別）

(%)

	n	年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える	子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する	経済的な自立が困難な若者が増える(ひきこもり、ニートなど)	地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる	ストレスが多く、精神疾患(うつ病など)や自殺者が増える
全体	949	58.3	30.0	27.8	27.4	24.1
【就園・未就園別】						
就園	714	59.4	30.0	27.6	26.3	24.5
未就園	235	54.9	30.2	28.5	30.6	23.0

(%)

	n	デジタル技術の発達により、仕事の量や質が変化する	貧困家庭が増加する	労働力不足により経済活動が衰退し、サービスの質・量が低下する	結婚したくてもできない人が増える	犯罪の増加により、犯罪に巻き込まれる可能性が高まる
全体	949	23.1	12.5	11.3	8.4	7.9
【就園・未就園別】						
就園	714	23.2	12.5	11.6	8.3	8.5
未就園	235	22.6	12.8	10.2	8.9	6.0

【就園・未就園別】

就園・未就園別でみると、就園は未就園よりも「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が4.5ポイント高くなっている。一方、未就園は就園よりも「地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる」が4.3ポイント高くなっている。

子どもたちの10年後、20年後の不安（上位10項目／性別、年齢別）

(%)

	n	年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える	子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する	経済的な自立が困難な若者が増える(ひきこもり、ニートなど)	地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる	ストレスが多く、精神疾患(うつ病など)や自殺者が増える
全体	949	58.3	30.0	27.8	27.4	24.1
【性別】						
男性	77	55.8	29.9	28.6	16.9	24.7
女性	871	58.4	30.1	27.8	28.4	24.1
【年齢別】						
20歳代	86	48.8	34.9	30.2	24.4	24.4
30歳代	607	60.0	30.6	27.3	27.2	25.0
40歳以上	256	57.4	27.0	28.1	28.9	21.9

(%)

	n	デジタル技術の発達により、仕事の量や質が変化する	貧困家庭が増加する	労働力不足により経済活動が衰退し、サービスの質・量が低下する	結婚したくてもできない人が増える	犯罪の増加により、犯罪に巻き込まれる可能性が高まる
全体	949	23.1	12.5	11.3	8.4	7.9
【性別】						
男性	77	11.7	20.8	16.9	11.7	10.4
女性	871	24.1	11.7	10.8	8.2	7.7
【年齢別】						
20歳代	86	16.3	17.4	14.0	5.8	7.0
30歳代	607	24.2	12.4	11.0	8.7	8.2
40歳以上	256	22.7	11.3	10.9	8.6	7.4

【性別】

性別で見ると、女性は男性よりも「デジタル技術の発達により、仕事の量や質が変化する」が12.4ポイント、「地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる」が11.5ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「貧困家庭が増加する」が9.1ポイント、「労働力不足により経済活動が衰退し、サービスの質・量が低下する」が6.1ポイント高くなっている。

【年齢別】

年齢別で見ると、「子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する」は20歳代で34.9%と高く、年齢が上がるほど低くなっている。

子どもたちの10年後、20年後の不安（上位10項目／子どもの数別）

(%)

	n	年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える	子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する	経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）	地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる	ストレスが多く、精神疾患（うつ病など）や自殺者が増える
全体	949	58.3	30.0	27.8	27.4	24.1
【子どもの数別】						
1人	331	56.5	33.5	26.9	28.7	26.9
2人	421	61.5	29.9	26.8	27.1	24.0
3人	169	55.0	24.9	31.4	25.4	20.7
4人以上	28	50.0	21.4	32.1	28.6	14.3

(%)

	n	デジタル技術の発達により、仕事の量や質が変化する	貧困家庭が増加する	労働力不足により経済活動が衰退し、サービスの質・量が低下する	結婚したくてもできない人が増える	犯罪の増加により、犯罪に巻き込まれる可能性が高まる
全体	949	23.1	12.5	11.3	8.4	7.9
【子どもの数別】						
1人	331	21.8	10.0	11.8	9.4	9.1
2人	421	22.6	13.8	11.2	8.3	7.4
3人	169	27.8	14.2	10.1	7.7	8.3
4人以上	28	17.9	14.3	14.3	3.6	-

【子どもの数別】

子どもの数別でみると、「子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する」は1人で33.5%と高く、子どもの数が増えるほど低くなっている。「ストレスが多く、精神疾患（うつ病など）や自殺者が増える」も同様の傾向がみられる。

子どもたちの10年後、20年後の不安（上位10項目／居住地別）

(%)

	n	年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える	子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する	経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）	地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる	ストレスが多く、精神疾患（うつ病など）や自殺者が増える
全体	949	58.3	30.0	27.8	27.4	24.1
【居住地別】						
中部地域	317	59.6	28.4	26.5	28.7	21.8
西部地域	281	59.1	30.6	27.0	27.8	22.8
吾妻地域	33	45.5	30.3	39.4	15.2	39.4
利根沼田地域	49	55.1	30.6	38.8	24.5	12.2
東部地域	263	57.8	31.2	27.4	27.8	27.8

(%)

	n	デジタル技術の発達により、仕事の量や質が変化する	貧困家庭が増加する	労働力不足により経済活動が衰退し、サービスの質・量が低下する	結婚したくてもできない人が増える	犯罪の増加により、犯罪に巻き込まれる可能性が高まる
全体	949	23.1	12.5	11.3	8.4	7.9
【居住地別】						
中部地域	317	24.9	12.0	11.4	6.6	7.9
西部地域	281	23.8	16.0	11.7	9.6	7.5
吾妻地域	33	9.1	9.1	12.1	9.1	3.0
利根沼田地域	49	20.4	10.2	12.2	8.2	6.1
東部地域	263	22.4	10.6	10.6	9.1	8.7

【居住地別】

居住地別でみると、「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」は吾妻地域で39.4%、利根沼田地域で38.8%と高く、「ストレスが多く、精神疾患（うつ病など）や自殺者が増える」も吾妻地域で39.4%と高くなっている。

子どもたちの10年後、20年後の不安（上位10項目／夫婦の職業別）

(%)

	n	年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える	子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する	経済的な自立が困難な若者が増える(ひきこもり、ニートなど)	地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる	ストレスが多く、精神疾患(うつ病など)や自殺者が増える
全体	949	58.3	30.0	27.8	27.4	24.1
【夫婦の職業別】						
男性正規×女性正規	350	59.4	31.1	24.9	31.7	21.4
男性正規×女性非正規	245	60.4	32.2	31.0	22.9	27.3
男性正規×女性無職・家事	170	61.2	27.6	24.1	25.9	24.1
その他	184	50.5	27.2	32.6	26.6	25.0

(%)

	n	デジタル技術の発達により、仕事の量や質が変化する	貧困家庭が増加する	労働力不足により経済活動が衰退し、サービスの質・量が低下する	結婚したくてもできない人が増える	犯罪の増加により、犯罪に巻き込まれる可能性が高まる
全体	949	23.1	12.5	11.3	8.4	7.9
【夫婦の職業別】						
男性正規×女性正規	350	22.0	11.1	14.3	6.3	8.0
男性正規×女性非正規	245	23.3	13.1	9.8	6.9	7.8
男性正規×女性無職・家事	170	26.5	10.6	8.8	11.8	6.5
その他	184	21.7	16.3	9.8	11.4	9.2

【夫婦の職業別】

夫婦の職業別でみると、「地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる」は男性正規×女性正規で31.7%と高くなっている。

子どもたちの10年後、20年後の不安（上位10項目／世帯年収別）

(%)

	n	年金、医療費、 介護費用などの 社会保障費の 負担が増える	子どもが少なく なり、子育てや 教育サービスの 質・量が低下す る	経済的な自立 が困難な若者 が増える（ひき こもり、ニートな ど）	地球温暖化に よる記録的猛暑 や集中豪雨な ど、自然環境が 悪化し、住みに くくなる	ストレスが多く、 精神疾患（うつ 病など）や自殺 者が増える
全 体	949	58.3	30.0	27.8	27.4	24.1
【世帯年収別】						
300万円未満	70	45.7	40.0	35.7	21.4	25.7
300万円～500万円未満	259	55.6	30.5	27.4	25.5	25.1
500万円～700万円未満	314	63.4	28.0	28.0	28.0	22.9
700万円～1000万円未満	232	57.3	28.4	26.7	31.5	24.1
1000万円以上	74	60.8	32.4	24.3	24.3	24.3

(%)

	n	デジタル技術の 発達により、仕 事の量や質が 変化する	貧困家庭が増 加する	労働力不足に よる経済活動が 衰退し、サービ スの質・量が低 下する	結婚したくても できない人が増 える	犯罪の増加に よる、犯罪に巻 き込まれる可能 性が高まる
全 体	949	23.1	12.5	11.3	8.4	7.9
【世帯年収別】						
300万円未満	70	17.1	17.1	8.6	11.4	7.1
300万円～500万円未満	259	20.8	13.1	8.9	9.7	11.2
500万円～700万円未満	314	22.0	12.7	13.4	7.6	7.0
700万円～1000万円未満	232	26.7	10.3	10.3	8.6	7.8
1000万円以上	74	29.7	12.2	16.2	4.1	1.4

【世帯年収別】

世帯年収別でみると、「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」は500万円～700万円未満で63.4%と高くなっている。「子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する」は300万円未満で40.0%と高く、「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」も300万円未満で35.7%と高くなっている。

子どもたちの10年後、20年後の不安（上位10項目／子どもを産み育てやすい環境か別）

(%)

	n	年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える	子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する	経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）	地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる	ストレスが多く、精神疾患（うつ病など）や自殺者が増える
全体	949	58.3	30.0	27.8	27.4	24.1
【子どもを産み育てやすい環境か別】						
感じている	149	51.7	26.8	23.5	28.9	19.5
まあ感じている	501	59.3	30.3	26.9	29.9	24.2
あまり感じていない	237	61.2	30.0	31.6	23.6	25.7
感じていない	62	54.8	35.5	30.6	17.7	29.0

(%)

	n	デジタル技術の発達により、仕事の量や質が変化する	貧困家庭が増加する	労働力不足により経済活動が衰退し、サービスの質・量が低下する	結婚したくてもできない人が増える	犯罪の増加により、犯罪に巻き込まれる可能性が高まる
全体	949	23.1	12.5	11.3	8.4	7.9
【子どもを産み育てやすい環境か別】						
感じている	149	22.8	14.8	5.4	6.7	8.7
まあ感じている	501	25.9	10.0	10.2	8.4	8.8
あまり感じていない	237	19.0	13.5	15.6	9.3	6.8
感じていない	62	16.1	24.2	17.7	9.7	3.2

【子どもを産み育てやすい環境か別】

子どもを産み育てやすい環境か別でみると、「子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する」は産み育てやすいと“感じていない”で35.5%と高くなっている。